取 扱 書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

このたびは *ESTIMA* をお買い上げいただき、ありがとうございます。

本書は**エスティマ**の取り扱いについてドライバーの動作にそって説明しています。
安全で快適にお使いいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。

・運転は交通ルール・マナーを守り、自然環境保護にも気をくばりましょう。
・メーカーオプションのナビゲーションシステムを装着された方は、別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」も併せてお読みください。
・サイドリフトアップシートを装着された方は、別冊の「エスティマ サイドリフトアップシート取扱書」も併せてお読みください。
・トヨタ販売店で取りつけられた装備（販売店装着オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。
・装備については、販売店でカタログをご請求ください。
・ご不明な点は、担当営業スタッフにおたずねください。

●保証および点検整備については、「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。
●トヨタ販売店の所在地および連絡先は、サービス網／お客様相談テレホン網として「メンテナンスノート」に記載しています。
●取扱書はいつでも見られるように、メンテナンスノートとともにお車に大切に保管してください。
●お車をゆずられるときは、次のユーザーのために、この取扱書およびメンテナンスノートをお車につけておいてください。

車の仕様などの変更により、本書の内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

本書の構成

本書は次の8章から構成されています。
とくに第1章の「安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと」は重要です。しっかりとお読みください。

第1章：安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと

「重大な傷害や事故・車両火災におよぶおそれがあること」および「一般的な注意」と、その回避方法がこの章に集約して記載されています。重要ですので、必ずお読みください。

第2章：基本操作早わかり

はじめてこの車にお乗りいただくかたのために、基本操作を簡単に説明しています。

第3章：運転装置の取り扱い

スマートエントリー ＆ スタートシステム、ドアの開閉、シート、シートベルト、エンジンのかけ方、シフトレバー、メーター、スイッチなどの取り扱いを説明しています。

第4章：室内装備の取り扱い

エアコン、ＥＴＣ、室内装備品（時計、小物入れなど）の取り扱いを説明しています。

第5章：安全・快適装備の解説と注意

ＳＲＳエアバッグ、ＡＢＳなど安全・快適装備についての機能説明と取り扱い上の注意を説明しています。

第6章：車との上手な付き合い方

季節による取り扱い、環境にやさしい経済的な運転方法などについて説明しています。

第7章：メンテナンス

車の手入れのしかたと日常点検について説明しています。

第8章：万一のとき

故障やパンクしたときなど、万一のときに必要な処置方法について説明しています。

表示について

安全に関する表示

「運転者やほかの人が傷害を受ける可能性のあること」や「車両の故障や破損につながるおそれがあること」と、その回避方法を下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、必ず読んで遵守してください。

記載事項をお守りいただかないと、重大な傷害や事故・車両火災におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあること。

記載事項をお守りいただかないと、傷害、車両の故障や破損につながるおそれがあること。

その他の表示

「知っておくと便利なこと」・「知っておいていただきたいこと」を下記の表示で記載しています。

知 識

知っておくと便利なこと。
知っておいていただきたいこと。

イラストのマークについて

してはならない行為を示すイラストには、下記のマークが記載されています。

してはならない行為。

操作説明（3～8章）の見方

操作説明（3～8章）の基本的な読み方について説明しています。

タイトル
階層により区別してあります。

★
グレード等により装着の有無が異なることをお知らせします。

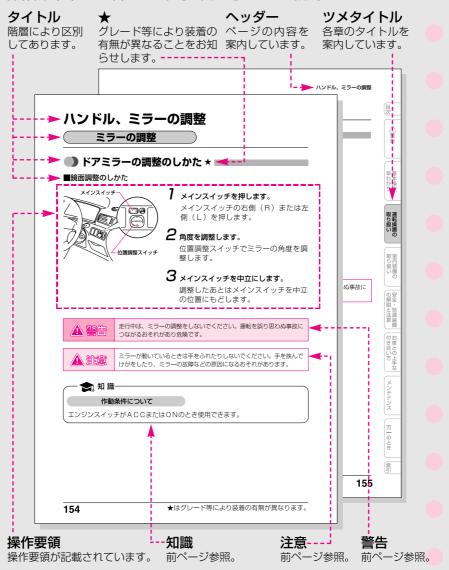
ヘッダー
ページの内容を案内しています。

ツメタイトル
各章のタイトルを案内しています。

操作要領
操作要領が記載されています。

知識
前ページ参照。

注意
前ページ参照。

警告
前ページ参照。

■本書では新計量法の施行に伴い、国際単位系（略称ＳＩ単位）を基本に記載し、従来単位を｛　｝内に記載してあります。

※このページはサンプルですので、記載内容は実際の車とは異なります。

検索方法について

本書では、お客様が知りたいことを素早くお読みいただけるよう、次のような工夫がしてあります。

目　次

イラスト目次

インストルメントパネル

※装備の違い、オプション装備なども含んでいます。

※ 装備の違い、オプション装備なども含んでいます。

イラスト目次

室　内

※ 装備の違い、オプション装備なども含んでいます。

イラスト目次

車 両 外 観

アエラス

※ 装備の違い、オプション装備なども含んでいます。

警告

1 安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと

「重大な傷害や事故・車両火災におよぶおそれがあること」および「一般的な注意」と、その回避方法がこの章に集約して記載されています。重要ですので必ずお読みください。

1. 点検整備実施のお願い

**点検整備を必ず実施してください。
実施していただかないと、重大な車両故障につながるおそれがあり危険です。**

①点検整備を必ず実施してください。

●日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。
日常点検（P.594参照）や定期点検など、点検整備の詳細については、「メンテナンスノート」をお読みください。
- 定期点検は、安全の確保・公害防止の観点から、定期的に実施する点検です。定期点検整備は、専用の整備機器、指定の油脂類、交換された部品・油脂類の適切な処理などが必要なため、トヨタ販売店にご相談ください。

●点検整備は自動車の健康診断です。
定期的な点検を行い、その結果必要となった整備や部品交換を実施することが、末永く車と付き合っていくうえで最も大切なことです。

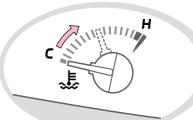
●点検整備を実施しないと、例えばエンジンオイルの不足・劣化によりエンジン内部が焼きつきなどを起こすおそれがあります。また、ブレーキパッドやブレーキディスクなど、その役割を果たすと共に摩耗していく部品については、使用限度（摩耗限度）を越えての使用は故障を引き起こすばかりか、事故に結びつくおそれもあります。

●日常点検で異常があったり、車の調子が悪い場合には、トヨタ販売店にご相談ください。

お出かけ前に、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①窓ごしなど車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。

●思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座って行ってください。

②水温計の指針が動き出すまでは、極端にアクセルペダルをあおらないでください。

●暖機不足の状態では触媒装置が未燃焼ガスにより異常燃焼を起こし、損傷するおそれがあります。
●暖機は水温計の指針が動き出す程度で十分です。

③走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。

●ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。なお、いずれかのドア（バックドアを含む）が確実に閉まっていないときは、半ドア警告灯（P.351参照）が点灯します。

④フロントガラス前部の外気取り入れ口に雪、落ち葉などがついているときは取り除いてください。

●外気が導入できず、車内の換気が十分できなくなり、雨天時など車内の湿度が上がり、ガラスが曇ったりして視界が悪くなるおそれがあります。

⑤停車中にハンドル位置を調整したときは、確実に固定されていることを確認してください。

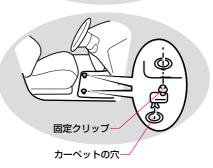
●ハンドルの固定が不十分だと、走行中にハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥運転席足元、運転席下にものを置かないでください。

●空缶などがあると、ブレーキペダルやアクセルペダルに挟まり、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルがもどらなくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、シートの動きがさまたげられたり、シートが固定できず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑦車に合わないフロアマットは使用しないでください。

●フロアマットは正しく敷いてください。フロアマットを裏返して敷いたり、他のフロアマットと重ねて敷くと、ブレーキペダルの操作のさまたげになったり、アクセルペダルのもどりが悪くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車に合ったものを正しく敷いてください。また、ずれないように固定クリップなどで必ず固定してください。カーペットの穴は、トヨタ純正フロアマットのずれを防止するために使用する固定クリップ取りつけ用です。

⑧助手席や後席に荷物を積み重ねたりしないでください。

●急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員に当たったり、荷物を損傷したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●荷物はラゲージルームに安定した状態（例えば、ラゲージルーム前方に均等に）で置いてください。必要に応じ、ラゲージルームのデッキフックを使用して、荷物をネットやロープなどで固定してください。（P.488参照）

⑨燃料が入った容器やスプレー缶などは積まないでください。

●万一のとき引火し、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑩ボンネットを開けて作業などをしたときは、走行前にボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

●ロックせずに走行すると、ボンネットが開いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑪次の場合は車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと走行に悪影響をおよぼしたり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●いつもと違う音や臭いや振動がするとき。
●ハンドル操作に異常を感じたとき。
●ブレーキ液が不足しているとき。
●地面に油のもれたあとが残っているとき。
●メーター・表示灯・警告灯・ランプ類に異常があるとき。

⑫お酒を飲んでの運転は絶対にしないでください。

●飲酒運転は法律で禁止されています。
●飲酒運転は非常に危険で、ごく少量のアルコールでも判断力・視力・注意力に影響をおよぼし、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

⑬エンジンルーム内および車体床下に、ネコやネズミなどの小動物がいないことを確認してください。

●エンジン始動時、ファンやベルトに小動物が巻き込まれたりして、機能不具合の原因となるおそれがあります。

燃料を補給するときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

①指定燃料をご使用ください。

●2GR－FEエンジン搭載車の指定燃料は無鉛プレミアム（無鉛ハイオク）ガソリンです。給油時に指定されている燃料であることを確認してください。2GR－FEエンジン搭載車で、無鉛レギュラーガソリンをお使いになることもできます。その場合エンジン本来の性能を発揮できません。
●2AZ－FEエンジン搭載車の指定燃料は、無鉛レギュラーガソリンです。給油時に指定されている燃料であることを確認してください。
●アルコール系燃料、粗悪ガソリン、軽油、灯油などを使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングが発生したり、出力低下する場合があります。また、そのまま使うとエンジンの故障や燃料系部品の損傷による燃料もれなどの原因となるおそれがあります。

②燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。

●エンジンは必ず停止してください。
●車のドア、ドアガラスは閉めてください。
●タバコなど火気を近づけないでください。

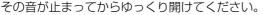
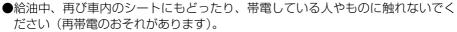
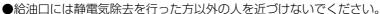
●フューエルリッド・フューエルキャップを開けるときなど給油操作を行う前に、車体などの金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどをするおそれがあります。

●フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミを持ち、ゆっくりと開けてください。
気温が高いときなどに、燃料タンク内の圧力が高くなっていると、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
フューエルキャップを少しゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、それ以上開けないでください。

ツマミ部分

その音が止まってからゆっくり開けてください。

●給油中、再び車内のシートにもどったり、帯電している人やものに触れないでください（再帯電のおそれがあります）。

●給油口には静電気除去を行った方以外の人を近づけないでください。

●給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。

●給油終了後、フューエルキャップを閉める場合、“カチッ”と一度音がするまで右にまわしてください。手を離すと若干もどります。

●車に合ったトヨタ純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。

●その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。

③給油時に、気化した燃料を吸わないようにしてください。

●燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもありますので、注意してください。

4. 走行するときの注意

**走行するときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

①走行中はエンジンを停止しないでください。

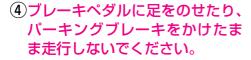
●エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●走行中、誤って“エンジン スタート ストップ”スイッチを押し続け、エンジンが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

②走行中はハンドル位置やミラー・運転席シートの調整はしないでください。

●調整中に運転を誤ったり、シートが突然動くなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

③ドアミラーを倒したまま走行しないでください。

●ドアミラーによる後方確認ができず思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④ブレーキペダルに足をのせたり、パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。

●ブレーキパッドが早く摩耗したり、ブレーキが過熱しブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑤下り坂ではエンジンブレーキを併用してください。

●ブレーキペダルを踏み続けると、過熱によりブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。

⑥車を少し移動させるときも、必ずエンジンを始動してください。

- エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジンをかけず、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑦ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

- 停車中や微低速走行時にハンドル操作を繰り返したり、ハンドルをいっぱいまでまわした状態を長く続けたときには、モーターやコンピューターが熱くなり過ぎることを防ぐため、ハンドル操作が重くなることがあります。
  この場合、しばらくの間ハンドルを操作しないでおくと、ハンドル操作が正常に復帰します。

⑧ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者は運転中に使用しないでください。

- ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者が運転中に使用することは、法律で禁止されています。
- 電話をかけるときや、電話がかかってきたときに、注意が電話機に向いてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者が使用するときは、安全な場所に停車してから使用してください。

⑨大きな段差がある場所では慎重に走行してください。

●次のような場所を走行するときは、バンパーを損傷するおそれがありますので、スピードをおとして慎重に走行してください。
- 駐車場の出入り口などの段差のある場所を通過するとき。
- 立体駐車場のスロープなど勾配が急な場所を走行するとき。
- 輪止めなどのある場所や、路肩に沿って駐停車するとき。
- 凹凸やわだちのある道を走行するとき。
- くぼみ（穴）などを通過するとき。
- 平坦な道から上り坂・下り坂に進入するとき、または上り坂・下り坂から平坦な道に進入するとき。

⑩ぬれた路面や積雪路・凍結路などのすべりやすい路面では、とくに慎重に走行してください。

●すべりやすい路面での急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車を制御できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●シフトアップ・シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●寒いとき、橋の上や日陰など凍結しやすい場所ではあらかじめ減速し、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

⑪冠水した道路は走行しないでください。

●冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。万一、冠水した道路を走行し、水中に浸ってしまったときは、必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。
- ブレーキの効き具合。
- エンジン・トランスミッション・トランスファー（4WD車）・ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化。（白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要です。）
- プロペラシャフト（4WD車）・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良。

⑫湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。

●外気とウインドゥガラスの温度差でウインドゥガラス外側表面が曇り、視界をさまたげる場合があります。

⑬スタック※したときは

※ぬかるみ・砂地・深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなった状態。

●スタックからの脱出をこころみるときは、必ず周囲の安全を十分に確認してください。脱出の勢いで、ものを損傷させたり、人身事故を引き起こすおそれがあり危険です。

●タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、駆動部品（ディファレンシャルギヤなど）の異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●スタックからの脱出のために、やむを得ず前進・後退を繰り返すときは、トランスミッションやディファレンシャルギヤなどに損傷を与えるおそれがあるため、次のことに注意してください。

- シフトレバーを🅓または🅡に確実に入れてから、アクセルペダルを軽く踏んでください。また、シフトレバー操作中は、絶対にアクセルペダルを踏まないでください。
- 過度の空ぶかしやタイヤの空転をさせないでください。
- 過度にタイヤが空転した場合には、エンジン回転が低くなってから徐々にブレーキ操作をしてください。
- 数回行っても脱出できないときは、本操作を中止してください。

●スタック脱出には、次の方法が有効です。

- タイヤ前後の土や雪を取り除く。
- タイヤの下に木や石などをあてがう。

●けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フックやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。無理にけん引せず、トヨタ販売店やＪＡＦなどに依頼してください。

⑭洗車後や水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認してください。

●ブレーキパッドがぬれると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで、数回ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

⑮走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。

●急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が飛ばされ、頭などを強く打ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑯窓や大型ムーンルーフのフロントガラスから手や顔を出さないでください。

●走行中、手や顔を出していると、車外のものなどに当たったり、急ブレーキ時に頭を窓枠にぶつけたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑰ドアガラス・大型ムーンルーフのサンシェードを閉めるときは、ほかの人の手や頭などを挟まないように注意してください。

●ドアガラスや大型ムーンルーフのサンシェードに挟まれると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑱グローブボックスや小物入れのフタを開けたまま走行しないでください。

●急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑲ウインドゥガラスにアクセサリーを取りつけたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上にものを置いたまま走行しないでください。

●運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行中に安全運転のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑳走行中はドアレバーを引かないでください。

●走行中はドアレバーを引かないでください。
ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

㉑三角表示板収納スペースに三角表示板を収納したときは、三角表示板が確実に固定されていることを確認してください。

●確実に固定されていないと、急ブレーキをかけたときなどに三角表示板が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

5. 走行中、異常に気づいたら

走行中、異常に気づいたら、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①警告灯が点灯・点滅したら、安全な場所に停車し、ただちに処置してください。

●点灯・点滅したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、エンジンなどを損傷するおそれがあります。警告灯の内容を確認し、適切な処置をしてください。（P.335参照）

②ブレーキ警告灯が点灯したまま走行し続けないでください。

●警告灯が次のようになったときは、ただちに安全な場所に停車してトヨタ販売店へご連絡ください。

- エンジン回転中にパーキングブレーキを解除しても点灯したままのとき。
  この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んでください。
- ブレーキ警告灯がＡＢＳ＆ブレーキアシスト警告灯、またはＡＢＳ警告灯と同時に点灯したままのとき。
  この場合、ＡＢＳ、またはブレーキアシストに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

③エンストしたときは、落ち着いて操作してください。

●エンストしたときは、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングのモーター装置が作動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりします。
この場合は、制動力などがなくなったわけではありませんので、通常より力を入れて操作し、周囲の安全を確かめ、路肩に寄せて停車してください。

④走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）しても、あわてず対応してください。

●ハンドルをしっかり持ち、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキや急ハンドルは車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
●次のようなときはパンクやバーストが考えられます。
- ハンドルがとられるとき。
- 異常な振動があるとき。
- 車両が異常に傾いたとき。

●パンクしたまま走行しないでください。パンクしたまま走行し続けると、走行不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、タイヤ・ディスクホイールやサスペンション・車体に損傷を与えるおそれがあります。ただちに応急修理（P.631参照）をしてください。また、販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車は、スペアタイヤに交換（P.646参照）してください。

⑤車体床下やタイヤ・ディスクホイールに強い衝撃を受けたら、ただちに安全な場所に車を止めて、下まわりを点検してください。

●ブレーキ液や燃料がもれ、漏電、サスペンション部品、タイヤ・ディスクホイール、駆動系部品などの変形や損傷の可能性があるため、そのままの状態で使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●もれや損傷が見つかった場合は、そのまま使用せずトヨタ販売店にご相談ください。

⑥走行中、継続的にブレーキ付近から警告音（“キーキー”音）が発生したときは、ブレーキパッドの使用限度です。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●警告音は、ブレーキパッドウェアインジケーターによるもので、走行中に警告音（“キーキー”という金属音）を発生させ、ブレーキパッドが使用限度に近づいたことを運転者に知らせます。
警告音が発生したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
●警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効きが悪くなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

6. 駐停車するときの注意

**駐停車するときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

①車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをⓅにしてから必ずエンジンを停止し、施錠してください。

●車から離れるときは、必ずエンジンを停止して、施錠することが法律で義務付けられています。また車両盗難や車内のものを盗まれるおそれがありますので、車内に貴重品などを置かないようにしてください。

●車から離れるとき、以下のことを守ってください。お守りいただかないと、車が無人で動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- パーキングブレーキをかける。
- シフトレバーをⓅにする。
- エンジンを停止する。
- ドアを施錠する。

②可燃物付近に車を止めたりしないでください。

●車両後方や排気管付近に燃えやすいものがあると、火災につながるおそれがあり危険です。

●木材、ベニヤ板などが車両後方にあるときは、車両後端を十分離して止めてください。すき間が少ないと、排気ガスによって変色や変形したり、火災につながるおそれがあり危険です。

●枯れ草や紙くずなど燃えやすいものの上を走行したり、車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると、火災につながるおそれがあり危険です。

③寒冷時、パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。（P.550参照）

●輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④停車中に空ぶかしをしないでください。

●排気管が過熱し、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑤炎天下で駐車するときは、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置したままにしないでください。

●車内が大変高温になるため、ライターやスプレー缶のガスが自然にもれたり、破裂したりして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
●炭酸飲料の缶が破裂したりして室内を汚したり、電気部品のショートの原因となるおそれがあります。
●車内が大変高温になるため、プラスチックレンズやプラスチック素材のメガネの変形・ひび割れを起こすことがあります。

⑥仮眠するときは、必ずエンジンを停止してください。

●エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車の急発進による事故や、エンジンの異常過熱による車両火災につながるおそれがあり危険です。
また、排気管が損傷していたり、風通しの悪い場所では、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

7. 排気ガスに対する注意

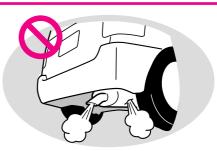
排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（ＣＯ）が含まれているため、排気ガスを吸い込むとガス中毒になるおそれがあります。
ガス中毒を防ぐために、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①換気が悪い場所では、エンジンをかけたままにしないでください。

●車庫内など囲まれた場所では、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（ＣＯ）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

②雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。

●エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や、死亡に至るおそれがあり危険です。

③排気管はときどき点検してください。

●排気管の腐食などによる穴やき裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は、必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●排気管は排気ガスにより高温になります。点検などで排気管に触れる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください

④バックドアを開けたまま走行しないでください。

●開けたまま走行すると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。走行する前に、必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

⑤車内に排気ガスが侵入してきたと感じたら、次の処置をしてください。

- ●すべての窓を全開にしてください。
- ●すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま放置すると、排気ガスにより、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

8. お子さまを乗せるときの注意

お子さまを乗せるときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①お子さまはリヤシートに座らせてください。

●助手席ではお子さまの動作が気になり、運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置に触れて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●お子さまをリヤシートに座らせたときは、チャイルドプロテクターを使用してください。お子さまが誤って車内からドアを開けることを防止できます。
チャイルドプロテクターの使用方法は、P.184を参照してください。

②お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。

●ひざの上でお子さまを抱いていると、急ブレーキや衝突したときなどに支えきれず、お子さまが放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●リヤシートでも必ずシートベルトを着用してください。（P.271参照）

●シートベルトの肩部ベルトが首やあごに当たったり、腰部ベルトが腰骨にかからないような小さなお子さまには、お子さまの身体に合った子供専用シートを使用してください。子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。

③お子さまをシートベルトで絶対に遊ばせないでください。

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

④ドア・ドアガラス・大型ムーンルーフのサンシェードなどはお子さまに操作させないでください。

●お子さまが操作すると、閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●走行中にドアを開け、お子さまが車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●チャイルドプロテクター（P.184）やウインドゥロックスイッチ（P.197）を使用して、お子さまが誤って操作しないようにしてください。また、ドアガラスを開けるときや閉めるときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないように注意して操作してください。

⑤車から離れるときは、お子さまを車内に残さないでください。

●炎天下の車内は大変高温となり、お子さまを残しておくと、熱射病や脱水症状となり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●お子さまを残しておくと、マッチ・ライター・発炎筒の火遊びによる車両火災につながるおそれがあり危険です。
●“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにしたまま車内にお子さまを残しておくと、パワーウインドゥやリヤサンシェードのスイッチを操作し、誤って手・頭・首などを挟み、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、運転装置を動かして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。絶対に“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにしたままお子さまを車内に残さないでください。

1. シートについての注意

シートについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①シートは正しい運転姿勢がとれるように位置を調整してください。

●正しい運転姿勢をとらないと、運転操作を誤り思わぬ事故につながるだけでなく、シートベルト・ＳＲＳエアバッグ・ヘッドレストなどの効果が発揮されず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
正しい運転姿勢については、P.217を参照してください。

②シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。（マニュアルシート装着車）

●固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

③走行中はシートの操作をしないでください。

●ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

④背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。

●必要以上に背もたれを倒していると、衝突、または追突されたとき、腰部ベルトが腰骨からずれ、身体がシートベルトの下にもぐり込み、強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑤背もたれと背中の間にクッション（座布団）などを入れないでください。

●正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したときシートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑥ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。

●衝突したときなどに首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。フロントシートのヘッドレストの中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
●ヘッドレストは各列のシート専用です。取りつけるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。ヘッドレストを間違って取りつけると、固定することができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑦フロントシートにはＳＲＳエアバッグが内蔵されていますので、取り扱いに注意してください。（ＳＲＳサイドエアバッグ装着車）

●不適切に扱うと正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（P.217の「シートの調整」の警告文を参照してください。）

⑧フロントシートを一番うしろにスライドさせているときは、セカンドシートに座った状態で、セカンドシートを一番前までスライドさせないでください

●フロントシートの背もたれとセカンドシートのクッション・オットマンの間で足などを挟みけがをするおそれがあり危険です。特に、床面に足の届かないお子様がスライドレバーを引いたままスライド操作をした場合、自然にシートが動き出すおそれがあります。

⑨サードシートへの乗りおりについては、次のことをお守りください。

●サードシートへ乗りおりしたあとは、必ずセカンドシートを固定させてください。固定させていないと急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにシートが動き、乗員に当たるなどして生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑩シートアレンジをするときは、次のことをお守りください。

●シートアレンジをする、およびもとにもどすときは、必ず平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをⓅに入れてエンジンを停止させてください。不整地や傾斜地では操作中に不意にシートが動き、手足などを挟まれ重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●走行中はシートアレンジ、およびもとにもどす操作をしないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑪倒した背もたれの上やラゲージルーム、またシートアレンジなどにより広げたスペースに人を乗せて走行しないでください。

●急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑫フラットシートにしたときは、次のことをお守りください。

●シートをフラットにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑬ラゲージスペースを作るとき、またはもどしたときは、次のことをお守りください。

●ラゲージスペースに人をのせて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートベルトが背もたれに挟まれていないことを確認してください。シートベルトが背もたれやシートクッションに挟まれていると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑭サードシートを格納するとき、またはもどすときは、次のことをお守りください。

●シートをもとにもどしたときは、シートを軽くゆさぶり、さらにシートクッション全体を軽くゆさぶり、シートが確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●手動格納式シートでシートを格納するときは必ずハンドルを持って操作してください。ハンドル以外の場所を持って格納すると、シートと床との間などに挟まりけがをするおそれがあり危険です。
●助手席側サードシートを格納したときのサードシートの乗車定員は1名です。中央席には絶対にすわらないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートを格納するとき、またはもとにもどすときはシートなどで手や足やほかの乗員の身体を挟まないように注意してください。けがをするおそれがあり危険です。
●シートを格納したあとで、背もたれのみを起こして座らないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑮走行中はオットマンの位置調整をしないでください。

●走行中はオットマンの位置調整をしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●オットマンの上には絶対に乗らないでください。オットマンが破損し、転倒などして生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●乗降時および使用しないときは、シートの下に格納してください。格納していないと、オットマンにつまずいて転倒するなど、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑯快適温熱シートを使用中、熱すぎたり低温やけど（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがありますので、十分注意してください。

（快適温熱シート装着車）

●次に相当する方が使用される場合は、使用中、熱すぎたり低温やけど（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがありますので、十分注意してください。
・乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
・皮膚の弱い方
・疲労の激しい方
・深酒やねむけをさそう薬（睡眠薬、かぜ薬など）を使用された方
●毛布や座ぶとんなど保温性の良いものをかけた状態で使用しないでください。シートが異常に過熱し、低温やけどやシートの故障につながるおそれがあり危険です。
●仮眠するときは使用しないでください。シートが異常過熱し、低温やけどをするおそれがあります。

2. 子供専用シートについての注意

子供専用シートについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①車のシートベルトが正しく着用できない小さなお子さまには、身体に合った子供専用シートに座らせてください。

●乳児は、頭や首を含め完全な安全保護サポート（ベビーシート）が必要です。乳児の首は安定していなくて、また頭はほかの部分に比べて極めて重いからです。乳児は、必ず適切なベビーシートに座らせてください。

●幼児の体形は、シートベルトの設計対象となっている大人とは異なっています。幼児の骨盤は小さく、通常のシートベルトでは骨盤の低い位置にとどまらず、腹部にかかってしまいます。衝突した場合に、シートベルトによって腹部に強い圧迫を受け重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。幼児は必ず適切な子供専用シートに座らせてください。

②子供専用シートを使用するときは、必ず商品に付属の取り扱い説明書をよくお読みのうえ、確実に取りつけ、使用方法を守ってご使用ください。

●使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、子供専用シートが正しく機能せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。
●子供専用シートによっては、取りつけができない、または取りつけが困難な場合があります。

③子供専用シートは確実に固定できるように取りつけてください。

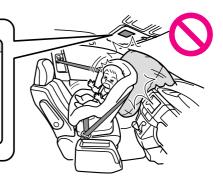
子供専用シートは、取りつけ位置や取りつけ方向に注意をして確実に取りつけてください。取りつけが不適切な場合、急ブレーキや衝突したときなどに、子供専用シートが正しく機能せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**子供専用シートはセカンドシートに取りつけてください。**

●運転席側セカンドシートで、運転席の位置により、安全に取りつけられる十分なスペースが確保できない場合は、子供専用シートを無理に取りつけず、助手席側に取りつけてください。

警　告　　助手席SRSエアバッグ

このシートに、ベビーシートを取り付けたり
後向きのチャイルドシートを取り付けないでください。
また、絶対にお子さまを前席の前に立たせたり
膝の上に抱いたりしないでください。

エアバッグの衝撃により、死亡または重大な傷害に
至るおそれがあります。

■**助手席には、子供専用シートをうしろ向きに絶対に取りつけないでください。**

●うしろ向きに取りつけた場合、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。

●やむを得ず、助手席に前向きに子供専用シートを取りつける場合には、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの衝撃を少しでも緩和させるため、助手席シートの前後位置調整をいちばんうしろにして取りつけてください。
お守りいただかないと、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだとき、お子さまに強い衝撃が加わり危険です。

■**チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する子供専用シート（チャイルドシート・ベビーシート）を取りつけるときは、チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。**

●異物やシートベルトなどをかみ込むと、子供専用シートが固定されず、衝突したときなどに飛ばされて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■子供専用シートを取りつけるときは、必ずテザーベルトがピンと張るまで張力を掛けてください。

●テザーベルトが正しく張っていないと、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。

●ヘッドレストの上に掛けると、子供専用シートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

④子供専用シートを車両に搭載するときは、以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●車両に子供専用シートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取りつけてください。子供専用シートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。

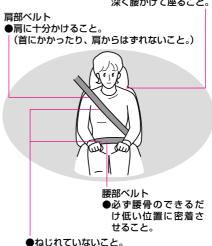
●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

3. シートベルトについての注意

シートベルトについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①車に乗るときは、全員がシートベルトを正しく着用してください。

●シートベルトを着用しなかったり、正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに身体がシートに保持されず、身体をぶつけたり、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。また、車外に投げ出されたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトの着用は法律で義務づけられています。運転者は乗員全員が次の使用方法にしたがって、シートベルトを正しく着用しているかを確認してから走行してください。

〈正しい着用のしかた〉

■シートベルトは上体を起こし、シートに深く腰かけた状態で着用してください。

●正しい姿勢については、P.217を参照してください。

■シートベルトの肩部ベルトは、首にかかったり脇の下を通したりして着用しないでください。

●シートベルトの肩部ベルトは、必ず肩に十分かかるように着用してください。

●ベルトを通す位置が間違っていると、衝突時に、腹部などに強い圧迫を受け危険です。

■フロントシートでは、アジャスタブルシートベルトアンカーを確実に調整してください。（P.275参照）

●シートベルトが首に当たらないように、また肩の中央に十分かかるようできるだけ高い位置に調整してください。

●調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

■セカンドシートのアームレストを使用するときは、必ず腰部ベルトをアームレストの下に通した状態で着用してください。

●アームレストにかかった状態で着用すると衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■シートベルトの腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。

●シートベルトの腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したときに、腹部などに強い圧迫を受け危険です。

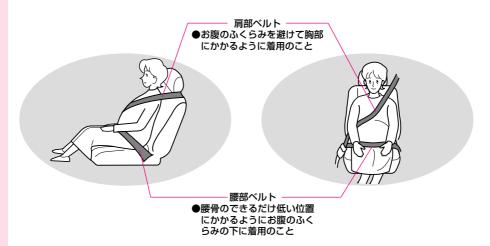
■シートベルトは必ず１人で１本のベルトを着用してください。

●2人以上で1本のシートベルトを着用すると、シートベルトが衝撃を分散できないばかりか、2人がぶつかり合うなどして危険です。

②妊娠中の女性も必ずシートベルトを正しく着用してください。

ただし、医師に注意事項をご確認ください。

●妊娠中のシートベルトの着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用するようにしてください。
また、肩部ベルトは確実に肩を通しお腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

●ベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

③疾患のあるかたも必ずシートベルトを正しく着用してください。

ただし、医師に注意事項をご確認ください。

④シートベルトは、ねじれやゆるみがなく確実にロックされた状態で着用してください。

正しい運転姿勢でもシートベルトがねじれていたり、ゆるんでいたり、確実にロックをしていない場合には、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじれていると、衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができず危険です。

●ベルトがねじれている場合は、正しく装着できるようほどいてください。ねじれがうまくほどけない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■洗濯ばさみやクリップなどでシートベルトにたるみをつけて使用しないでください。

●肩部ベルトがゆるすぎると、衝突の際、ベルトで身体が拘束されるまでの移動量が大きくなり、頭をハンドルにぶつけたり、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

■プレートをバックルに差し込むときは、プレートとバックルが“カチッ”と音がして確実にかみ合っていることを確認してください。

●異物が入ると、プレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどにシートベルトがはずれて危険です。

⑤シートベルトを損傷させたり、損傷したシートベルトは使用しないでください。

損傷したシートベルトをそのまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトやプレートをシートやドアに挟まないようにしてください。挟まると傷がつくおそれがあり、そのまま使用すると危険です。

■ほつれ、すりきれができたり、正常に作動しなくなったシートベルトは、すぐに交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷ついたシートベルトは使用しないでください。衝突したときなどに本来の機能が十分発揮できなくなります。

●このまま使用すると、衝突のときなどにベルトが切れる可能性があります。また、正常に働かず、シートベルトが十分な効果を発揮せず危険です。

●シートベルトが正常に機能しない場合は、すぐにトヨタ純正の新品と交換してください。

■シートベルトの改造や分解・取りつけ・取りはずしなどをしないでください。
●衝突したときなどにシートベルトが正常に作動しなくなります。シートベルトの取りつけ・取りはずし・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

■シートベルトの改造や分解・取りつけ・取りはずしなどはしないでください。
●シートベルトを不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがありますので、修理は必ずトヨタ販売店で行ってください。

■プリテンショナー付シートベルトは再使用しないでください。
●作動するとＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。強度が低下します。
●シートベルトの性能が低下し、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず危険です。
●清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。

**ＳＲＳエアバッグについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

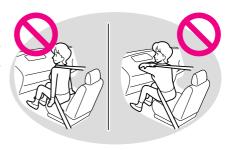
①ＳＲＳエアバッグはシートベルトを補助する装置で、シートベルトに代わるものではありません。

正しい姿勢でシートに座り、シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときなどにＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させることができないだけでなく、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
シートベルトの正しい着用については、P.271を参照してください。

■シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中をつけた正しい姿勢でシートに座ってください。

●ＳＲＳエアバッグの展開部に覆いかぶさったり、近づきすぎた姿勢で乗車していると、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

《運転者のかたは》
運転操作ができる範囲で、できるだけハンドルに近づきすぎないようにして座ってください。

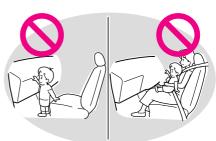
《助手席乗員のかたは》
助手席ＳＲＳエアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。シート前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。
シートの調整・正しい姿勢については、P.217を参照してください。

■ひざの上にものをかかえるなど、乗員とＳＲＳエアバッグの間にものを置いた状態で走行しないでください。

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだときにものが飛ばされ顔に当たったり、ＳＲＳエアバッグの正常な作動がさまたげられ危険です。

■ドアにもたれかかったり、フロントピラー・センターピラー・リヤピラーやルーフサイド部に近づかないようにしてください。（ＳＲＳサイドエアバッグ＆ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車）

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに頭部などに強い衝撃を受け危険です。とくにお子さまを乗せるときには、注意してください。

■お子さまを助手席ＳＲＳエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりした状態では走行しないでください。

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

②車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないとＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグおよびインストルメントパネルの取りはずし・取りつけ・分解・修理などをするときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。
不適切な作業を行うと、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ危険です。

●ＳＲＳサイドエアバッグ装着車では、フロントシートの表皮の張り替えやフロントシートの取りはずし・取りつけ・分解・修理が必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。また、フロントシートの改造はしないでください。

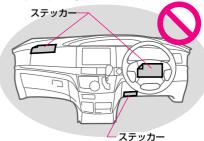
●ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車では、フロントピラー・センターピラー・リヤピラー、およびルーフサイド部や天井の取りはずし・取りつけなどＳＲＳエアバッグ格納部周辺を分解・修理しないでください。

●サスペンションを改造しないでください。車高がかわったり、サスペンションの硬さがかわると、ＳＲＳエアバッグが誤作動し危険です。

●車両前部、または車両客室部の修理をするときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。不適切な修理を行うと、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして危険です。

③カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないとＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどで覆わないでください。ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして危険です。

●インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などのものを置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに飛ばされるなどして危険です。

●無線機の電波などは、ＳＲＳエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがあり、ＳＲＳエアバッグが誤作動するなどして危険です。無線機などを取りつけるときは、トヨタ販売店にご相談ください。

●インストルメントパネル下部のＳＲＳニーエアバッグ展開部周辺にアクセサリーなどを取りつけないでください。ＳＲＳニーエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

●フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取りつけないでください。
この車専用のトヨタ純正用品以外のものがＳＲＳサイドエアバッグ展開部をおおうと、ＳＲＳサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。
なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取りつけてください。

●フロントドアやその周辺にカップホルダーなどのカー用品を取りつけないでください。ＳＲＳサイドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

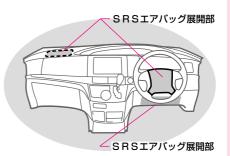
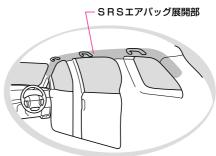
●フロントウインドゥガラス、サイドドアガラス、フロントピラー・センターピラー・リヤピラー、ルーフサイド部、アシストグリップなどＳＲＳカーテンシールドエアバッグ展開部周辺にアクセサリー、ハンズフリーマイクなどを取りつけないでください。前後席ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

●リヤ席アシストグリップ部のコートフックには、ハンガー・重いもの・とがったものをかけないでください。服をかけるときは、ハンガーを使用せずに直接コートフックにかけてください。ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

●車両前部にグリルガードやウインチなどを装着する場合は、トヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をすると、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグが誤作動するなどして危険です。

④ＳＲＳエアバッグ展開部を強くたたかないでください。

●ステアリングパッド、インストルメントパネル、フロントピラー・センターピラー・リヤピラー、ルーフサイド部、フロントシート側面などのＳＲＳエアバッグ展開部を強くたたくなど、過度の力を加えないでください。ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑤ＳＲＳエアバッグがふくらんだ直後は、ＳＲＳエアバッグ構成部品に触れないでください

●構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

5. EBD付ABS・ブレーキアシストについての注意

EBD付ABS・ブレーキアシストについては、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①EBD付ABSやブレーキアシストを過信しないでください。

●EBD付ABSやブレーキアシストが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
EBD付ABSやブレーキアシストを過信せず速度を抑え、車間距離を十分にとって安全運転に心がけてください。
- EBD付ABSはタイヤのグリップ限界をこえたり、ハイドロプレーニング現象※が起こった場合は、効果を発揮できません。

※ 雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

●EBD付ABSは制動距離を短くするための装置ではありません。
次の場合などは、EBD付ABSのついていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにして車間距離を十分にとってください。
- 砂利道、新雪路を走行しているとき。
- タイヤチェーンを装着しているとき。
- 道路の継ぎ目などの段差を乗りこえるとき。
- 凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき。

●ブレーキアシストは、ブレーキ本来の能力をこえた性能を引き出す装置ではありません。車両・車間距離などに十分注意して安全運転に心がけてください。

TRC・S-VSCについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①TRCを過信しないでください。

●TRCが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。常に安全運転を心がけ、スリップ表示灯（P.333参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

②S-VSCを過信しないでください。

●S-VSCが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。常に安全運転を心がけ、S-VSC作動警告ブザー（断続音）が鳴ったり、スリップ表示灯（P.333参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

7.プリクラッシュセーフティシステムについての注意

プリクラッシュセーフティシステムについては、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①プリクラッシュセーフティシステムを過信しないでください。

●運転するときは常に周囲の状況に注意し、進行方向の障害物などを認識して安全運転に心がけてください。

②衝突を避けられない状況でプリクラッシュセーフティシステムが作動状態のときでも、シートベルトを着用していないとプリクラッシュシートベルトは作動しません。また、ブレーキペダルを踏まないとプリクラッシュブレーキアシストは作動しません。

③プリクラッシュシートベルトの作動によりシートベルトが引き込まれた状態でロックした場合、すみやかに安全な場所に停車してシートベルトをはずし、再度装着してください。

●シートベルトをゆるませることができる場合は、少し巻き取らせることでロックを解除することができます。

**オートマチック車については、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

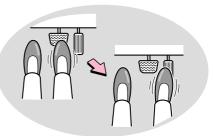
①オートマチック車の特性

■クリープ現象

エンジンがかかっているとき、シフトレバーが🅟・🅝以外にあると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象をクリープ現象といいます。

■キックダウン（3.5Ｌ車のみ）

走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り替わり、エンジンの回転数が上昇して急加速させることができます。これをキックダウンといいます。

②運転するときは、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を必ず確認して、踏み間違いのないようにしてください。

●アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●後退するときは、身体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

●車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

③ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。

●左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④エンジンをかけるときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだまま、エンジンをかけてください。

●安全のためシフトレバーは車輪が固定されるⓅに入れ、ブレーキペダルをしっかり踏みエンジンをかけてください。

⑤発進するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだままシフトレバーを操作してください。

●とくにエンジン始動直後やエアコン作動時などは、クリープ現象が強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。
●レバー操作は絶対にアクセルペダルを踏み込んだまま行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥走行中はシフトレバーをⓃに入れないでください。

●Ⓝにすると、エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●Ⓝにしたまま長時間走行すると、オートマチックトランスミッション内のオイルの潤滑が悪くなり、故障するおそれがあります。

⑦走行中はシフトレバーをⓅに入れないでください。

●オートマチックトランスミッションの内部が機械的にロックされ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑧前進で走行中は、シフトレバーをⓇに入れないでください。

●車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、オートマチックトランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。

⑨停車中は、空ぶかしをしないでください。

●シフトレバーがⓅ・Ⓝ以外にあると、車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑩駐車するときは、シフトレバーをⓅに入れてください。

●シフトレバーがⓅ以外にある場合、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだとき急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑪坂道などで、2.4L車ではシフトレバーをⒹ、Ⓜ、3.5L車ではシフトレバーをⒹ、Ⓢに入れたまま惰性で後退することは絶対にしないでください。

●同様にシフトレバーがⓇに入れたまま惰性で前進することは絶対にしないでください。エンストして、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、故障や思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

⑫状況により作動しないことがありますので、NAVI・AI－SHIFTを過信しないでください。（NAVI・AI－SHIFT装着車）

●常に道路状況に注意し、安全な速度で走行してください。

⑬そのほかにも以下の点に注意してください。

●少し後退したあとなどは、シフトレバーがⓇにあることを忘れてしまうことがあります。後退したあとはすぐⓃにもどすよう習慣づけましょう。
●切り返しなどでシフトレバーをⒹからⓇ、ⓇからⒹと何度もレバー操作をするときは、その都度、ブレーキペダルをしっかり踏み、完全に車を止めてから行ってください。またシフトレバーの位置も忘れずに確認してください。

2. 4WD車についての注意

**4WD車については、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

①無理な運転は禁物です。

●この車の4WD（アクティブトルクコントロール4WD）は、オンロード専用です。オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での走行安定性の確保を目的とした4WDですので、無理な運転はしないでください。

②すべりやすい路面での走行は慎重に行ってください。

●4WD車といっても万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転を心がけてください。

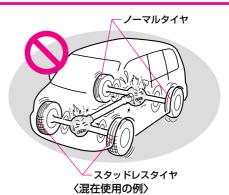
③脱輪やスタックなどにより、車輪が空転している場合は、むやみにアクセルペダルを踏まないでください。

●前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動部品に無理な力が加わり焼きつきなどの損傷を受けたり、焼きつきにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●タイヤが空転中に急激なブレーキ操作をしないでください。

④渡河などの水中走行はしないでください。

●渡河などの水中走行をすると、エンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。
●万一、水中に浸かってしまったときは、必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。
- ブレーキの効き具合。
- エンジン・トランスミッション・トランスファー・ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化。（白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要です。）
- プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良。

〈混在使用の例〉

⑤タイヤはすべて、必ず指定サイズで同一種類のタイヤを装着してください。

●タイヤはすべて、指定サイズで同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。
●タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼きつきなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。
●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるので、タイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
  • 4輪の空気圧の差が著しいとき。
  • 空気圧が指定値からはずれているとき。
●タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（P.567参照）
●ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（P.615参照）

3.レーダークルーズコントロール（ブレーキ制御付）についての注意

レーダークルーズコントロールについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①レーダークルーズコントロールを使用しないときは、メインスイッチをＯＦＦにしてください。

●誤ってレーダークルーズコントロールを作動させてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

②車間制御モードを過信しないでください。車間距離制御には限界があります。運転するときは常に周囲の状況に注意し、状況によってはブレーキペダルを踏んで減速したり、アクセルペダルを踏んで加速するなどして、先行車や後続車との車間距離を確保し安全運転に心がけてください。

●車両を停止させるまで自動的にブレーキ操作を行うモードではありません。また、ブレーキ制御を行いますが減速には限界があり、先行車の減速度合いが大きい場合や自車の前へ他車が割り込んだ場合などは十分な減速ができず、先行車に接近することがあります。この場合、接近警報が作動して注意をうながします。（P.397参照）また、車速が約40 km/h以下になると警告音が“ピッピッ”と鳴ると同時に制御は解除されます。（ブレーキ制御も解除されます。）
●わき見運転やぼんやり運転など前方不注意を補助するものではありません。

③次のような状況のときは、レーダークルーズコントロールを使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐のときなど）では、先行車との車間距離が正確に測定できない場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
なお、ワイパーを高速作動させるとレーダークルーズコントロールが自動的に解除され、セット待機状態になります。（低速作動もしくは間欠作動では解除されません。）
●レーダーセンサー前部に雨滴、雪などが付着している場合では、先行車との車間距離が正確に測定できない場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●交通量の多い道や急カーブのある道では、道路の状況に合った速度で走行できないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●凍結路や積雪路などのすべりやすい路面では、タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあり危険です。
●急な下り坂では、エンジンブレーキが十分効かないため、セットした速度をこえてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●頻繁に加速・減速を繰り返すような交通状況では、道路の状況に合った速度で走行できないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●急な上り坂、下り坂が繰り返される道路では、先行車を検知できず、先行車に接近しすぎるおそれがあるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●高速道路などで、自車のセット車速よりも遅い車に追従走行中に、インターチェンジ・サービスエリア・パーキングエリアなどへ進入する（本線から出る）ときは、自車が本線から出ることにより先行車がいなくなり、セット車速まで加速してしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●停車中の車両や自車速より極端に遅い車両に対しては、レーダークルーズコントロールの制御も接近警報も行わないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。料金所や渋滞の最後尾で停車中や極端に車速の遅い車両などには十分注意してください。
●近距離ではレーダーセンサーの検知エリアが狭いため、間近で割り込んでくる先行車の検知が遅れたり、自車線の端を走行する二輪車を検知できないため、車間距離が適切に保てずに、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●このシステムでは、先行車の後端面の反射電波を主に検知して制御を行っていますので、次の場合は、先行車を正確に検知できないため、車間距離が適切に保てずに、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 先行車や他車線の車両が路上の水や雪などをまき上げて走行しているとき。
- 先行車が空荷のトレーラーなど極端に車両後端面積が少ないとき。
- ラゲージルームや後席に荷物などを積んで、車が傾いているとき。

●やむを得ず他車をけん引する場合（P.666参照）は、クルーズコントロールを使用しないでください。クルーズコントロールの機能を損なう可能性があり、制御性能の低下や、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●レーダーセンサーはセンサーの窓部の汚れを自動で判定し、お知らせする機能を備えていますが万能ではありません。
状況によってはセンサー前部が汚れていても判定できない場合があります。また、透明や半透明（有色も含む）のビニール袋（金属コーティングされたものなど）が密着した場合や氷、つららなどが付着した場合も判定できない場合があります。このような状況では、車間距離が適切に保てずに、思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、常に前方に注意して走行してください。なお、汚れを判定した場合、制御は自動的に解除されます。
また、センサー前部はいつもきれいにしておいてください。（P.399参照）
●道路形状（カーブ路、左右カーブの連続している道路、カーブの出入口、工事中や車線規制などで車線幅が狭い道路など）や自車の状況（ハンドル操作や車線内の位置、事故や故障で走行が不安定な状況など）によっては、一時的に隣の車線の車両や周辺のものを検知して、制御・接近警報が作動したり、一時的に先行車を検知できず、先行車に接近して、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④接近警報が頻繁に作動するような状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。

●短い車間距離でも、次の場合には警報が作動しないことがあります。
- 先行車との相対速度が小さいとき（ほぼ同じ速度で走っているとき）。
- 先行車の方が自車より速いとき（車間距離が次第に離れていくとき）。
- セット操作をした直後。
- アクセルペダルを踏んでいるとき、およびアクセルペダルを離した直後。

●料金所や渋滞の最後尾で停車中や極端に車速の遅い車両などに対しては警報が作動しません。
●道路形状（カーブなど）や自車の状況（ハンドル操作や車線内の位置）によっては、一時的に隣の車線の車両や周辺の物を検知して、接近警報が作動する場合があります。

⑤レーダークルーズコントロールを定速制御モードで使用するときは、次のことに注意してください。

●定速制御モード中は、車間制御モード中のように、先行車の有無・先行車との車間距離を判定していないため、接近警報が作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。先行車との車間距離に十分注意してください。
●次のような状況のときは、レーダークルーズコントロール（定速制御モード）を使用しないでください。使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 交通量の多い道や急カーブのある道では、道路の状況に合った速度で走行できないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 凍結路や積雪路などのすべりやすい路面では、タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあり危険です。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキが十分効かないため、セットした速度をこえてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

4.クルーズコントロールについての注意

**クルーズコントロールについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。**

①クルーズコントロールを使用しないときは、メインスイッチをＯＦＦにしてください。

●誤ってクルーズコントロールを作動させてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

②次のような状況のときは、クルーズコントロールを使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●交通量の多い道や急カーブのある道では、道路の状況に合った速度で走行できないため、事故につながるおそれがあり危険です。
●凍結路や積雪路などのすべりやすい路面では、タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあり危険です。
●急な下り坂では、エンジンブレーキが十分効かないため、セットした速度をこえてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●やむを得ず他車をけん引する場合（P.666参照）は、クルーズコントロールを使用しないでください。クルーズコントロールの機能を損なう可能性があり、制御性能の低下や、思わぬ事故につながるおそれがあります。

5. ヒルスタートアシストコントロールについての注意

ヒルスタートアシストコントロールについては、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。

●極端に急な上り坂、凍結した上り坂、泥状の上り坂では発進が困難な場合があります。慎重に運転してください。
●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための装置ではありません。坂道での長時間の駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

②ヒルスタートアシストコントロール作動中に下記の操作をしないでください。

●“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにしないでください。ヒルスタートアシストコントロールが解除され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

6.レーンキーピングアシストについての注意

**レーンキーピングアシストについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。**

①レーンキーピングアシストを過信しないでください。

●車線逸脱を警報したり、車線内走行を支援したりするシステムで、手放し運転や脇見運転など前方不注意を補助するものではありません。常に自らハンドル操作をして進路を修正し、安全運転に心がけてください。

②次のような状況のときにレーンキーピングアシストを使用すると、システムが正しく機能できない場合があり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。システムをＯＦＦにして走行してください。

●白（黄）線がかすれたり汚れたりして見えにくいとき。
●雨、雪、霧、逆光などで、白（黄）線が見えにくいとき。
●ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき。
●検札所や料金所など、白（黄）線が途切れるとき。
●急激な明るさの変化が連続するとき。
●道路補修の消し残り線・影・残雪・雨のたまった轍など、白（黄）線と紛らわしい線が見えるとき。
●高速道路等の本線（走行車線、追い越し車線）以外の車線を走行するとき。
●工事による車線規制や仮設の車線を走行するとき。
●車線の幅が極端に狭いときや広いとき。
●前車との車間距離が極端に短くなったとき。
●重い荷物の積載やタイヤ空気圧の調整不良などで、車両が著しく傾いているとき。
●うねった道路や荒れた道路を走行するとき。
●雨天時や積雪・凍結などで滑りやすい道路を走行しているとき。

③車線逸脱警報機能は、車線逸脱を自動的に防止するものではありません。

●車線逸脱警報機能は、走行中の車線を逸脱するとシステムが判断した場合に、警報によって運転者のハンドル操作による進路修正を促す機能で、車線逸脱を自動的に防止するものではありません。常に自らのハンドル操作で進路を修正し、安全運転に心がけてください。
●車線維持支援機能は、運転者のハンドル操作力を補助し、運転を支援する機能で、自動的に車線の中央を走行するものではありません。常に自らのハンドル操作で進路を修正し、安全運転に心がけてください。
●走行条件や道路条件により、車線逸脱警報が早く作動したり作動しなかったりすることがあります。常に進路の確認を行い、安全運転に心がけてください。

7.スマートエントリー&スタートシステムについての注意

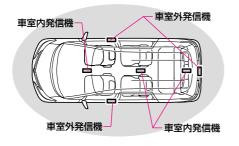
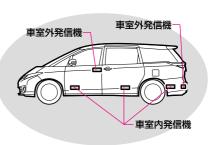
スマートエントリー&スタートシステムについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されているかたは、車室内発信器・車室外発信器から約22 cm以内に植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器が近づかないようにしてください。

●電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植え込み型心臓ペースメーカーおよび、植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

●スマートエントリー & スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

1. 点検・手入れ時の注意

点検・手入れ時は、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
点検整備の詳細については「メンテナンスノート」をお読みください。

①エンジンルームを点検するときは、必ずエンジンを停止してください。また、火気を近づけないでください。

●エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分に触れたり近づいたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、エンジンが停止していても、冷却水温が高いときは、冷却ファンが急にまわり出すことがありますので、注意してください。なお、火気をバッテリーや燃料配管に近づけないでください。爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

②エンジン停止直後はエンジン・排気管・ラジエーターなど高温部には触れないでください。

●やけどをするおそれがあります。なお、オイルやその他の液体も高温になっていることがありますので注意してください。

③エンジンルーム内に水をかけないでください。

●エンジンルーム内に水をかけると、電装品がショートしたりして、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

④車の清掃をするときは、車内に水をかけないでください。

●オーディオやフロアカーペット下にある電気部品などに水がかかると、車の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑤洗車する場合は、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。

●ブレーキ装置内に水が入ると、凍結してブレーキの効きが悪くなったり、錆びてブレーキの固着につながるおそれがあり、走行できなくなる場合があります。

⑥ヒューズを交換するときは、規定容量以外のヒューズを使用しないでください。

●配線が過熱・焼損し、火災につながるおそれがあり危険です。

⑦電球を交換するときは、電球が冷えてから交換してください。

●電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあります。

⑧エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。

●ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⑨エンジンルームを点検したあとは、エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。

●点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

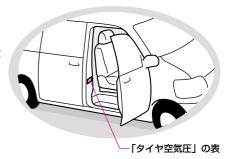
2．タイヤについての注意

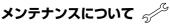
タイヤについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

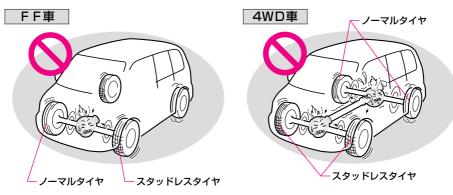
①日常点検として、必ずタイヤの点検を行ってください。

●タイヤの点検は、法律で義務付けられています。
●タイヤは以下の点について点検してください。
- タイヤの空気圧。
- タイヤのき裂・損傷の有無。
- タイヤの溝の深さ。
- タイヤの異常な摩耗。（極端にタイヤの片側のみが摩耗している・摩耗程度がほかのタイヤと著しく異なるなど。）

タイヤの点検方法は、「メンテナンスノート」をお読みください。

②タイヤ空気圧は、必ずタイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整してください。

「タイヤ空気圧」の表

●指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはP.615で正しい空気圧を確認のうえ、調整してください。
指定空気圧より低いと、車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。日常点検で、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。
※高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

③タイヤはすべて、必ず指定サイズで同一種類のタイヤを装着してください。

●タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。
●タイヤを混在使用すると、左右タイヤ（4WD車の場合は前後左右タイヤ）で常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼きつきなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。

〈混在使用の例〉

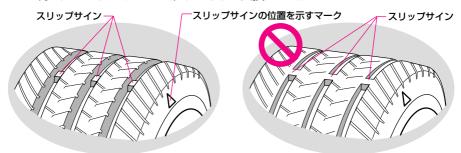
●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるのでタイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
- 4輪の空気圧の差が著しいとき。
- 空気圧が指定値からはずれているとき。

●タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（P.567参照）
●ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（P.615参照）

●指定以外のタイヤおよび4輪とも同一でないタイヤを装着すると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、前後左右のタイヤに回転差が発生するなどして、正確な車両速度が検出できなくなる場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ●ＡＢＳ
- ●ブレーキアシスト
- ●ＴＲＣ・Ｓ-ＶＳＣ
- ●バックガイドモニター
- ●インテリジェントパーキングアシスト
- ●ＧＰＳボイスナビゲーション
- ●ワイドビューフロント＆サイドモニター
- ●ヒルスタートアシストコントロール（Ｓ-ＶＳＣ装着車）
- ●レーダークルーズコントロール
- ●クルーズコントロール
- ●プリクラッシュセーフティシステム
- ●インテリジェントＡＦＳ
- ●NAVI・ＡＩ－SHIFT
- ●レーンキーピングアシスト

また、下記のシステムは性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。
- ●アクティブトルクコントロール4WD

④摩耗限度をこえたタイヤは使用しないでください。

●タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象※1により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

〈例：スリップサインが出ていない状態〉※2　〈例：スリップサインが出ている状態〉※2

※1 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。
※2 イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

⑤タイヤの側面などに傷やき裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。

●異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルがとられたり、異常な振動を感じることがあります。
また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤに与えたり、タイヤが横すべりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。
●異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。

⑥冬用タイヤ装着時は以下の点をお守りください。

●指定サイズのタイヤを使用してください。
●指定空気圧に調整してください。
●お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しないでください。

⑦タイヤチェーン装着時は、速度を控えて慎重に運転してください。

●タイヤチェーン装着時は、約30 km/h、またはチェーンメーカー推奨の制限速度以下で走行してください。また、走行性に影響を与えるため必ず慎重に走行してください。
●タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗りこえたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあり危険です。
また、ＡＢＳ作動時でも制動距離が長くなる場合がありますので、慎重に運転してください。

⑧ディスクホイール取りつけボルト、ナットのネジ部や、ディスクホイールのボルト穴につぶれやき裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店などで点検を受けてください。

●つぶれやき裂などの異常があると、ナットを締めつけても十分に締まらず、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑨段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

●段差や凹凸のある路面を通過するときの衝撃により、タイヤ・ディスクホイールが損傷する場合があります。

⑩歩道の縁石などにタイヤが当たらないように注意してください。

●タイヤ・ディスクホイールが損傷する場合があります。

⑪タイヤを交換したときは、ディスクホイール取りつけナットが確実に締まっていることを確認してください。

●確実に締まっていないと、ディスクホイール取りつけボルトやブレーキ部品を破損したり、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。タイヤ交換後はトヨタ販売店で、できるだけ早くトルクレンチで基準値にナットを締めてください。
締めつけトルク：約105 N・m ｛1050 kgf・cm｝
●タイヤを取りつけるナットやボルトにオイルやグリースを塗らないでください。ナットを締めるときに必要以上に締めつけられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるんで走行中にタイヤがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑫応急用タイヤについては以下の点に注意してください。（販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車）

●応急用タイヤは標準タイヤがパンクしたときに、一時的に使用するタイヤです。できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
●応急用タイヤの空気圧は必ず点検してください。空気圧が不足している状態で走行すると、タイヤの径の違いがさらに大きくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。応急用タイヤの空気圧については、P.615をご覧ください。
●車に搭載されている応急用タイヤは、お客様の車専用です。ほかのタイヤやディスクホイールと組み合わせたり、ほかの車に使用したり、ほかの車の応急用タイヤをお客様の車に使用しないでください。走行に悪影響が出て思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑬走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。

●走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっています。タイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

⑭装着されているタイヤサイズ以外のタイヤを装着しないでください。

●装着されているタイヤサイズ以外のタイヤを装着すると、車の性能（車両の安定性など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。

3. バッテリーについての注意

バッテリーについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

①日常点検として必ずバッテリーの液量を点検してください。

●バッテリーの液面が各液槽とも、バッテリー側面に表示されたLOWER LEVEL（下限）以下のまま使用、充電すると、バッテリーの寿命が短くなったり、発熱や爆発するおそれがあり危険です。点検方法は「メンテナンスノート」を参照し、液量が少ないときは補給してください。

②バッテリーあがりで、ブースターケーブルをつなぐときは、接続順や接続箇所を間違えないように注意してください。（P.656参照）

●バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

③エンジンがかかっているときや、充電中は、バッテリーに近づかないでください。

●充電中は、バッテリーから有毒で腐食性の高い希硫酸を含んだバッテリー液が吹き出す場合があり、目や皮膚に付着すると、失明など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。万一、付着した場合は、すぐに衣服を脱ぎ、液が付着した身体の部分を多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。

④火気をバッテリーに近づけないでください。

●バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑤バッテリーを交換したときは、正しい位置にクランプを取りつけ、ナットを確実に締めつけてください。

●確実に取りつけたり、締めつけたりしないと、走行中にクランプがはずれてショートするなどして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

4. ジャッキアップについての注意

ジャッキアップについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。また、パーキングブレーキをしっかりかけてください。

●車が動きジャッキがはずれ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。なお、輪止めはトヨタ販売店で購入できますのでトヨタ販売店にご相談ください。
●輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

②ジャッキアップした車の下には、絶対にもぐらないでください。

●万一、ジャッキがはずれると、身体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●車載工具のジャッキは、タイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外は使用しないでください。

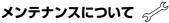
③ジャッキアップするときは、次の点に注意しないと、車体が損傷したり、ジャッキがはずれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●人を乗せたままジャッキアップをしないでください。
●ジャッキアップするときは、ジャッキの上や下にものを挟まないでください。
●ジャッキアップするときは、ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置（P.648参照）にかかっていることを必ず確認してください。
●車体は、タイヤ交換に必要な高さだけ持ち上げてください。
●ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。
●ジャッキアップした車体をおろすときは、周囲を確認し、十分注意しながら作業してください。

④車に搭載されているジャッキは、お客様の車専用です。

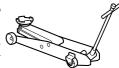
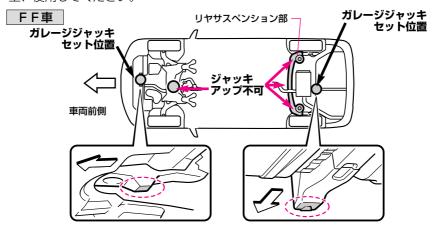
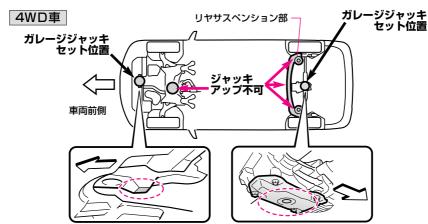
●ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑤工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。

●室内などに放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、次のことをお守りください。

●車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、特別な工具が必要になったり、取り扱いに特別な注意が必要になるため、誤って使用すると車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、リヤサスペンション部などでジャッキアップすると、車両を損傷することがあります。
車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用する必要がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。また、ガレージジャッキを使用するときは、必ずしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。下図のガレージジャッキセット位置に当ててください。ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキに付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用してください。

FF車

4WD車

1. オーバーヒートについての注意

オーバーヒートについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

①オーバーヒートし、ボンネットから蒸気が出ているときは、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。

●エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、蒸気が出ていない場合でも、高温になっている部分がありますので、ボンネットを開けるときは十分注意してください。

②ラジエーターや補助タンクが熱いときはラジエーター補助タンクのキャップを開けないでください。

●蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●キャップを開けるときは、ラジエーターや補助タンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包み、ゆっくりと開けてください。

2. 万一の事故のときの注意

次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①エンジンをかけずにけん引される場合は、ハンドルやブレーキ操作に十分注意してください。

●エンジンがかかっていないと、パワーステアリングやブレーキ倍力装置が働かないため、操作力が非常に重くなります。けん引される車の運転は、十分注意して行ってください。

②けん引中に、急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。

●けん引フックやロープが破損し、それが周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

③けん引中に“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをＯＦＦにしないでください。

●ハンドルがロックされ思わぬ事故につながるおそれがあり危険です

④発炎筒を燃料などの可燃物の近くで使用しないでください。また、発炎筒を使用中は、顔や身体に向けたり、近づけたりしないでください。

●可燃物の近くで使用すると引火するおそれがあり危険です。また、使用中に顔や身体に向けると、炎でやけどするなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑤事故後、エンジンを始動する前に燃料がもれていないか確認してください。

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかれば、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままエンジンを始動すると燃料に引火し、重大な事故につながるおそれがあり危険ですので、エンジンを始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①違法改造は絶対にしないでください。

●トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。
●車高を落としたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
●ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはＳＲＳエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- タイヤ・ディスクホイール・ディスクホイール取りつけナットの交換。
  異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
- 電装品・無線機などの取りつけ、取りはずし。
  電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

●フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界を妨げるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

②灰皿を使用したあとは、マッチ・タバコの火を確実に消し、必ず閉めておいてください。

●開けたまま放置すると、車両火災につながるおそれがあり危険です。また、灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

③カップホルダーには、カップや飲料缶以外のものを入れないでください。

●カップホルダーには、カップや飲料缶以外のものを入れないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタをしてください。
●急ブレーキをかけたときや衝突時に、カップホルダーに体が当たるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。カップホルダーを使用しないときはフタを閉めておいてください。

④ウインドゥガラスなどには吸盤をつけないでください。

●ウインドゥガラスにアクセサリーの吸盤を取りつけたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置くと、吸盤や容器がレンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

⑤ラゲージルームには人を絶対に乗せないでください。

●急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が飛ばされ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑥バックドアを閉めるときは、ほかの人の手などを挟まないように注意してください。また、お子さまにはバックドアの操作をさせないでください。

●お子さまが操作すると、閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●イージークローザー装着車では、半ドア状態のときイージークローザーが働きバックドアが自動的に閉まるため、指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●イージークローザーは、パワーバックドアのメインスイッチがOFFのときにも作動します。
●バックドアは、必ず外から押して閉めてください。バックドアグリップで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●バックドアは必ず全開にして使用してください。半開状態で使用するとバックドアが落ち、けがをするおそれがあります。
●バックドアステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがらないでください。手を挟んだり、ダンパーステーが破損してはずれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑦走行前にバックドアを軽くゆさぶり、確実にロックされていることを確認してください。

●バックドアが確実に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●バックドアを開けたまま走行しないでください。開けたまま走行すると、バックドアが車外のものなどに当たり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑧パワーバックドア装着車では、次のことをお守りください。お守りいただかないとバックドアで指や手などを挟んだり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●パワーバックドアの操作時は、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身の回りの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- バックドアが自動で開いている途中でパワーバックドアスイッチを押すと、作動が停止します。坂道などの傾斜地では、停止させたとき急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。
- 自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切り替わる場合があります。この場合、坂道などの傾斜地ではバックドアが不意に動き出すおそれがあるので十分注意してください。
- 傾斜した場所では、自動で開いたあとにバックドアが落ちる場合があります。バックドアは必ず全開で静止していることを確認してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にバックドアが落ちるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
  - ・自動作動中、障害物に干渉したとき
  - ・エンジン停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、"エンジンスタート ストップ"スイッチをイグニッションONモードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取りつけないでください。自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとに落ちるおそれがあります。
- タイヤ交換などをする際は、パワーバックドアメインスイッチをOFFにしてください。OFFにしないと、いたずらや誤ってスイッチにふれたときにパワーバックドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

●挟み込み防止機能作動中は以下のことに注意してください。注意していただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

⑨ディスチャージヘッドランプを交換するとき（電球交換を含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。（ディスチャージヘッドランプ装着車）

●電球ソケットに触れた状態で点灯操作をすると、瞬間的に20,000 Vの高電圧が発生し、感電して生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑩熱線式ウインドシールドデアイサーの作動中はガラス下部、および運転席側フロントピラー部の表面が熱くなりますので、手を触れないでください。（熱線式ウインドシールドデアイサー装着車）

●やけどをするおそれがあり危険です。

⑪ミラーヒーター作動中はドアミラーの表面が熱くなりますので、手をふれないでください。（ミラーヒーター装着車）

●やけどをするおそれがあり危険です。

⑫プラズマクラスター発生器は高電圧を利用しています。（プラズマクラスター装着車）

●危険ですので、修理などは必ずトヨタ販売店にご相談ください。

⑬電子キーの電池交換時に、取りはずした電池や部品を（とくにお子さまが）飲み込まないようにご注意ください。

●飲み込むと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑭アルミボディには、磁石で固定するアクセサリーを取りつけることはできません。

●磁石はアルミにつかないため、磁石式の初心者運転標識や高齢運転者標識などは取りつけることはできません。

⑮スライドドアを開閉するときは、ほかの人の手などを挟まないように注意してください。また、お子さまにはスライドドアの操作をさせないでください。

●走行中は以下のことをお守りください。お守りいただかないと思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートベルトを必ず着用してください。
- 全てのドアを施錠してください。
- 全てのドアを確実に閉めてください。
- 走行中はドア内側のドアハンドルを操作しないでください。
- お子さまを乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用してドアが開かないようにしてください。

●お子さまを乗せているときは以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- お子さまを車内に残さないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。不意にスライドドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

●スライドドアの操作にあたっては、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
- スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手・足・頭などを出さないでください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 半開状態ではスライドドアが静止しないため、必ず全開にしてください。傾斜地での停車時にドアが開いていると、突然動き出すおそれがあります。
- 坂道ではスライドドアの開閉スピードが早くなります。ドアが体に当たったり挟んだりしないよう、注意してください。
- 下り坂での停車時に乗りおりするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルを操作しないでください。ドアが突然動き出すおそれがあります。
- スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

⑯パワースライドドア装着車では、次のことをお守りください。お守りいただかないとスライドドアで指や手などを挟んだり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●パワースライドドアの操作時は、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。
- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身の回りの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- スライドドアが自動で開いている途中でパワースライドドアスイッチを押すと、作動が停止します。坂道などの傾斜地では、停止させたとき急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが閉まる場合があります。ドアは必ず全開で静止していることを確認してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にスライドドアが閉まるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
  ・自動作動中、障害物に干渉したとき
  ・エンジン停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、“エンジンスタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- タイヤ交換などをする際は、パワースライドドアメインスイッチをOFFにしてください。OFFにしないと、いたずらや誤ってスイッチに触れたときにスライドドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。
- チャイルドプロテクターを施錠側にしているときは、パワースライドドアの誤操作防止のため、パワースライドドアメインスイッチをOFFにしてください。

●挟み込み防止機能作動中は以下のことに注意してください。注意していただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

⑰車内のスイッチなどに飲み物をこぼさないよう注意してください。

●インストルメントパネル、ドアなどにあるスイッチなどに飲み物がかかると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。万一、スイッチに飲み物がかかった場合は、すみやかにトヨタ販売店にご相談ください。

⑱エンジンがかかっているとき、またはエンジン停止直後、マフラーに触れないように注意してください。

●エンジンがかかっているときやエンジン停止直後のマフラーは高温になっています。荷物の積みおろし時などに手や足が触れると、やけどをするおそれがあります。点検などで排気管に触れる場合は、十分に冷めてからにしてください。

⑲タイヤパンク応急修理キットを使用してパンク修理したときは、速度制限ラベルを下記の位置に貼らないでください。

●メーターやドアガラスなど、運転に支障をきたすところ
思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●ステアリングホイールパッド部などのＳＲＳエアバッグ展開部
ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑳ＥＴＣシステムを利用する際には、安全のため、運転者は走行中にＥＴＣカードの抜き差し、およびＥＴＣユニットの操作を極力しないでください。（ＥＴＣシステム装着車）

●走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車を停車させてから操作をしてください。

㉑シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドゥを開けたまま放置しないでください。

●ドアやウインドゥを開けたまま放置すると、直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

㉒ライターを車内に放置したままにしないでください。

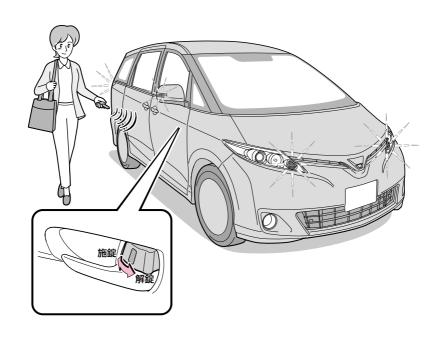
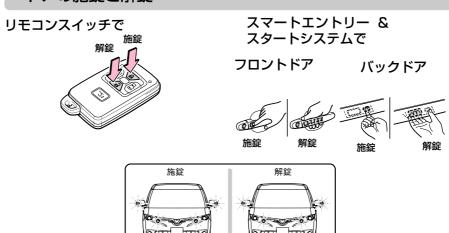
●ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしないでください。荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

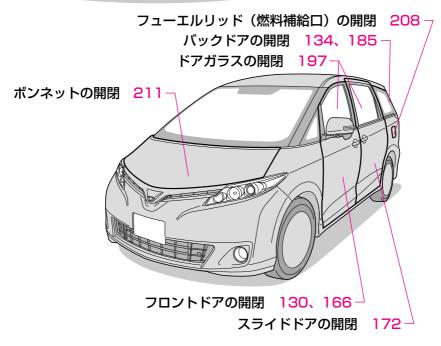
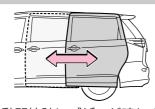
基本操作早わかり
（はじめてこの車にお乗りになるかたへ）

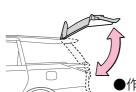
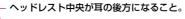
2

この章では、はじめて車を購入されたかたやトヨタ車にはじめてお乗りになるかたのために、この車の基本的な運転装置および装備品を簡単に説明しています。
詳しい取り扱い説明や注意事項は各章をしっかりお読みください。

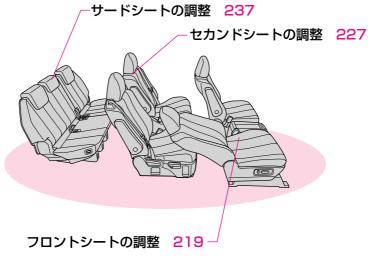
施錠
解錠

ドアの施錠と解錠

リモコンスイッチで
解錠
施錠
スマートエントリー ＆
スタートシステムで
フロントドア
バックドア
施錠
解錠
施錠
解錠
施錠
解錠
一回点滅
二回点滅

各部の開閉に関する詳しい紹介は

パワースライドドア・パワーバックドアの開閉

リモコンスイッチ
スイッチを1秒以上押します。

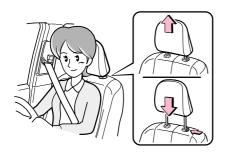
●作動開始時にブザーが鳴ります。
●閉作動中は断続ブザーが鳴ります。

●作動開始時にブザーが鳴ります。
●開閉作動中は断続ブザーが鳴ります。

運転席の調整機能

前後位置	背もたれの角度	クッション前端の上げ下げ	シート全体の上げ下げ
マニュアルシート			
パワーシート			

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

シートに関する詳しい紹介は

●シートアレンジについてはP.241を参照してください。

運転席の調整機能

ヘッドレスト

アームレスト

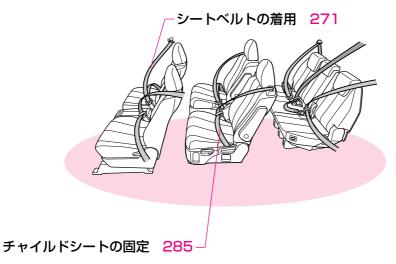
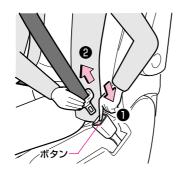
着用のしかた

1 ベルトを引き出します。

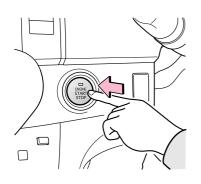
2 プレートをバックルに差し込みます。

❶“カチッ”という音がするまで差し込みます。

❷アンカーの高さを調整します。

シートベルトに関する詳しい紹介は

はずし方

❶バックルのボタンを押します。
❷ベルトを巻き取らせます。

“エンジン スタートストップ”スイッチの状態	作動表示灯の色	エンジンの状態	各状態の働き
OFF	消灯	停止	電装品が停止している状態です。
アクセサリーモード	橙色	停止	オーディオなどの電装品が使用できます。
イグニッションＯＮモード	橙色	停止	すべての電装品が使用できます。
	消灯	回転中	すべての電装品が使用できます。 通常運転中の状態です。

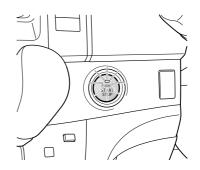
“エンジン スタート ストップ”スイッチの切り替え方

1 電子キーを携帯して運転席に座ります。

2 “エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。
スイッチを押すごとにスイッチが、
ＯＦＦ⇒アクセサリーモード⇒イグニッションＯＮモード⇒ＯＦＦ…
の順に切り替わります。

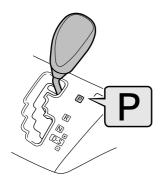
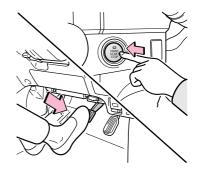
●アクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードのときは作動表示灯が橙色に点灯します。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

エンジン始動のしかた

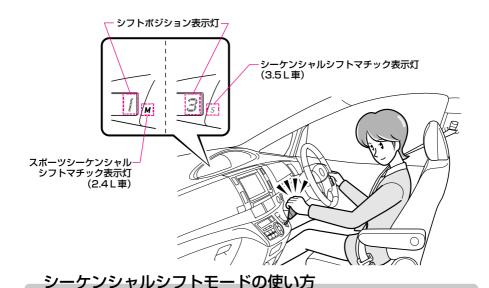
1 電子キーを携帯して運転席に座り、ブレーキペダルをしっかり踏みます。

パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

2 作動表示灯が緑色に点灯します。

3 シフトレバーの位置を確認します。

4 ブレーキペダルをしっかり踏んだ状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。

ゆっくり確実に押してください。

●エンジンが始動すると作動表示灯が消灯します。

シーケンシャルシフトモードの使い方

1

2.4L車

シフトレバーを**M**にします。

●スポーツシーケンシャルシフトマチック表示灯が点灯します。

3.5L車

シフトレバーを**S**にします。

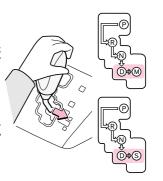
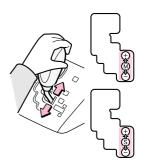
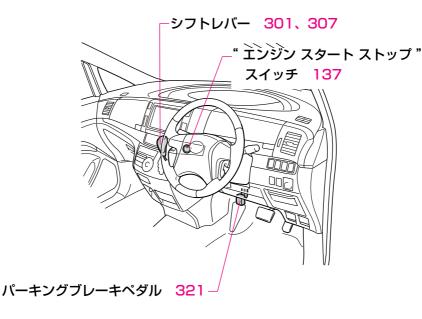
●シーケンシャルシフトマチック表示灯が点灯します。

2 シフトアップするときはシフトレバーを＋側、シフトダウンするときはシフトレバーを－側に動かします。

2.4L車

●1～7の間で選択されている変速段がシフトポジション表示灯に表示されます。

3.5L車

●1～6の間で選択されているシフトレンジがシフトポジション表示灯に表示されます。

運転装置に関する詳しい紹介は

パーキングブレーキの使い方

解除のしかた

❶右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら、

❷左足でパーキングブレーキペダルを“カチッ”と音がするまで踏み込み、ゆっくり離します。

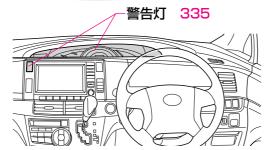
かけ方

❶右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら、

❷左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。

警告灯が点灯、または点滅したままのときは

	警告灯	警告理由
ABS	ＡＢＳ ＆ ブレーキアシスト警告灯	ＡＢＳ、またはブレーキアシストシステムの異常です。（Ｓ-ＶＳＣ装着車）
ABS	ＡＢＳ警告灯	ＡＢＳの異常です。（Ｓ-ＶＳＣ装着車を除く）
	ＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯	ＳＲＳエアバッグシステム、またはプリテンショナー付シートベルトシステムの異常です。
VSC	ＶＳＣ警告灯	Ｓ-ＶＳＣ ＆ ＴＲＣシステムの異常です。
	エンジン警告灯	エンジン電子制御システムなどの異常です。
	ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯	ディスチャージヘッドランプのオートレベリング（上下照射方向自動調整）システムの異常です。
!	パワーステアリング警告灯	パワーステアリング制御システムの異常です。
4WD	4WD警告灯	4WDシステムの異常です。
	油圧警告灯	エンジン内のオイル圧力の異常です。
!	マスターウォーニング	マルチインフォメーションディスプレイに警告内容などが表示されています。

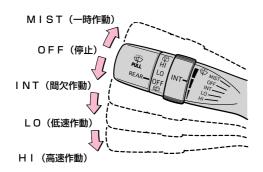
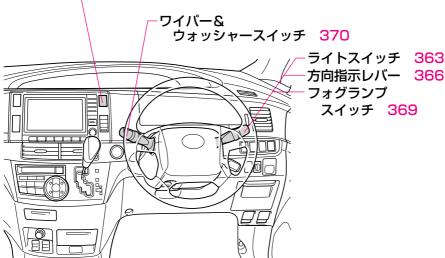
警告灯に関する詳しい紹介は

警告灯が点灯、または点滅したままのときは

警告灯		警告理由
	ブレーキ警告灯	●パーキングブレーキがかかっています。 ●ＥＢＤの異常です。 ●パーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、ブレーキ液量の不足です。
	充電警告灯	充電系統の異常です。
PCS	プリクラッシュセーフティシステム警告灯	プリクラッシュセーフティシステムの異常です。
	スマートエントリー＆スタートシステム警告灯	電子キーが車室内発信機の検知エリア内にありません。
	燃料残量警告灯	燃料切れが近づいています。 （約10 L以下で点灯）
	半ドア警告灯	いずれかのドア（バックドアを含む）が確実に閉まっていません。
	運転席シートベルト非着用警告灯	運転者がシートベルトを着用していません。
PASSENGER	助手席シートベルト非着用警告灯	助手席の乗員がシートベルトを着用していません。

※この他にも、表示灯の点灯または点滅により異常を知らせる場合があります。
詳しくは、P.327を参照してください。

夜間や雨天時などの走行

フロントワイパーの使い方

スイッチに関する詳しい紹介は

夜間や雨天時などの走行

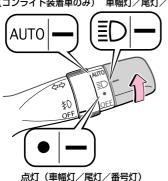
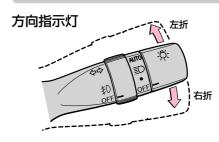
ランプのつけ方

自動点灯・消灯
（コンライト装着車のみ）

点灯
（ヘッドランプ／
車幅灯／尾灯／番号灯）

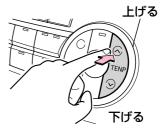
点灯（車幅灯／尾灯／番号灯）

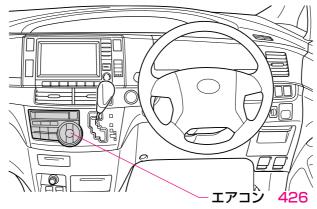
他車への合図

方向指示灯

非常点滅灯

オートエアコンの使い方

1 ＡＵＴＯスイッチを押します。

2 希望温度に合わせます。

運転席・助手席でそれぞれの温度に設定するときはＤＵＡＬスイッチを押してから、運転席側スイッチ、助手席側スイッチを押し希望温度に合わせます。

エアコンに関する詳しい紹介は

オートエアコンの使い方

3　エアコンが作動していないときは、エアコンスイッチを押します。

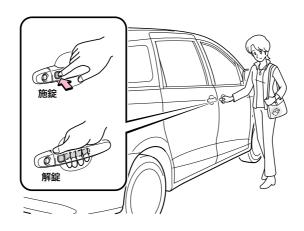
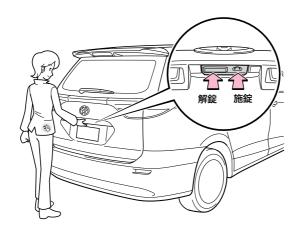
4　作動を停止したいときは、ＯＦＦスイッチを押します。

3 運転装置の取り扱い

スマートエントリー ＆ スタートシステム

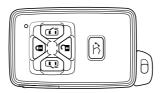
スマートエントリー ＆ スタートシステムについて

スマートエントリー ＆ スタートシステムは電子キーを携帯しているだけで、ドアの施錠・解錠、“エンジン スタート ストップ”スイッチの切り替え、エンジンの始動・停止をすることができます。

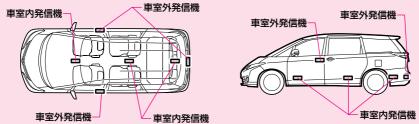
ドアの施錠・解錠（P.130参照）

バックドアの施錠・解錠（P.134参照）

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの切り替え（P.137参照）

エンジンの始動・停止（P.140参照）

電子キー

電子キーと車両が通信を行い、スマートエントリー ＆ スタートシステムが作動します。

電子キーは運転者が必ず携帯してください。

植え込み型心臓ペースメーカーを装着されているかたは、車室内発信機・車室外発信機から約22 ｃｍ以内に植え込み型心臓ペースメーカーが近づかないようにしてください。

●植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器を装着されている方は、車室内発信機・車室外発信機から約22 ｃｍ以内に近づかないようにしてください。電波により、植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

●スマートエントリー ＆ スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

注意 **電子キーは信号発信機を内蔵している電子部品です。故障の原因となりますので、以下のことをお守りください。**

●ダッシュボードの上など高温になる所に置かないでください。
●分解しないでください。
●無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えないでください。
●水にぬらさないでください。
●磁気を帯びたキーホルダーなどをつけないでください。
●電子キーの表面にシールなどを貼らないでください。
●テレビ、オーディオなどの磁気を帯びた機器、または低周波治療器などの医療電気機器の近くに置かないでください。
●超音波洗浄機などで洗浄しないでください。
●電子キーにガソリンなどの燃料やツヤ出し剤、油脂類が付着すると、電子キーが変形したり、ひび割れたりすることがあります。
●車から離れるときは、
1.パーキングブレーキをかけ、
2.シフトレバーを🅟にし、
3.“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにして、
必ず電子キーを携帯していることを確認してからドアを施錠してください。
●スマートエントリー & スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー & スタートシステム、ワイヤレスドアロックリモコンが正常に作動しない場合があります。その場合は、P.161の「電子キーが正常に作動しないときは」を参照してください。
- 電子キーのバッテリー（電池）が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど強い電波やノイズを発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を一緒に携帯しているとき
- 電子キーが金属性のものに接したり、覆われたりしているとき
- 複数の電子キーが近くにあるとき
- 他の車の電子キー、電波式ワイヤレスキー、パソコン、市販の電機製品などの電波を発信するような製品を同時に携帯または使用しているとき
- リヤガラスに金属を含むフィルムが貼ってあるとき

知識

電子キーについて

●電子キーは2個あります。
●電子キーはドアの施錠・解錠の他、エンジンの始動・停止などに使います。
●ワイヤレスドアロックリモコンの操作についてはP.204を参照してください。
●電子キーを紛失しないように十分注意してください。電子キーを紛失した場合は、電子キーの作製にコンピューターの交換が必要となるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。
●電子キーの作製には特殊な加工が必要になりますので、トヨタ販売店以外では購入できません。
●スマートエントリー ＆ スタートシステムの故障等でトヨタ販売店に車両を持っていく場合は、車両に装備されている電子キーをすべてお持ちください。
●盗難防止システムについてはP.213、520を参照してください。

電子キーのバッテリーについて

●電子キーのバッテリー（電池）は常に消耗しています。
電子キーは車両との通信のために常時受信動作をしており、電子キーに内蔵されたバッテリーを消費しています。電池の寿命は使用状況によりますが約1～2年程度です。（まったく使用しなくても電池は消耗します。）バッテリー電圧が低下した場合、新しい電池と交換してください。電池交換は、お客さまご自身で交換することができますが（P.568参照）、交換の際に破損などのおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。
●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音がなります。（P.154参照）
●“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにしてから約20分以上経過し、その後“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにしたとき、電子キーのバッテリーが低下していると、キーバッテリー低下警告が表示されます。（P.154参照）

知識

航空機内へのキーの持ち込みについて

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

電子キーの保管について

電子キーを家電製品の近くに保管しないでください。家電製品の電磁波により、電子キーが誤作動したり、常時通信状態となり電池が著しく消耗する場合があります。
影響のある主な電化製品（常時約1 m以上離すのが望ましいものの例）
テレビ、パソコン、電磁調理器、電気スタンド、充電中のコードレス電話器および携帯電話

電子キーの使用数について

同じ車両で使用できる電子キーの数を変更することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

キーナンバープレートについて

お客様以外にキーナンバーがわからないように、電子キーではなくプレートにキーナンバーを打刻しました。

●キーナンバープレートは車両以外の場所に大切に保管してください。
●万一、電子キーを紛失した場合、キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りの電子キーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しい電子キーをつくることができます。
●万一、電子キーを1個でも紛失した場合、盗難・事故などを防ぐため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

スマートエントリー & スタートシステムの解除について

スマートエントリー & スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

ドアの施錠・解錠のしかた

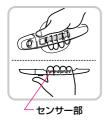
施錠・解錠のしかた

■施錠するときは

電子キーを携帯し、すべてのドア（バックドアを含む）が閉まっている状態で、フロントドアハンドルのロックスイッチを押します。

●すべてのドア（バックドアを含む）の施錠ができます。

●施錠したときは、非常点滅灯が1回点滅し、ブザーが1回鳴ります。

●必ず施錠されたことを確認してください。

■解錠するときは

電子キーを携帯し、フロントドアハンドル裏側のセンサー部に触れるようにドアハンドルを握ります。

●すべてのドア（バックドアを含む）の解錠ができます。

●解錠したときは、非常点滅灯が2回点滅し、ブザーが2回鳴ります。

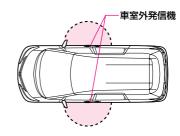
注意 車内に電子キーがある場合は、ロックスイッチを押さないでください。

●車内に電子キーがある場合は、ロックスイッチを押さないでください。電子キーが車内に閉じ込められる可能性があります。
●ドア施錠時に、車室外発信機の検知エリア内に電子キーがある場合は、電子キーと車両は定期的に通信を行うため、長時間その状態で放置すると、電子キーおよび車両のバッテリーがあがるおそれがあります。車両を使用しないときは、電子キーを車両付近（約2 m以内）に置かないでください。

知 識

作動範囲について

車室外発信機の検知エリア内（各フロントドアから周囲約70 cm以内）
●ドアガラスやドアハンドルに近づきすぎた場合などは作動しないことがあります。

検知エリア
各フロントドアハンドルから周囲約70 cm以内

作動条件について

●車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内に電子キーを携帯して入ると、自動的にIDコードの照合を行い、照合が一致したときのみドアが解錠されます。降車後、すべてのドアが閉まっている状態でロックスイッチを押すと、車室内外でIDコードの照合を行い、車内に電子キーがなく、車外に電子キーがあると判断されると施錠されます。
- 電子キーを検知しているドアハンドルでのみ、ドアの施錠・解錠を行うことができます。
- 車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内に入っていても、電子キーが地面の近くや高い場所にあるときやドアガラスやドアハンドルに近づきすぎたときは正常に作動しない場合があります。
- 電子キーが車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。
- 電子キーの持ち方により作動しにくいことがあります。
- 車両の形状により電子キーが作動しにくい場所があります。

●電波の状況が悪いときや電子キーのバッテリーが切れたときは、スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスドアロックリモコンでのドアの施錠・解錠はできません。この場合は、P.161の「電子キーが正常に作動しないときは」を参照してください。

知識

施錠・解錠について

●ロックスイッチを早押しした場合、施錠されないことがあります。
●施錠後、約3秒間はスマートエントリー & スタートシステムで解錠することはできません。
●次のようなときは、ロックスイッチを押さないでください。ロックスイッチを押してもドアは施錠されず、半ドア警報（P.149参照）が鳴ります。
- いずれかのドア（バックドアを含む）が開いているとき
- ドアの開閉中

●解錠するときは、フロントドアハンドル裏側のセンサー部を確実に握り、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- ドアハンドル裏側のセンサー部以外に触れても解錠されません。
- 皮手袋、スキー手袋などを手に装着してドアハンドル裏側のセンサー部に触れた場合は、解錠が遅れたり、解錠されないことがあります。

- 他の車の電子キーや、電波を発信するような製品などを同時に携帯した場合、作動時間が通常よりも長くなることがあります。

●確実に解錠させるためには、電子キーが車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内に入ってから約3秒以内にドアハンドルを握ってください。約3秒を経過すると、作動しない場合があります。
●急な車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内への接近や急なドアハンドル操作では、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
●電子キーが車室内発信機の検知エリア内（車両室内）にある場合でも、ワイヤレスドアロックリモコン（P.204参照）、メカニカルキー（P.161参照）、ドアロックスイッチ（P.166参照）での施錠はできますが、その後スマートエントリー & スタートシステムでの解錠はできません。
●解錠後、ドアの開閉操作がなければ、約30秒後に自動的に施錠されます。
●電子キーが車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内にあるとき、洗車や大雨などでフロントドアハンドルに多量の水がかかるとスマートエントリー & スタートシステムが働き、ドアが解錠することがありますが、ドアの開閉操作がなければ、約30秒後に自動的に施錠されます。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

 知識

便利機能について

イルミネーテッドエントリーシステム

ドアの開閉、解錠・施錠、" エンジン スタート ストップ " スイッチの状態、電子キーを携帯した状態での検知エリア内への進入と連動して、ルームランプ一体フロントパーソナルランプ、リヤパーソナルランプ（ＤＯＯＲの位置のとき）、" エンジン スタート ストップ " スイッチ照明が点灯・消灯します。

●電子キーを携帯し、車室外発信機（フロントドア）の検知エリア外から検知エリア内に入ると点灯し、約15秒後に消灯します。ただし、検知エリア内から検知エリア外へ出て、約3秒以内に検知エリア内にもどった場合や、検知エリア内に留まっている場合は作動しません。※

●いずれかのドア（バックドアを除く）を開けると点灯し、すべてのドアを閉めると約15秒後に消灯します。※

●" エンジン スタート ストップ " スイッチをＯＦＦにすると点灯し、約15秒後に消灯します。※

●" エンジン スタート ストップ " スイッチがＯＦＦのとき、いずれかのドアを解錠すると点灯し、約15秒後に消灯します。※

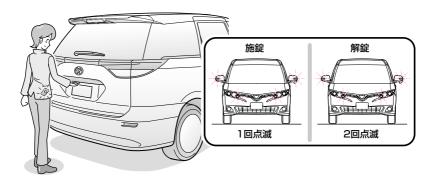
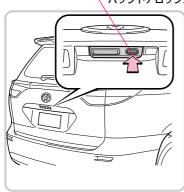
●次のような場合は、ただちに消灯します。
- すべてのドアを閉め、" エンジン スタート ストップ " スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードにしたとき。
- " エンジン スタート ストップ " スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードにして、すべてのドアを閉めたとき。
- すべてのドアを閉め施錠したとき。

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.617の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。

バッテリーあがり防止機能

いずれかのドア（バックドアを除く）が開いた状態で、ルームランプ一体フロントパーソナルランプ（スイッチがＤＯＯＲの位置のとき）、リヤパーソナルランプ（スイッチがＤＯＯＲの位置のとき）、" エンジン スタート ストップ " スイッチ照明が約20分以上点灯し続けると、バッテリーあがり防止機能が働き自動的に消灯します。

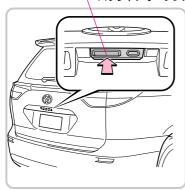
バックドアの施錠・解錠のしかた

施錠・解錠のしかた

■施錠するときは

電子キーを携帯し、すべてのドア（バックドアを含む）が閉まっている状態で、バックドアロックスイッチを押します。

●すべてのドアの施錠ができます。

●施錠したときは、非常点滅灯が1回点滅し、ブザーが1回鳴ります。

●必ず施錠作動したことを確認してください。

■解錠するときは

電子キーを携帯し、バックドアオープンスイッチを押します。

●すべてのドアの解錠ができます。

●解錠したときは、非常点滅灯が2回点滅し、ブザーが2回鳴ります。

●バックドアの開閉については、P.185の「バックドアの開閉」を参照してください。

車内に電子キーがある場合は、ロックスイッチを押さないでください。

●車内に電子キーがある場合は、ロックスイッチを押さないでください。電子キーが車内に閉じ込められる可能性があります。
●ドア施錠時に、車室外発信機の検知エリア内に電子キーがある場合は、電子キーと車両は定期的に通信を行うため、長時間その状態で放置すると、電子キーおよび車両のバッテリーがあがるおそれがあります。車両を使用しないときは、電子キーを車両付近（約2 m以内）に置かないでください。

知 識

作動範囲について

車室外発信機の検知エリア内（バックドアスイッチから周囲約70 cm以内）
●ドアガラスやバックドアスイッチに近づきすぎた場合などは作動しないことがあります。

検知エリア
バックドアスイッチから周囲約70 cm以内

作動条件について

●車室外発信機（バックドア）の検知エリア内に電子キーを携帯して入り、バックドアオープンスイッチを押すと、ＩＤコードの照合を行い、照合が一致したときのみドアが解錠されます。降車後、すべてのドアが閉まっている状態でバックドアロックスイッチを押すと、車室内外でIDコードの照合を行い、車内に電子キーがなく、車外に電子キーがあると判断されると、施錠されます。
- 車室外発信機（バックドア）の検知エリア内に入っていても、電子キーが地面の近くや高い場所にあるとき、バックドアガラスやリヤバンパーに近づけ過ぎたときは正常に作動しない場合があります。
- 電子キーが車室外発信機（バックドア）の検知エリア内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。
- 電子キーの持ち方により作動しにくいことがあります。
- 車両の形状により電子キーが作動しにくい場所があります。

●電波の状況が悪いときや電子キーのバッテリーが切れたときは、スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスドアロックリモコンでのドアの施錠・解錠はできません。この場合は、P.161の「電子キーが正常に作動しないときは」を参照してください。

知識

施錠・解錠について

●バックドアロックスイッチを早押しした場合、施錠されないことがあります。
●施錠後、約3秒間はスマートエントリー & スタートシステムで解錠することはできません。
●次のようなときは、バックドアロックスイッチを押さないでください。バックドアロックスイッチを押してもドアは施錠されず、半ドア警報（P.149参照）が鳴ります。
 ●いずれかのドア（バックドアを含む）が開いているとき
 ●ドアの開閉中
●急な車室外発信機（バックドア）の検知エリア内への接近や急なバックドアロックスイッチおよびバックドアオープンスイッチの操作では、施錠・解錠されない場合があります。その場合は、もう一度ゆっくりと操作してください。

エンジン（イグニッション）スイッチの切り替え方

作動表示灯

ENGINE START STOP

“エンジン スタート ストップ”スイッチ

1 電子キーを携帯し、運転席に座ります。

2 ブレーキペダルを踏まずに“エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。

スイッチを押すごとに、スイッチが
ＯＦＦ⇒アクセサリーモード⇒イグニッションＯＮモード⇒ＯＦＦ…
の順に切り替わります。

●アクセサリーモード、イグニッションＯＮモードのときは作動表示灯が橙色に点灯します。

●イグニッションＯＮモード⇒ＯＦＦは車両が停止しているときに切り替わります。

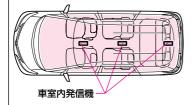
●“エンジン スタート ストップ”スイッチを早く押すと、切り替わらないことがあります。目的のスイッチの状態になるまで、１回ごとに確実に押してください。

“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態	作動表示灯の色	エンジンの状態	各状態の働き
OFF	消灯	停止	電装品が停止している状態です。
アクセサリーモード	橙色	停止	オーディオなどの電装品が使用できます。
イグニッションＯＮモード	橙色	停止	すべての電装品が使用できます。
	消灯	回転中	すべての電装品が使用できます。 通常運転中の状態です。

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションONモードまたはアクセサリーモードのまま長時間放置しないでください。

- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションONモードまたはアクセサリーモードのまま長時間放置すると、車両のバッテリーがあがる原因となります。
- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチに引っ掛かりがあるときは、スイッチを操作せず、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを油などのついた手でさわらないようにしてください。
- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチに飲料水などをこぼさないよう注意してください。万一、こぼしたあと異常を感じたら、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
- 炎天下で長時間車両を放置すると、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの表面が熱くなっている場合があります。やけどをしないよう気をつけてください。
- 車幅灯が点灯しても、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ照明が点灯しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知 識

作動範囲について

車室内発信機の検知エリア内（車両室内）

- 車外でもドアガラスに近づきすぎた場合などは“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの切り替えが可能となることがあります。

知識

作動条件について

●車室内発信機の検知エリア内（車両室内）に電子キーがないと判断すると、“エンジン スタート ストップ”スイッチを切り替えることができません。この場合、“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すと、キーなし警告が鳴ります。（P.151参照）
●電子キーをインストルメントパネル上、フロア上、収納スペース内（P.478参照）、収納ポケット内（P.482参照）などに置かないでください。“エンジン スタート ストップ”スイッチが切り替わらないことがあります。
●電波の状況が悪いときや電子キーのバッテリーが切れたときは、スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスドアロックリモコンでのドアの施錠・解錠はできません。この場合は、P.161の「電子キーが正常に作動しないときは」を参照してください。
●電子キーの持ち方により作動しにくいことがあります。
●車両の形状により電子キーが作動しにくい場所があります。
●“エンジン スタート ストップ”スイッチを操作するときは、奥まで確実に押してください。
●“エンジン スタート ストップ”スイッチを早押しした場合、“エンジン スタート ストップ”スイッチが切り替わらないことがあります。

盗難防止システムについて

盗難防止システムにより“エンジン スタート ストップ”スイッチが切り替わらないことがあります。（P.213，520参照）

便利機能について

オートＯＦＦ機能

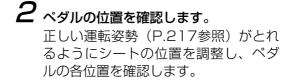
シフトレバーが🅟にあるとき、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードにした状態で約1時間放置するとバッテリーあがり防止のために、自動的にスイッチがＯＦＦになります。

車両バッテリー脱着時について

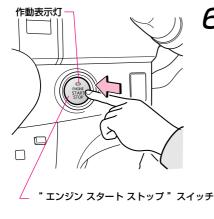
車両は常に“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態（アクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモード）を記憶しているため、車両バッテリーを再接続したときは、バッテリーをはずす前のスイッチの状態に復帰します。修理などで車両バッテリーをはずすときは、必ずスイッチをＯＦＦにしてから行ってください。
車両バッテリーあがり時に、バッテリーがあがる前のスイッチの状態がわからないときは、とくに注意してください。

エンジン始動のしかた

1 **電子キーを携帯し、運転席に座ります。**

2 **ペダルの位置を確認します。**
正しい運転姿勢（P.217参照）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。

3 **ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキがかかっていることを確認します。**

4 **シフトレバーの位置を確認します。**
シフトレバーがⓅにあることを確認します。
●Ⓝでも始動できますが、安全のためⓅで行ってください。

5 **ブレーキペダルをしっかり踏みます。**
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの作動表示灯が緑色に点灯します。
●作動表示灯が点灯するまで強く踏んでください。
●作動表示灯が緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。

6 ブレーキペダルを踏みながら“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押して、エンジンを始動します。

エンジンが始動すると、作動表示灯は消灯します。

●完全にエンジンが始動するまで、ブレーキペダルを踏み続けてください。

●ブレーキペダルを踏みながら“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押せば、どのスイッチの状態からでもエンジンを始動することができます。

●エンジンが始動しない場合、ブレーキペダルが重くなる場合がありますが、その際には通常よりも強くブレーキペダルを踏んでください。

●クランキングホールド機能（P.146参照）が作動します。

エンジン停止のしかた

車両を完全に停止させ、シフトレバーを🅟に入れて“エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。
スイッチがＯＦＦになり、エンジンが停止します。

●シフトレバーが🅟以外でエンジンを停止しないでください。
　万一、シフトレバーが、🅟以外でエンジンを停止した場合、“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードになります。そのときは、シフトレバーを🅟に入れ、スイッチを2回押して、スイッチをＯＦＦにします。（確実にスイッチがＯＦＦになっていることを確認してください。）

⚠警告　車外からのエンジンの始動は絶対に行わないでください。

●車外からのエンジンの始動は絶対に行わないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座って行ってください。
●走行中は、“エンジン スタート ストップ”スイッチにさわらないでください。誤ってスイッチを押し続け、エンジンが停止すると、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●車を少し移動させるときも、必ずエンジンを始動してください。エンジンをかけず、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●エンジンの始動操作をしたときに、“エンジン スタート ストップ”スイッチの作動表示灯が緑色に点滅したときは、絶対に車両を走行させないでください。ステアリングロックが解除されていないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

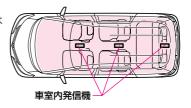
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの作動表示灯が橙色に点滅しているときは、システムの異常が考えられます。

●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの作動表示灯が橙色に点滅しているときは、システムの異常が考えられます。いったんスイッチをＯＦＦにすると、エンジンを再始動できなくなることがありますので、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
●走行中、エンストなどで車両が滑走状態になったときは、安全な状態で車両が停止するまで、ドアを開けたりしないでください。ステアリングロックが作動する可能性があり危険です。安全な場所に停車させたあと、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチに引っ掛かりがあるときは、スイッチを操作せず、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを油などのついた手でさわらないようにしてください。
●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチに飲料水などをこぼさないよう注意してください。万一、こぼしたあと異常を感じたら、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
●炎天下で長時間車両を放置すると、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの表面が熱くなっている場合があります。やけどをしないよう気をつけてください。
●車幅灯が点灯しても、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ照明が点灯しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知 識

作動範囲について

車室内発信機の検知エリア内（車両室内）

●車外でもドアガラスに近づきすぎた場合などはエンジンの始動が可能となることがあります。

エンジンの緊急停止について

走行中、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを約3秒以上押し続けると、エンジンを停止することができます。緊急時以外は走行中にエンジンを停止しないでください。

●“ エンジン スタート ストップ ”スイッチはアクセサリーモードになります。

●この状態ではオートＯＦＦ機能は作動しません。（P.139参照）

エンジンの緊急始動について

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、シフトレバーをⓅにしてから、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの状態をアクセサリーモードにしてブレーキを踏み、スイッチを約15秒以上押し続けると、エンジンが始動する場合があります。

●緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

知識

作動条件について

●車室内発信機の検知エリア内（車両室内）に電子キーがないと判断すると、エンジンを始動することはできません。この場合、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押すと、キーなし警告が鳴ります。（P.151参照）
●電子キーをインストルメントパネル上、フロア上、収納スペース内（P.478参照）、収納ポケット内（P.482参照）などに置かないでください。エンジンが始動できないことがあります。
●電波の状況が悪いときや電子キーのバッテリーが切れたときは、スマートエントリー ＆ スタートシステムやワイヤレスドアロックリモコンでのドアの施錠・解錠はできません。この場合は、P.161の「電子キーが正常に作動しないときは」を参照してください。
●エンジン始動操作をしたときに、エンジンが始動せず、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの作動表示灯が緑色に点滅しているときは、ハンドルの負荷により、ステアリングロックが解除されていません。ハンドルを左右に動かしながら、ブレーキペダルを踏み、スイッチを押し直してください。
●エンジンの始動と停止を短い間隔で繰り返した直後は、エンジンを始動できない場合があります。この場合は約10秒以上待ってから再びエンジンの始動操作をしてください。
●車両のバッテリーがあがっている場合はステアリングロックが作動しないので注意してください。
●電子キーの持ち方により作動しにくいことがあります。
●車両の形状により電子キーが作動しにくい場所があります。
●“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを操作するときは、奥まで確実に押してください。
●“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを早押しした場合、エンジンが始動・停止しないことがあります。

盗難防止システムについて

盗難防止システムにより、エンジンが始動しないことがあります。（P.213，520参照）

車両バッテリー脱着時について

●車両のバッテリー脱着後、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを一度押すだけではエンジンが始動しないことがあります。その場合は、もう一度スイッチを押してください。
●車両のバッテリー脱着後、すぐにはエンジンが始動しないことがあります。その場合は、バッテリー接続から約10秒以上待ってからエンジンを始動してください。

知識

クランキングホールド機能について

エンジン始動操作をしてすぐに手を離すと、エンジンが始動するまでスターターの回転を最大で約18秒間保持します。

- “ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押したままでも、スターターの回転は最大で約30秒間です。
  約30秒経過してもエンジンが始動しない場合は、スターターの回転を停止します。その場合は、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

節電機能

車室外発信機の検知エリア内（フロントドア、バックドア）に長時間電子キーを放置していると、電子キーと車両が定期的に通信を行うため、電子キーおよび車両のバッテリーがあがるおそれがあります。
そのため、電子キーおよび車両のバッテリーあがりを防止するため、次のときはスマートエントリー & スタートシステムが自動で停止します。
●14日以上、電子キーから応答がないとき
●10分以上、車室外発信機の検知エリア内に電子キーがあるとき

スマートエントリー & スタートシステムを復帰させるには、次のいずれかの操作を行ってください。
●車両に近づいて電子キーのワイヤレスドアロックリモコンスイッチを押す。
●フロントドアハンドル、またはバックドアのロックスイッチを押し、施錠操作をする。

警報・防止機能および警告表示

スマートエントリー ＆ スタートシステムでは、予期せぬ車両の動き出し、車両盗難などをふせぐため、警報音を鳴らしたり、マルチインフォメーションディスプレイへの警告表示（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）、スマートエントリー&スタートシステム警告灯の点灯、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの作動表示灯の点滅で注意をうながします。
警報音が鳴ったり、警告の表示が点灯したときは、必ず車両および電子キーの確認を行ってください。

警報音による防止機能

■電源切り忘れ防止機能

車内警報音
ピー、ピー・・・（断続吹鳴）

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの切り忘れをお知らせしています。

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードのとき、シフトレバーがⓅで運転席ドアを開けると、スイッチの切り忘れを警告する車内警報音が “ピー、ピー…” と鳴ります。ただし、スイッチがイグニッションＯＮモードのときは鳴りません。
また、スイッチがＯＦＦのときにステアリングがロックされていないときにも車内警報音が鳴ります。
警報が鳴ったら、スイッチをＯＦＦにして運転席ドアを閉めてください。

車内警報音
ピー（連続吹鳴）

“エンジン スタート ストップ”スイッチの切り忘れをお知らせしています。

“エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅ以外のとき運転席ドアを開けると、スイッチの切り忘れを警告する車内警報音が“ピー”と鳴ります。
警報が鳴ったら、シフトレバーをⓅに入れてください。

車外警報音
ピー（約60秒間連続吹鳴）

“エンジン スタート ストップ”スイッチの切り忘れをお知らせしています。

“エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅのときすべてのドアを閉め、スマートエントリー＆スタートシステムを使ってフロントドアハンドル、またはバックドアのロックスイッチを押して施錠しようとするとスイッチの切り忘れを警告する車外警報音が“ピー”と約60秒間鳴り、施錠することができません。
警報が鳴ったら、スイッチをＯＦＦにしてください。

■半ドア警報

車外警報音
ピー（約10秒間連続吹鳴）

いずれかのドアが開いていることをお知らせしています。

“エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦのとき、いずれかのドア（バックドアを含む）が開いている状態で、スマートエントリー＆スタートシステムを使ってフロントドアハンドル、またはバックドアのロックスイッチを押すと、車外警報音が“ピー”と約10秒間連続して鳴ります。
次のいずれかの方法で警報音が止まります。

●すべてのドアを閉めます。

●電子キーのスイッチを押します。

警報が鳴ったら、すべてのドアを閉めてから、もう一度ドアロック操作をしてください。

知 識

半ドア警報について

ドア（バックドアを含む）を開閉するときにロックスイッチに触れると、半ドア警報が作動します。ドアを開閉するときはロックスイッチに触れないでください。

■キー閉じ込み防止機能

車外警報音
ピー（約2秒間連続吹鳴）

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがＯＦＦのとき、車内に電子キーを置いたまま、すべてのドアを閉め、スマートエントリー＆スタートシステムを使ってフロントドアハンドル、またはバックドアのロックスイッチを押して施錠しようとしても車外警報音が“ピー”と約2秒間鳴り、施錠することができません。
警報が鳴ったら、車内にある電子キーを携帯して、もう一度ドアロック操作をしてください。

知識

キー閉じ込み防止機能について

- 電子キーをインストルメントパネル上、フロア上、収納スペース内（P.478参照）、収納ポケット内（P.482参照）などに置いた場合、キー閉じ込み防止機能が作動しないことがあります。
- 電子キーが車外にあっても、ドアガラスやドアハンドルに近づけすぎた場合、キー閉じ込み防止機能が作動することがあります。

警告灯・警報音・警告表示※1による防止機能

※1マルチインフォメーションディスプレイ装着車のみ

車内に電子キーがないときなど、以下の状態のときに警報音が鳴り、スマートエントリー&スタートシステム警告灯が点灯します。

●車内にキーがないとき（キーなし警告）。

●“エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦ以外でシフトレバーが🅟以外で運転席ドアを開けたとき（シフトレバー位置警告）。

●キーのバッテリーが低下していると判断したとき（キーバッテリー低下警告※2）。

マルチインフォメーションディスプレイ装着車では同時にマルチインフォメーションディスプレイに警告内容が表示され⚠（マスターウォーニング）が点滅します。

※2　キーバッテリー低下警告はスマートエントリー&スタートシステム警告灯は点灯しません。

■キーなし警告

キーが 見つかりません

マルチインフォメーションディスプレイ装着車では、左記の表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

以下のとき、車内に電子キーがないことをお知らせします。

●“エンジン スタート ストップ”スイッチを押して、車室内でのＩＤコードの照合により電子キーが車内にないと判断したとき。

- スマートエントリー&スタートシステム警告灯・警告表示（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）が最大約8秒間点灯・表示します。
- 車内警報音 “ピー（1回吹鳴）”も同時に鳴ります。

● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅにあるときに運転席ドアが開閉され、車室内でのＩＤコードの照合により、電子キーが車内にないと判断したとき。

- 車内警報音 “ピー（1回吹鳴）”、 車外警報音 “ピッ、ピッ、ピッ（3回吹鳴）” も同時に鳴ります。

次のいずれかの方法で警報音が止まります。

- 電子キーを車内に入れる。（車室内でのＩＤコードが照合され、電子キーが車内にあると判断したとき）
- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをＯＦＦにする。

● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがＯＦＦ以外で、運転席ドア以外のドアが開閉され、車室内でのＩＤコードの照合により、電子キーが車内にないと判断したとき。

- 車内警報音 “ピー（1回吹鳴）”、 車外警報音 “ピッ、ピッ、ピッ（3回吹鳴）” も同時に鳴ります。

次のいずれかの方法で警報音が止まります。

- 電子キーを車内に入れる。（車室内でのＩＤコードが照合され、電子キーが車内にあると判断したとき）
- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをＯＦＦにする。

● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがＯＦＦ以外でシフトレバーがⓅ以外で、運転席ドアが開閉され、車室内でのＩＤコードの照合により、電子キーが車内にないと判断したとき。

- 車内警報音 “ピー（連続吹鳴）”、 車外警報音 “ピー（連続吹鳴）” も同時に連続して鳴ります。
- マルチインフォメーションディスプレイ装着車では Pレンジに入れてください も交互に表示されます。

次のいずれかの方法で警報音が止まります。

- 電子キーを車内に入れる。（車室内でのＩＤコードが照合され、電子キーが車内にあると判断したとき）
- シフトレバーをⓅにして、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをＯＦＦにする。

■シフトレバー位置警告

Pレンジに
入れて下さい

マルチインフォメーションディスプレイ装着車では、左記の表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅ以外で、運転席ドアを開けると表示されます。

● 車内警報音 “ピー（連続吹鳴）”も同時に連続して鳴ります。
このとき、キーを持って車外に出てドアを閉めると 車外警報音 “ピー（連続吹鳴）”が連続して鳴ります。
- キーが見つかりません も交互に表示されます。

次のいずれかの方法で警報音が止まります。
- 電子キーを車内に入れる。（車室内でのＩＤコードが照合され、電子キーが車内にあると判断したとき）
- シフトレバーをⓅにして、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをＯＦＦにする。

車内警報音について

走行開始までに車室内でのＩＤコードの照合により、車内に電子キーがないと判断したときは、走行開始時に再度警報音が鳴ります。

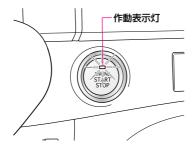
■キーバッテリー低下警告

キーバッテリー
残りわずか

マルチインフォメーションディスプレイ装着車では、左記の表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッションＯＮモードにしてから約20分以上経過し、その後スイッチをＯＦＦにしたときに、電子キーのバッテリー電圧が低下していると判断したときにお知らせしています。

●警告表示は、約5秒間表示されます。（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）
● 車内警報音 “ピー（1回吹鳴）”が鳴ります。
●スマートエントリー＆スタートシステム警告灯は点灯しません。
●警報音が鳴った、または警告が表示されたら、電子キーのバッテリー（電池）を交換してください。（P.568参照）

作動表示灯による防止機能

■電源システム異常警告

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチシステムの異常を検知すると、スイッチの作動表示灯が橙色に点滅します。

作動表示灯が点滅したときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ステアリングロック未解除警告

エンジン始動操作時、ステアリングロックが解除されず、エンジンが始動しなかったときは、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの作動表示灯が15秒間緑色に点滅します。

ステアリング
ロック
未解除

マルチインフォメーションディスプレイ装着車では、左記の表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

知 識

警告表示について

●スマートエントリー＆スタートシステムが作動しない状態でも異常があれば表示されます。

●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押してエンジンを始動したときに表示が消えます。エンジンが始動しないときは、ハンドルを軽く左右にまわしながら、ブレーキペダルを踏み、スイッチを押しなおします。

■ステアリングロックシステム確認警告

ステアリングロックのシステムに異常を検知すると、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの作動表示灯が橙色に点滅します。

ステアリング
ロック
システム確認

マルチインフォメーションディスプレイ装着車では、左記の表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

作動表示灯が点滅し、警告表示がでたときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告表示について

スマートエントリー＆スタートシステムが作動しない状態でも異常があれば表示されます。

警報音・警告灯・警告表示・作動表示灯の作動一覧表

■警報音・警告灯・警告表示の作動一覧表

車内警報音	車外警報音	警告表示※ 警告灯	状況
ピー、 ピー… （断続吹鳴）	—	—	**■電源切り忘れ防止機能（P.148参照）** “エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードで、シフトレバーがⓅのとき、運転席ドアを開けた。
—	ピー （約2秒間吹鳴）	—	**■キー閉じ込み防止機能（P.150参照）** “エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦのとき、電子キーを車内に置き忘れた状態でロックスイッチを押した。
—	ピー （約60秒間吹鳴）	—	**■電源切り忘れ防止機能（P.149参照）** “エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅのとき、ロックスイッチを押した。
ピー （連続吹鳴）	—	—	**■電源切り忘れ防止機能（P.149参照）** “エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅ以外のとき、運転席ドアを開けた。
—	ピー （約10秒間吹鳴）	—	**■半ドア警報（P.149参照）** “エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦのとき、いずれかのドアが半ドアの状態または、ドアを開閉中にロックスイッチを押した。
ピー （1回吹鳴）	—	表示 —	**■キーバッテリー低下警告（P.154参照）** 電子キーのバッテリー電圧が低下した。
ピー （連続吹鳴）	ピー （連続吹鳴）	表示 点灯	**■キーなし警告（P.152参照）** **■シフトレバー位置警告（P.153参照）** “エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅ以外のとき、運転席ドアを開けて電子キーを車外に持ち出した。
ピー （1回吹鳴）	—	表示（最大約8秒間） 点灯（最大約8秒間）	**■キーなし警告（P.151参照）** “エンジン スタート ストップ”スイッチを押したとき、車室内のＩＤコード照合で、電子キーがないと判断した。

※ マルチインフォメーションディスプレイ装着車

■警報音・警告灯・警告表示の作動一覧表

車内警報音	車外警報音	警告表示 ※	状　況
		警告灯	
ピー （1回吹鳴）	ピッ、ピッ、ピッ （3回吹鳴）	表示	**■キーなし警告（P.152参照）** “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅのとき、運転席ドアを開けて電子キーを車外に持ち出した（ドアを閉めた）。
		点灯	
ピー （1回吹鳴）	ピッ、ピッ、ピッ （3回吹鳴）	表示	**■キーなし警告（P.152参照）** “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅのとき、運転席以外のドアを開けて電子キーを車外に持ち出した（ドアを閉めた）。
		点灯	

■作動表示灯・警告表示の作動一覧表

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ 作動表示灯	警告表示	状況
緑色に点滅 （約15秒間）	表示	**■ステアリングロック未解除警告（P.155参照）** エンジン始動操作時にステアリングロックが解除されず、エンジンが始動しなかった。
橙色に点滅	表示	**■ステアリングロックシステム確認警告（P.156参照）** ステアリングロックシステムの異常を検知した。
橙色に点滅	ー	**■電源システム異常警告（P.155参照）** “ エンジン スタート ストップ ” スイッチシステムの異常を検知した。

※ マルチインフォメーションディスプレイ装着車

こんなときは

ここでは、様々な「こんなときは」の場面を想定して、操作および対処方法の例を記載しています。スマートエントリー & スタートシステムを扱ううえでの参考にしてください。

警報音が鳴っているときは／警告灯が点灯しているときは

P.148の「警報・防止機能および警告表示」を参照して該当する指示にしたがってください。

スマートエントリー & スタートシステムが作動しないときは

以下のことを確認してください。
- 電子キーが通信できない状況にある。（P.127参照）
- 電子キーのバッテリー（電池）がない。
- 節電機能が働いている。（P.147参照）

ガソリンスタンドやお店などで車から離れるときは

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをＯＦＦにして、電子キーを携帯し、ドアを施錠してください。
- 必ず施錠されていることを確認してください。

正規の別の電子キーを携帯した人が乗車するときは

スマートエントリー ＆ スタートシステムでの解錠ができないときは、ワイヤレスドアロックリモコン（P.204参照）またはメカニカルキー（P.161参照）を使って解錠してください。

正規の別の電子キーを携帯した人が乗車しているときは

スマートエントリー ＆ スタートシステムでの施錠ができません。
車外から施錠するときは、ワイヤレスドアロックリモコン（P.204参照）またはメカニカルキー（P.161参照）を使って施錠してください。

エンジン始動操作後に作動表示灯が緑色に点滅しているときは

エンジン始動操作をしたときに、エンジンが始動せず“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの作動表示灯が緑色に点滅しているときは、ハンドルの負荷によりステアリングロックが解除されていません。
ハンドルを軽く左右にまわしながら、エンジン始動操作をしてください。

電子キーが正常に作動しないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり、電子キーのバッテリーが切れたときは、スマートエントリー & スタートシステム、ワイヤレスドアロックリモコンが使用できなくなります。

運転席ドアの施錠・解錠のしかた

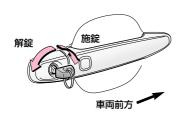
電子キーに内蔵されているメカニカルキーを使用して、運転席ドアを施錠・解錠します。

■メカニカルキーの取り出し方

ノブのキーマークのある側を押しながら、メカニカルキーを取り出します。

■メカニカルキーの格納のしかた

メカニカルキーを図のように差し込みます。

■メカニカルキーでの施錠・解錠のしかた

前にまわすと施錠、うしろにまわすと解錠されます。

●すべてのドア（バックドアを含む）の施錠、解錠が同時にできます。

知 識

メカニカルキーについて

●メカニカルキーを使用したときは、必ず電子キーに格納しておいてください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。

●メカニカルキーを使用する方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(P.568参照)

“エンジン スタート ストップ”スイッチの切り替え方

“エンジン スタート ストップ”スイッチに電子キーの🜨（トヨタマーク）のある面で触れることで、スイッチの切り替えが可能になります。
P.137の「“エンジン スタート ストップ”スイッチの切り替え方」を併せてお読みください。

1 **ブレーキペダルを踏みます。**

2 **電子キーの🜨（トヨタマーク）のある面で“エンジン スタート ストップ”スイッチに触れます。**

電子キーを認識すると、ブザー音が鳴り、作動表示灯が緑色に点灯します。

3 **電子キー認識後、約5秒以内にすべてのペダルから足を離して、“エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。**

“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すごとに、スイッチが

アクセサリーモード⇒イグニッションＯＮモード⇒ＯＦＦ

の順に切り替わります。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

知 識

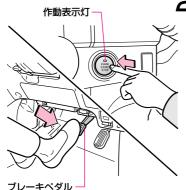
“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの切り替えについて

●いったん“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをＯＦＦにすると、スイッチを押してもスイッチの切り替えができません。もう一度はじめから操作してください。
●電子キー認識後、約5秒以上たってから“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押しても、スイッチは切り替わりません。もう一度はじめから操作してください。
●“ エンジン スタート ストップ ”スイッチに触れるスイッチの切り替えは一時的な処置です。電池が切れたときはただちに電池の交換をおすすめします。(P.568参照)

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチ切り替え時の警報について

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチ切り替え時に、いずれかのドアを開閉すると、警報が鳴りますが異常ではありません。

エンジン始動のしかた

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチに電子キーの⊕（トヨタマーク）のある面で触れることで、エンジンの始動が可能になります。
P.140「エンジン始動・停止のしかた」を併せてお読みください。

1 ブレーキペダルをしっかり踏みながら、電子キーの⊕（トヨタマーク）のある面で“ エンジン スタート ストップ ” スイッチに触れます。

電子キーを認識すると、ブザー音が鳴り、作動表示灯が緑色に点灯します。

- ●作動表示灯が緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。

2 電子キー認識後、約5秒以内にブレーキペダルを踏んだまま “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押します。

- ●ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込まないと、エンジンが始動しないようになっています。
- ●エンジンが始動すると、作動表示灯は消灯します。
- ●完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
- ●エンジンが始動しない場合は、ブレーキペダルを踏まずに “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押して、一度スイッチをＯＦＦにしたあと、もう一度、**手順1**からやり直します。このときブレーキペダルが重くなることがありますが、その際には通常よりも強くペダルを踏んでください。

■エンジン停止のしかた

通常のエンジンの停止のしかたと同様です。（Ｐ.142参照）

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

知識

エンジンの始動について

●電子キー認識後、約5秒以上たってから “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押しても、エンジンは始動しません。もう一度はじめから操作してください。
● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチに触れるエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときはただちに電池の交換をおすすめします。(P.568参照)

エンジン始動時の警報について

エンジン始動時に、いずれかのドアを開閉すると、警報が鳴りますが異常ではありません。

ドア・ドアガラスなどの開閉

フロントドアの開閉

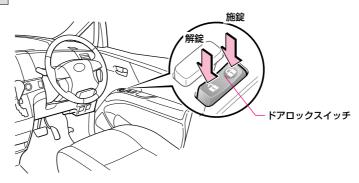
スマート機能を使った施錠・解錠のしかた

P.130の「スマートエントリー&スタートシステム」の「ドアの施錠・解錠のしかた」を参照してください。

メカニカルキーでの施錠・解錠のしかた

P.161の「電子キーが正常に作動しないときは」の「運転席ドアの施錠・解錠のしかた」を参照してください。

ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた

運転席ドア

スイッチの右側を押すと施錠、左側を押すと解錠されます。

●すべてのドア（バックドアを含む）の施錠・解錠が同時にできます。

知識

作動条件について

●“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態に関係なく使用できます。
●ドアロックスイッチを押し続けると、作動しないことがあります。いったんドアロックスイッチから指を離し、押しなおしてください。

セキュリティ機能について

車両盗難などを防ぐため、ドアロックスイッチでの解錠作動を停止する機能です。
(窓枠とドアガラスのすき間からドアロックスイッチを押して解錠されるのを防止します。)
以下の方法で施錠したとき自動的に機能します。
●ドアにキーを差し込んでの施錠(P.161参照)
●ワイヤレスドアロックリモコンを使っての施錠(P.204参照)
●ワイヤレスドアロックリモコンで解錠したあとドアを開けなかったときの約30秒後の自動施錠(P.207参照)
●スマート機能による施錠(P.130参照)
●スマート機能で解錠したあとドアを開けなかったときの約30秒後の自動施錠(P.132参照)
●ロックレバーを使っての施錠(P.169参照)

便利機能について

車速感応オートドアロック
車速が約20 km/h以上になると、すべてのドアが自動的に施錠されます。
●この機能を解除することもできます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

衝撃感知ドアロック解除システム
車両が前後左右から強い衝撃を受けると、自動的にすべてのドアのロックが解除されます。
●SRSエアバッグが作動しないような弱い衝撃のときや、事故の形態によっては作動しないことがあります。

知 識

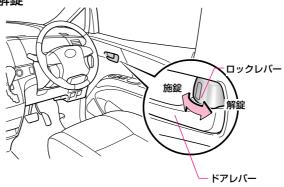
ユーザーカスタマイズについて

ドアロックスイッチの各機能の設定をお客様のご希望により変更することができます。
すべてのドアを閉め、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをＯＦＦまたはアクセサリーモードからイグニッションＯＮモードにして、約10秒以内に下表の変更方法にしたがってシフトレバーとドアロックスイッチを操作してください。

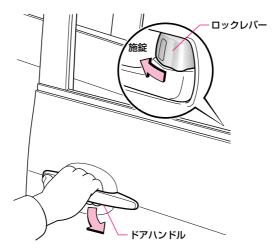
●下表の変更方法にしたがって操作するたびに、各機能の設定が有効・無効に切り替わります。（現状の各機能の設定が有効ならば無効に、無効ならば有効に切り替わります。）
●変更操作が完了すると、施錠・解錠動作が1回繰り返されます。

機能	内容	変更方法	
		シフトレバー位置	ドアロックスイッチ
シフト連動 オートロック※	エンジン回転中で、すべてのドアが閉まっているとき、シフトレバーをⓅからⓅ以外にすると、すべてのドアを施錠する。	Ⓟの位置	スイッチの施錠側を約5秒押して離す。
シフト連動 オートアンロック	“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッションＯＮモードで、シフトレバーをⓅ以外からⓅにすると、すべてのドアを解錠する。	Ⓟの位置	スイッチの解錠側を約5秒押して離す。
車速感応 オートドアロック	車速が約20 km/h以上になるとすべてのドアを施錠する。	Ⓟ以外の位置	スイッチの施錠側を約5秒押して離す。

※の機能は、初期設定（工場出荷時）では無効に設定されています。

ロックレバーでの施錠・解錠のしかた

■車内での施錠・解錠

ロックレバーを前方に押し込むと施錠、後方に引き出すと解錠されます。

■車外からの施錠のしかた

ロックレバーを施錠側にして、ドアハンドルを引いたままドアを閉めます。

便利機能について

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと、ドアが開きます。

ワイヤレスドアロックリモコンでの施錠・解錠のしかた

P.204の「ワイヤレスドアロックリモコンの使い方」を参照してください。

走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。

●走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●走行中はドアレバーを引かないでください。
ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

●お子さまにドアの操作をさせないでください。
- 閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 走行中にドアを開け、お子さまが車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

知 識

便利機能について

イルミネーテッドエントリーシステム（P.476参照）

ドアの状態や“ エンジン スタート ストップ ”スイッチ、シフトレバーの位置によって各部の照明が点灯・消灯します。

乗車中の施錠・解錠の効果について

乗車中の施錠、解錠についてはそれぞれ次のような効果がありますので、選択してください。

〈乗車中、施錠している場合〉

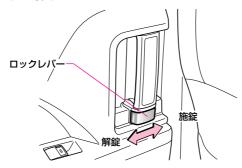
●同乗者が誤ってドアを開けることを防ぎます。
●車外からの不意の侵入者を防ぎます。
●シートベルトの着用と併せて、事故時に車外に投げ出される可能性が少なくなります。

〈乗車中、解錠している場合〉

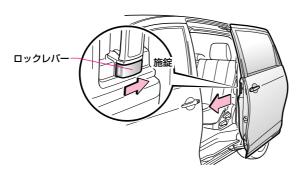
●万一の場合に車外からの救援活動が受けやすくなります。

車から離れるときは、必ずエンジンを止め施錠することが法律で義務づけられています。また車両盗難や車内の物を盗まれるおそれがありますので、車内に貴重品などを置かないようにしてください。

スライドドアの開閉

ロックレバーでの施錠・解錠のしかた

■車内での施錠・解錠

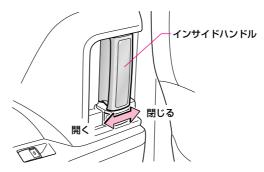
ロックレバーを前方に押すと施錠、後方に引くと解錠されます。

■車外からの施錠

ロックレバーを施錠側にして、ドアを閉めます。

施錠・解錠について

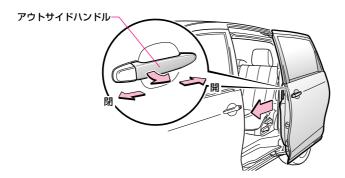
ワイヤレスドアロックリモコンスイッチや運転席ドアにあるキーシリンダー、ドアロックスイッチ、スマートエントリー＆スタートシステムにより、全ドアの施錠・解錠を行うことができます。P.204の「ワイヤレスドアロックリモコンの使い方」、P.161の「メカニカルキーでの施錠・解錠のしかた」、P.166の「ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた」、P.130の「ドアの施錠・解錠のしかた」を参照してください。

開閉のしかた

■車内からの開閉

スライドドアを動かしたい方向にインサイドハンドルを操作します。

●ロックレバーが施錠側のときは（P.172参照）スライドドアは開けられません。

●チャイルドプロテクターレバーが施錠側のときは（P.184参照）スライドドアは開けられません。

■車外からの開閉

開けるときは、アウトサイドハンドルを引いてスライドドアを車両後方に操作します。
閉めるときは、アウトサイドハンドルを引いてストッパーを解除させてから、スライドドアを車両前方に操作します。

●ロックレバーが施錠側のときは（P.172参照）スライドドアは開けられません。

警告

走行中は以下のことをお守りください。

●走行中は以下のことをお守りください。お守りいただかないと思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートベルトを必ず着用してください。
- 全てのドアを施錠してください。
- 全てのドアを確実に閉めてください。
- 走行中はドア内側のドアハンドルを操作しないでください。
- お子さまを乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用してドアが開かないようにしてください。

●お子さまを乗せているときは以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- お子さまを車内に残さないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。不意にスライドドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

●スライドドアの操作にあたっては、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手・足・頭などを出さないでください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 半開状態ではスライドドアが静止しないため、必ず全開にしてください。傾斜地での停車時にドアが開いていると、突然動き出すおそれがあります。
- 坂道ではスライドドアの開閉スピードが早くなります。ドアが体に当たったり挟んだりしないよう、注意してください。

- 下り坂での停車時に乗りおりするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルを操作しないでください。ドアが突然動き出すおそれがあります。

- スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

スライドドアを開閉する前に付近の状態を必ず確認してください。

●スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。
●走行するときやドアを開閉するときは、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。
●スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないよう注意してください。異物が入り込んだまままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。

安全機能について

中間ストッパー
●スライドドアのドアガラスが大きく開いていたり、フューエルリッド（燃料補給口）が開いていると、スライドドアは途中までしか開きません。
（中間ストッパー位置で停止します。）
●中間ストッパー位置で停止したスライドドアを全開にするときは、ドアガラスおよびフューエルリッドを閉じ、ドアガラスが開いている場合はいったんスライドドアを全閉にしてから再度ドアを開けてください。

開閉について

傾斜した場所では、平坦な場所よりもドアの開閉がしにくかったり、急に開閉してしまう場合があります。

スライドドアイージークローザー

スライドドアを半ドアの位置まで閉じると、イージークローザーが働き、自動的に全閉になります。イージークローザーは“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態に関係なく作動します。

警告

半ドア状態のときイージークローザーが働きスライドドアが自動的に閉まるため、指などを挟まないように注意してください。

- 半ドア状態のときイージークローザーが働きスライドドアが自動的に閉まるため、指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 半ドア状態からイージークローザーが作動するまでに数秒かかります。指などをドアの間に挟まないでください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- イージークローザーは、パワースライドドアのメインスイッチがＯＦＦのときにも作動します。
- ロックレバーやチャイルドプロテクターレバー（P.184参照）が施錠側のとき、イージークローザー作動中にインサイドハンドルを引いても作動は停止しません。指などを挟まれないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。

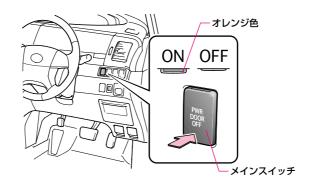
- イージークローザーの故障を防ぐためにイージークローザーの作動中はスライドドアに無理な力をかけないでください。
- ドアの開け閉めを短時間に繰り返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、1度ドアを開け、少し時間をおいてから閉めなおすと作動します。

知識

スライドドアイージークローザーについて

スライドドアを半ドアの位置まで閉めると、イージークローザーが働き、自動的に全閉になります。“エンジン スタート ストップ”スイッチに関係なく作動します。
●イージークローザーの作動中でもインサイドハンドル、アウトサイドハンドル（P.173参照）を引くことによりドアを開けることができます。（ロックレバー、またはチャイルドプロテクターが施錠側のときは除く。）
●スライドドアハンドルを引いたままドアを閉めるとイージークローザーは作動しないことがあります。
●イージークローザーを使わずに手動でドアを全閉にすることもできます。

パワースライドドアの自動開閉のしかた

■メインスイッチ

メインスイッチを押すごとに、イグニッションＯＮモードとＯＦＦに切り替わります。
●メインスイッチがＯＦＦのときは、パワースライドドアを自動で開閉させることはできません。

知識

メインスイッチについて

●メインスイッチがＯＦＦのときでもイージークローザーは作動します。（P.176参照）
●メインスイッチをＯＦＦにすると、同時にパワーバックドア（P.192参照）も自動で開閉できなくなります。

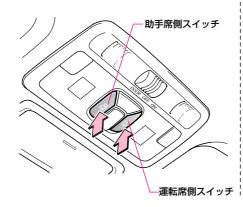
■スライドドアハンドルでの自動開閉

〈アウトサイドハンドル〉　〈インサイドハンドル〉

パワースライドドアが全閉状態のとき、ハンドルを操作してブザーが鳴る位置まで開けると自動で全開します。
また、パワースライドドアが全開状態のとき、ブザーが鳴る位置までハンドルを操作すると、自動で全閉します。閉作動中は、断続的にブザーが鳴ります。

●アウトサイドハンドルでは、全開（全閉）作動中に再度ハンドルを操作すると、全閉（全開）作動に切り替わります。ただし、全閉（全開）状態から自動開閉作動が開始して約1秒間は、再度ハンドルを操作しても全閉（全開）作動に切り替わりません。
●インサイドハンドルでは、全開作動中に再度ハンドルを車両前方に操作すると、全閉作動に切り替わります。全閉作動中に再度ハンドルを車両後方に操作すると、全開作動に切り替わります。ただし、全閉（全開）状態から自動開閉作動が開始して約1秒間は、再度ハンドルを車両前方（車両後方）に操作しても全閉（全開）作動に切り替わりません。
●チャイルドプロテクターレバーが施錠状態（P.184参照）になっていると、インサイドハンドルによる自動開操作はできません。

■パワースライドドアスイッチでの自動開閉

両側パワースライドドア装着車

助手席側パワースライドドア装着車

パワースライドドアが全閉（全開）状態のとき、パワースライドドアスイッチを約1秒以上押し続けると、自動で全開（全閉）します。

●両側パワースライドドア装着車では、運転席側パワースライドドアを自動開閉するときは、運転席側スイッチを押します。助手席側パワースライドドアを自動開閉するときは、助手席側スイッチを押します。

●助手席側パワースライドドア装着車では、パワースライドドアを自動開閉するときは、スイッチを押します

●開閉作動開始時にブザーが鳴ります。（閉作動中は、断続的にブザーが鳴ります。）

●全開（全閉）作動中に再度スイッチを押すと、全閉（全開）作動に切り替わります。ただし、全閉（全開）状態から自動開閉作動が開始して約1秒間は、再度スイッチを押しても全閉（全開）作動に切り替わりません。

■ワイヤレスドアロックリモコンでの自動開閉

操作方法については、P.205の「パワースライドドアの開閉のしかた」を参照してください。

次のことをお守りください。お守りいただかないとスライドドアで指や手などを挟んだり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●パワースライドドアの操作時は、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。
- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身の回りの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- スライドドアが自動で開いている途中でパワースライドドアスイッチを押すと、作動が停止します。坂道などの傾斜地では、停止させたとき急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが閉まる場合があります。ドアは必ず全開で静止していることを確認してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にスライドドアが閉まるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
  ・自動作動中、障害物に干渉したとき
  ・エンジン停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- タイヤ交換などをする際は、パワースライドドアメインスイッチをOFFにしてください。OFFにしないと、いたずらや誤ってスイッチに触れたときにスライドドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。
- チャイルドプロテクターを施錠側にしているときは、パワースライドドアの誤操作防止のため、パワースライドドアメインスイッチをOFFにしてください。

●挟み込み防止機能作動中は以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

パワースライドドア前端部のセンサーを刃物などの鋭利なもので傷つけないように注意してください。

パワースライドドア前端部のセンサーを刃物などの鋭利なもので傷つけないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、ドアはただちに停止します。

知 識

パワースライドドアの作動について

(“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの状態に関係なく使用できます。)

●メインスイッチがＯＮで、次の作動可能条件をすべて満たしているときに自動で開閉できます。

〈作動可能条件〉

- パワースライドドアが解錠されているとき。(閉作動を除く)
- フューエルリッドが閉まっているとき(助手席側パワースライドドアのみ)。
- 車速が約3 km/h未満のとき。
- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのときは、上記に加え、次のいずれかの条件を満たしていることが必要です。
  - ・パーキングブレーキがかかっているとき。
  - ・シフトレバーがⓅのとき。
  - ・ブレーキペダルを踏んでいるとき。

●作動可能条件を満たしていないときに(フューエルリッドが開いているときを除く)、手動によりドアを閉める(開ける)と約8秒間スライドドアにブレーキをかけドアの速度を抑制します。

●メインスイッチがＯＦＦのときは、パワースライドドアは作動しませんが手動で開閉できます。

●パワースライドドアの自動開閉中に、人や異物などにより異状を感知すると、ブザーが鳴り、その位置から自動的にドアは反対方向に動きます。ただし、自動で開けているときに全開位置から約20 cm手前の範囲で異状を感知すると、その位置で作動を停止します。

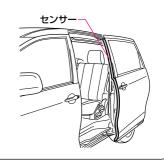
●連続して2回目以上同方向への異状を感知すると、ブザーが鳴り、手動操作に切り替わります(約8秒間スライドドアにブレーキをかけドアの速度を抑制します)。もう一度ドアを自動で作動させるときは、メインスイッチをＯＦＦにしたのち、ドアをいったん手動で全閉または全開にしてから行ってください。

●バッテリーの電圧が低下しているときは、パワースライドドアが作動しない場合があります。

安全機能について

挟み込み防止機構(パワースライドドア装着車)

パワースライドドアの前端部には、センサーがついています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが圧縮されると挟み込み防止機構が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に動き、全開位置で停止します。

知識

安全機能について

給油口開警告ブザー（パワースライドドア装着車）

●フューエルリッド（燃料補給口）が開いているときに、自動で助手席側パワースライドドアを開けようとすると作動を中止します。

●助手席側パワースライドドアの自動開閉中にフューエルリッド（燃料補給口）を開けると、ブザーが鳴り、作動を停止し（約8秒間スライドドアにブレーキをかけドアの速度を抑制します）、手動作動に切り替えます。

中間ストッパー（パワースライドドア装着車）

●パワースライドドアのドアガラスが大きく開いているときに、パワースライドドアを自動で開作動させるとパワースライドドアは中間ストッパー位置で停止し、その位置で保持されます。

●中間ストッパー位置でパワースライドドアが停止しているときに、パワースライドドアスイッチ、スライドドアハンドル、パワースライドドアリモコンスイッチのいずれかを操作するとドアは閉作動します。

●中間ストッパー位置でのパワースライドドア停止後は、約30分間ドアを保持します。その後、8秒間で徐々にその保持を解除し、下り坂などでドアが急激に動き出すのを防ぎます。

サイドリフトアップシート装着車について

サイドリフトアップシートが完全に（シート昇降スイッチを上側に押し続け、“ピピッ”と音がするまで）上昇しきってない状態で、パワースライドドアを閉めようとしても、ブザーが鳴りドアは閉まりません。

初期設定について

ヒューズ切れやバッテリーあがりなどがおきたときは、パワースライドドアの初期設定をしてください。（パワースライドドアが全閉時にヒューズ切れやバッテリーあがりなどがおきたときは初期設定をする必要はありません。）パワースライドドアの初期設定がされていないと、次の機能は作動しません。

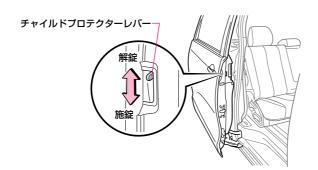
●パワースライドドア

●挟み込み防止機構

■初期設定のしかた

〈設定手順〉

スライドドアのアウトサイドハンドルを操作して、手動で一度全閉にします。（P.173参照）

チャイルドプロテクターの使い方

チャイルドプロテクターレバーを施錠側にしてドアを閉めます。

●車内のインサイドハンドルでスライドドアを開けることができなくなります。

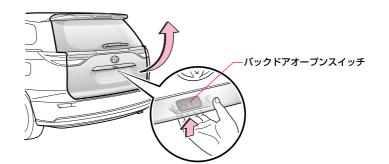
知 識

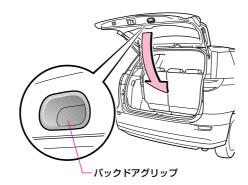
チャイルドプロテクターについて

走行中などに、お子さまが誤ってドアを開けたりしないように、ロックレバーの位置に関係なく、車内のインサイドハンドル操作ではスライドドアが開かないように施錠できます。

バックドアの開閉

開閉のしかた

■開け方

バックドアオープンスイッチを押したまま、そのままバックドアを持ち上げます。
●バックドアを開けるときは、最上部まで持ち上げてください。
●バックドアが自然に降下しないことを確認してください。

■閉め方

バックドアグリップを持ってバックドアをおろし、バックドア下端を押さえつけロックします。

走行中はバックドアを閉じてください。また、ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。

●走行中はバックドアを閉じてください。開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

●お子さまを乗せているときは、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

●バックドアの操作にあたっては、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

走行中はバックドアを閉じてください。また、ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。

- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

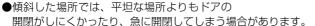
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアグリップで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取りつけないでください。バックドアの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

バックドアを開閉する前に付近の状態を必ず確認してください。

●バックドアを開閉する前に、運転者はバックドアが安全に開閉できるように車外および車内のバックドア付近の状態を必ず確認してください。

●バックドアを閉めるときは、ストライカーバーに異物がかみこまないようにしてください。バーが破損し、バックドアが閉まらなくなるおそれがあります。

●傾斜した場所では、平坦な場所よりもドアの

開閉がしにくかったり、急に開閉してしまう場合があります。

●走行中（車速が5 km/h以上）にバックドアオープンスイッチを押してもバックドアは開きません。

●バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取りつけられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物がステーのロッド部（伸縮部）に付着しないようにしてください。また、繊維などの付着を防止するため、ロッド部を軍手などで触れないでください。異物が付着すると、ステーが円滑に動かなくなったり、開けたとき保持力が損なわれるおそれがあります。
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取りつけないでください。バックドアの重量が重くなると、開けたときにステーが支えきれなくなるおそれがあります。
- ステーに手をかけて乗りおりしたり、横方向に力をかけたりしないでください。ステーが曲がり、バックドアが開閉できなくなるおそれがあります。

知識

施錠・解錠について

ワイヤレスドアロックリモコンスイッチや運転席ドアにあるキーシリンダー、ドアロックスイッチ、スマートエントリー&スタートシステムにより、全ドアの施錠・解錠を行うことができます。P.204の「ワイヤレスドアロックリモコンの使い方」、P.161の「メカニカルキーでの施錠・解錠のしかた」、P.166の「ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた」、P.134の「バックドアの施錠・解錠のしかた」を参照してください。

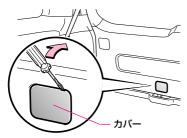
便利機能について

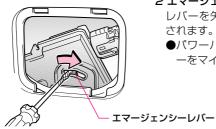
ラゲージルームランプ（P.474参照）

ラゲージルームランプのスイッチがＯＮのとき、バックドアを開けるとラゲージルームランプが点灯します。夜間などの荷物確認に便利です。

知 識

エマージェンシーレバーについて

バッテリーがあがったときなど、車外からバックドアを開けられなくなったときには、エマージェンシーレバーを操作して車内からドアロックを解除することができます。

1 エマージェンシーレバーのカバーを開けます。
車内へ入り、カバー上部の切り欠きにマイナスドライバーなどを差し込み、カバーを取りはずします。
●マイナスドライバーの先端にカバーなどの傷つき防止のために薄手のテープを巻いておきます。

パワーバックドア装着車を除く

2 エマージェンシーレバーを押します。
レバーを矢印の方向に押すと、ドアロックが解除されます。
●パワーバックドア装着車を除く車両では、レバーをマイナスドライバーなどで押してください。

パワーバックドア装着車

3 バックドアを開けます。

故障しているときは、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

バックドアイージークローザー★

バックドアイージークローザー装着車は、バックドアを半ドアの位置まで閉めるとイージークローザーが働き、自動的に全閉になります。イージークローザーは " エンジン スタート ストップ " スイッチの状態に関係なく作動します。

バックドアイージークローザー装着車では、半ドア状態のときイージークローザーが働きバックドアが自動的に閉まるため、指などを挟まないように注意してください。

- 半ドア状態のときイージークローザーが働きバックドアが自動的に閉まるため、指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- イージークローザーは、パワーバックドアのメインスイッチがＯＦＦのときにも作動します。
- 半ドア状態からイージークローザーが作動するまでに数秒かかります。指などをバックドアの間に挟まないでください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

バックドアイージークローザー装着車では、イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。

- イージークローザーの故障を防ぐためにイージークローザーの作動中はバックドアに無理な力をかけないでください。
- バックドアの開け閉めを短時間に繰り返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、１度ドアを開け、少し時間をおいてから閉めなおすと作動します。

知 識

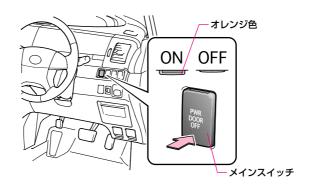
バックドアイージークローザーについて

バックドアを半ドアの位置まで閉めると、イージークローザーが働き、自動的に全閉になります。" エンジン スタート ストップ " スイッチの状態に関係なく作動します。

- パワーバックドアのメインスイッチがＯＦＦのときでもイージークローザーは作動します。
- イージークローザーの作動中でも、バックドアオープンスイッチ（P.185参照）を押すことによりバックドアを開けることができます。
- バックドアオープンスイッチを押したままドアを閉めるとイージークローザーは作動しないことがあります。
- イージークローザーを使わずに手動でバックドアを全閉にすることもできます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

パワーバックドアの自動開閉のしかた★

■メインスイッチ

メインスイッチを押すごとに、ＯＮとＯＦＦに切り替わります。

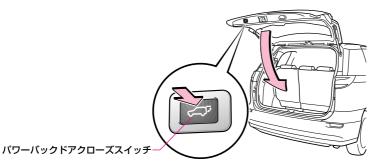
●メインスイッチがＯＦＦのときは、パワーバックドアを自動で開閉させることはできません。

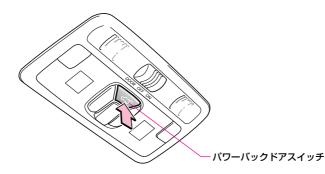
知識

メインスイッチについて

●メインスイッチをＯＦＦにすると、同時にパワースライドドアも自動で開閉できなくなります。

●メインスイッチがＯＦＦのときでもイージークローザーは作動します。

■パワーバックドアクローズスイッチによる自動閉作動

バックドアが全開状態のときパワーバックドアクローズスイッチを押すと、バックドアが自動で閉まります。
●閉作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が2回点滅します。
●閉作動中は、断続的にブザーが鳴ります。
●閉作動中に再度スイッチを押すと、全開方向に反転作動します。

■パワーバックドアスイッチによる自動開閉

バックドアが全閉（全開）状態のときパワーバックドアスイッチを約1秒以上押し続けると、自動で全開（全閉）します。
●開閉作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が2回点滅します。
●開閉作動中は、断続的にブザーが鳴ります。
●開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。

■ワイヤレスドアロックリモコンでの自動開閉
操作方法については、P.206の「パワーバックドアの開閉のしかた」を参照してください。

パワーバックドア装着車では次のことをお守りください。お守りいただかないとバックドアで指や手などを挟んだり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●パワーバックドアの操作時は、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身の回りの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- バックドアが自動で開いている途中でパワーバックドアスイッチを押すと、作動が停止します。坂道などの傾斜地では、停止させたとき急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。
- 自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切り替わる場合があります。この場合、坂道などの傾斜地ではバックドアが不意に動き出すおそれがあるので十分注意してください。
- 傾斜した場所では、自動で開いたあとにバックドアが落ちる場合があります。バックドアは必ず全開で静止していることを確認してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にバックドアが落ちるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
  - ・自動作動中、障害物に干渉したとき
  - ・エンジン停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取りつけないでください。自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとに落ちるおそれがあります。
- タイヤ交換などをする際は、パワーバックドアメインスイッチをOFFにしてください。OFFにしないと、いたずらや誤ってスイッチにふれたときにパワーバックドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

●挟み込み防止機能作動中は以下のことに注意してください。注意していただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

パワーバックドア装着車では次のことをお守りください。お守りいただかないとバックドアで指や手などを挟んだり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●バックドアを開ける前に、バックドア上の重量物（雪など）を取り除いてください。開いたあとに、重みでバックドアが落下してくるおそれがあります。
●バックドアが全開で静止していることを確認してください。とくに傾斜地では急にバックドアが閉じるおそれがあり危険です。

パワーバックドア左右端部のセンサーを刃物などの鋭利なもので傷つけないように注意してください。

●パワーバックドアの故障を防ぐために、以下のことを必ずお守りください。
- パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼りつきがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。
- パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理な力をかけないでください。
- パワーバックドア左右端部のセンサー（P.196ページ参照）を刃物などの鋭利なもので傷つけないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

知 識

パワーバックドアの作動について

（“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの状態に関係なく使用できます。）

●メインスイッチがONで、次の作動可能条件をすべて満たしているときに自動で開閉できます。

〈作動可能条件〉

- パワーバックドアが解錠されているとき。
- 車速が約5 km/h未満のとき。
- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき開作動するには、上記に加え、シフトレバーがⓅとなっていることが必要です。

●メインスイッチがＯＦＦのときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。

●パワーバックドアの自動開閉中に、バックドアオープンスイッチを押すと、手動作動に切り替わります。

●パワーバックドアの自動開閉中に、人や異物などにより異状を感知すると、ブザーが鳴り、その位置から自動的にドアは反対方向に動きます。

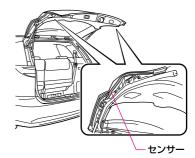
●連続して2回目以上の閉方向の異状を感知すると、ブザーが鳴り手動作動に切り替わります。

●バッテリーの電圧が低下しているときは、パワーバックドアが作動しない場合があります。

安全機能について

挟み込み防止機構

パワーバックドアの左右端部には、センサーがついています。

ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが圧縮されると挟み込み防止機構が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に動き、全開位置で停止します。

初期設定について

ヒューズ切れやバッテリーあがりなどがおきたときは、パワーバックドアの初期設定をしてください。（パワーバックドアが全閉時にヒューズ切れやバッテリーあがりなどがおきたときは初期設定をする必要はありません。）パワーバックドアの初期設定がされていないと、次の機能は作動しません。

●パワーバックドア

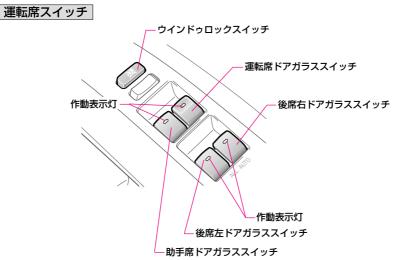
●挟み込み防止機構

■初期設定のしかた

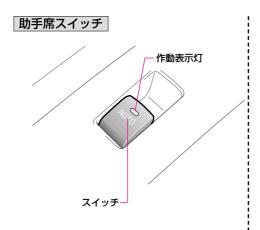
〈設定手順〉

バックドアのバックドアグリップを持って、手動で一度全閉にします。（P.185参照）

ドアガラスの開閉

パワーウインドゥの使い方

運転席スイッチ

運転席スイッチですべてのドアガラスの開閉が行えます。

助手席スイッチ

後席スイッチ

自席のドアガラスの開閉が行えます。

■ドアガラスの開閉のしかた
スイッチを下に押している間は開き、上に引いている間は閉まります。
スイッチから手を離すと、その位置で停止します。

■ドアガラスの自動開閉のしかた
●全開するときは、スイッチを下に強く押して手を離します。
途中で止めたいときは、スイッチを軽く引き上げます。
●全閉するときは、スイッチを上に強く引き上げて手を離します。
途中で止めたいときは、スイッチを軽く押します。

知識

作動条件について

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。ただし、助手席・後席スイッチはウインドゥロックスイッチ（P.199参照）がＯＮになっているときは開閉しません。
●“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにすると、各スイッチの作動表示灯が点灯します。
●各スイッチの作動表示灯が点滅しているときは、パワーウインドゥの初期設定をしてください。（次ページ参照）

安全機能について

挟み込み防止機構
ドアガラスを閉めるときに、窓枠とドアガラスの間に異物の挟み込みを感知すると、ドアガラスの上昇を停止し、自動で少し開き、止まります。
●環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じ衝撃や荷重がドアガラスに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。

便利機能について

電源ＯＦＦ後作動機能
ドアガラスは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにしたあとでも、約45秒間は開閉することができます。ただし、約45秒間に運転席ドアを開けてからいったん閉めると、ドアガラスの開閉はできなくなります。
●電源ＯＦＦ後作動が機能している間は、各スイッチの作動表示灯が点灯します。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

知 識

初期設定について

パワーウインドゥの開閉中にバッテリーとの接続が断たれたときは、パワーウインドゥの初期設定をしてください。

- ●パワーウインドゥの初期設定がされていないと、次の機能は作動しません。
  - ●運転席スイッチでの助手席、後席ドアガラスの開閉
  - ●ドアガラスの自動開閉
  - ●挟み込み防止機構
  - ●電源ＯＦＦ後作動機能
- ●パワーウインドゥの初期設定がされていないドアガラスは、スイッチの作動表示灯が点滅します。

■初期設定のしかた

パワーウインドゥの初期設定は、各ドアガラスごとに、各席スイッチで行います。
運転席スイッチで助手席、後席ドアガラスのパワーウインドゥの初期設定をすることはできません。

〈設定手順〉

***1* “エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにします。**

***2* スイッチを上に引き続け、ドアガラスを全閉します。**

全閉後、約1秒間スイッチを上に引き続けてください。

パワーウインドゥの初期設定が完了すると、スイッチの作動表示灯が点滅から点灯にかわります。

ウインドゥロックスイッチの使い方

ウインドゥロックスイッチを押すごとに、ＯＮとＯＦＦに切り替わります。
スイッチをＯＮにすると、運転席ドアガラス以外のパワーウインドゥとリヤサンシェード（大型ムーンルーフ装着車）は開閉しません。

ウインドゥロックスイッチ	運転席スイッチ	助手席スイッチ、後席スイッチ	リヤサンシェード（大型ムーンルーフ装着車）
ＯＮ	運転席ドアガラスの開閉ができます。	開閉できません。	開閉できません。
ＯＦＦ	すべてのドアガラスの開閉ができます。	開閉できます。	開閉できます。

走行中は窓から手や顔を出さないでください。また、ドアガラスを開閉するときは手・腕・頭・首などを挟まないようにしてください。

●走行中は窓から手や顔を出さないでください。車外のものなどに当たったり、急ブレーキをかけたときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ドアガラスを開閉するときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟まないように注意してください。とくにお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまにドアガラスの操作をさせないでください。開けるときや閉めるときに手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込まれたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ドアガラスを確実に閉めるため、閉じ切り直前の部分では挟み込みを感知していない領域があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●挟み込み防止機構は、スイッチを強く引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●挟み込み防止機構を故意に作動させるため、手などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●万一、挟み込み防止機構が作動してしまい、ドアガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを引き続けると、閉めることができます。

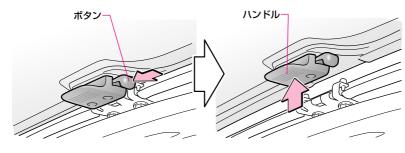
運転席スイッチとほかのドアのスイッチを同時に逆方向に動かさないでください。パワーウインドゥの故障の原因となります。

●運転席スイッチとほかのドアのスイッチを同時に逆方向に動かさないでください。パワーウインドゥの故障の原因となります。

●ドアガラスの全開・全閉後に同じ方向にスイッチを押し続けないでください。パワーウインドゥの故障の原因となります。

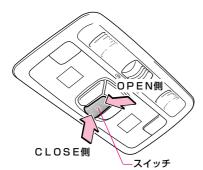
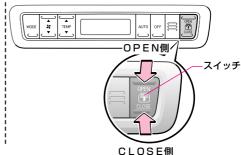
フロントムーンルーフ・リヤサンシェードの開閉

大型ムーンルーフ装着車

フロントムーンルーフの チルトアップ／ダウンのしかた

■チルトアップするときは
ボタンを押しながらハンドルを上に押し上げます。

■チルトダウンするときは
ハンドルを持って“カチッ”と音がするまで引き下げます。
●ハンドルが確実にロックされていることを確認してください。

リヤサンシェードの電動開閉のしかた

前席スイッチ

後席スイッチ

■開けるときは

スイッチのＯＰＥＮ側を押すと、自動で開きます。

●作動を途中で止めるときは、スイッチをもう一度押します。

●スイッチを押し、すぐに手を離すと、少し開けることができます。

■閉めるときは

スイッチのＣＬＯＳＥ側を押すと、自動で全閉します。

●作動を途中で止めるときは、スイッチをもう一度押します。

●スイッチを押し、すぐに手を離すと、少し閉めることができます。

走行中はフロントムーンルーフから手などを出さないでください。またフロントムーンルーフやリヤサンシェードを閉めるときはほかの人の手などを挟まないようにしてください。

●走行中はフロントムーンルーフから手などを出さないでください。車外のものなどに当たったり、急ブレーキをかけたときに重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントムーンルーフ、リヤサンシェードを閉めるときは、ほかの人の手などを挟まないように注意してください。フロントムーンルーフやリヤサンシェードに挟まれて、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

警告 リヤサンシェードの挟み込み防止機構を故意に作動させるために、手などを挟んだりしないでください。

- ●リヤサンシェードの挟み込み防止機構を故意に作動させるために、手などを挟んだりしないでください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●リヤサンシェードの挟み込み防止機構は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●リヤサンシェードを確実に閉めるため、閉じ切り直前の部分では挟み込みを感知していない領域があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●お子さまにフロントムーンルーフ、リヤサンシェードの操作をさせないでください。閉めるときに手などを挟んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意 車から離れるときはフロントムーンルーフが完全に閉まっていることを確認してください。

- ●車から離れるときや、洗車時にはフロントムーンルーフが完全に閉まっていることを確認してください。また、ルーフ上に水や雪がないことを確認してから開けてください。雨や水が室内に入り、オーディオ類やフロアカーペット下の電気部品などに水がかかると、火災や故障の原因となるおそれがあります。
- ●リヤサンシェードが全開、全閉したあとにスイッチを押し続けないでください。リヤサンシェードの故障の原因となります。
- ●故障などで挟み込み防止機構が作動してしまい、リヤサンシェードを自動で閉めることができないときは、スイッチを押し続けると、閉めることができます。

知 識

リヤサンシェードの作動条件について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。ただし、ウインドゥロックスイッチがＯＮ（P.199参照）になっているときは作動しません。

フロントサンシェードについて

フロントは手動で開閉できます。

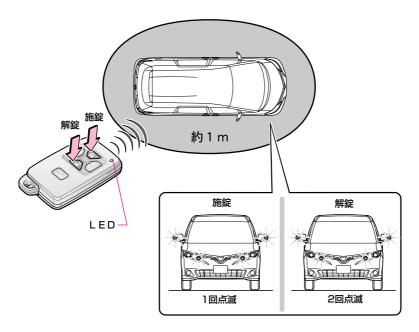
安全機能について

挟み込み防止機構

リヤサンシェードを閉めるときに、窓枠とシェードの間に異物の挟み込みを感知すると、シェードが閉まる作動を停止し、自動で少し開き止まります。

- ●環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じ衝撃や荷重がシェードに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。

ワイヤレスドアロックリモコンの使い方

ドアの施錠・解錠のしかた

🔒スイッチを押すとすべてのドア（バックドアを含む）が施錠されます。

🔓スイッチを押すとすべてのドア（バックドアを含む）が解錠されます。

●施錠したときは、非常点滅灯が1回点滅し、ブザーが1回鳴ります。※

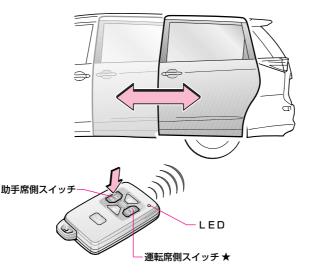
●解錠したときは、非常点滅灯が2回点滅し、ブザーが2回鳴ります。※

●スイッチを押すとキーのＬＥＤが点灯します。

●スイッチは、ゆっくりと確実に押してください。

●施錠操作をしたときは、必ず施錠作動したことを確認してください。

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.617の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。

パワースライドドアの開閉のしかた

パワースライドドアが全閉（全開）状態のときスライドドアスイッチを約1秒以上押し続けると、自動で全開（全閉）します。

●運転席側パワースライドドアを開閉させるときは、リモコンスイッチの側（運転席側スイッチ）を押してください。（両側パワースライドドア装着車のみ）

●助手席側パワースライドドアを開閉させるときは、リモコンスイッチの側（助手席側スイッチ）を押してください。

●開閉作動開始時にブザーが鳴ります。

●閉作動中は、断続的にブザーが鳴ります。

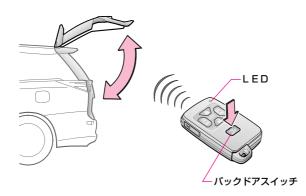
●全開（全閉）作動中に再度スイッチを押すと、全閉（全開）作動に切り替わります。ただし、全閉（全開）状態から自動開閉作動が開始して約1秒間は、再度スイッチを押しても全閉（全開）作動に切り替わりません。

●スイッチを押すとキーのＬＥＤが点灯します。

●スイッチは、ゆっくりと確実に押してください。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

パワーバックドアの開閉のしかた

パワーバックドア装着車

パワーバックドアが全閉（全開）状態のときバックドアスイッチを約1秒以上押し続けると、自動で全開（全閉）します。

●開閉作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が2回点滅します。
●開閉作動中は、断続的にブザーが鳴ります。
●全開（全閉）作動中に再度スイッチを押すと、全閉（全開）作動に切り替わります。ただし、全閉（全開）状態から自動開閉作動が開始して約1秒間は、再度スイッチを押しても全閉（全開）作動に切り替わりません。
●スイッチは、ゆっくりと確実に押してください。
●スイッチを押すとＬＥＤが点灯します。

リモコンは電子部品です。強い衝撃などを与えると故障の原因となりますので、以下の点にご注意ください。

●ダッシュボードの上など高温になる所に置かないでください。
●分解しないでください。
●落としたり、強い衝撃を与えないでください。
●水にぬらさないでください。

知 識

作動条件について

●リモコンは、周囲の状況により作動可能距離がかわることがあります。確実に作動させるためには、車から約1 ｍまで近づいて操作してください。
●ワイヤレスリモコンは微弱な電波を使用しているため、状況によっては正常に作動しない場合があります。詳しくはＰ.127を参照してください。

知識

作動条件について

●バックドアガラスに次のものを貼りつけると、車両後方からリモコンの操作をした場合、受信器への電波がさえぎられて受信感度が低下し、作動可能距離が短くなるおそれがあります。
- 金属を含有するウインドゥフィルム。
- その他の金属物。（トヨタ純正品以外のアンテナなど）

●リモコンスイッチは、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがＯＦＦ以外では作動しません。
●スイッチは、いずれかのドア（バックドアを含む）が開いているときは作動しません。
●スイッチ・スイッチを押し続けても、ドアの施錠・解錠は繰り返されません。スイッチを押しなおしてください。
●スイッチを押して解錠操作をしたあと、約30秒以内にドアを開けなかったときは、自動的に施錠されます。（非常点滅灯が1回点滅します。）※
●パワースライドドアリモコンスイッチ、パワーバックドアリモコンスイッチは、運転席にあるメインスイッチがＯＦＦになっているときは作動しません。
●パワースライドドアリモコンスイッチ、パワーバックドアリモコンスイッチを押して、うまく開閉作動されなかったとき、スイッチを約1秒以上押し続けても開閉操作は繰り返されません。スイッチを押しなおしてください。

便利機能について

イルミネーテッドエントリーシステム（P.476参照）
ドアの状態や“ エンジン スタート ストップ ”スイッチ、シフトレバーの位置によって各部の照明が点灯・消灯します。

電池交換について

リモコンを操作しても作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、またはＬＥＤが暗くなったり、点灯しなくなった場合、電池の消耗が考えられます。電池を交換してください。
電池の交換は市販の精密ドライバーを使用すれば、お客様自身で交換できます。P.568の「キーの電池交換」を参照してください。（トヨタ販売店でも交換できます。）

航空機内へのキーの持ち込みについて

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

紛失について

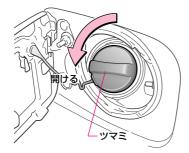
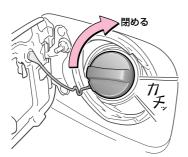
リモコンを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

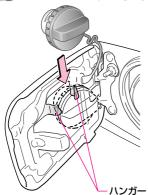
※この機能を変更することができます。詳しくは、P.617の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。

フューエルリッド（燃料補給口）の開閉

フューエルリッドの開閉

運転席インパネ右下にあるフューエルリッドオープナー（⛽）を引くと開きます。
閉めるときは、フューエルリッドを手で“カチッ”と音がするところまで閉めます。

フューエルキャップの開閉

■開けるときは
キャップのツマミを持ち、左にまわして開けます。

■閉めるときは
キャップのツマミを持ち、“カチッ”と音がするまで右にまわして閉めます。

フューエルキャップの置き場所

給油中は、フューエルキャップをハンガーにかけておきます。

警告　燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。

●燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。
- エンジンは必ず停止してください。
- 車のドア、ドアガラスは閉めてください。
- タバコなど火気を近づけないでください。
- フューエルリッド、フューエルキャップを開けるなど給油操作を行う前に、車体などの金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどをするおそれがあります。
- フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミを持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどに、燃料タンク内の圧力が高くなっていると、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。フューエルキャップを少しゆるめたときに“シュー”という音がする場合は、それ以上開けないでください。その音が止まってからゆっくり開けてください。
- 給油中、再び車内のシートにもどったり、帯電している人やものに触れないでください。（再帯電することがあります）
- 給油口には静電気除去を行った方以外の人を近づけないでください。
- 給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- 給油終了後、フューエルキャップを閉める場合、“カチッ”と音がするまで右にまわしてください。手を離すと若干もどります。
- 車に合ったトヨタ純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。
- その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。

●給油時に、気化した燃料を吸わないようにしてください。燃料の成分には、有害物質を含んでいるものがありますので、ご注意ください。

指定燃料をご使用ください。

●2GR－FEエンジン搭載車の指定燃料は無鉛プレミアム（無鉛ハイオク）ガソリンです。給油時に指定されている燃料であることを確認してください。2GR－FEエンジン搭載車で、無鉛レギュラーガソリンをお使いになることもできます。その場合エンジン本来の性能を発揮できません。
●2AZ－FEエンジン搭載車の指定燃料は、無鉛レギュラーガソリンです。給油時に指定されている燃料であることを確認してください。
●アルコール系燃料、粗悪ガソリン、軽油、灯油などを使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングが発生したり、出力低下する場合があります。また、そのまま使うとエンジンの故障や燃料系部品の損傷による燃料もれなどの原因となるおそれがあります。
●給油中に燃料を車にこぼさないようにしてください。塗装面を侵すおそれがあります。
●車両助手席側のスライドドアが、全開またはフューエルリッド近くまで開いているときは、フューエルリッドを開けないでください。フューエルリッドがスライドドアに当たり傷や汚れがつく原因となるおそれがあります。

知 識

フューエルリッドの位置について

フューエルリッド（燃料補給口）は助手席側車両後方にあります。

燃料タンク容量について

燃料タンク容量は約65 Ｌです。

ボンネットの開閉

開け方

1 ボンネットオープナーを引きます。

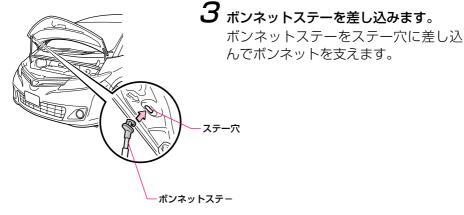
運転席インストルメントパネル右下にあるボンネットオープナーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。

2 ボンネットフックをはずします。

ボンネットのすき間に手を入れ、レバーを押し上げ、ボンネットフックをはずして、ボンネットを持ち上げます。

3 ボンネットステーを差し込みます。

ボンネットステーをステー穴に差し込んでボンネットを支えます。

閉め方

1 **ボンネットステーをはずします。**

ボンネットステーをはずし固定します。

2 **ボンネットを閉めます。**

ボンネットを約20～25 cmの位置から静かに落として閉めます。

3 **ロックされていることを確認します。**

ボンネットの前端を上下にゆすり、確実にロックされていることを確認します。

走行前にはボンネットがロックされていることを確認してください。ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、死亡事故や重大な傷害につながるおそれがあります。

●ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。

●ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

●長時間走行したあとにボンネットを開けるときは、ボンネットステーの樹脂部分を持ってステー穴に差し込んでください。樹脂部分以外を持つと、ステーが熱くなっているため、やけどをするおそれがあります。

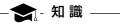
盗難防止システム（オートアラーム）の使い方★

システムの作動（警報作動）について

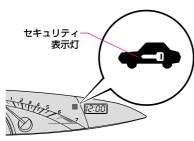
不正な侵入を検知した場合、音と光で警報します。
システム作動可能状態中に以下のいずれかが行われた場合、盗難のおそれがあると判断し、警報を作動させます。

- ●いずれかのドアが開けられたとき
- ●スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロックリモコン以外の方法で、いずれかのドアが解錠されたとき
- ●ボンネットが開いたとき。
- ●バッテリーターミナルを脱着したとき（バッテリーがあがったときの再充電、新品交換時など含む）
- ●スマートエントリー＆スタートシステムを使わずに、“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードになったとき

ドアの施錠・解錠、はスマートエントリー＆スタートシステム、またはワイヤレスドアロックリモコンで行います。

- ●ドアの施錠・解錠は、スマートエントリー＆スタートシステム（P.130参照）、またはワイヤレスドアロックリモコン（P.204参照）により行うことをおすすめします。
  キー（メカニカルキー）での施錠では、オートアラームは作動可能状態になりません。
- ●スマートエントリー＆スタートシステム、またはワイヤレスドアロックリモコンでドアを施錠したあと、キー（メカニカルキー）でドアを解錠すると、オートアラームが作動します。
- ●オートアラームシステムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム作動によるドアロック機能について

●オートアラームが作動したときドアが解錠されていると車内への不正な侵入を防止するため自動的に施錠されます。
●オートアラームが作動したときに車内でキーを閉じ込めないように、バッテリーあがりなどで充電・交換する場合は車内にキーがないかを確認してください。

システムを作動可能状態にするには

車外に出たあと、すべてのドア・ボンネットが閉まっていることを確認し、スマートエントリー&スタートシステム、またはワイヤレスドアロックリモコンでドアを施錠します。

●セキュリティ表示灯が点灯します。（システム待機状態）

●しばらく経過すると、セキュリティ表示灯が点灯から点滅にかわり、自動的にシステム作動可能状態になります。

知識

システム作動可能状態について

●スマートエントリー&スタートシステム、またはワイヤレスドアロックリモコンでドアを施錠したあと、約30秒以内（表示灯点灯中のシステム待機状態）に以下のいずれかを行った場合、システム作動可能状態にはなりません。（待機状態を解除します）

- いずれかのドア、またはボンネットを開けたとき。
- いずれかのドアを解錠したとき。
- バッテリーを再接続したとき。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチを押したとき。

メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

オートアラームの解除・システムを停止するには

以下のいずれかの操作を行います。

●スマートエントリー＆スタートシステム、またはワイヤレスドアロックリモコンでドアを解錠する

●エンジンを始動する（数秒後に解除・停止します）

ドアを施錠するときは

オートアラームの思わぬ作動を防ぐため、ドアを施錠するときは、車内に人がのっていないか、ドアガラスなどが開いていないか確認してください。

バッテリーを取りはずすときは

バッテリー端子の取りはずしや、バッテリーを交換するときは、オートアラームが解除されていることを確認してください。解除しないままバッテリー端子を取りはずすと、再接続したときにオートアラームが作動することがあります。

セキュリティ表示灯について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをOFFにすると、エンジンイモビライザーシステム（P.213，520参照）が作動中であることを知らせるために、オートアラームが作動可能状態でなくても、セキュリティ表示灯が点滅します。

シートの調整

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢がとれるように、次の事項に注意してシートを調整します。

警告　走行中は運転席シートの調整をしないでください。

●走行中は運転席シートの調整をしないでください。調整中にシートが突然動くなどして、運転を誤り、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

●シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●シートの下にものを置かないでください。ものが挟まってシートが固定されず、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。また、ロック機構の故障の原因となります。

●背もたれと背中の間にクッション（座布団）などを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●助手席や後席に荷物を積み重ねたりしないでください。急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員に当たったり、荷物を損傷したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が慣性力で飛ばされ、頭などを強く打ち、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ＳＲＳサイドエアバッグ装着車では、必ず次のことをお守りください。

●ＳＲＳサイドエアバッグ装着車では、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取りつけないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外のものがＳＲＳサイドエアバッグ展開部を覆うと、ＳＲＳサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取りつけてください。
- フロントシート表皮の張り替えやフロントシートの取りつけ・取りはずし・修理が必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。また、フロントシートの改造などはしないでください。
- フロントシート側面などＳＲＳサイドエアバッグ展開部を強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  ＳＲＳサイドエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

シートを調整するときは同乗者や荷物などまわりの状況に注意してください。

●シートを調整するときは、同乗者や荷物、または前後のシート・横のシートに当てないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたり、シートを破損するおそれがあります。

●シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近づけないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。

●室内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなどは、シートの下に手を入れると、シートレール・シートフレーム（シートの土台部分）などに当たり、けがをするおそれがありますので、十分に注意して行ってください。

●パワーシート装着車では、シートの前後位置・背もたれのリクライニング位置・シートの上下位置が終点まで移動したあとに、スイッチを同一方向に押し続けないでください。パワーシートの故障の原因となります。

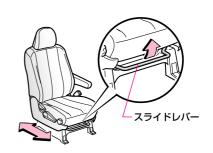
●シートレールの上にマットなどを敷かないでください。
シートを移動させるときに、シートレール内のゴム部分を損傷させるおそれがあります。

フロントシートの調整

シート調整のしかた

■前後位置調整

パワーシート

スイッチを前後に操作している間作動します。

マニュアルシート

スライドレバーを引いたまま、シートを前後に動かして調整します。

■リクライニング調整

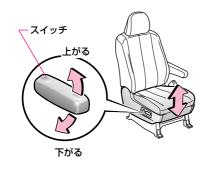
パワーシート

スイッチを前後に操作している間作動します。

マニュアルシート

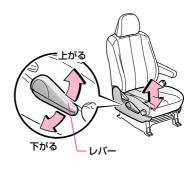
リクライニングレバーを引いたまま、背もたれを前後に動かして調整します。

■運転席シートクッションの上下調整

パワーシート

スイッチ前側の上下操作でシートクッション前端の高さを調整します。

スイッチうしろ側の上下操作でシート全体の高さを調整します。

マニュアルシート

ハンドルをまわしてシートクッション前端の高さを調整します。

レバーを上または下に動かすごとに、シート全体の高さを調整します。

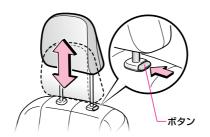
警告

走行中は前後位置調整をしないでください。
急ブレーキをかけたときなどにシートが突然大きく移動し、放り出されたり、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

前後位置調整をするときは、フロントシートとオットマンの間で足を挟まないよう注意してください。

●7人乗り車でフロントシートの前後位置調整をするときに、セカンドシートでオットマン（P.234参照）を使用しているときは、セカンドシートの乗員がフロントシートとオットマンの間で足を挟まないよう十分注意してください。
●マニュアルシートの背もたれをもどすときは、背もたれに手をそえながら、リクライニングレバーを操作してください。
背もたれを押さえずにレバーを操作すると、背もたれが急にもどり、けがをするおそれがあります。

ヘッドレスト調整のしかた

●上げるときは、そのまま引き上げます。
●下げるときは、ボタンを押したまま押し下げます。
●取りはずすときは、ボタンを押したまま引き抜きます。

ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。

●ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
●フロントシートのヘッドレストはフロントシート専用です。取りつけるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。ヘッドレストを間違って取りつけると、固定することができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

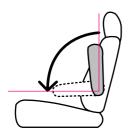
■アクティブヘッドレスト

背もたれに強い衝撃を受けると、フロント席乗員のむち打ちの症状を軽減させるためにヘッドレストが少し前方上側に動きます。

知識

アクティブヘッドレストについて

- ●背もたれに弱い衝撃を受けてもヘッドレストが動く場合がありますが、故障ではありません。
- ●ボタンを押さずにヘッドレストを無理に押し上げようとすると、ヘッドレストステーのサポートが見えますが、故障ではありません。

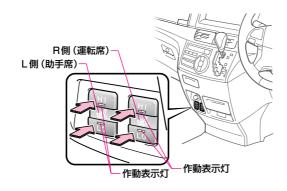
アームレストの使い方

1 アームレストを一度、一番上まで上げます。

2 アームレストを一番下まで下げます。

3 お好みの位置まで上げると固定されます。

- ●アームレストが固定されると、その位置から下げることはできません。
- ●下げたいときは *1* の手順からやり直してください。

快適温熱シートの使い方 ★

運転席、助手席を暖めます。

■**使用するときは**

スイッチのＨＩ（強）側またはＬＯ（弱）側を押します。

●スイッチのＨＩ（強）側を押すと、シートの肩部分と背もたれ全体、およびクッション部を暖めます。
・作動表示灯が黄色に点灯します。

●スイッチのＬＯ（弱）側を押すと、シートの肩部分と背もたれ中央部のみを暖めます。
・作動表示灯が緑色に点灯します。

■**停止するときは**

スイッチを中立にもどします。

●作動表示灯が消灯します。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

快適温熱シートを使用するときは、次の点に注意してください。

●下記に相当される方がご使用になる場合は、熱すぎたり低温やけど（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがありますので、十分注意してください。
・乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
・皮膚の弱い方
・疲労の激しい方
・深酒やねむけをさそう薬（睡眠薬、かぜ薬など）を使用された方

●毛布や座布団など保温性の良いものをかけた状態で使用しないでください。シートが異常過熱し、低温やけどやシートの故障につながるおそれがあります。

●仮眠するときは使用しないでください。シートが異常過熱し、低温やけどをするおそれがあります。

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針など鋭利なものを突き刺したりしないでください。

●凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針など鋭利なものを突き刺したりしないでください。故障の原因になります。

●シートの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。ヒーターやシートの表面を損傷するおそれがあります。

●バッテリーあがりを防止するために、エンジンが停止しているときはスイッチをＯＦＦ（中立）にしてください。

作動条件について

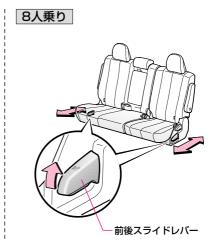
“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

セカンドシートの調整

シート調整のしかた

■前後位置調整

7人乗り

8人乗り

スライドレバーを引いたまま、シートを前後に動かして調整します。調整後、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

■左右位置調整

7人乗りのみ

左右スライドレバーを引いて、シートを左右いっぱいまで動かして調整します。調整後、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

■リクライニング調整

7人乗り

8人乗り

リクライニングレバーを引いたまま、背もたれを前後に動かして調整します。
調整後、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

⚠警告　走行中は前後位置調整、左右位置調整をしないでください。

●走行中は前後位置調整、左右位置調整をしないでください。
急ブレーキをかけたときなどにシートが突然大きく移動し、放り出されたり、思わぬ事故の原因となって生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●フロントシートを一番うしろにスライドさせているときは、セカンドシートに座った状態で、セカンドシートを一番前までスライドさせないでください。フロントシートの背もたれとセカンドシートのクッション・オットマンの間で足などを挟みけがをするおそれがあり危険です。とくに、床面に足の届かないお子様がスライドレバーを引いたままスライド操作をした場合、自然にシートが動き出すおそれがあります。

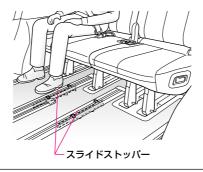
目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

背もたれをもどすときは、背もたれに手をそえながら操作してください。

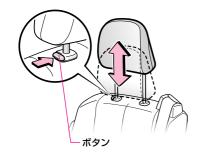
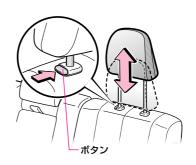
●背もたれをもどすときは、背もたれに手をそえながら、リクライニングレバーを操作してください。背もたれを押さえずにレバーを操作すると、背もたれが急にもどり、けがをするおそれがあります。
●左右位置調整は、必ず右側いっぱいか、左側いっぱいまでスライドさせてください。中間位置では左右位置を固定することはできません。

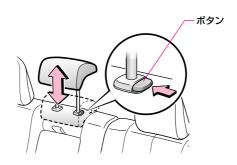
知 識

スライドストッパーについて

7人乗り車ではセカンドシート後方のスライドレールにスライドストッパー（2本）があります。これはセカンドシートを後方へスライドさせたとき、セカンドシートの後端とサードシートのクッションの間で、サードシートの乗員が足を挟まないようにするためのものです。サードシートに人が乗っているときは、取りつけた状態にしておいてください。

ヘッドレスト調整のしかた

■左右席

7人乗り

8人乗り

■中央席★

8人乗りのみ

●上げるときは、そのまま引き上げます。
●下げるときは、ボタンを押したまま押し下げます。
●取りはずすときは、ボタンを押したまま引き抜きます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

警告　ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。

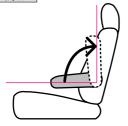
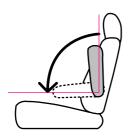
●ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
●セカンドシートのヘッドレストはセカンドシート専用です。取りつけるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。ヘッドレストを間違って取りつけると、固定することができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

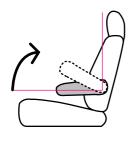
知 識

中央席ヘッドレストについて

中央席ヘッドレストの上下位置調整は、引き上げたときと押し下げたときの2段階のみになります。中央席ヘッドレストは、引き上げた状態で使用してください。

アームレストの使い方

7人乗り

1 アームレストを一度、一番上まで上げます。

2 アームレストを一番下まで下げます。

3 お好みの位置まで上げると固定されます。

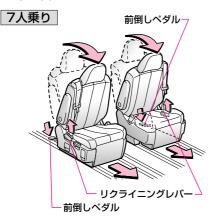
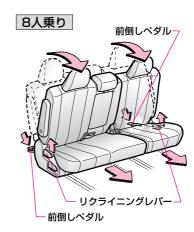
- ●アームレストが固定されると、その位置から下げることはできません。
- ●下げたいときは *1* の手順からやり直してください。

8人乗り

- ●使用するときは、一番下まで下げます。
- ●使用しないときは、一番上まで上げます。

サードシートへの乗り降り

■乗り降りするときは

7人乗り

8人乗り

リクライニングレバーを引き上げるか、またはシートうしろ側の前倒しペダルを踏むと、背もたれが前に倒れて、シートを前方へ移動させることができます。

●8人乗り車の前倒しペダルは、セカンドシートをチップアップ状態（P.236参照）にしているとき、通常よりも強く踏み込んでください。

■乗り降りしたあとは

●背もたれを“カチッ”という音がするまで起こし、前後位置を調整します。
●調整後、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

サードシートへ乗り降りしたあとは、必ずセカンドシートを固定させてください。固定させていないと急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにシートが動き、乗員に当たるなどして生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

背もたれをもどすときは、背もたれに手をそえながらリクライニングレバーを操作してください。

●背もたれをもどすときは、背もたれに手をそえながら、リクライニングレバーを操作してください。背もたれを押さえずにレバーを操作すると、背もたれが急にもどり、けがをするおそれがあります。
●8人乗り車の前倒しペダルは、セカンドシートをチップアップ状態（P.236参照）にしているとき、チップアップ状態にしていないときと同じ力で前倒しペダルを踏んでも、セカンドシートは前方へ移動しません。チップアップ状態にしているときは、前倒しペダルを通常よりも強く踏み込んでください。
●7人乗り車では、前倒しペダル・リクライニングレバーでシートを前方へ移動させるときは、アームレストを格納してから操作してください。アームレストを格納せずにシートを前方へ移動させると、アームレストがシートクッションに当たり、シートクッションにアームレストのあとがのこることがあります。

オットマン（フットレスト）の使い方 ★

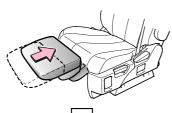
足をのばして楽な姿勢をとることができます。
シートクッション下に格納されています。

■取り出しかた

1 **オットマンを取り出します。**

レバーを引きながら、オットマンを取り出し、お好みの角度に調整したらレバーをもどし、オットマンを固定させます。

2 **必要に応じてオットマンを前方に伸ばします。**

■格納のしかた

オットマンを一番うしろにもどし、レバーを引いてオットマンをシートの下に格納します。

走行中はオットマンの位置調整をしないでください。

●走行中はオットマンの位置調整をしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●オットマンの上には絶対に乗らないでください。オットマンが破損し、転倒などして生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●乗降時および使用しないときは、シートの下に格納してください。格納していないと、オットマンにつまずいて転倒するなど、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

オットマンを格納するときは、オットマンを一番うしろにもどしてから格納してください。

●オットマンを格納するときは、オットマンを一番うしろにもどしてから格納してください。一番うしろにもどさずに格納すると、オットマンが床面に当たりオットマンが損傷するおそれがあります。
●フロントシートの調整をしているときは、足を挟まれないよう足元に十分注意してください。

シートクッションのチップアップのしかた

8人乗りのみ

チップアップレバーを引いて、クッションを持ち上げます。持ち上げたあと、クッションを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

サードシートの調整

シート調整のしかた

■リクライニング調整

手動格納式

背もたれに手をそえて、リクライニングレバーを手前に引きながら、背もたれを前後に動かして調整します。
調整後、背もたれを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

電動格納式

スイッチを操作している間作動します。

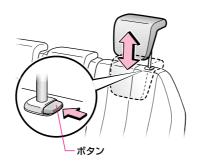
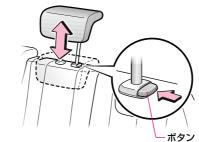
目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

サードシートを調整するときは、次の点に注意してください。

●背もたれをもどすときは、背もたれに手をそえながら、リクライニングレバーを操作してください。背もたれを押さえずにレバーを操作すると、背もたれが急にもどり、けがをするおそれがあります。

●リクライニング調整をするときは、背もたれをバックドアに当てないように注意してください。バックドアなどを破損するおそれがあります。

ヘッドレスト調整のしかた

■左右席

■中央席★

●上げるときは、そのまま引き上げます。
●下げるときは、固定ボタンを押したまま押し下げます。
●取りはずすときは、固定ボタンを押したまま引き抜きます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。

●ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
●サードシートのヘッドレストはサードシート専用です。取りつけるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。ヘッドレストを間違って取りつけると、固定することができず、衝突したときなどにけがをするおそれがあり危険です。

サードシートのヘッドレストについて

サードシートのヘッドレストの上下位置調整は、引き上げたときと押し下げたときの2段階のみになります。ヘッドレストは、引き上げた状態で使用してください。

シートアレンジ

インデックス

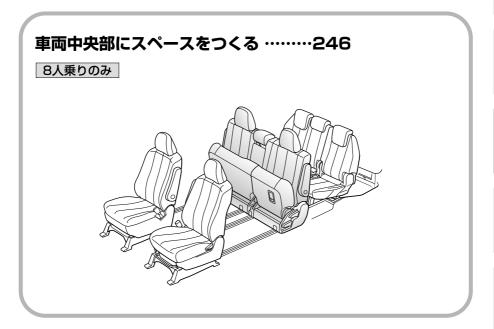
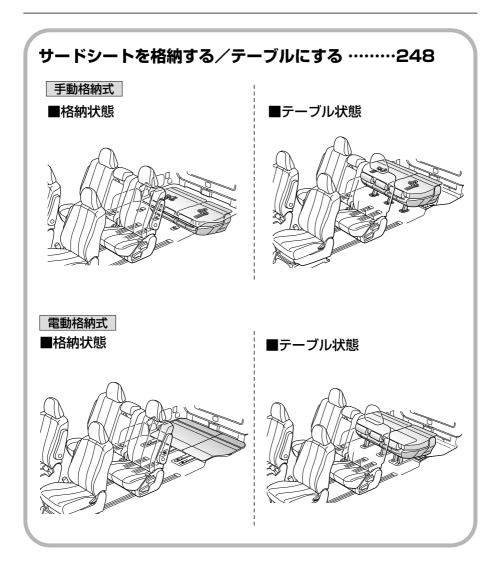
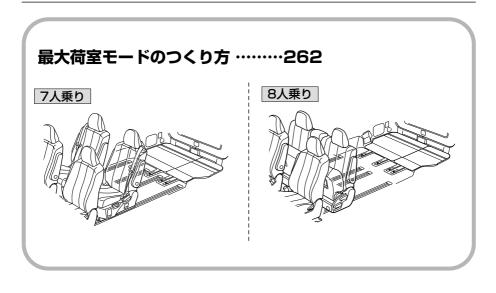
シートは状況に応じて次のようなアレンジを行うことができます。それぞれの説明ページをよく読んでから行ってください。

車両中央部にスペースをつくる ………246

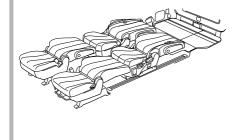
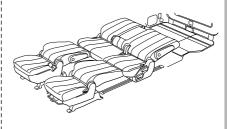
8人乗りのみ

サードシートを格納する／テーブルにする ………248
手動格納式
■格納状態
■テーブル状態
電動格納式
■格納状態
■テーブル状態

最大荷室モードのつくり方 ………262

スーパーリラックスモードのつくり方 ………264

■セカンドシート・サードシートフラット状態

■フロントシート・セカンドシートフラット状態、サードシート格納状態

7人乗り

8人乗り

シートアレンジをするまえに

車両を安全で平坦な場所に駐車し、シフトレバーをⓅに入れ、パーキングブレーキを確実にかけます。

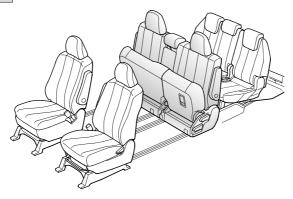
シートアレンジをするときは、必ず平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけて、シフトレバーをⓅに入れてください。

●シートアレンジをするときは、必ず平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをⓅに入れてください。不整地や傾斜地では操作中に不意にシートが動き、手足などを挟まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●走行中はシートアレンジ操作をしないでください。
ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●お子さまがラゲージルームに入らないように注意してください。ボディの突起に当たるなどして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートを操作したあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●リヤシートを操作するときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷つくおそれがあり、傷ついたまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

シートを操作するときは、同乗者や荷物に当てないように注意してください。

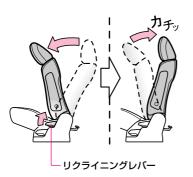
●シートを操作するときは、同乗者や荷物に当てないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
●シートを操作するときは、シートの下やロック機構部分、動いている部分の近くに手や足などを近づけないでください。指や手、足などを挟みけがをするおそれがあります。

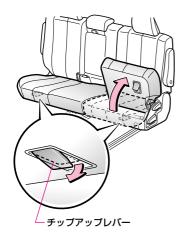
車両中央部にスペースをつくる

8人乗りのみ

セカンドシートのクッションをチップアップさせて、前後にスライドさせることにより、車両中央部にスペースをつくることができます。

車両中央部にスペースをつくるときは

1 シートベルトを格納します。

中央席2点式シートベルト装着車は、シートベルトを格納ポケットに格納します。（P.282参照）

2 背もたれを前方へ倒します。

リクライニングレバーを引いて背もたれを前方に倒し、“カチッ”と音がする位置まで少し後方にもどして固定させます。

3 シートクッションを持ち上げます。
チップアップレバーを引いて、クッションを持ち上げます。

4 スライドレバーを引いて、シートの前後位置を調整し、固定します。
シート全体を軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

もとにもどすときは

逆の手順で行います。

シートアレンジでつくった車両中央部のスペースに人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

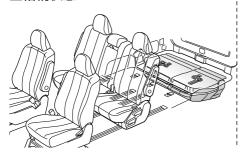
注意

シートクッションをチップアップさせたときは、次の点に注意してください。

- シートクッションをチップアップさせたときは、シートクッションの土台部分に乗らないでください。土台部分が損傷するおそれがあります。
- シートクッションをチップアップさせたときは、シートクッションの土台部分とシートクッションの間に手や足を入れないでください。シートに挟まれてけがをするおそれがあります。

サードシートを格納する／テーブルにする

手動格納式

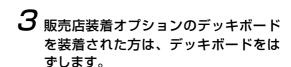
■格納状態

■テーブル状態

サードシートをラゲージルーム内に手動で格納することができます。また、テーブル状態にして使用することもできます。

操作するまえに

1 **バックドアを開けます。**
シートの操作は必ずバックドアを開け、車両後方から行ってください。

2 **デッキフックを格納します。（P.488参照）**

3 **販売店装着オプションのデッキボードを装着された方は、デッキボードをはずします。**

4 **左右席のシートベルトをベルトハンガーに挟みます。**

5 **中央席シートベルト、バックルを収納します。（P.282参照）**
分離格納式中央席シートベルト装着車は、シートベルトをシートから取りはずして天井へ収納します。（P.283参照）

目次

警告

基本操作
早わかり

運転装置の
取り扱い

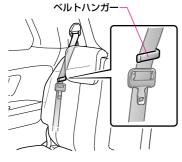
室内装備の
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

メンテナンス

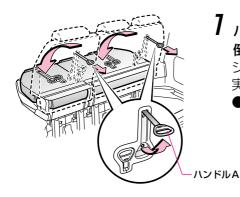
万一のとき

索引

6 **ヘッドレストを下げます。**

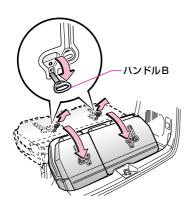
P.239参照

7 **セカンドシートを前方に移動させます。**

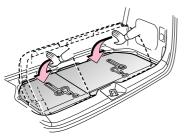
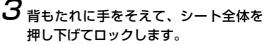
P.227参照

格納するときは

1 **ハンドルAを引きながら背もたれを前倒しさせ、ロックさせます。**

シート全体を軽く前後にゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

●この状態でテーブルとして使用することもできます。

2 **ハンドルBを引きながらシート全体を後方へ引き上げます。**

シート後端がシート格納部の後端に当たるまで引き上げます。

3 **背もたれに手をそえて、シート全体を押し下げてロックします。**

シート全体を軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

4 **ハンドルA、Bを格納部にもどします。**

“カチッ”と音がするまでハンドルを押し、固定します。

5 **販売店装着オプションのデッキボードを装着された方は、デッキボードを取りつけます。**

もとにもどすまえに

1 **バックドアを開けます。**

シートの操作は必ずバックドアを開け、車両後方から行ってください。

2 **デッキフックを使用していたときは、デッキフックを格納します。****（P.488参照）**

3 **販売店装着オプションのデッキボードを装着された方は、デッキボードをはずします。**

4 **左右席のシートベルトをベルトハンガーに挟みます。**

5 **セカンドシートを前方に移動させます。**

P.227参照

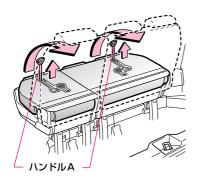
もとにもどすときは

1 ハンドルBを引きながらシート全体を引き上げます。

シート後端がシート格納部の後端に当たる位置でいったん止めます。

2 シート全体を前方に押し出し、背もたれに手をそえて、シート全体を押し下げてロックします。

●シート全体を押し下げてロックするときは、シートがもとの位置にもどったことを確認してから押し下げてください。

●シート全体を軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

3 背もたれに手をそえて、ハンドルAを引きながら、背もたれを起こしロックさせます。

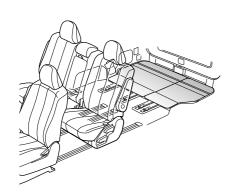
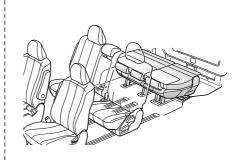
シート全体を軽く前後にゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

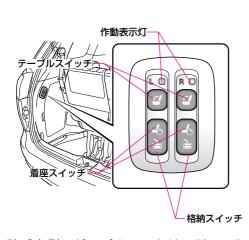
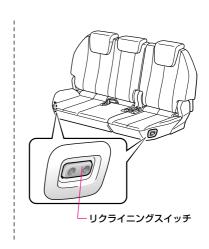
4 販売店装着オプションのデッキボードを装着された方は、デッキボードを取りつけます。

注意

シートをもとにもどすときの手順2で、シートを前方へ押し出している途中にシートを押し下げないでください。途中でシートを押し下げると、シートの脚部で床面を損傷するおそれがあります。シートをロックするときは、シートがもとの位置にもどったことを確認してから押し下げてください。

電動格納式

■格納状態

■テーブル状態

サードシートをラゲージルーム内に自動で格納することができます。また、テーブル状態にして使用することもできます。

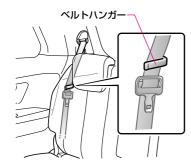
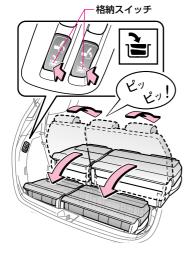
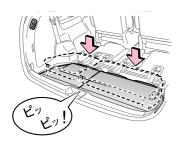
■サードシート操作スイッチ

助手席側ラゲージルームとサードシートクッション両端にあります。

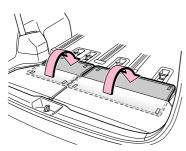
●ラゲージルーム内スイッチのＲ側は運転席側サードシート、Ｌ側は助手席側サードシートのスイッチになります。

電動格納シートを操作するまえに

1 **“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦ、またはイグニッションＯＮモードのときはシフトレバーをⓅにします。**
この条件を満たしてないとシートは格納作動しません。
（リクライニングスイッチでテーブルをもとにもどす場合を除く）

2 **バックドアを開けます。**
シートの操作は必ずバックドアを開け、車両後方から行ってください。

3 **左右席のシートベルトをベルトハンガーに挟みます。**

電動格納するときは

1 **操作する側の格納スイッチを押し続けます。**
- ●ブザーが2回鳴り、シートの格納作動が始まります。
- ●背もたれが倒れ、シート全体が後方へ格納されます。

2 格納作動が終了し、シートが固定されます。

ブザーが2回鳴り、シートの格納作動が終了したことをお知らせします。

3 背もたれにあるカバーを起こして固定部をおおいます。

知 識

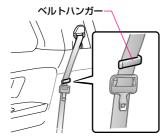
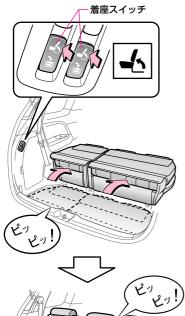
サードシートの電動格納について

●サードシートの格納作動中に、下記のことをした場合、格納作動は中断され、作動表示灯が点灯し、ブザーが約10秒間鳴り格納作動が中断されたことをお知らせします。（マルチインフォメーションディスプレイ装着車では、ブザーが鳴るのと同時にマルチインフォメーションディスプレイに「3rd SEAT」と表示されます。）

- 格納スイッチから手を離す。
- 格納作動している側のテーブルスイッチ、またはリクライニングスイッチを押す。
- “ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッションＯＮモードのときでシフトレバーをⓅからⓅ以外にする。

上記の中断条件を解消し、作動を再開させたときに、作動表示灯は消灯します。

●サードシートの格納作動中に、無理にシートの動きを止めたり、シートが故障したときは、作動表示灯が点滅しブザーが約10秒間鳴り格納作動が中断されます。（マルチインフォメーションディスプレイ装着車では、ブザーが鳴るのと同時にマルチインフォメーションディスプレイに「3rd SEAT」と表示されます。）作動が再開されたとき、作動表示灯は消灯します。

もとにもどすときは

1 **左右席のシートベルトをベルトハンガーに挟みます。**

2 **操作する側の着座スイッチを押し続けます。**
ブザーが2回鳴り、シート全体が前方にもどり始めます。
- ●“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをＯＦＦにしていない、またはシフトレバーを🅟にしていないときは、スイッチを押している間、作動表示灯が点滅し、復帰作動できないことをお知らせします。

3 **シートが床面に固定され背もたれが後方にもどり始めます。**
ブザーが2回鳴り、背もたれがもどり始めます。
- ●背もたれがもどり始めてからは、着座スイッチから手を離しても、作動は継続されます。

4 **背もたれが直角ぐらいの位置までもどると作動が終了します。**

知 識

サードシートの電動復帰について

●サードシートの復帰作動中に、下記のことをした場合、復帰作動は中断され、作動表示灯が点灯し、ブザーが約10秒間鳴り復帰作動が中断されたことをお知らせします。（マルチインフォメーションディスプレイ装着車では、ブザーが鳴るのと同時にマルチインフォメーションディスプレイに「3rd SEAT」と表示されます。）

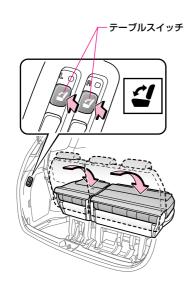
- 着座スイッチから手を離す（背もたれが後方にもどり始めてからは、スイッチから手を離しても作動は中断されません）。
- 復帰作動している側のテーブルスイッチ、またはリクライニングスイッチを押す。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションＯＮモードのときでシフトレバーをⓅからⓅ以外にする。

上記の中断条件を解消し、作動を再開させたときに、作動表示灯は消灯します。

●サードシートの復帰作動中に、無理にシートの動きを止めたり、シートが故障したときは、作動表示灯が点滅しブザーが約10秒間鳴り復帰作動が中断されます。（マルチインフォメーションディスプレイ装着車では、ブザーが鳴るのと同時にマルチインフォメーションディスプレイに「3rd SEAT」と表示されます。）作動が再開されたとき、作動表示灯は消灯します。

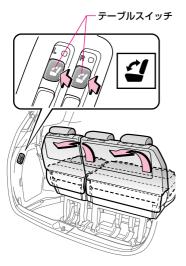
自動でテーブルにするときは

1 **サードシートのクッションが固定されていることを確認します。**

シート全体を軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

2 **テーブルにする側のテーブルスイッチを押すと背もたれが前倒しされます。**

もとにもどすときは

1 **サードシートのクッションが固定されていることを確認します。**

シート全体を軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

2 **もとにもどす側のテーブルスイッチまたは、リクライニングスイッチ（P.252参照）を押すと背もたれがもどります。**

3 **背もたれが直角ぐらいの位置までもどると作動が終了します。**

知識

サードシートのテーブル作動・復帰作動について

●サードシートのテーブル作動・復帰作動中に、同じサードシートの他のスイッチを押した場合、テーブル作動・復帰作動は中断され、作動表示灯が点灯し、ブザーが約10秒間鳴りテーブル作動・復帰作動が中断されたことをお知らせします。
テーブル作動・復帰作動を再開させたときに、作動表示灯は消灯します。

●サードシートのテーブル作動・復帰作動中に、無理にシートの動きを止めたり、シートが故障したときは、作動表示灯が点滅しブザーが約10秒間鳴りテーブル作動・復帰作動が中断されます。作動が再開されたとき、作動表示灯は消灯します。

リクライニングスイッチについて

リクライニングスイッチで背もたれををもどす場合、「電動格納シートを操作するまえに」（P.253参照）の手順*1*の“ エンジン スタート ストップ ”スイッチ、シフトレバーの条件は満たしていなくても作動します。

シートは確実に固定されていないと、衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●シートをもとにもどしたときは、シートを軽くゆさぶり、さらにシートクッション全体を軽くゆさぶり、シートが確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●手動格納式シートでシートを格納するときは必ずハンドルを持って操作してください。ハンドル以外の場所を持って格納すると、シートと床との間などに挟まりけがをするおそれがあり危険です。
●助手席側サードシートを格納したときのサードシートの乗車定員は1名です。中央席には絶対にすわらないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートを格納するとき、またはもどすときはシートなどで手や足やほかの乗員の体を挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートを格納したあとで、背もたれのみを起こして座らないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

シートクッションの上に荷物や座布団などをのせたまま、シートを格納またはテーブルにしないでください。

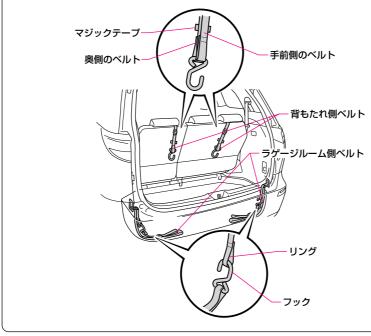
●シートクッションの上に荷物や座布団などをのせたまま、シートを格納またはテーブルにしないでください。荷物や座布団などを挟んでしまうと、シートやシート表皮が破損するおそれがあります。
●シートを格納するときはシート格納部に物がないことを確認してください。物がある状態でシートを格納すると、シートが破損するおそれがあります。
●シートをもどすときは床面に物がないことを確認してください。物がある状態でシートをもとにもどすと、シート固定部などを破損するおそれがあります。
●販売店装着オプションのスペアタイヤを装着された方は、サードシート格納スペースに、そのスペアタイヤが搭載されるため、サードシートの格納ができません。もし、無理にサードシートを格納しようとするとサードシートを破損するおそれがあります。

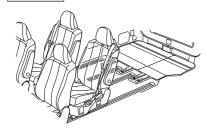
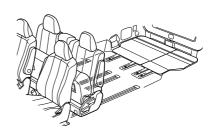
知識

車いす固定ベルト付き車のサードシートの格納について

サードシートの格納をする前に次の準備をして、車いす固定ベルトがサードシートに挟み込まれないようにしてください。

●ラゲージルーム側の車いす固定ベルトは、ベルトの付け根のリングにフックを引っかけておく。

●背もたれ側の車いす固定ベルトは、手前側と奥側のベルトの長さを同じくらいに調整し、重ねてマジックテープで背もたれに貼りつけておく。

最大荷室モードのつくり方

7人乗り

8人乗り

セカンドシートとサードシートを組み合わせて、荷室を最大限に広くすることができます。

最大荷室モードにするときは

7人乗り

1 ロングスライドコンソール装着車は、ロングスライドコンソールを前方へスライドさせます。
P.484参照

2 セカンドシートの前後位置を一番前へスライドさせます。
P.227参照

3 サードシートを格納します。
P.248参照

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

8人乗り

1 **セカンドシートのクッションをチップアップさせ車両中央部にスペースを作ります。**
P.246参照

2 **セカンドシートの前後位置を一番前へスライドさせます。**
P.227参照

3 **サードシートを格納します。**
P.248参照

もとにもどすときは

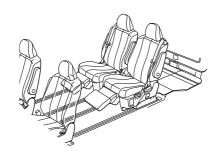
逆の手順で行います。

ラゲージスペースに人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- ●ラゲージスペースに人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●シートベルトが背もたれに挟まれていないことを確認してください。シートベルトが背もたれやシートクッションに挟まれていると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●シートをもとにもどしたときは、シートを軽くゆさぶり、さらにシートクッションを持ち上げ、確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となって生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●走行中にラゲージスペースを作ったり、もとにもどす操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

シートレールの上にマットなどを敷かないでください。シートを移動させるときに、シートレール内のゴム部分を損傷するおそれがあります。

スーパーリラックスモードのつくり方

7人乗りのみ

セカンドシートとサードシートを組み合わせて、セカンドシートのスペースを広くし、さらにオットマンを使用することで、よりくつろげるスペースをつくることができます。

スーパーリラックスモードにするときは

1 **サードシートを格納します。**
P.248参照

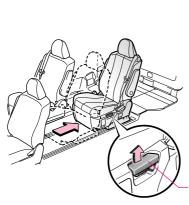
2 **センターテーブル付き車では、テーブルを格納します。**
P.472参照

3 **セカンドシートの左右位置を左右スライドレバーを引いて中央いっぱいまでスライドさせます。**

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備の 解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

スライドストッパー

4 スライドストッパーをはずします。

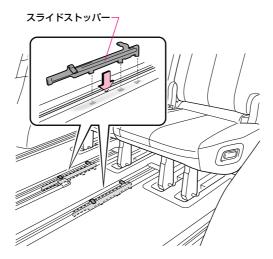
セカンドシート後方のシートレールから、スライドストッパー（2本）をはずします。

5 セカンドシートの前後位置を前後スライドレバーを引いて後方へスライドさせます。

6 オットマンを引き起こします。

P.235参照

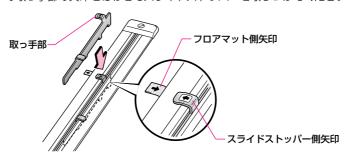
もとにもどすときは

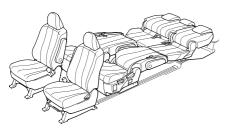
逆の手順で行います。

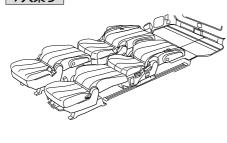
●スライドストッパーを取りつけるときは、シートレール内の穴（3ケ所）にスライドストッパーのツメを差し込み取りつけてください。

知識

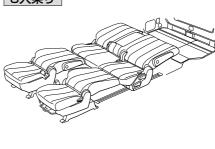
スライドストッパーについて

●はずしたスライドストッパーは紛失しないように大切に保管してください。工具袋に入れておくことをおすすめします。（工具袋についてはP.622をご覧ください。）

●スライドストッパーの取っ手部には矢印が表示してあります。その矢印は、販売店装着オプションのフロアマットを装着した場合に、スライドストッパーを取りつける際の目安となる矢印です。販売店装着オプションのフロアマットに表示されている矢印に、スライドストッパーの取っ手部の矢印をあわせてスライドストッパーを取りつけてください。

フラットシートモードのつくり方

■セカンドシート・サードシートフラット状態

8人乗り

■フロントシート・セカンドシートフラット状態、サードシート格納状態

7人乗り

8人乗り

セカンドシートとサードシート、またはフロントシート・セカンドシート・サードシートを組み合わせて、車内にフラットなスペースをつくることができます。

フラットシートモードにするときは

■セカンドシート・サードシートフラット状態

1 7人乗り車でロングスライドコンソール装着車は、ロングスライドコンソールを前方へスライドさせておく（P.484参照）、センターテーブル装着車ではテーブルを格納しておきます。（P.472参照）

2 セカンドシートの前後位置を一番前へスライドさせます。
P.227参照

3 7人乗り車では、セカンドシートの左右位置を中央にスライドさせます。
P.227参照

4 セカンドシートのヘッドレストを取りはずします。
P.230参照

5 セカンドシートの背もたれを後方いっぱいまで倒します。
P.228参照

6 サードシートの背もたれを後方いっぱいまで倒します。
P.237参照
●サードシートのヘッドレストは、一番下まで下げておいてください。下げておかないと背もたれをうしろにリクライニングさせたときに、ヘッドレストがバックドアに当たります。

■フロントシート・セカンドシートフラット状態、サードシート格納状態

1 サードシートを格納します。
P.248参照

2 フロントシートを一番前へスライドさせます。
P.219参照

3 フロントシートのヘッドレストを取りはずします。
P.222参照

4 フロントシートの背もたれを後方いっぱいまで倒します。
P.219参照

5 7人乗り車でロングスライドコンソール装着車は、ロングスライドコンソールを前方へスライドさせておく（P.484参照)、センターテーブル装着車ではテーブルを格納しておきます。（P.472参照)

6 7人乗り車ではセカンドシートの左右位置を、中央にスライドさせます。
P.227参照

7 セカンドシートのシートクッションが、フロントシートの背もたれに当たる位置まで移動させます。（P.227参照)
セカンドシートのクッションとフロントシートの背もたれがフラットになるようにフロントシートのリクライニング位置を調整します。

8 セカンドシートの背もたれを後方いっぱいまで倒します。
P.228参照

9 必要に応じてセカンドシートのヘッドレストを取りはずします。
P.230参照

もとにもどすときは

逆の手順で行います。

シートをフラットにしたとき、またはもとにもどしたときは、シートを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。

●シートをフラットにしたとき、またはもとにもどしたときは、シートを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となって生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートをフラットにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●走行中にフラットシートの操作をしないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。

●背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。背もたれを押さえずにリクライニング調整すると背もたれが急にもどり、けがをするおそれがあります。
●フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。またシートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動してください。シートを踏みはずしたり、シートの間に足などを挟んだりしてけがをするおそれがあります。
●シートに人が乗っている状態でフラット操作をしないでください。シートが当たるなどしてけがをするおそれがあります。

サイドリフトアップシート装着車について

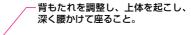
サイドリフトアップシートは、フラット状態にすることができません。

シートベルトの着用

シートベルトの正しい着用

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法にしたがって走行前に運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。

肩部ベルト
肩に十分かけること。（首にかかったり、肩からはずれないこと。）

ねじれていないこと。

腰部ベルト
必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させること。

必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

●車に乗る場合は、全員がシートベルトを着用してください。ベルトを着用しないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに身体がシートに保持されず、身体をぶつけたり、ふくらむＳＲＳエアバッグに飛ばされたり、車外に投げ出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトは上体を起こして、シートに深く腰かけた状態で着用してください。正しい姿勢については、Ｐ.217を参照してください。
- 肩部ベルトは、首にかかったり脇の下を通したりして着用しないでください。必ず肩に十分かかるように着用してください。
- 腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
- シートベルトはねじれがないように着用してください。ねじれていると、衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができません。
- シートベルトは1人用です。2人以上で1本のベルトを使用しないでください。
- シートベルトを着用する場合は、洗たくばさみやクリップなどでたるみをつけないでください。

必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

- シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。衝突したときなどに身体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
- ハンドルやインストルメントパネルに必要以上に近づいて運転しないでください。
- アームレストを使用するときは、必ずシートベルトをアームレストの下に通した状態で正しく着用してください。アームレストにかかった状態で着用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。

●シートベルトやプレートをシートやドアに挟まないようにしてください。シートベルトが傷ついた場合、十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。ひざの上でお子さまを抱いていると、急ブレーキや衝突したときなどに支えきれず、お子さまが放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●妊娠中の女性も必ずシートベルトを着用してください。
(ただし、医師に注意事項をご確認ください。)

- 妊娠中のシートベルトの着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用するようにしてください。
  また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
- ベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●疾患のあるかたも必ずシートベルトを着用してください。
(ただし、医師に注意事項をご確認ください。)

警告　必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

- シートベルトが首やあごに当たったり、腰骨にかからないような小さなお子さまには、チャイルドシート・ジュニアシートを使用してください。使用しない場合、衝突したときなどに強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、ひとり座りのできない小さなお子さまは、ベビーシートを使用してください。なお、子供専用シートについてはトヨタ販売店にご相談ください。
- シートベルトのバックルには異物が入らないようにしてください。異物が入ると、プレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ほつれ・すりきれができたり、正常に作動しなくなったシートベルトは、すぐにトヨタ純正の新品と交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷のついたシートベルトは、使用しないですぐに新品と交換してください。そのまま使用すると、衝突したときなどに正常に働かず、シートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートベルトの改造や分解・取りつけ・取りはずしなどをしないでください。衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。シートベルトの取りつけ・取りはずし・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が落ち、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。

3点式シートベルトの脱着のしかた

フロントシート

セカンドシート左右席

サイドエアバッグ装着車のセカンドシート中央席

サードシート左右席

1 シートベルトを引き出します。

プレートを持って引き出し、ねじれていないことを確認します。
シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

2 プレートをバックルに差し込みます。

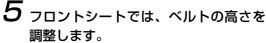
プレートを“カチッ”と音がするまでバックルに差し込みます。
フロントシートベルトは、シートベルト非着用警告灯（P.352参照）が消灯したことを確認してください。

3 腰部ベルトを密着させます。

腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引き、腰部に密着させます。

4 肩部ベルトをかけます。

肩部ベルトは、必ず肩に十分かかるようにします。
このとき、ベルトが首に当たったり、肩からはずれないようにしてください。

5 フロントシートでは、ベルトの高さを調整します。

アジャスタブルシートベルトアンカーでベルトの高さを調整します。
調整するときは、ベルトができるだけ肩の中央にかかるようにしてください。

- ●上げるときはアンカー部を持ち、そのまま動かします。
- ●下げるときは、ロックボタンを押したままアンカー部を動かし、最適な位置に調整します。

“カチッ”と音がし、確実に固定されていることを確認します。

6 はずすときは、バックルのボタンを押します。

ボタン

シートベルトアンカーを調整するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトが首に当たらないように、また肩の中央に十分かかるようできるだけ高い位置に調整してください。

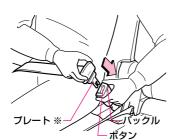
●調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

長さ調整式2点式シートベルトの脱着のしかた

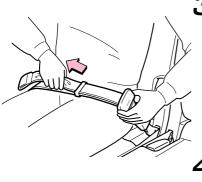
サイドエアバッグ非装着車のセカンドシート中央席

サイドエアバッグ非装着車のサードシート中央席

1 ベルトの長さを調整します。

プレートを図のように持ってベルトを引き、必要な長さより少し長めにします。

2 プレートをバックルに差し込みます。

ベルトにねじれがないようにし、プレートを“カチッ”と音がするまでバックルに差し込みます。

※ 左記のイラストはサードシートのイラストで、セカンドシートは左記のイラストとプレート形状が若干異なります。

3 ベルトを密着させせます。

ベルトを引いて、必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるように密着させせます。

4 はずすときは、バックルのボタンを押します。

はずしたベルトは、バックルにはめておいてください。

分離格納式シートベルトの使い方

サイドエアバッグ装着車のサードシート中央席

■脱着のしかた

1 **シートベルトを引き出しねじれていないことを確認します。**
シートベルトが固定されたまま引き出せないときは、一度ベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

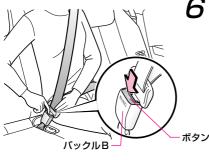
2 **プレートAを“カチッ”と音がするまでバックルAに差し込みます。**

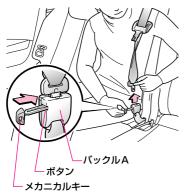
3 **プレートBを“カチッ”と音がするまでバックルBに差し込みます。**

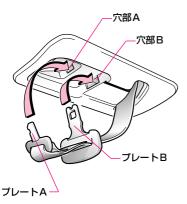
4 腰部ベルトを密着させます。

腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引き、腰部に密着させます。

5 肩部ベルトをかけます。

肩部ベルトは、必ず肩に十分かかるようにします。
このとき、ベルトが首に当たったり、肩からはずれないようにしてください。

6 はずすときは、バックルBのボタンを押します。

■分離・格納のしかた

1 **シートベルトを分離します。**

バックルＡのボタンをメカニカルキーなどを使って押します。
（P.161参照）

2 **シートベルトを巻き取らせ、プレートを差し込み格納します。**

プレートＢの先端部をホルダーの穴部Ｂに差し込んでから、プレートＡの先端部をホルダーの穴部Ａに差し込みプレートを格納します。

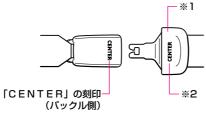
⚠警告 サードシートを格納するときは、必ずシートベルトを分離格納してください。

●サードシートを格納するときは必ずシートベルトを分離格納してください。分離格納しないままサードシートの格納操作を行うと、シートベルトが背もたれなどに挟まれて傷つくおそれがあり、傷ついたまま使用するとシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●分離格納式シートベルトを使用するときは、必ずプレートＡとバックルＡを結合してください。結合しない状態で使用すると、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

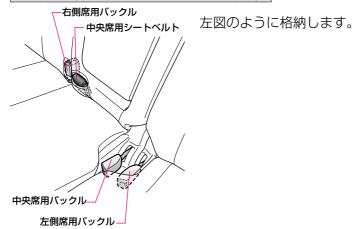
知 識

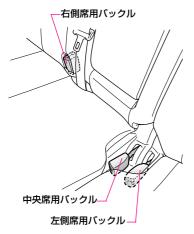
セカンドシート／サードシート中央席シートベルトの結合について

中央席用のシートベルトはバックルに「ＣＥＮＴＥＲ」の刻印があるものと結合してください。左右席用のベルトとは結合できません。

※1 プレートの形状はセカンドシート・サードシート、3点式シートベルト・2点式シートベルトにより異なります。
※2 2点式シートベルトには、プレート側にも「ＣＥＮＴＥＲ」の刻印があります。（3点式にはありません。）

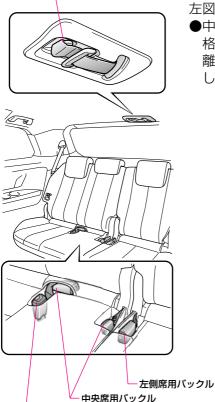
リヤシートベルトの格納のしかた

セカンドシートベルトの格納

8人乗り（中央席2点式シートベルト装着車）

左図のように格納します。

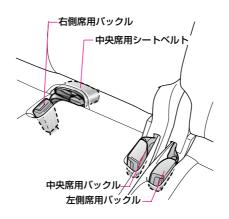
8人乗り（中央席3点式シートベルト装着車）

左図のように格納します。

サードシートベルトの格納

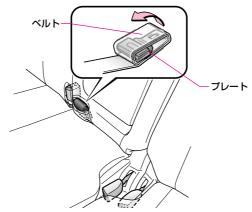
中央席分離格納式シートベルト装着車

左図のように格納します。

●中央席分離格納式シートベルトの分離・格納のしかたについては、P.278の「分離格納式シートベルトの使い方」を参照してください。

中央席分離格納式シートベルト装着車を除く

下図のように格納します。

リヤシートベルトはバックルをシートの中に押し込んだ状態で使用しないでください。押し込んだままの状態で使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

中央席用シートベルト（2点式）の格納について

中央席用シートベルト（2点式）を格納するときは、ベルトをプレートに巻きつけてから格納してください。

チャイルドシートの固定

ＩSOFＩX対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーでの固定

セカンドシート左右席（サイドリフトアップシートを除く）

ＩＳＯ※ＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー ＆ トップテザーアンカーには、ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー ＆ トップテザーアンカー対応のチャイルドシート・ベビーシートのみ取りつけることができます。お子さまに最適な子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。

※ International Organization for Standardizationの略で「国際標準化機構」の意味。

取りつけ位置について

■ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バーの取りつけ位置

7人乗り

8人乗り

※ グレード等によりタグの取りつけ位置が異なる場合があります。

シートクッションと背もたれの間にあります。

●固定専用バーが装備されていることを示すタグ（表面「LATCH」・裏面「ISOFIX」）がシートについています。

■トップテザーアンカーの取りつけ位置

7人乗り

マーク

トップテザーアンカー

8人乗り

マーク

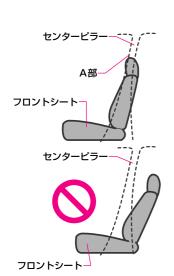
トップテザーアンカー

シートクッションうしろ側にあります。

●トップテザーアンカーが装備されていることを示すマークがあります。

取りつけるときは

1 **セカンドシートの前後位置を一番うしろに調整します。**
P.227参照

2 **セカンドシートのヘッドレストを“カチッ”と音がするところまで引き上げます。（P.230参照）**
ヘッドレストが固定されていることを確認してください。

3 **フロントシートのヘッドレスト前側がセンターピラー前側（A部）より前になるようにシートの前後位置・リクライニング調整をしてください。**
P.219参照

4 **固定専用バーとトップテザーアンカーの位置を確認します。**
P.285、286参照

5 子供専用シート（チャイルドシート、ベビーシート）をセカンドシートに取りつけます。

適合する子供専用シートの取りつけ金具を、固定専用バーに取りつけます。次にテザーベルトをトップテザーアンカーに取りつけます。

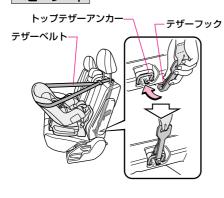
＊取りつけ方法および取りはずし方は、それぞれの商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

●シートの背もたれおよびシートクッションと子供専用シートとの間にすき間ができないように、シートの背もたれの角度を調整してから取りつけてください。

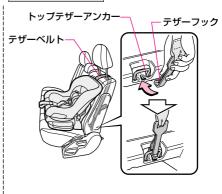
●テザーベルトがねじれないように下図のようにヘッドレストの間に通し、テザーフックを車両側トップテザーアンカーに掛けます。

●テザーベルトがピンと張るまでＡ部を強く引っ張って、子供専用シートを固定します。

■子供専用シートの取りつけ例

ベビーシート

チャイルドシート

※ イラストは説明のためのものであり、実際の子供専用シートの形状とは異なります。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

6 確実に固定されていることを確認します。

取りつけた子供専用シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

子供専用シートが固定されていることを必ず確認してください。

●正しく取りつけられていないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
なお、子供専用シートによっては、取りつけができない、または取りつけが困難な場合があります。

●子供専用シートを取りつけるときは、ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。異物やシートベルトなどをかみ込むと、子供専用シートが固定されず、衝突したときなどに飛ばされて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●子供専用シートを取りつけるときは、必ずテザーベルトがピンと張るまで張力を掛けてください。テザーベルトが正しく張っていないと、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

テザーベルトは必ずヘッドレストの下を通してください。

●テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。ヘッドレストの上にかけると、子供専用シートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●子供専用シートの取り扱いについては、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車両に子供専用シートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取りつけてください。子供専用シートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

知 識

ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーについて

このＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーには、エスティマ指定の道路運送車両の保安基準に適合する子供専用シート（ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカー対応のトヨタ純正チャイルドシート・ベビーシート）のみ取りつけることができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

サイドリフトアップシート装着車について

サイドリフトアップシートには、固定専用バーとトップテザーアンカーはありません。シートベルトで固定してください。（次ページ参照）

シートベルトでの固定

取りつけるときは

3点式シートベルト

チャイルドシートにシートベルトを取りつけ、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで差し込みます。
その際ベルトがねじれていないことを確認します。

- ●チャイルドシートに付属の取扱書にしたがい、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定します。

- ●ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ 品番：73119-22010）

取りつけたあとはチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

※ イラストは説明のためのものであり、実際の子供専用シートの形状とは異なります。

子供専用シートの取りつけは、必ず商品に付属の取り扱い説明書をよくお読みのうえ、正しく取りつけてください。

●正しく取りつけられていないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
なお、子供専用シートによっては、取りつけができない、または取りつけが困難な場合があります。

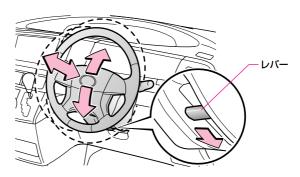
●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。お子さまがシートベルトで遊んで万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●子供専用シートの取り扱いについては、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車両に子供専用シートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取りつけてください。子供専用シートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

道路運送車両の保安基準に適合するＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカー対応のトヨタ純正子供専用シートは、ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定し、この車のシートベルトでは固定しないでください。
（ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーについては、P.285の「ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーでの固定」を参照してください。）

ハンドル・ミラーの調整

ハンドルの調整

レバーを押し下げ、ハンドルを上下、前後に動かし適切な位置にして、レバーを引き上げると固定されます。

警告　走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

- 走行中はハンドル位置の調整をしないでください。調整中に運転を誤り、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ハンドル位置を調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

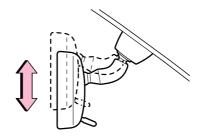
注意　ハンドル位置を調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、ホーンが鳴らない場合があります。

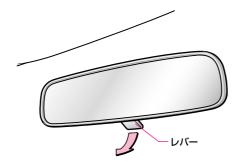
知識

パワーステアリングの作動音について

ハンドル操作を行ったとき、“ウィーン”というモーター音が聞こえることがあります。これは、パワーステアリングが作動しているときの音で異常ではありません。

インナーミラーの調整

上下調整のしかた

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整します。

防眩切り替えのしかた

通常はミラー下側のレバーを前方に押した状態で使用します。
後続車のヘッドランプがまぶしいときは、レバーを手前に引きます。

走行中は、インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ドアミラーの調整

鏡面角度調整のしかた

1 調整する側のメインスイッチを押します。

R…右側ドアミラー
L…左側ドアミラー

2 角度を調整します。

位置調整スイッチでミラーの角度を調整します。

3 メインスイッチを中立にします。

調整したあとは、メインスイッチを中立の位置にもどします。

格納のしかた

	スイッチの状態	ミラーの状態
ＯＮ（格納）		
ＯＦＦ（復帰）		

格納スイッチを押すごとに、ＯＮ（格納）とＯＦＦ（復帰）に切り替わります。“エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦのときは、手で格納・復帰させることもできます。

走行中は、ドアミラーの調整をしないでください。

●走行中は、ドアミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●ドアミラーを倒したまま走行しないでください。ドアミラーによる後方確認ができず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ドアミラーが動いているときは手を触れたりしないでください。手を挟んでけがをしたり、ドアミラーの故障などの原因となるおそれがあります。

作動条件について

●“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードのとき使用できます。
●ドアミラー格納作動中に、“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにすると、格納作動が停止します。
●次の場合は、ドアミラーを手で格納・復帰させても、ミラーは格納スイッチの状態にもどります。
  • 手動で操作したあとに、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードにしたとき。
●格納スイッチがＯＦＦ（復帰）の状態で、手でドアミラーを前方に倒したときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードにしても、ミラーは復帰しません。一度格納スイッチをＯＮ（格納）にしてから、再度格納スイッチをＯＦＦにして復帰させてください。

ミラーヒーターの使い方

寒冷地仕様車

リヤウインドゥデフォッガースイッチを押すと約15分間作動し、作動中にもう一度押すと停止します。

●作動中は作動表示灯が点灯します。

作動中はドアミラーの表面が熱くなりますので、手を触れないでください。やけどをするおそれがあり危険です。

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

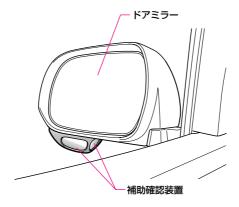
知 識

ミラーヒーターについて

●ドアミラーの鏡面を暖めて、霜、露、雨滴などを取り除きます。
●ミラーヒーターと同時にリヤウインドゥデフォッガー（P.374参照）も作動します。

作動条件について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

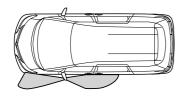
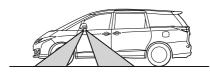
補助確認装置

補助確認装置が助手席側ドアミラー下部にあります。

補助確認装置に汚れが付着しているときは、拭き取ってください。

●補助確認装置の鏡面部に汚れなどが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れを拭き取ってください。そのままにしておくと視界のさまたげとなるおそれがあります。
●車両直前・直左部や後方の確認は直接確認するか、インナーミラー、ドアミラーなども併用して十分行ってください。

補助確認装置について

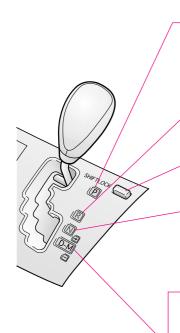
発進時またはごく低速時に左側車両側面を確認するときに役立ちます。
●ミラーの鏡面は固定式ですので鏡面を動かしてミラーの調整をすることはできません。

ミラーに映るおよその範囲

※身長・シート位置により、確認できる範囲は異なります。

シフトレバーの使い方

Super　CVT－i 装着車のシフトレバーの使い方

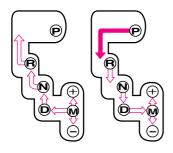
2.4L車

シフトレバーの働き

P (パーキング)	**駐車およびエンジン始動** 駐車のときは、必ずこの位置にしてください。
R (リバース)	**後退** ギヤが後退に固定されます。 ブザーが鳴り、Ⓡにあることを運転者に知らせます。

シフトロック解除ボタン（P.306参照）

N (ニュートラル)	**動力が伝わらない状態** この位置でもエンジンは始動できますが、安全のためⓅで行ってください。
D (ドライブ)	**通常走行（前進）** スピードとアクセルの踏み加減に応じて変速します。
M (マニュアル)	**スポーツシーケンシャルシフト走行（前進）** スポーツシーケンシャルシフトモードになります。(P.303参照)

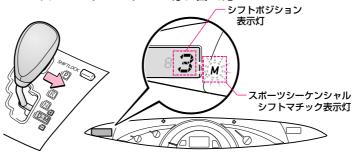
シフトレバーの取り扱い

■**シフトレバーの操作**

Ⓟとⓓの間の操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをゲートにそって動かします。

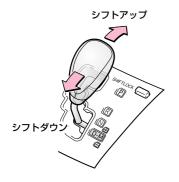
シフトレバーをゲートにそって**そのまま**動かします。

スポーツシーケンシャルシフトモードの使い方

■スポーツシーケンシャルシフトモードへの切り替え方

シフトレバーをⓂにすると、スポーツシーケンシャルシフトモードになり、シフトレバーを＋側または－側に操作することによって、変速段を切り替えることができます。

●スポーツシーケンシャルシフトモードにすると、スポーツシーケンシャルシフトマチック表示灯が点灯します。（P.329参照）

●シフトレバーをⒹにすると、スポーツシーケンシャルシフトモードが解除され、通常の制御にもどります。

■シフトチェンジのしかた

シフトアップするときは、シフトレバーを＋側に動かします。
シフトダウンするときは、シフトレバーを－側に動かします。

●シフトレバーを操作するごとに、1段ずつ変速します。

$$1 \underset{-}{\overset{+}{\rightleftarrows}} 2 \underset{-}{\overset{+}{\rightleftarrows}} 3 \underset{-}{\overset{+}{\rightleftarrows}} 4 \underset{-}{\overset{+}{\rightleftarrows}} 5 \underset{-}{\overset{+}{\rightleftarrows}} 6 \underset{-}{\overset{+}{\rightleftarrows}} 7$$

●1～7の間で選択されている変速段がシフトポジション表示灯に表示されます。（P.329参照）

■各変速段の働き

7	変速段が7に固定されます。
6	変速段が6に固定されます。
5	変速段が5に固定されます。
4	変速段が4に固定されます。
3	変速段が3に固定されます。
2	変速段が2に固定されます。
1	変速段が1に固定されます。

知識

スポーツシーケンシャルシフトモードの変速段について

●M1以外で走行したあと、停車すると自動的にM1へシフトダウンされます。停車後、走行するときはM1からの発進となります。
●停車時はM1に固定されます。
●走行中にシフトレバーを動かして変速させなくても、エンジン回転数が規定の回転数以上になった場合は自動的に1段シフトアップします。また、規定の回転数以下になった場合は自動的に1段シフトダウンします。

警告ブザーについて

安全のため、または走行性能を確保するため、シフト操作には制限があり、希望する変速段にシフトされない場合があります。シフト操作によるシフトダウンが行われない場合は警告ブザーが鳴ります。

システムの異常ついて

シフトレバーをⓂにしても、スポーツシーケンシャルシフトマチック表示灯が点灯しないときは、システムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーをⒹにしているときと同じ制御になります。

知識

安全機能について

シフトロックシステム

オートマチック車のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

●ブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーをⓅからレバー操作できません。
- “ エンジン スタート ストップ ”スイッチがアクセサリーモードまたはＯＦＦのときは、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。
- シフトレバーを助手席側に倒したままブレーキペダルを踏むと、操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み込んで、操作してください。

●シフトレバーがⓅ以外では“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをＯＦＦにすることはできません。
- “ エンジン スタート ストップ ”スイッチをＯＦＦにするときは、シフトレバーをⓅに入れてください。
  Ⓟ以外でスイッチを押すとスイッチはアクセサリーモードになります。

●Ⓡにすると、ブザーが鳴ります。
- ブザーが鳴り、Ⓡにあることを運転者に知らせます。
- 車外の人には音は聞こえませんのでご注意ください。（車外の人に対する警告音ではありません。）

シフトロック解除ボタンの使い方

万一、シフトレバーがⓅから操作できないときに使用します。

●ブレーキペダルを踏んだ状態で、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをアクセサリーモードにして、シフトロック解除ボタンを押しながらレバーを操作してください。

●シフトロックシステムなどの故障が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

Super ＥＣＴ装着車のシフトレバーの使い方

3.5Ｌ車

シフトレバーの働き

駐車およびエンジン始動
駐車のときは、必ずこの位置にしてください。

シフトロック解除ボタン（P.312参照）

後退
ギヤが後退に固定されます。
ブザーが鳴り、Ⓡにあることを運転者に知らせます。

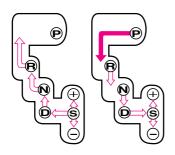
動力が伝わらない状態
この位置でもエンジンは始動できますが、安全のためⓅで行ってください。

通常走行（前進）
スピードとアクセルの踏み加減に応じて変速します。

シーケンシャルシフト走行（前進）
シーケンシャルシフトモードになります。（P.309参照）

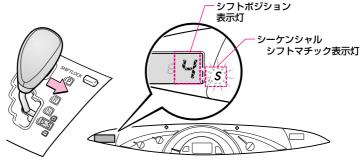
シフトレバーの取り扱い

■**シフトレバーの操作**

ⓅとⒹの間の操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをゲートにそって動かします。

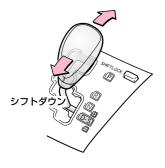
シフトレバーをゲートにそって**そのまま**動かします。

シーケンシャルシフトモードの使い方

■シーケンシャルシフトモードへの切り替え方

シフトレバーをⓈにすると、シーケンシャルシフトモードになり、シフトレバーを＋側または－側に操作することによって、シフトレンジを切り替えることができます。

●シーケンシャルシフトモードにすると、シーケンシャルシフトマチック表示灯が点灯します。（P.329参照）

●シフトレバーをⒹにすると、シーケンシャルシフトモードが解除され、通常の制御にもどります。

■シフトチェンジのしかた

シフトアップするときは、シフトレバーを＋側に動かします。

シフトダウンするときは、シフトレバーを－側に動かします。

●シフトレバーを操作するごとに、1段ずつ変速します。

●1～6の間で選択されているシフトレンジがシフトポジション表示灯に表示されます。（P.329参照）

■各シフトレンジの働き

スピードや走行条件に応じて、1速から6速のギヤが自動的にかわります。

スピードや走行条件に応じて、1速から5速のギヤが自動的にかわります。

スピードや走行条件に応じて、1速から4速のギヤが自動的にかわります。

スピードや走行条件に応じて、1速から3速のギヤが自動的にかわります。

●下り坂では軽いエンジンブレーキが得られます。

●上り坂では変速回数の少ないなめらかな走行ができます。

スピードや走行条件に応じて、1速または2速のギヤが自動的にかわります。

●エンジンブレーキが必要な場合に使います。

ギヤが1速に固定されます。

●強力なエンジンブレーキが必要な場合に使います。

知識

シフトレバーを🅓から🅢へ切り替えたときのシフトレンジ表示について

通常は❺、または❹が表示されます。
ただし、ＡＩ－ＳＨＩＦＴ（P.521参照）が作動しているときに🅢にすると、ＡＩ－ＳＨＩＦＴが解除され、そのとき自動的に選択されていたシフトレンジ（❺、❹、❸のいずれか）が表示される場合があります。

知識

警告ブザーについて

安全のため、または走行性能を確保するため、シフト操作には制限があり、希望する変速段にシフトされない場合があります。シフト操作によるシフトダウンが行われない場合は警告ブザーが鳴ります。

システムの異常ついて

シフトレバーをⓈにしても、シーケンシャルシフトマチック表示灯が点灯しないときは、システムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーをⒹにしているときと同じ制御になります。

安全機能について

シフトロックシステム

オートマチック車のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

●ブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーをⓅからレバー操作できません。
- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはＯＦＦのときは、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。
- シフトレバーを助手席側に倒したままブレーキペダルを踏むと、操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み込んで、操作してください。

●シフトレバーがⓅ以外では “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをＯＦＦにすることはできません。
- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをＯＦＦにするときは、シフトレバーをⓅに入れてください。
  Ⓟ以外でスイッチを押すとスイッチはアクセサリーモードになります。

●Ⓡにすると、ブザーが鳴ります。
- ブザーが鳴り、Ⓡにあることを運転者に知らせます。
- 車外の人には音は聞こえませんのでご注意ください。（車外の人に対する警告音ではありません。）

シフトロック解除ボタンの使い方

万一、シフトレバーがⓅから操作できないときに使用します。

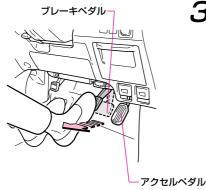
●ブレーキペダルを踏んだ状態で、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードにして、シフトロック解除ボタンを押しながらレバーを操作してください。

●シフトロックシステムなどの故障が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

発進のしかた

通常発進のしかた

1 ブレーキペダルを右足でしっかり踏んだまま、シフトレバーをⒹに入れます。

2 左足でパーキングブレーキを解除します。
P.321参照

3 ブレーキペダルを徐々にゆるめてから、右足でアクセルペダルをゆっくり踏み発進します。

上り坂の発進のしかた

1 パーキングブレーキがしっかりかかっていることを確認してから、シフトレバーをⒹに入れます。

2 右足でアクセルペダルをゆっくり踏みます。

3 車が動き出す感触を確認してから、左足でパーキングブレーキを解除し、発進します。

警告　ブレーキペダルを右足でしっかり踏んだまま、シフトレバーを操作してください。

●発進するときは、ブレーキペダルを右足でしっかり踏んだまま、シフトレバーを操作してください。とくにエンジン始動直後やエアコン作動時などは、クリープ現象が強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。
●運転するときは、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を必ず確認して、踏み間違いのないようにしてください。アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●アクセルペダルを踏み込んだままでのシフトレバー操作は絶対に行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

S-VSC装着車

S-VSC装着車には、ヒルスタートアシストコントロールが装備されています。（次ページ参照）
ヒルスタートアシストコントロールは、急な上り坂やすべりやすい上り坂を発進するときに、車両の後退を防止し発進を容易に行うことができます。詳しくは、P.315を参照してください。

ヒルスタートアシストコントロールの使い方

S-VSC装着車

1 車両が完全に停止している状態で、更にブレーキペダルを踏み込みます。

ブレーキペダルを更に踏み込むと“ピッ”とブザーが鳴り、スリップ表示灯（P.333参照）が点滅します。

2 ブレーキペダルから足を離すと、ヒルスタートアシストコントロールが作動し、車両の後退を防止します。

ヒルスタートアシストコントロールの作動時間は、ブレーキペダルから足を離してから約2秒間です。

- ●ヒルスタートアシストコントロールが解除されると“ピッピッ”とブザーが鳴り、スリップ表示灯が消灯します。

3 アクセルペダルを踏むと、ヒルスタートアシストコントロールは解除されます。

ヒルスタートアシストは、徐々に作動を解除します。

- ●このとき、制御終了を知らせるブザーは鳴らず、スリップ表示灯は消灯します。

ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。極端に急な上り坂、凍結した上り坂、泥状の上り坂では発進が困難な場合があります。慎重に発進してください。
●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための装置ではありません。坂道での長時間の駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●ヒルスタートアシストコントロール作動中に、“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにしないでください。ヒルスタートアシストコントロールが解除され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知 識

ヒルスタートアシストコントロールについて

●ヒルスタートアシストコントロールが作動しているときは、ブレーキペダルを踏んでいなくても制動灯が点灯します。
●ブレーキペダルを踏み込んでもスリップ表示灯が点滅せず、ブザーが鳴らないときは、一度ブレーキペダルの踏む力を弱めてください。その後もう一度ブレーキペダルを踏み込んでください。
それでも作動しないときは以下の作動条件を確認してください。

ヒルスタートアシストコントロールの作動条件について

●以下の状態のときに、ヒルスタートアシストコントロールは作動します。
- シフトレバーが🅟以外の位置のとき
- パーキングブレーキがかかっていないとき
- アクセルペダルを踏んでいないとき

●スリップ表示灯が点灯しているときは、ヒルスタートアシストコントロールは作動しません。

ヒルスタートアシストコントロール制御ブザーについて

●ヒルスタートアシストコントロールが制御開始状態になると“ピッ”とブザーが1回鳴ります。（シフトレバーが🅡の位置以外）
●ヒルスタートアシストコントロールが作動中に以下の状態になると、制御終了状態になり“ピッピッ”とブザーが2回鳴ります。（シフトレバーが🅡の位置以外）
- ブレーキペダルから足を離して、約2秒間運転操作を行わなかったとき
- シフトレバーを🅟の位置にしたとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- ブレーキペダルを再度踏み込んだとき

●シフトレバーが🅡での使用時は、ヒルスタートアシストコントロールの制御開始、終了を知らせるブザーは鳴らず、スリップ表示灯の点滅、消灯で作動状態をお知らせします。

走行のしかた

通常の走行

シフトレバーをⒹに入れたまま走行します。
●アクセルとブレーキの操作だけで、加速・減速します。

急加速するには

アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。キックダウンし、急加速します。

坂道で走行するときは

■上り坂

2.4L車

シフトレバーをⓂにして、坂道に応じた変速段で走行することによりなめらかな走行ができます。

3.5L車

アクセルペダルを踏み込んでいくとキックダウンし、急にエンジン回転が上がることがあります。
必要に応じてシフトレバーをⓈにして4速または3速にしておくと、エンジン回転数の変化を抑えることができます。

■下り坂

フットブレーキを使いすぎると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。
シフトレバーがⒹのままでスピードが出すぎるときは、

2.4L車

シフトレバーをⓂにして、坂道に応じた変速段でエンジンブレーキを併用します。

3.5L車

シフトレバーをⓈにして、3速、2速または1速で走行します。
●シフトレバーを4速にすることによっても軽いエンジンブレーキが得られます。

走行中にはシフトレバーをⓃに入れないでください。

●走行中にはシフトレバーをⓃに入れないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●前進で走行中は、シフトレバーをⓇに入れないでください。車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、オートマチックトランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。
●ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●坂道などでは、シフトレバーを2.4Ｌ車ではⒹ・Ⓜ、3.5Ｌ車ではⒹ・Ⓢにしたまま惰性で後退したり、Ⓡにしたまま惰性で前進することは絶対にしないでください。エンストして、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、故障や思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

シフトレバーをⓃにしたままで走行すると、トランスミッションの故障の原因となるおそれがあります。

知識

レーダークルーズコントロール・クルーズコントロール使用時のエンジンブレーキについて

レーダークルーズコントロール・クルーズコントロールを使用しているときに、シフトレバーを3.5Ｌ車ではⒹ・Ⓢ、2.4Ｌ車ではⒹ・Ⓜにしてもクルーズコントロールが解除されていないため、エンジンブレーキは効きません。減速が必要なときはクルーズコントロールスイッチで設定速度をかえる（P.402、407、408）かブレーキペダルを踏みます。

停車・駐車のしかた

停車のしかた

1 車を止めます。シフトレバーはⒹのまま、右足でブレーキペダルをしっかり踏みます。

エアコンは温度変化により断続的に作動します。作動中は自動的にアイドルアップし、クリープ現象が強くなりますので、車が動き出さないようにとくに注意してください。

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかけます。

上り坂での停車は、クリープ現象で前へ進もうとする力よりも、車が後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退するおそれがあります。
右足でブレーキペダルをしっかりと踏み、左足でしっかりとパーキングブレーキをかけてください。

3 長時間停車する場合は、シフトレバーをⓅまたはⓃに入れます。

駐車のしかた

1 **車を完全に止めます。**

2 **パーキングブレーキをかけます。**
右足でブレーキペダルをしっかりと踏んだまま、左足でパーキングブレーキをしっかりかけます。

3 **シフトレバーを🅟に入れます。**
車が動き出さないためにも、必ず🅟に入れてください。

4 **“エンジンスタートストップ”スイッチを押して、エンジンを停止します。**
車を離れるときは、必ずエンジンを停止して、ドアを施錠してください。

警告 **走行中は、シフトレバーを🅟に入れないでください。**

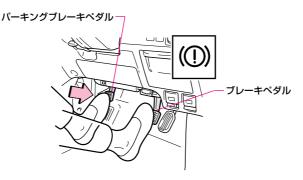
●走行中はシフトレバーを🅟に入れないでください。オートマチックトランスミッションの内部が機械的にロックされ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●停車中は空ぶかしをしないでください。シフトレバーが🅟・🅝以外にあると、車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意 **車から離れるときは、必ずエンジンを停止してドアを施錠してください。**

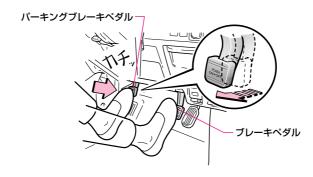
●エンジンをかけたままにしておくと、万一、シフトレバーが🅟以外にあるときに、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。
●アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でシフトレバーを🅓のままアクセルをふかしながら止まらないでください。オートマチックトランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

パーキングブレーキペダルの使い方

パーキングブレーキペダルの取り扱い

パーキングブレーキをかけるには

右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。

● “ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッションＯＮモードのときはブレーキ警告灯が点灯します。

パーキングブレーキを解除するには

右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルを“カチッ”と音がするまで踏み込み、ゆっくり離します。

●ブレーキ警告灯が消灯します。

パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

かけなおすときは

パーキングブレーキをかけたあと、かけなおしたい場合は、一度解除してから踏みなおします。

警告ブザーについて

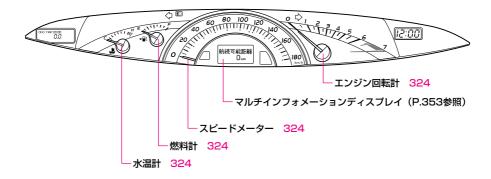
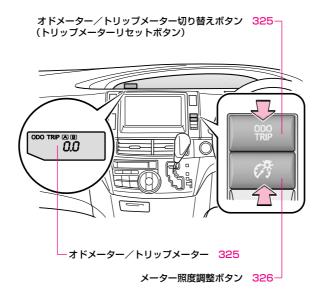
パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、車速が約5 km/hになると、警告ブザーが鳴ります。

冬季のパーキングブレーキの使用について

P.550の「駐車するときは」をお読みください。

メーター・表示灯・警告灯の見方

メーター

知 識

メーターについて

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにしたときなどに、メーター内の指針がゼロ目盛り付近で短時間微動する場合がありますが、異常ではありません。

燃料計

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき、燃料残量を示します。
燃料タンク容量は約65 Ｌです。

知 識

燃料計について

●坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、指針がふれることがあります。
●燃料補給後、指示が安定するまで少し時間がかかります。
● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのまま燃料を補給すると、正しい燃料残量が表示できません。
●燃料計にある ◂⛽ 印はフューエルリッド（燃料補給口）が助手席側にあることを示しています。

スピードメーター

車両の走行速度を示します。

エンジン回転計

毎分のエンジン回転数を示します。

指針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないように運転してください。指針がレッドゾーンに入る運転を続けると、エンジンなどに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。

水温計

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき、エンジン冷却水の温度を示します。

指針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、P.660の「オーバーヒートしたときは」にしたがって処置をしてください。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

オドメーター／トリップメーター

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき、次の表示をします。

■オドメーター

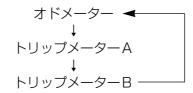
走行した総距離をkmの単位で示します。

■トリップメーター

2種類の区間距離（トリップA、トリップB）をkmの単位で示します。

オドメーター／トリップメーター切り替えボタン（トリップメーターリセットボタン）

■オドメーターとトリップメーターの表示の切り替え方

切り替えボタンを押すごとに、次のように表示が切り替わります。

■トリップメーターを0（ゼロ）にもどすときは

トリップメーターA、トリップメーターBのうち0にしたいほうを表示させてから、リセットボタンを表示が0になるまで押し続けます。

バッテリーとの接続が断たれたときは、トリップメーターは0になります。

メーター照度調整ボタン

Xグレードを除く

メーター照度調整スイッチを押すごとに、メーター照明の明るさを調整できます。

●5段階で明るさのレベルを調整することができます。

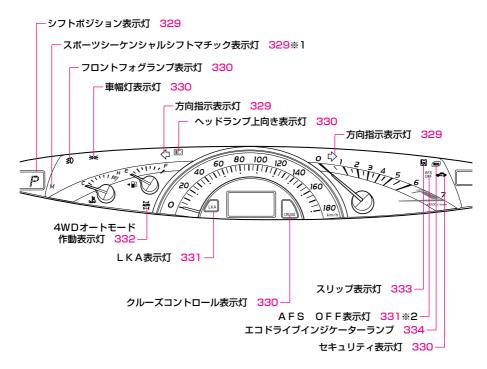
●ライト消灯時と点灯時で、それぞれの明るさのレベルを設定できます。

作動条件について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

減光について

周囲が暗いときにライトを点灯すると、メーター照明が減光されます。周囲が明るいときに（昼間など）ライトを点灯しても、メーター照明は減光されません。

表示灯

※1 3.5Ｌ車はⓈの表示でシーケンシャルシフトマチック表示灯（P.329参照）になります。
※2 マルチインフォメーションディスプレイ非装着車はクルーズコントロール表示灯（P.330参照）になります。

図ではすべてのグレードにおける表示灯を掲載しています。実際の車に設定される表示灯はグレード等により異なります。

〈表示灯一覧表〉

表示灯	表示灯名	表示灯	表示灯名
D	シフトポジション表示灯		セキュリティ表示灯
M	スポーツシーケンシャル シフトマチック表示灯	CRUISE	クルーズコントロール 表示灯
S	シーケンシャル シフトマチック表示灯	AFS OFF	ＡＦＳ　ＯＦＦ表示灯
	方向指示表示灯	LKA	ＬＫＡ表示灯
	ヘッドランプ上向き 表示灯	AUTO	4ＷＤオートモード 作動表示灯
	車幅灯表示灯		スリップ表示灯
	フロントフォグランプ 表示灯	ECO	エコドライブ インジケーターランプ

シフトポジション表示灯

選択しているシフトポジションが次のように表示されます。

●2.4Ｌ車：Ⓟ Ⓡ Ⓝ Ⓓ（❶〜❼※1）

●3.5Ｌ車：Ⓟ Ⓡ Ⓝ Ⓓ（❶〜❻※2）

※1 シフトポジションがⓂのとき表示されます。

※2 シフトポジションがⓈのとき表示されます。

M

スポーツシーケンシャルシフトマチック表示灯

2.4Ｌ車

シフトレバーをⓂにしてスポーツシーケンシャルシフトモードにすると点灯します。（P.303参照）

S

シーケンシャルシフトマチック表示灯

3.5Ｌ車

シフトレバーをⓈにしてシーケンシャルシフトモードにすると点灯します。（P.309参照）

方向指示表示灯

方向指示灯、非常点滅灯を作動させると点滅します。
（P.366、376参照）

知識

点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。

ヘッドランプ上向き表示灯

ヘッドランプを上向きにすると点灯します。(P.365参照)

車幅灯表示灯

車幅灯、尾灯を点灯させると点灯します。(P.363参照)

フロントフォグランプ表示灯

フロントフォグランプを点灯させると点灯します。(P.369参照)

セキュリティ表示灯

盗難防止システムが作動状態になると点滅します。(P.213、520参照)

CRUISE

クルーズコントロール表示灯

クルーズコントロールメインスイッチを押してシステムをＯＮにすると点灯します。
その後、システムに異常があると点滅します。(P.381、411参照)

AFS OFF

ＡＦＳ　ＯＦＦ表示灯

インテリジェントＡＦＳ装着車

ＡＦＳ　ＯＦＦスイッチを押してインテリジェントＡＦＳを作動停止状態にすると点灯します。（Ｐ.379参照）
インテリジェントＡＦＳまたはディスチャージヘッドランプのオートレベリングシステムに異常があると点滅します。（ディスチャージヘッドランプについてはＰ.531参照）
ＡＦＳ　ＯＦＦ表示灯が点滅しているときは、インテリジェントＡＦＳまたはオートレベリングシステムは作動しませんがヘッドランプは点灯しますので通常走行には支障ありません。

表示灯が点滅しているときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

表示灯について

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードまたはエンジンを始動すると点灯し、数秒後に消灯します。

LKA

ＬＫＡ表示灯

レーンキーピングアシスト装着車

レーンキーピングアシストスイッチを押してシステムをＯＮにすると点灯します。
その後、システムに異常があると点滅します。（Ｐ.423参照）

4WDオートモード作動表示灯

4WD車

●ＦＦモードのときに4WDオートモードスイッチを押すと数回点滅したあと、4WDオートモードになり点灯します。（P.377参照）

●4WDオートモードのとき、4WDオートモードスイッチを押すとＦＦモードになり、消灯します。

表示灯について

●ＦＦモードのときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。4WDオートモードのときは、スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯します。

●4WDオートモードで走行中、前後輪の回転速度の差が大きい状態が長時間続いた場合などには、4WDオートモード作動表示灯が点滅します。
作動表示灯の点滅中は駆動系部品の保護のため、後輪への駆動力配分を休止し、ＦＦモードとなります。
この場合は、エンジンをかけたまま以下の対応を行ってください。
- 警告灯が消灯するまで車速を落とす。
- 警告灯が消灯するまで停車する。（エンジンは停止しない）

●4WDシステムに異常が発生したときには、4WDオートモード作動表示灯が消灯することがあります。この場合には、4WDオートモードスイッチの状態にかかわらずＦＦモードとなります。

スリップ表示灯

S-ＶＳＣ装着車

エンジン回転中の次のときに点滅します。

●ＴＲＣシステムが作動したとき。（ＴＲＣシステム）
→Ｐ.525参照。

●車両が横すべりしそうになったとき。（S-ＶＳＣシステム）
→Ｐ.527参照。

●ヒルスタートアシストコントロールが作動したとき
→Ｐ.528参照。

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにしても点灯しないときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知 識

表示灯について

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

■S-ＶＳＣ作動警告ブザー

車両が横すべりしそうになったときに断続音が鳴ります。

知 識

作動について

運転状況によっては、スリップ表示灯の点滅のみで警告する場合があります。

ECO

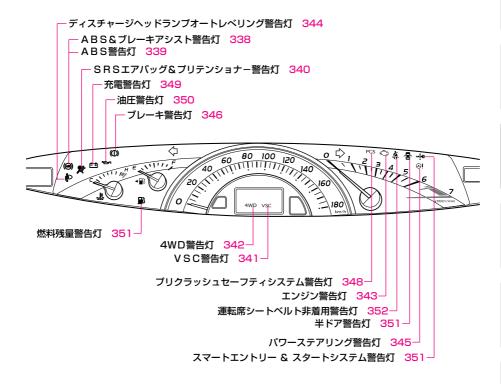
エコドライブインジケーターランプ

二酸化炭素排出量の少ない運転をしているときに点灯してお知らせします。（シフトポジションをDで走行時）

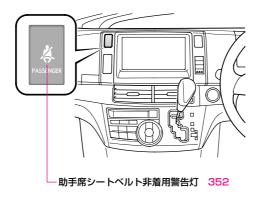
表示灯について

必要以上にアクセルペダルを踏むと消灯します。

警告灯

■メーター内

図ではすべてのグレードにおける警告灯を掲載しています。実際の車に設定される警告灯はグレード等により異なります。

■インパネ中央

助手席シートベルト非着用警告灯　352

〈警告灯一覧表〉

警告灯	警告灯名	警告灯	警告灯名
(ABS)	ＡＢＳ＆ブレーキアシスト警告灯 ＡＢＳ警告灯	PCS	プリクラッシュセーフティシステム警告灯
	ＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯		充電警告灯
VSC	ＶＳＣ警告灯		油圧警告灯
4WD	4WD警告灯		燃料残量警告灯
	エンジン警告灯		半ドア警告灯
	ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯		スマートエントリー ＆スタートシステム警告灯
	パワーステアリング警告灯		運転席シートベルト非着用警告灯
	ブレーキ警告灯	PASSENGER	助手席シートベルト非着用警告灯

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ＡＢＳ＆ブレーキアシスト警告灯

S-ＶＳＣ装着車

ＡＢＳ＆ブレーキアシストシステム（P.512参照）に異常があると点灯します。

●警告灯が点灯しているときは、ＡＢＳ＆ブレーキアシストシステムは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されています。

●警告灯が点灯しているときは、ＡＢＳが作動しないため急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時には、タイヤがロックすることがあります。

ブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときはただちに停車してください。

●警告灯がブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。この場合、ＡＢＳに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

●警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- “エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにしても点灯しないとき。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションＯＮモードで点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき。

なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知 識

警告灯について

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ＡＢＳ警告灯

S-ＶＳＣ装着車を除く

ＡＢＳ（P.512参照）に異常があると点灯します。

●警告灯が点灯しているときは、ＡＢＳは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されています。

●警告灯が点灯しているときは、ＡＢＳが作動しないため急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時には、タイヤがロックすることがあります。

注意 **ブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときはただちに停車してください。**

●警告灯がブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。この場合、ＡＢＳに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

●警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにしても点灯しないとき。
- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードで点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき。

なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知 識

警告灯について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯

ＳＲＳエアバッグシステム（Ｐ.496参照）、またはプリテンショナー付シートベルトシステム（Ｐ.510参照）に異常があると、点灯します。

注意

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。衝突したときなどにＳＲＳエアバッグ、またはプリテンショナー付シートベルトが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
- 走行中に点灯したとき。

知識

警告灯について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

VSC

ＶＳＣ警告灯

S-ＶＳＣ装着車（マルチインフォメーションディスプレイ装着車を除く）

S-ＶＳＣシステム、ＴＲＣシステムに異常があると点灯します。警告灯が点灯しているときは、S-ＶＳＣ、ヒルスタートアシストコントロールおよびＴＲＣは作動しませんが、通常の走行には支障ありません。

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- “エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにしても点灯しないとき。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションＯＮモードで、点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき。

警告灯について

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

4WD

4WD警告灯

4WD車（マルチインフォメーションディスプレイ装着車を除く）

4WDシステムに異常があると点灯します。

点灯したときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションONモードにしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。

●走行中に点灯したとき。

なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知 識

警告灯について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯または点滅したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

エンジン警告灯

エンジン回転中、エンジン電子制御システム、またはオートマチックトランスミッション電子制御システムに異常があると点灯または点滅します。

エンジン回転中に点灯または点滅したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯

ディスチャージヘッドランプ装着車（インテリジェントＡＦＳ装着車を除く）

ディスチャージヘッドランプのオートレベリング（上下照射方向自動調整）システムに異常があると点灯します。（P.531参照）

注意

走行中に警告灯が点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、いったんエンジンを止めてください。“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにしたときに、警告灯が数秒点灯したあとに消灯すればそのまま使用できます。消灯しないとき、または再度点灯するときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯について

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

パワーステアリング警告灯

パワーステアリング制御システムに異常があると点灯します。

警告灯が点灯したままのときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、ハンドル操作力が重くなっていることがありますので、ハンドルをしっかり持って操作をしてください。

警告灯について

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

ブレーキ警告灯

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードで次のときに点灯します。

●パーキングブレーキをかけたままのとき。
- パーキングブレーキが解除されていても、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにすると、数秒間点灯します。

●ブレーキ液が不足しているとき。

●ＥＢＤ（P.514参照）に異常があると点灯します。

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキがかかったまま、車速が約5 km/h以上になると、警告ブザーが鳴ります。

●マルチインフォメーションディスプレイ装着車では、マルチインフォメーションディスプレイにも警告内容が表示されます。（P.353参照）

警告灯が次のようになったときは、ただちに安全な場所に停車してトヨタ販売店へご連絡ください。

●エンジン回転中にパーキングブレーキを解除しても点灯したままのとき。
この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んでください。

●警告灯がＡＢＳ＆ブレーキアシスト警告灯、またはＡＢＳ警告灯と同時に点灯したままのとき。
この場合、ＡＢＳ、ＥＢＤ、またはブレーキアシスト（S-ＶＳＣ装着車）に異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- "エンジン スタート ストップ" スイッチがイグニッションＯＮモードで、パーキングブレーキをかけても点灯しないとき。
- パーキングブレーキが解除された状態で、"エンジン スタート ストップ" スイッチをイグニッションＯＮモードにしても点灯しないとき。

なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、警告ブザーが鳴ったときは、すみやかに停車し、パーキングブレーキを解除してください。パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

次の警告灯が点灯または点滅したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

PCS

プリクラッシュセーフティシステム警告灯

プリクラッシュセーフティシステム装着車

プリクラッシュセーフティシステムに異常があると点灯・点滅します。（P.532、537参照）

●マルチインフォメーションディスプレイ装着車では同時にマルチインフォメーションディスプレイにも警告内容が表示されます。（P.537参照）

エンジン回転中に点灯したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

警告灯について

● “エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

●プリクラッシュブレーキＯＦＦスイッチを押すと点滅します。（P.535参照）

次の警告灯が点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

充電警告灯

エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯します。

注意

エンジン回転中に点灯したときは、Vベルトの切れなどが考えられます。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へご連絡ください。

知識

警告灯について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

油圧警告灯

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力に異常があると点灯します。
この警告灯はオイル量を示すものではありません。オイル量の点検はオイルレベルゲージにより行ってください。
（点検方法はP.600を参照してください。）

エンジン回転中に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して、エンジンオイル量を点検してください。点灯したまま走行し続けるとエンジンを損傷するおそれがあります。エンジンオイルが減っていないのに点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

警告灯について

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

次の警告灯が点灯したときは、すみやかに対処してください。

燃料残量警告灯

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき、残量が約10 L以下になると点灯します。点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。

●坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。

半ドア警告灯

いずれかのドア（バックドアを含む）が確実に閉まっていないときに点灯します。

●マルチインフォメーションディスプレイ装着車では同時にマルチインフォメーションディスプレイにも警告内容が表示されます。

警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが確実に閉まっていないため、走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

スマートエントリー&スタートシステム警告灯

P.151を参照してください。

次の警告灯が点滅したときは、すみやかに対処してください。

運転席シートベルト非着用警告灯

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき、運転席シートベルトを着用していないと点滅します。ただちにシートベルトを着用してください。

■運転席シートベルト非着用警告ブザー

警告灯が点滅している状態で、車速が約20 km/h以上になると、断続音が約120秒間鳴ります。（ブザーが鳴りはじめてから、約30秒後にブザーの音がかわります。）

●シートベルトを装着すると消音します。

助手席シートベルト非着用警告灯

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードで、かつ助手席シート座面の乗員検知センサーが乗員を検知したときに、助手席シートベルトを着用していないと点滅します。ただちにシートベルトを着用してください。

■助手席シートベルト非着用警告ブザー

警告灯が点滅している状態で、車速が約20 km/h以上になると、断続音が約120秒間鳴ります。（ブザーが鳴りはじめてから、約30秒後にブザーの音がかわります。）

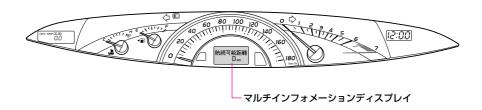
●シートベルトを装着すると消音します。

警告灯について

●センサーは、助手席シート座面（うしろ半分）に、ある一定以上の重量がかかったときに検知します。したがって、荷物などを置いた場合にも検知し、警告灯が点滅することがあります。

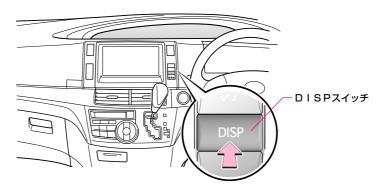
●助手席シート座面上にクッション（座布団）などを敷くと、重量が分散され、センサーが乗員を検知しない場合があります。

マルチインフォメーションディスプレイ★

マルチインフォメーションディスプレイでできること

マルチインフォメーションディスプレイに、次の情報が表示されます。

クルーズインフォメーションディスプレイ ……………………P.355参照

警告表示…………………………………………………………………P.357参照

各表示の切り替えのしかた

ＤＩＳＰスイッチを押すごとに、「クルーズインフォメーションディスプレイ」の表示を切り替えることができます。（次ページ参照）
また、レーダークルーズコントロール、レーンキーピングアシストのメインスイッチをＯＮにすると「レーダークルーズコントロール」の表示にも切り替えることができます。（レーダークルーズコントロール装着車、レーンキーピングアシスト装着車）

知 識

ディスプレイの表示について

次の場合は、ディスプレイの表示が自動的に切り替わります。

●警告する項目が発生すると、「クルーズインフォメーションディスプレイ」の項目が表示されていても、警告表示に切り替わります。

●レーダークルーズコントロール、レーンキーピングアシストのメインスイッチがＯＮのとき、それぞれの表示に変更があると、「クルーズインフォメーションディスプレイ」の項目が表示されていても、それぞれの表示に切り替わります。
（レーダークルーズコントロール装着車、レーンキーピングアシスト装着車）

クルーズインフォメーションディスプレイ

ＤＩＳＰスイッチを押すごとに、次のように表示が切り替わります。

航続可能距離（000 km）

現在の燃料残量と燃費から航続可能距離を算出して表示します。

注意	航続可能距離がまだ十分走行できる数値であっても、燃料計がＥに近づくか、燃料残量警告灯が点灯したら早めに燃料を補給してください。

知 識

航続可能距離表示について

●新車を受け取った際に、航続可能距離として表示される数値は正しい数値を表示しないことがあります。
●表示される航続可能距離は、過去の燃費をもとに計算しているため、運転方法・道路状況により増減することがあります。
●燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
●燃料計が異常検出したときは、しばらく表示が「km」になることがあります。
●バッテリーターミナルの脱着を行ったときは、学習した燃費はリセットされます。

平均燃費
00km/L

平均燃費（00.0 km/L）

リセットしてからのエンジン回転中の平均燃費を、約10秒ごとに更新して表示します。
●現時点からの数値を計測したい場合（リセットしたい場合）は、ＤＩＳＰスイッチを約1秒以上押し続けます。

瞬間燃費 km/L
0 10 20 30

瞬間燃費（00.0 km／L）

エンジン始動して、走行を開始してから約0.5秒間ごとの瞬間燃費をバーグラフで表示します。

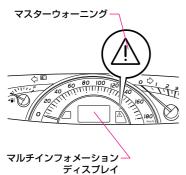
知 識

瞬間燃費表示について

次の場合、バーグラフが表示がされません。
●エンジンが回転していないとき。
●燃費の計測ができなかったとき。
●停車しているとき。

平均車速
60 km/h

平均車速（00.0 km／h）

リセットしてからのエンジン回転中の平均車速を、約10秒ごとに更新して表示します。
●現時点からの数値を計測したい場合（リセットしたい場合）は、ＤＩＳＰスイッチを約1秒以上押し続けます。

警告表示

車両の各システムに、システムの異常などのお知らせしたい情報が発生すると、“ポーン”という警告音が鳴るとともにマスターウォーニングが点灯または点滅して、マルチインフォメーションディスプレイに警告内容などの情報が表示されます。
なお、システムによっては、マルチインフォメーションディスプレイに情報が表示されるのみの場合もあります。

●警告表示が2つ以上ある場合には、自動的に表示が切り替わり、繰り返して表示します。
●警告表示の要因が解消されると、警告表示は消えます。

半ドア警告表示

いずれかのドア（バックドアを含む）が開いていると、開いているドアが文字と絵で表示されます。

警告表示がでたまま走行しないでください。ドアが確実に閉まっていないため、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告表示がでたときは、車を止め、ドアを確実に閉めてから走行してください。

エンジン始動時
ブレーキを
踏んでください

エンジン始動時警告表示

ブレーキを踏まずに“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押してスイッチの切り替えを2回繰り返すと、警告内容が数秒表示されます。ただし、マスターウォーニングは点滅または点灯しません。

パーキングブレーキ
未解除

パーキングブレーキ未解除警告表示

パーキングブレーキがかかったまま、車速が約5 km/h以上になると、警告ブザーが鳴るとともにマスターウォーニングが点灯し、警告内容が表示されます。

警告表示がでたときは、車を止め、パーキングブレーキを解除してから走行してください。

エンジン油圧
不足

エンジンオイル油圧警告表示

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力に異常があると、“ポーン”という音が鳴るとともにマスターウォーニングが点灯し、警告内容が表示されます。

警告表示がでたときは、ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、エンジンオイル量を点検してください。（P.600参照）エンジンオイルが減っていないのに表示しているときや、エンジンオイルを補給しても表示されるときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

VSC
システムチェック

ＶＳＣ警告表示

S-ＶＳＣ装着車

S-ＶＳＣシステムに異常があると、“ポーン”という音が鳴るとともにマスターウォーニングが点灯し、警告内容が表示されます。

●警告表示がでているときは、S-ＶＳＣ、ＴＲＣは作動しませんが、通常の走行には支障ありません。

警告表示がでたときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

4WD
システムチェック

4ＷＤシステム警告表示

4ＷＤ車

4ＷＤシステムに異常があると、“ポーン”という音が鳴るとともにマスターウォーニングが点灯し、警告内容が表示されます。

警告表示がでたときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

3rd SEAT

サードシート警告表示

電動格納式サードシート装着車

サードシートの格納・復帰作動が途中で中断されたとき、ブザーが鳴り警告内容が表示されます。

●ブザーは約10秒間鳴り続けます。

プリクラッシュセーフティシステム警告表示

プリクラッシュセーフティ装着車

プリクラッシュセーフティ（ＰＣＳ）システムの警告表示については、P.537を参照してください。

レーダー汚れ
清掃必要

クルーズ
システムチェック

悪天候
クルーズ
できません

レーダークルーズコントロール警告表示

レーダークルーズコントロール装着車

レーダークルーズコントロールの警告表示については、P.404をご覧ください。

警告表示がでても、走行上支障はありませんが、トヨタ販売店で点検を受けてください。

スマートエントリー＆スタートシステム警告表示

キーが
見つかりません

キーバッテリー
残りわずか

Ｐレンジに
入れて下さい

ステアリング
ロック
システム確認

ステアリング
ロック
未解除

スマートエントリー＆スタートシステムの警告表示については、P.151をご覧ください。

レーンキーピングアシスト警告表示

条件確認中
LKAできません

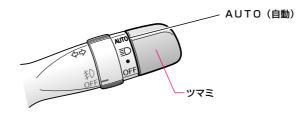
LKA
システムチェック

レーンキーピングアシスト装着車

レーンキーピングアシストの警告表示については、P.423をご覧ください。

スイッチの使い方

ライトスイッチの使い方

コンライトの使い方★

ツマミをＡＵＴＯにまわすと周囲の明るさに応じて、ヘッドランプ・車幅灯などが自動で点灯・消灯します。

●エンジンを停止し、運転席ドアを開けると、自動的に消灯します。“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにすると、再び点灯します。

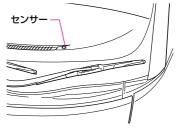
知識

作動条件について

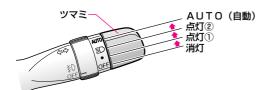
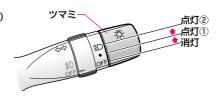
“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

コンライトセンサー について

●自動で使用しているときのランプの点灯・消灯が早いまたは遅いと感じたときは感度の調整ができますのでトヨタ販売店にご相談ください。

●コンライトのセンサーの上にものを置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけると、センサーが正常に作動しなくなることがあります。

ランプの点灯・消灯

コンライト装着車

コンライト装着車を除く

ツマミの位置	点灯するランプ
点灯①	車幅灯・尾灯・番号灯・各スイッチ照明・メーター照明※
点灯②	①のランプ＋ヘッドランプ

※Xグレードのみ

コンライト装着車

ツマミを点灯①・点灯②にまわすと、点灯します。

●ＡＵＴＯにまわすと、自動で点灯・消灯します。（前ページ参照）

コンライト装着車を除く

ツマミを点灯①・点灯②にまわすと、点灯します。

完全に充電されたバッテリーでも、エンジンを停止した状態で長時間ランプ類を点灯すると、バッテリーあがりの原因となります。

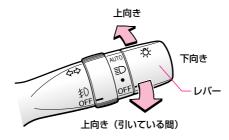
知 識

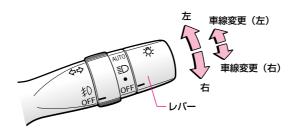
作動条件について

● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。（ＡＵＴＯで使用するとき）
● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチの状態に関係なく使用できます。（点灯①・点灯②で使用するとき）

便利機能について

ライト消し忘れ警告ブザー
ライトスイッチが点灯①・点灯②のまま、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをＯＦＦにして、運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。
ランプオートカットシステム
ライトスイッチが点灯①・点灯②またはＡＵＴＯのまま、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをＯＦＦにして、運転席ドアを開けると自動的に消灯します。次のいずれかの操作をすると、再び点灯します。
● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにする。
●ライトスイッチをＯＦＦにし、もう一度ＯＮにする。（この場合、ドアを開けてもランプは消灯しません。）

前方を遠くまで照らしたいときは

●ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前方に押します。
●ヘッドランプが消灯していても、レバーを手前に引いている間、ヘッドランプが上向きになります。
●ヘッドランプが上向きのときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。（P.330参照）

方向指示レバーの使い方

●レバーを上または下へ操作すると、左または右側の方向指示灯が点滅し、メーター内にある方向指示表示灯も点滅します。
レバーはハンドルをもどすと自動的にもどります。もどらないときは、手でもどしてください。

●車線変更のときには、レバーを軽く上または下へ押さえている間、それぞれの方向指示灯および方向指示表示灯が点滅し、手を離すと消灯します。

知 識

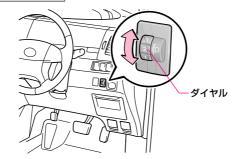
作動条件について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。

ヘッドランプの光軸上下調整

ハロゲンヘッドランプ装着車

ヘッドランプのロービームに装着されています。
ダイヤルをまわすと、ヘッドランプ（ロービーム）の光軸（光の照らす方向）を下向きに調整できます。
●通常は0（ゼロ）の位置（光軸が一番上向きの位置）で使用します。

知 識

光軸上下調整について

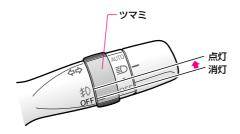
●荷物や人をのせることにより車両前面が上を向いて、ヘッドランプの照らす範囲がいつもと違う（いつもより上向きになっている）ときに、ダイヤルをまわしてヘッドランプの光軸を下向きにします。荷物や人をおろしたあとには、必ずダイヤルを0（ゼロ）の位置にもどしておいてください。
●車検などで光軸調整をするときは、ダイヤルを0（ゼロ）の位置（一番上向きの位置）にしてから行ってください。
●乗員数やラゲージルームの積載状況に応じて次ページの表を目安にダイヤル位置を調整してください。

ダイヤル位置の目安について

乗員やラゲージルームの積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時	0
運転席と助手席に乗車時	0
運転席と助手席、およびサードシートに3名乗車時	1.5
7、8名乗車時	2
7、8名乗車時でかつラゲージルーム満載時	2.5
運転席のみ乗車時でかつラゲージルーム満載時	3.5

作動条件について

ヘッドランプ（ロービーム）が点灯しているときに使用できます。

フォグランプの使い方

フロントフォグランプの点灯・消灯

ツマミを の位置にまわすと点灯し、ＯＦＦにまわすと消灯します。

●フロントフォグランプが点灯しているときは、メーター内のフロントフォグランプ表示灯（P.330参照）が点灯します。

知 識

フロントフォグランプについて

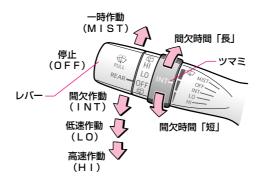
雨や霧などで視界が悪いときに、ヘッドランプの補助として使用します。

作動条件について

ライトスイッチが点灯①・点灯②のとき、およびＡＵＴＯで車幅灯またはヘッドランプが点灯しているとき使用できます。

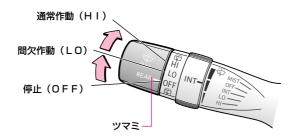
ワイパー&ウォッシャースイッチの使い方

ワイパーの動かし方

■フロント

レバーを操作すると、上図のように作動します。

●間欠作動（ＩＮＴ）の位置のときツマミをまわすと、間欠時間を約3～12秒の間で調整できます。

●一時作動（ＭＩＳＴ）は、レバーを停止（ＯＦＦ）の位置から押し上げている間、ワイパーが低速作動します。手を離すと停止（ＯＦＦ）にもどります。

■リヤ

ツマミをまわすと、上図のように作動します。

ワイパーゴムがガラスに張りついていないことを確認してください。

- ●ウインドゥガラスが凍結しているときや長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに張りついていないことを確認してください。ガラスに張りついたまま作動させると、ワイパーゴムを損傷するおそれがあります。
- ●積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めて、ワイパースイッチをＯＦＦ、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたはＯＦＦにし、ワイパーが作動できるように、積雪などの障害物を取り除いてください。

作動条件について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

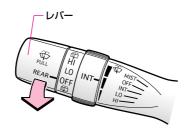
保護機能について

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。モーターの負担が大きい状況が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。約10分ほどすると、ブレーカーが復帰して、通常どおり使用できるようになります。

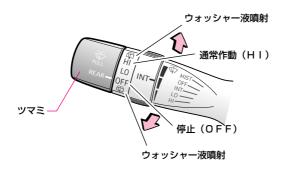
ワイパーのＬＯ、ＨＩ作動について

フロント側ワイパーとリヤ側ワイパーとでは、作動状態が異なります。

ウォッシャー液の噴射のしかた

■フロント

レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射されます。

●ウォッシャー液噴射後、ワイパーが数回作動します。

■リヤ

●作動中にウォッシャー液を噴射させるときは、ツマミを通常作動（ＨＩ）から上の側にまわします。

●ツマミを停止（ＯＦＦ）から下の側にまわしている間、ウォッシャー液が噴射されます。

寒冷時はウォッシャー液を使用しないでください。視界不良を起こすおそれがあります。

●寒冷時は、ウインドゥガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がウインドゥガラスに凍りつき視界不良を起こすおそれがあります。
●必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを作動させてください。ガラスが乾いているときにワイパーを作動させると、ガラスを傷つけるおそれがあります。
●ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを操作し続けると、ポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。また、ノズルがつまって噴射状態が悪い場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

作動条件について

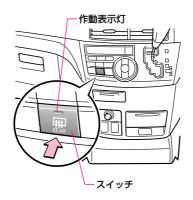
“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

ガラスについた油膜について

油膜があると、雨の夜は対向車のライトなどが乱反射します。ガラスクリーナーを使ってガラスの表面をきれいにしてください。

ウォッシャー液の補給について

ウォッシャー液の補給については、P.601を参照してください。

リヤウインドゥデフォッガー（曇り取り）スイッチの使い方

スイッチを押すと約15分間作動し、作動中にもう一度押すと停止します。
●作動中は作動表示灯が点灯します。

注意	連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

知識

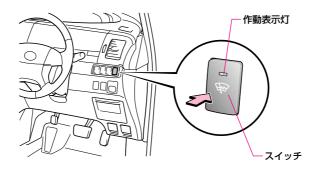
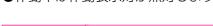
リヤウインドゥデフォッガーについて

●バックドアガラスを熱線で暖めて曇りを取ります。
●寒冷地仕様車は、ミラーヒーター（P.299参照）も同時に作動します。

作動条件について

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

熱線式ウインドシールドデアイサースイッチの使い方

寒冷地仕様車

スイッチを押すと約15分間作動し、作動中にもう一度押すと停止します。
●作動中は作動表示灯が点灯します。

注意	連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

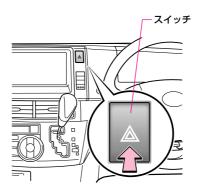
知識

熱線入りウインドシールドガラスについて

フロントウインドゥガラス下部、運転席側ピラー周辺部の表面を暖めてガラスとワイパーブレードの凍結を防ぎます。

作動条件について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

非常点滅灯スイッチの使い方

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、点滅中にもう一度押すと消灯します。
●点滅中はメーター内にある方向指示表示灯も点滅します。

バッテリーがあがるのを防ぐため、エンジンが停止しているときに長時間使用しないでください。

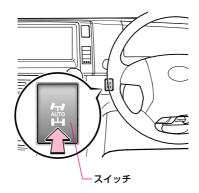
非常点滅灯について

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

作動条件について

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの状態に関係なく使用できます。

4WDオートモードスイッチの使い方

4WD車

4WDオートモードスイッチを押すことにより、4WDオートモードとＦＦモードを切り替えることができます。

●スイッチを押すとメーター内の4WDオートモード作動表示灯が点灯します。

モード	スイッチの状態	表示灯
4WDオートモード		数回点滅したあと点灯
ＦＦモード		消灯

知識

モードについて

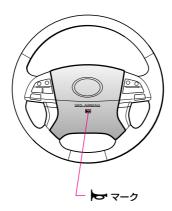
4WDオートモード

通常走行からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などですべりやすい路面など様々な走行状態に応じて、後輪への駆動力（トルク）配分を自動的に制御します。

●脱輪やスタックなどにより、車輪の空転状態が長時間継続した場合、駆動系保護のため4WDシステムが停止状態（ＦＦモード固定）になります。

ＦＦモード

ＦＦ走行状態です。ＦＦモードにすることにより燃費性能を高めます。

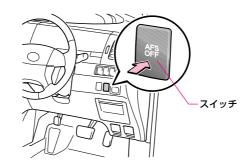
ホーンの使い方

ハンドルの マーク周辺部を押すと、ホーン（警音器）が鳴ります。

知 識

作動条件について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの状態に関係なく使用できます。

ＡＦＳ※　ＯＦＦスイッチの使い方

インテリジェントＡＦＳ装着車

ＡＦＳ　ＯＦＦスイッチを押すとインテリジェントＡＦＳの作動が停止し、作動停止中にもう一度押すと作動可能状態にもどります。

●停止中はメーター内のＡＦＳ　ＯＦＦ表示灯（Ｐ.331参照）が点灯します。

雪壁などのある道路ではインテリジェントＡＦＳを使用しないでください。雪の斜面などにヘッドランプが反射して運転のさまたげになる可能性があります。

知識

作動条件について

●“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションＯＮモードでヘッドランプ（下向き）が点灯しているとき使用できます。

●車速が10 km/h以上で作動開始となり、車速が5 km/h未満になると作動は停止します。

●左旋回時は、左側ヘッドランプが最大10°、右側ヘッドランプが最大5°まで照射軸が左へ移動します。

●右旋回時は、右側ヘッドランプが最大15°、左側ヘッドランプが最大7.5°まで照射軸が右へ移動します。

●ＡＦＳ　ＯＦＦ表示灯が点滅（Ｐ.331参照）しているとき、インテリジェントＡＦＳは作動しません。

作動チェックについて

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにすると、ヘッドランプ（下向き）が動きます。これはシステムの作動をチェックしているので異常ではありません。

※Adaptive Front-Lighting System（アダプティブ フロントライティング システム）の略

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

レーダークルーズコントロール（ブレーキ制御付）★

レーダークルーズコントロール（ブレーキ制御付）の使い方

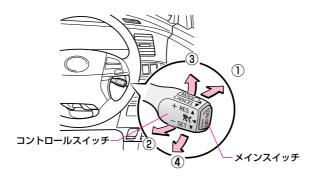
レーダークルーズコントロールとは

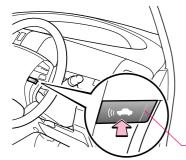
シフトレバーがⒹまたはⓈ（❻、❺、❹のいずれか）のとき、アクセルペダルを踏まなくても、次の2通りの制御による走行ができます。

●**レーダーセンサーによる車間制御モード**…………………… P.385参照
●**一定の速度で走行する定速制御モード**……………………… P.400参照

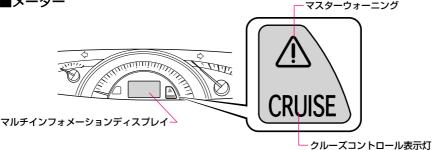
先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などでご使用ください。

レーダークルーズコントロールを使用するにあたっての主装備

■クルーズコントロールスイッチ

操作方向	スイッチ表示	機　能
―	ON-OFF ◀	・レーダークルーズコントロールシステムのON・OFF
①	▲ MODE	・車間制御モードから定速制御モードへの切り替え
②	▼ CANCEL	・制御の一時解除
③	▲ ＋　RES	・もとのセット車速での制御状態にもどす ・セット車速を上げる
④	▼ －　SET	・制御の開始 ・セット車速を下げる

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

■車間距離切り替えスイッチ

車間制御モードの制御車間距離を「長」、「中」、「短」の3段階に切り替えることができます。

■メーター

クルーズコントロール表示灯
メインスイッチを押してシステムをＯＮにすると点灯します。

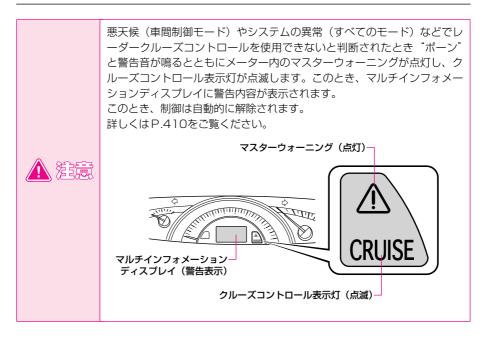
マスターウォーニング
マルチインフォメーションディスプレイに警告内容が表示されたときに点灯します。

マルチインフォメーションディスプレイ
●レーダークルーズコントロール使用中にセット車速、車間距離、先行車検知の有無などを表示します。
●悪天候や何らかの異常でレーダークルーズコントロールが使用できないときに、警告内容を表示します。

レーダークルーズコントロールを使用しないときはメインスイッチをＯＦＦにしてください。誤ってレーダークルーズコントロールを作動させてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

悪天候（車間制御モード）やシステムの異常（すべてのモード）などでレーダークルーズコントロールを使用できないと判断されたとき“ポーン”と警告音が鳴るとともにメーター内のマスターウォーニングが点灯し、クルーズコントロール表示灯が点滅します。このとき、マルチインフォメーションディスプレイに警告内容が表示されます。
このとき、制御は自動的に解除されます。
詳しくはP.410をご覧ください。

マスターウォーニング（点灯）
CRUISE
マルチインフォメーション
ディスプレイ（警告表示）
クルーズコントロール表示灯（点滅）

車間制御モード・定速制御モードの切り替え方

■車間制御モードで使用するときは

メインスイッチを押すと車間制御モードになります。

●メーター内のレーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。また同時に、マルチインフォメーションディスプレイの「RADAR READY」が表示され、車間制御モードのセット待機状態になります。

車間制御モードで使用する場合は、この状態で使用します。

■定速制御モードで使用するときは

1 **メインスイッチを押してＯＮにします。**

●スイッチを押すと車間制御モードになります。
●メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。また同時に、マルチインフォメーションディスプレイに「RADAR READY」が表示され、車間制御モードのセット待機状態になります。

2 **コントロールスイッチを約1秒以上前方に押し続けます。**

定速制御モードに切り替わります。
●マルチインフォメーションディスプレイの「RADAR READY」の表示が消灯し、定速制御モードのセット待機状態になります。

知識

作動条件について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのときに車間制御モードと定速制御モードに切り替えることができます。

エンジンを停止させたときは

レーダークルーズコントロールシステムは自動的にＯＦＦになります。モード設定と車間距離設定はそれぞれ「車間制御モード」、「長」にもどります。

モードについて

車間制御モードと定速制御モードは制御内容が異なります。レーダークルーズコントロールを使用するときは、どちらのモードが選択されているかをしっかり確認してください。各モード使用時のマルチインフォメーションディスプレイの表示は以下のようになります。

	車間制御モード	定速制御モード
セット待機状態	RADAR READY	表示なし
制御中	100 km/h	定速 100 km/h

モードの切り替えについて

セット操作をして車間制御モードを使用したときは、定速制御モードに切り替えることはできません。また、定速制御モードから車間制御モードへは切り替えられません。一度メインスイッチを押して、システムをＯＦＦにしてから、再度操作をしてください。

マルチインフォメーションディスプレイについて

レーダークルーズコントロール使用中にマルチインフォメーションディスプレイを他の画面に切り替えることができます。（P.354参照）ただし、セット車速を変更したときや、先行車の有無など制御に変更があったときは自動的にレーダークルーズコントロール画面にもどります。

車間制御モード

車間制御モードについて

このモードはレーダーセンサーにより車両前方約100 m以内の先行車を検知して、先行車の有無・先行車との車間距離を判定しています。

≪先行車がいないとき≫

運転者がセットした車速（約50 km/h～100 km/h）で定速走行します。

≪先行車がいるとき≫

運転者がセットした車速（約50 km/h～100 km/h）を上限として、車速に比例した車間距離※を保つように車間制御を行い走行します。したがって、先行車の車速変化に合わせた追従走行ができます。また、先行車がいなくなった場合は、ゆっくり加速し、セットした車速になると定速走行を行います。

定速走行（先行車がいないとき）	減速走行（セットした車速より遅い先行車が現れたとき）	追従走行（セットした車速より遅い先行車に追従するとき）	加速走行（セットした車速より遅い先行車がいなくなったとき）
例：100 km/hにセット	例：100 km/hで定速走行時に、80 km/hの先行車がいる場合	例：100 km/hにセットしているときに、80 km/hの先行車がいる場合	例：100 km/hにセットしているときに、80 km/hの先行車がいなくなった場合
未検知	先行車検知 80 km/h	80 km/h	80 km/h
100 km/h （セット車速）	100 km/h → 80 km/h （セット車速）	80 km/h	80 km/h → 100 km/h （セット車速）

※車間距離は車速に比例してかわり、車速が低くなるほど短くなります。

レーダークルーズコントロールを過信しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●レーダークルーズコントロールを過信しないでください。車間距離制御には限界があります。運転するときは常に周囲の状況に注意し、状況によってはブレーキペダルを踏んで減速したり、アクセルペダルを踏んで加速するなどして、先行車や後続車との車間距離を確保し安全運転に心がけてください。

- 車両を停止させるまで自動的にブレーキ制御を行うモードではありません。また、ブレーキ制御により車間距離を確保しますが減速には限界があり、先行車の減速度合いが大きい場合や自車の前へ他車が割り込んだ場合などは十分な減速ができず、先行車に接近することがあります。この場合、接近警報が作動して注意をうながします。（P.397参照）また、車速が約40 km/h以下になると警告音が“ピッピッ”と鳴ると同時に制御は解除されます。（ブレーキ制御も解除されます。）
- わき見運転やぼんやり運転など前方不注意を補助するものではありません。

●次のような状況のときはレーダークルーズコントロールを使用しないでください。使用すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、システムが悪天候と判断したとき、レーダークルーズコントロールが自動的に解除される場合もあります。

悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐のときなど）

先行車との車間距離が正確に測定できないおそれがあります。なお、ワイパーを高速作動（ＨＩ）させるとレーダークルーズコントロールは自動的に解除されます。
（低速作動もしくは間欠作動では解除されません。）

レーダーセンサー前部ガラスに雨滴、雪などが付着しているとき

先行車との車間距離が正確に測定できない場合があります。

交通量の多い道や急カーブのある道

道路の状況にあった速度で走行できないおそれがあります。

凍結路や積雪路などのすべりやすい路面

タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。

急な下り坂

先行車がいないときは、エンジンブレーキが十分効かないため、セットした速度をこえてしまうおそれがあります。
また、先行車がいて追従制御が行われているときでも、エンジンブレーキが十分効かず、減速するタイミングが遅れるおそれがあります。

頻繁に加速・減速を繰り返すような交通状況のとき

交通状況に合った速度で走行できないおそれがあります。

警告 **レーダークルーズコントロールを過信しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。**

急な上り坂、下り坂が繰り返される道路

先行車を検知できず、先行車に接近しすぎるおそれがあります。

高速道路などでレーダークルーズコントロール使用中にインターチェンジ・サービスエリア・パーキングエリアなどへ進入する（本線から出る）とき

本線上でレーダークルーズコントロールによりセット車速よりも遅い車に追従走行していたときは、自車が本線から出ることにより先行車がいなくなり、セット車速まで加速してしまうおそれがあります。

他車をけん引する場合

やむを得ず他車をけん引する場合（P.666参照）は、クルーズコントロールを使用しないでください。クルーズコントロールの機能を損なう可能性があり、制御性能の低下や、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●停車中の車両や自車速より極端に遅い車両に対しては、レーダークルーズコントロールの制御も接近警報も行わないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。料金所や渋滞の最後尾で停車中や極端に車速の遅い車両などには十分注意してください。

●近距離ではレーダーセンサーの検知エリアが狭いため、間近で割り込んでくる先行車の検知が遅れたり、自車線の端を走行する二輪車を検知できないため、車間距離が適切に保てずに、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

二輪車

●このシステムでは、先行車の後端面の反射電波を主に検知して制御をおこなっていますので、次の場合は、先行車を正確に検知できないため、車間距離が適切に保てずに、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 先行車や他車線の車両が路上の水や雪などをまき上げて走行しているとき。
- 先行車が空荷のトレーラーなど極端に車両後端面積が少ないとき。
- ラゲージルームや後席に荷物などを積んで、車が傾いているとき。

レーダークルーズコントロールを過信しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●レーダーセンサーはセンサー前部の汚れを自動で判定し、お知らせする機能を備えていますが万能ではありません。
状況によってはセンサー前部が汚れていても判定できない場合があります。また、透明や半透明（有色も含む）のビニール袋（金属コーティングされたものなど）が密着した場合や氷、つららなどが付着した場合も判定できない場合があります。このような状況では、車間距離が適切に保てずに、思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、常に前方に注意して走行してください。なお、汚れを判定した場合、制御は自動的に解除されます。
また、センサー前部はいつもきれいにしておいてください。（P.399参照）

●道路形状（カーブ路、左右カーブの連続している道路、カーブの出入口、工事中や車線規制などで車線幅が狭い道路など）や自車の状況（ハンドル操作や車線内の位置、事故や故障で走行が不安定な状況など）によっては、一時的に隣の車線の車両や周辺のものを検知して、制御・接近警報が作動したり、一時的に先行車を検知できず、先行車に接近して、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

セットのしかた

RADAR READY

1 メインスイッチを押してONにします。

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。また同時に、マルチインフォメーションディスプレイに「RADAR READY」が表示され、車間制御モードのセット待機状態になります。

2 希望速度まで加速または減速します。

3 コントロールスイッチを下げ、手を離します。

マルチインフォメーションディスプレイがセット状態表示（セット車速・先行車検知の有無・設定されている車間距離）になります。

以上の操作で制御を開始します。

知 識

セット条件について

●セット車速は約50 km/ｈ～100 km/ｈの間で設定できます。ただし、セット時に、セット上限車速をこえて走行していた場合、セット車速は約100 km/hになります。

●次のときはセットできません。

- シフトレバーが❶または❺（❻、❺、❹のいずれか）以外にあるとき。
- ワイパーを高速作動（ＨＩ）させているとき。

なお、悪天候などによりレーダーセンサーでの正確な検知ができないような状況では、システムが作動しない場合があります。詳しくはＰ.404の「警告表示」を参照してください。

エンジンを停止したときは

メインスイッチは自動的にＯＦＦになります。

車間距離設定について

車間距離設定は、エンジンをかけるたびに「長」になります。「中」または「短」に切りかえたいときは、車間距離切り替えスイッチを操作します。詳しくはP.394の「車間距離設定のかえ方」を参照してください。

レーンキーピングアシストについて

レーンキーピングアシストの状態が表示されることがあります。詳しくは、Ｐ.412の「レーンキーピングアシスト」を参照してください。

制御中の作動

アクセルペダルを踏まなくても、セットした車速で定速走行します。

先行車検知
セット車間距離
（現在は「長」）
セット車速

■先行車がいる場合

先行車との車間距離を保つように車速を制御し、追従走行します。

- ●セットした車速（約50～100 km/h）を上限とする範囲で制御します。
- ●マルチインフォメーションディスプレイにセット状態（セット車速・先行車検知の有無・設定されている車間距離）が表示されます。

■先行車がいなくなった場合

セット車速までゆっくり加速し、定速走行します。

- ●マルチインフォメーションディスプレイにセット状態（セット車速・設定されている車間距離）が表示されます。
- ●セット車速までの加速中に先行車が現れれば、再び追従走行を行います。

知 識

素早くセット車速まで加速するには

先行車がいなくなった場合はセット車速までは自動的に加速しますが、素早く加速したいときは、コントロールスイッチを上げ、手を離すか、アクセルペダルを踏んで加速してください。

一時的に加速・減速したいとき

■加速したいとき

アクセルペダルを踏みます。
アクセルペダルを離せば、もとの制御状態にもどります。

■減速したいとき

ブレーキペダルを踏みます。

●ブレーキペダルを踏むと、制御が解除されます。
●マルチインフォメーションディスプレイに「RADAR READY」が表示され、セット待機状態になります。

知 識

加減速について

追従走行中は先行車の車速に合わせて自動的に加速・減速を行いますが、車線変更などで加速が必要なとき、および先行車が急減速、他車が割り込むなどして先行車に接近しそうになったときなどはブレーキペダルで減速、またはアクセルペダルで加速を行ってください。

エンジンブレーキについて

レーダークルーズコントロールを使用して走行しているときは、シフトレバーをⒹからⓈに操作しても制御が解除されないため、エンジンブレーキは効きません。
減速が必要なときは、コントロールスイッチで減速の操作をするか、またはブレーキペダルを踏んでください。

セット車速のかえ方

P.389の「セットのしかた」の**2**、**3**の手順でかえる方法と、次のコントロールスイッチでかえる方法があります。

1 **コントロールスイッチを操作します。**

●上げ続けるとセット車速が上がります。

●下げ続けるとセット車速が下がります。
ただし、セット車速はスイッチ操作を開始したときの車速から下がり始めます。

2 **マルチインフォメーションディスプレイに表示されるセット車速が希望速度になったら、コントロールスイッチから手を離します。**

コントロールスイッチを下げ続け、セット車速が約50 km/h以下になったときは、警告音が“ピッピッ”と鳴り自動的に制御が解除されます。マルチインフォメーションディスプレイに「RADAR READY」が表示され、セット待機状態になります。このときセット下限車速（約50 km/h）がセット車速として記憶されます。

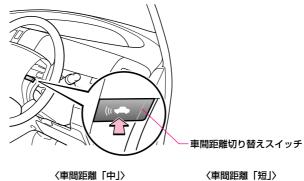
車間制御（追従走行）しているときは、先行車に合わせた車速に制御されるため、コントロールスイッチを上げてセット車速を上げても加速しません。ただし、このときにセット車速は上がっているため、先行車がいなくなったあと、加速し続けることになります。セット車速はマルチインフォメーションディスプレイのセット車速表示で確認してください。

車間距離設定のかえ方

先行車との車間距離を「長」、「中」、「短」の3段階から選択することができます。
各制御車間距離は車速に比例してかわり、車速が低くなるほど短くなります。

〈車間距離「長」〉

〈車間距離「中」〉

〈車間距離「短」〉

マルチインフォメーションディスプレイにセット車間距離マークが表示されているときに、車間距離切り替えスイッチを押すごとに「長」→「中」→「短」→「長」の順に切り替わります。

知 識

車間距離について

●交通状況に応じて車間距離を選択してください。
車速80 km/hで走行しているとき、各車間距離設定での制御車間距離の目安は次の通りです。
- 「長」… 約50 m
- 「中」… 約40 m
- 「短」… 約30 m

なお、車速が低くなるほど、上記の車間距離よりも短くなります。

●長い下り坂などでは、セットした車間距離よりも制御車間距離が短くなることがあります。
●エンジンを止めると、車間距離は「長」にリセットされます。（エンジンをかけるたびに初期設定は「長」になります。）
●車間制御モードを選択しているときのみ車間距離を切り替えることができます。

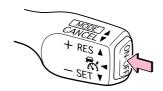
解除のしかた

ブレーキペダルを踏むと、制御が解除されます。

■使用を一時的に中断するときは

コントロールスイッチを手前に引きます。

●マルチインフォメーションディスプレイに「RADAR READY」が表示され、セット待機状態になります。

もとのセット車速での制御状態にもどすには、車速が約40 km/h以上でコントロールスイッチを上げ、手を離します。

■使用を中止するときは

メインスイッチを押してＯＦＦにします。

●メーター内のクルーズコントロール表示灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「CRUISE OFF」が表示され、その後、他の画面に切り替わります。

制御の自動解除

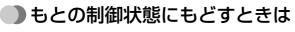
次のときは、自動的に制御が解除されます。制御が解除されたときの状況が改善されてから、車速が約40 km/h以上でコントロールスイッチを上げ手を離すと、もとの制御状態にもどり、マルチインフォメーションディスプレイが再びセット状態表示になります。

- ●車速が制御解除車速の約40 km/h以下になったとき。（警告音が“ピッピッ”と鳴ります。）
- ●コントロールスイッチを下げ続けて車速が約50 km/h以下になったとき。（警告音が“ピッピッ”と鳴ります。）
- ●スリップ表示灯が点滅するとともにS-VSC作動警告ブザーが鳴ったとき。（S-VSCの作動についてはP.527を参照してください。）
- ●レーダーセンサー前部の汚れが判定されたとき。
- ●ワイパーを高速で作動させたとき。
- ●“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにすると記憶車速は消去されます。

知識

横すべりしそうになったときは

S-VSC装着車は、運転状況によっては横すべりしそうになったとき、スリップ表示灯やS-VSC警告ブザーで警報する前に制御が解除されることがあります。

もとの制御状態にもどすときは

制御が解除されたあとも、マルチインフォメーションディスプレイに「RADAR READY」が表示されていれば、もとのセット車速での制御状態にもどすことができます。

車速が約40 km/h以上のとき、コントロールスイッチを上げ、手を離します。

●マルチインフォメーションディスプレイが再びセット状態表示になります。

接近警報

追従走行中に先行車の減速度合いが大きい場合や他車の割り込みなどによって、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、警報ブザーとマルチインフォメーションディスプレイによって運転者に注意をうながします。

この場合は、ブレーキを踏むなどして減速し、適切な車間距離を確保してください。

●警報ブザーが“ピピピピッ”と鳴ります。

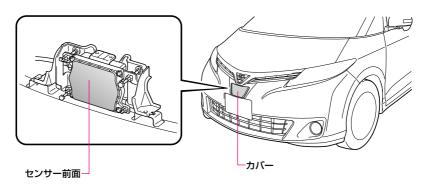
●マルチインフォメーションディスプレイの画面が明暗の反転を繰り返します。

接近警報が頻繁に作動するような状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。

●接近警報が頻繁に作動するような状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
●短い車間距離でも、次の場合には警報が作動しないことがあります。
- 先行車との相対速度が小さいとき（ほぼ同じ速度で走っているとき）。
- 先行車の方が自車より速いとき（車間距離が次第に離れていくとき）。
- セット操作をした直後。
- アクセルペダルを踏んでいるとき、およびアクセルペダルを離した直後。

●料金所や渋滞の最後尾で停車中や極端に車速の遅い車両などに対しては警報が作動しません。
●道路形状（カーブなど）や自車の状況（ハンドル操作や車線内の位置）によっては、一時的に隣の車線の車両や周辺の物を検知して、接近警報が作動する場合があります。

レーダーセンサー前部の取り扱い

レーダーセンサーはフロントバンパー内にあります。
レーダークルーズコントロールの正しい作動のため、次のことをお守りください。

●レーダーセンサー前面およびカバーの前後面をいつもきれいにしておいてください。また、清掃するときは、やわらかい布などを使用して、傷をつけないようにご注意ください。
●レーダーセンサーやその周辺部に強い衝撃や力を加えないでください。また、分解などもしないでください。故障、誤作動の原因となります。
●レーダーセンサーやカバーの周辺にステッカーやアクセサリー用品などを取りつけないでください。
とくにカバー前面にはステッカーが透明であっても貼りつけないでください。誤作動の原因となります。
●カバーの改造、塗装、交換などはしないでください。故障、誤作動の原因となります。

バンパーをぶつけたときは、センサーの故障などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

定速制御モード

シフトレバーがⒹまたはⓈ（6レンジ、5レンジ、4レンジのいずれか）のとき、アクセルペダルを踏まなくても、セットした一定の速度（約50 km/h～100 km/h）で走行できます。

警告　先行車との車間距離に十分注意してください。

●定速制御モード中は、車間制御モード中のように、先行車の有無・先行車との車間距離を判定していないため、接近警報が作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。先行車との車間距離に十分注意してください。

●次のような状況のときはレーダークルーズコントロール（定速制御モード）を使用しないでください。使用すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

交通量の多い道や急カーブのある道

道路の状況にあった速度で走行できないおそれがあります。

凍結路や積雪路などのすべりやすい路面

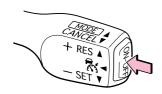
タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。

急な下り坂

急な下り坂ではエンジンブレーキが十分効かないため、セットした速度をこえてしまうおそれがあります。

他車をけん引する場合

やむを得ず他車をけん引する場合（P.666参照）は、クルーズコントロールを使用しないでください。クルーズコントロールの機能を損なう可能性があり、制御性能の低下や、思わぬ事故につながるおそれがあります。

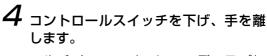
セットのしかた

1　メインスイッチを押してONにします。

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。また同時に、マルチインフォメーションディスプレイに「RADAR READY」が表示されます。

2　コントロールスイッチを約1秒以上前方に押し続けます。

定速制御モードに切り替わります。

3　希望速度まで加速または減速します。

4 **コントロールスイッチを下げ、手を離します。**

マルチインフォメーションディスプレイに「定速」とセット車速が表示されセット状態表示になります。

以上の操作で定速走行を開始します。

知 識

セット条件について

セット車速は約50 km／h～100 km／hの間で設定できます。ただし、セット車速設定時、セット上限車速（約100 km／h）をこえて走行していた場合、セット上限車速をセット車速として記憶します。

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチやメインスイッチをＯＦＦにしたときは

システムはＯＦＦになり、定速制御モードもキャンセルされます。

一時的に加速、減速したいときは

■加速したいとき

アクセルペダルを踏みます。
アクセルペダルを離せば、もとの定速走行状態にもどります。

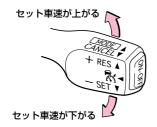
■減速したいとき

ブレーキペダルを踏みます。
ブレーキペダルを踏むと、定速走行が解除されます。

もとのセット車速での制御状態にもどしたいときは、車速が約40 km/h以上でコントロールスイッチを上げ、手を離します。

- マルチインフォメーションディスプレイが再びセット状態表示になり、セット車速にもどります。

セット車速のかえ方

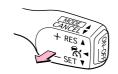
P.400、401の**「セットのしかた」**の*3*、*4*の手順でかえる方法と、次のコントロールスイッチでかえる方法があります。

1 コントロールスイッチを操作します。

- 上げ続けるとセット車速が上がります。
- 下げ続けるとセット車速が下がります。
- コントロールスイッチを上または下に軽く操作して手を離せば、設定速度の微調整（約1.5 km／h）ができます。

2 マルチインフォメーションディスプレイに表示されるセット車速が希望速度になったら、コントロールスイッチから手を離します。

解除のしかた

ブレーキペダルを踏むと、制御は解除されます。

■使用を一時的に中断するときは

コントロールスイッチを手前に引きます。
もとの定速走行状態にもどしたいときは、コントロールスイッチを上げ手を離します。

■使用を中止するときは

メインスイッチを押してＯＦＦにします。

- メーター内のクルーズコントロール表示灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「CRUISE OFF」が表示され、その後、他の画面に切り替わります。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

制御の自動解除

次の場合は、自動的に定速走行が解除されます。

- ●ブレーキペダルを踏んだとき。
- ●セットした速度より車速が約16 km/ｈ以上低下したとき。
- ●車速が約40 km/ｈ以下になったとき。
- ●コントロールスイッチを下げ続けて車速が約50 km/ｈ以下になったとき。
- ●S-ＶＳＣ装着車は、S-ＶＳＣの作動によりスリップ表示灯が点滅するとともにS-ＶＳＣ作動警告ブザーが鳴ったとき。（S-ＶＳＣの作動についてはP.527を参照してください）。
- ●“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをOFFにすると記憶車速は消去されます。

知 識

横すべりしそうになったときは

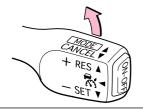
S-ＶＳＣ装着車は、運転状況によっては横すべりしそうになったとき、スリップ表示灯やS-ＶＳＣ警告ブザーで警報する前に制御が解除されることがあります。

エンジンブレーキについて

レーダークルーズコントロール（定速制御モード）を使用して走行しているときは、シフトレバーを🄳から🅂に操作しても制御が解除されないため、エンジンブレーキは効きません。減速が必要なときは、コントロールスイッチで減速の操作をするかまたはブレーキペダルを踏んでください。

もとの制御状態にもどすときは

次の方法で制御が解除された場合は、もとのセット車速での制御状態にもどすことができます。

- ●コントロールスイッチを手前に引いての解除
- ●ブレーキペダルを踏んでの解除
- ●S-ＶＳＣの作動による解除

車速が約40 km/ｈ以上のとき、コントロールスイッチを上げ、手を離します。

- ●マルチインフォメーションディスプレイが再びセット状態表示になります。

警告表示

次の場合には、警告音が“ポーン”と鳴るとともにマスターウォーニングが点灯し、自動的に制御が解除されます。また、同時にクルーズコントロール表示灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに警告内容が表示されます。

■「レーダー汚れ清掃必要」

レーダー汚れ
清掃必要

車間制御モードで、レーダーセンサー前部が汚れて車間距離の測定が困難になったとき表示されます。

- この場合はレーダーセンサー前部をやわらかい布などで清掃してから再度セットしてください。
- 汚れが自然にとれた場合、セット待機状態になります。
車間制御モードではこのとき車速が約40 km/h以上でコントロールスイッチを上げ手を離すと、もとのセット車速での制御状態にもどり、マルチインフォメーションディスプレイが再びセット状態表示になります。

■「悪天候クルーズできません」

悪天候
クルーズ
できません

車間制御モードで以下のとき、車間距離の測定が困難と判断され、表示されます。

- ワイパーを高速で作動させたとき。
- 悪天候のため測定が困難とシステムが判断したとき。

制御が解除されたときの状況が改善されると、セット待機状態になります。このとき、車速が約40 km/h以上でコントロールスイッチを上げ、手を離すと、もとのセット車速での制御状態にもどり、マルチインフォメーションディスプレイが再びセット状態表示になります。

■「クルーズシステムチェック」

レーダークルーズコントロールのセット待機中または制御中にシステムの異常が発生したとき表示されます。
ただし通常の走行に支障はありません。

この場合は安全な場所に停車して、一度エンジンを停止してから再度セットしてください。

次の場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

次の場合はシステムの異常が考えられます。通常の走行に支障はありませんがトヨタ販売店で点検を受けてください。

- **「レーダー汚れ清掃必要」**が表示されたあと、レーダーセンサーを清掃してもセットできないまたは警告表示が消えないとき。
- **「悪天候クルーズできません」**が表示されたあと、天候が回復してもセットできないまたは警告表示が消えないとき。
- **「クルーズシステムチェック」**が表示されたあと、停車してエンジンをかけなおしてもセットできないまたは警告表示が消えないとき。

知 識

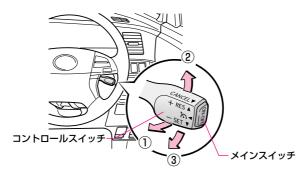
マルチインフォメーションディスプレイについて

警告表示が点灯しているときに、メインスイッチをＯＦＦにすると、マルチインフォメーションディスプレイの警告表示は消灯し、他の画面に切り替わります。

クルーズコントロール★

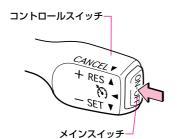
クルーズコントロールの使い方

シフトレバーの位置が、3.5Ｌ車では🅓または🅢（❻、❺、❹のいずれか）のとき、2.4Ｌ車では🅓または🅜（❼、❻、❺のいずれか）のとき、アクセルペダルを踏まなくても、セットした一定の速度（約40 km/ｈ～100 km/ｈ）で走行できます。

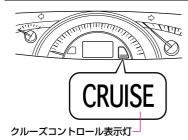
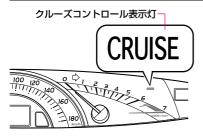
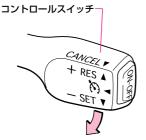
■クルーズコントロールスイッチ

操作方向	スイッチ表示	機　能
―	ON-OFF ◀	・クルーズコントロールシステムのON・OFF
①	▼ CANCEL	・制御の一時解除
②	▲ ＋　RES	・もとのセット車速での制御状態にもどす ・セット車速を上げる
③	▼ －　SET	・制御の開始 ・セット車速を下げる

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

セット（定速走行）のしかた

1 **メインスイッチを押します。**

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

マルチインフォメーションディスプレイ装着車

マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

2 **希望速度まで加速または減速します。**

3 **希望速度になったら、コントロールスイッチを下げ、手を離します。**

以上の操作で定速走行を開始します。

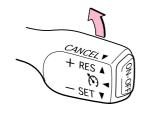
一時的に加速、減速したいときは

■加速したいとき

アクセルペダルを踏みます。
アクセルペダルを離せば、もとの定速走行状態にもどります。

■減速したいとき

ブレーキペダルを踏みます。
ブレーキペダルを踏むと、定速走行が解除されます。

もとの定速走行状態にもどしたいときは、コントロールスイッチを上げ、手を離します。

セット車速のかえ方

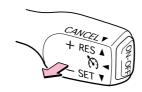
前ページの「セットのしかた」の***2***、***3***の手順で替える方法と、次のコントロールスイッチで替える方法があります。

1 **コントロールスイッチを操作します。**

- ●上げ続けるとセット車速が上がります。
- ●下げ続けるとセット車速が下がります。

2 **希望速度になったら、コントロールスイッチから手を離します。**

- ●コントロールスイッチを上または下に軽く操作して手を離せば、設定速度の微調整（約1.5 km／h）ができます。

解除のしかた

コントロールスイッチを手前に引きます。

●作動待機状態にもどります。

●もとの定速走行状態にもどしたいときは、コントロールスイッチを上げ手を離します。

クルーズコントロールをＯＦＦにするには

メインスイッチを押してＯＦＦにします。

●メーター内のクルーズコントロール表示灯が消灯します。

●再度、定速走行するには、Ｐ.407の「セット（定速走行）のしかた」をお読みください。

クルーズコントロールを使用しないときは、メインスイッチをＯＦＦにしてください。

●クルーズコントロールを使用しないときはメインスイッチをＯＦＦにしてください。誤ってクルーズコントロールを作動させてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●次のような状況のときはクルーズコントロールを使用しないでください。使用すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道や急カーブのある道
  道路の状況にあった速度で走行できないため事故につながるおそれがあります。
- 凍結路や積雪路などのすべりやすい路面
  タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
- 急な下り坂
  急な下り坂ではエンジンブレーキが十分効かないため、セットした速度を越えてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 他車をけん引する場合
  やむを得ず他車をけん引する場合（Ｐ.666参照）は、クルーズコントロールを使用しないでください。クルーズコントロールの機能を損なう可能性があり、制御性能の低下や、思わぬ事故につながるおそれがあります。

定速走行中に表示灯が点滅したときは、メインスイッチを一度ＯＦＦにしてから再度セットしてください。
以上の操作をしても、セットできないまたはセットしてもすぐ解除される場合はシステムの異常が考えられます。走行上支障はありませんがトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

定速走行の自動解除について

次の場合は、自動的に定速走行が解除されます。

●ブレーキペダルを踏んだとき。（この場合は、コントロールスイッチを上げ、手を離すと、もとの定速走行状態にもどります。）
●セットした速度より車速が約16 km/h以上低下したとき。
●車速が約40 km/h以下になったとき。
●コントロールスイッチを下げ続けて車速が約40 km/h以下になったとき。
●S-ＶＳＣ装着車で車両が横すべりしそうになったとき。（S-ＶＳＣの作動によりスリップ表示灯が点滅するとともに、S-ＶＳＣ作動警告ブザーが鳴ったとき。運転状況によっては横すべりしそうになったときに、スリップ表示灯やS-ＶＳＣ作動警告ブザーで警報する前に制御が解除されることがあります。）
●“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにすると記憶車速は消去されます。

エンジンブレーキについて

クルーズコントロールを使用して走行しているときは、シフトレバーを3.5Ｌ車ではⒹからⓈ、2.4Ｌ車ではⒹからⓂに操作しても制御が解除されないため、エンジンブレーキは効きません。
減速が必要なときは、コントロールスイッチで減速の操作をするかまたはブレーキペダルを踏んでください。

レーンキーピングアシスト★

レーンキーピングアシストについて

レーンキーピングアシストとは

レーンキーピングアシストは、白（黄）線の整備された高速道路、自動車専用道路を走行中に、白線認識用カメラの映像を用いて車線を認識させ、車線内走行を支援するシステムです。車線逸脱警報機能と車線維持支援機能の2つの機能があり、レーダークルーズ機能とも連携した運転支援を行い、高速走行時の運転者の負担を軽減します。

■車線逸脱警報機能

車線逸脱警報機能※は、レーンキーピングアシストがＯＮで、車速が50 km/ｈ以上で走行中に、車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断した場合に、ブザー音、マルチインフォメーションディスプレイによる表示と電動パワーステアリングシステムを介して操舵力を短時間付加することでハンドルを通して体感警報し、注意を促す警報機能です。

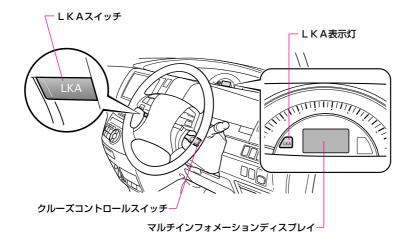
※車線維持支援機能中の車線逸脱警報は、ブザー音とマルチインフォメーションディスプレイによる表示のみになります。

■車線維持支援機能

車速が65 km/ｈ以上でレーダークルーズコントロール（車間制御モード）がセットされ、制御走行中になったときには、車線維持支援機能が付加され、車両が車線中央付近を走行するようにハンドルに小さい操舵力を与えて運転者のハンドル操作をアシストします。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

各部のなまえと機能

装　備	機　　能
ＬＫＡ（レーンキーピングアシスト）スイッチ	システムのＯＮ・ＯＦＦ
ＬＫＡ（レーンキーピングアシスト）表示灯	消灯：システムＯＦＦ／点灯：システムＯＮ／点滅：システム異常
マルチインフォメーションディスプレイ	システムＯＮ時の、ＬＫＡの状態を表示

白線認識用カメラについては、Ｐ.422をご覧ください。

レーンキーピングアシストの使い方

ＬＫＡスイッチを押すとシステムがＯＮになります。もう一度スイッチを押すとＯＦＦになります。

●メーター内のＬＫＡ表示灯が点灯します。システムの状態がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

システムをＯＮにすると、白（黄）線の認識状態、車速、レーダークルーズコントロール（車間制御モード）のセット状況などの条件に応じて車線逸脱警報機能と車線維持支援機能が自動的に作動します。
（レーダークルーズコントロールの使い方は、P.380をご覧ください）

●各機能の作動条件　　○：作動　×：非作動

ＬＫＡスイッチ	レーダークルーズコントロールシステムの状態	車線逸脱警報機能 車速が50～約120 km/ h で作動	車線維持支援機能 車速が65～約100 km/ h で作動
ＯＮ	使用していない、 または定速制御モード	○	×
	セット車速が64 km/ h 以下で制御走行しているとき	○	×
	セット車速が65 km/ h 以上で制御走行しているとき	○	○

知 識

作動車速について

各機能が作動を開始すると、作動車速は上限下限とも5 km/h拡張して作動を維持します。

ハンドルの手ごたえについて

車線逸脱警報が作動したときや車線維持支援機能の手ごたえは、横風のあるとき、左右に傾いた道路やカーブを走行中のときなど、走行条件や道路条件により異なって感じる場合があります。

レーンキーピングアシストを過信しないでください。

●レーンキーピングアシストを過信しないでください。車線逸脱を警報したり、車線内走行を支援したりするシステムで、手放し運転や脇見運転など前方不注意を補助するものではありません。常に自らハンドル操作をして進路を修正し、安全運転に心がけてください。

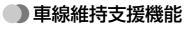
●次の場合は、レーンキーピングアシストが正しく機能しない場合がありますので、ＬＫＡスイッチを押し、システムをＯＦＦにして走行してください。

- 白（黄）線がかすれたり汚れたりして見えにくいとき。
- 雨、雪、霧、逆光などで、白（黄）線が見えにくいとき。
- ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき。
- 検札所や料金所手前など、白（黄）線が途切れるとき。
- 急激な明るさの変化が連続するとき。
- 道路補修の消し残り線・影・残雪・雨のたまった轍など、白（黄）線と紛らわしい線が見えるとき。
- 高速道路等の本線（走行車線、追い越し車線）以外の車線を走行するとき。
- 工事による車線規制や仮設の車線を走行するとき。
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき。
- 前車との車間距離が極端に短くなったとき。
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の調整不良などで、車両が著しく傾いているとき。
- うねった道路や荒れた道路を走行するとき。
- 雨天時や積雪・凍結などですべりやすい道路を走行しているとき。

車線逸脱警報機能

レーンキーピングアシストがＯＮで、車速が50～約120 km/ｈのとき、白線認識用カメラが走行中の車線の白（黄）線を認識するとマルチインフォメーションディスプレイの車線表示が太く表示され、車線逸脱監視状態になります。システムが車線を逸脱すると判断したとき、車線逸脱を警報します。（車線逸脱警報については、P.421をご覧ください）

警告　**車線逸脱警報機能は、車線逸脱を自動的に防止するものではありません。**

- ●車線逸脱警報機能は、走行中の車線を逸脱するとシステムが判断した場合に、警報によって運転者のハンドル操作による進路修正を促す機能で、車線逸脱を自動的に防止するものではありません。常に自らのハンドル操作で進路を修正し、安全運転に心がけてください。
- ●走行条件や道路条件により、車線逸脱警報が早く作動したり作動しなかったりすることがあります。常に進路の確認を行い、安全運転に心がけてください。
- ●白線をはみ出て車線逸脱警報機能が一度働いた際、再度白線を認識するまでに数秒間時間がかかるため、短時間のうちに連続して白線をはみ出た場合、車線逸脱警報機能が作動しない場合があります。

車線維持支援機能

レーンキーピングアシストがＯＮで、白線認識用カメラが走行中の車線の白（黄）線を認識しているとき、レーダークルーズコントロール（車間制御モード）により車速が65～約100 km/ｈでセットされると、車線逸脱警報機能に加え車線維持支援機能が作動します。車線維持支援機能は、車線中央付近を走行するための運転者のハンドル操作力の一部を、電動パワーステアリングを介して補助することで、運転を支援する機能です。

警告

車線維持支援機能は、運転者のハンドル操作力を補助し、運転を支援する機能で、自動的に車線の中央を走行するものではありません。常に自らのハンドル操作で進路を修正し、安全運転に心がけてください。

知 識

手放し運転警告について

車線維持支援機能中に、一定時間以上（直線路で約15秒、カーブ路で約5秒）ハンドル操作が行われていないとシステムが判断したとき“ピピッ”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイの表示が点滅して警告します。このとき車線維持支援機能は一時的に解除されます。

●ハンドルに軽く手を添えた運転が続くときは、警告が作動する場合があります。

●平坦でない道路では、警告が作動するまでの時間が長くなる場合があります。

機能の一時解除

次のいずれかのときは、機能を一時的に解除します。解除したときの状況が改善されると、機能の作動を再開します。

●方向指示レバーが操作されているとき。

●車線変更相当量のハンドル操作がされたとき。

●ブレーキペダルを踏んだとき。※1

作動条件外の車速になったとき。

- ●45 km/h未満、または約120 km/hをこえたとき。
- ○車線維持支援機能中に60 km/h未満、または約100 km/hをこえたとき。

○走行中の車線の白（黄）線が認識できなくなったとき。

○車線変更を検出したとき。

○ワイパースイッチをＬＯ（低速）またはＨＩ（高速）にしたとき。※2

○車線維持支援機能中に手放し運転警告が作動したとき。

○の項目で車線維持支援機能が一時的に解除されたときは、“ピピッ”とブザー音が鳴ります。

※1 車線維持支援機能中にブレーキペダルを踏むとレーダークルーズコントロールが解除されるため、ブレーキペダルの操作を止めても車線維持支援機能は再開しません。

※2 レーダークルーズコントロール解除のお知らせを優先し、車線維持支援機能解除時のブザーが鳴らない場合があります。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

マルチインフォメーションディスプレイ

ＬＫＡがＯＮのとき、車線表示とハンドル表示によって、レーンキーピングアシストの状態を表示します。車線表示で車線逸脱警報機能、ハンドル表示で車線維持支援機能の状態を示します。

	表　示	システムの状態
車線表示		ＬＫＡがＯＮで、車速が50 km/h以上のとき ●白（黄）線が認識できていない ●機能を一時解除している
		車線逸脱警報機能作動中
ハンドル表示	Ready	**車線維持支援機能が開始可能な状態** ●ＬＫＡスイッチをＯＮするまたはレーダークルーズコントロールを65 km/h以上でセットすると車線維持支援機能を開始します。
		車線維持支援機能作動中

知 識

表示について

●車速が50 km/ｈ未満または約120 km/ｈをこえているとき、マルチインフォメーションディスプレイにレーンキーピングアシストの状態は表示されません。

●レーダークルーズコントロールの表示については、P.381をご覧ください。

■表示の例

車線逸脱警報機能時

車線表示により白（黄）線の認識状態などを表示します。

表示	内容
	作動条件外車速時 車速が50 km/ｈ未満、または約120 km/ｈ以上の場合
	車線逸脱警報機能中断時 ●車速が50～約120 km/ｈで、白（黄）線を認識できない場合 ●車線逸脱警報機能を一時解除しているとき（P.418参照）
	車線逸脱警報機能中 車線逸脱を監視している状態

車線維持支援機能時

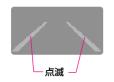
車線表示に加え、ハンドル表示により車線維持支援機能の状態を表示します。

表示	内容
Ready 100 km/h	**ＬＫＡ　ＯＦＦ時** ＬＫＡをＯＮすることで車線維持支援機能が作動する状態（白線の認識状態による）
Ready RADAR READY	**車線維持支援機能開始可能時** レーダークルーズコントロールの車間制御モードをセットすることで車線維持支援機能が作動する状態
100 km/h	**車線維持支援機能中** レーダークルーズコントロール（車間制御モード）がセットされ制御走行を開始し、車線逸脱警報機能に加え車線維持支援機能が作動している状態
100 km/h	**作動条件外車速時** 車速が60 km/ｈ未満、または約100 km/ｈをこえ、車線維持支援機能が一時的に解除されて車線逸脱警報機能が作動している状態

車線逸脱警報

車線逸脱警報は、自車が走行中の車線を逸脱するとシステムが判断した場合、ブザー音が“ピピピピピ…”と鳴るとともに、マルチインフォメーションディスプレイによる表示が点滅し、電動パワーステアリングシステムにより操舵力を短時間付加し、ハンドルを通して運転者に体感警報して注意を促します。

■車線逸脱警報機能時

■車線維持支援機能時

知 識

警報について

●約1秒後の自車位置を演算により推定しています。白（黄）線に接近しても、車両がほぼ平行に走行している場合は車線逸脱警報が作動しないことがあります。
●車線維持支援機能中に車線逸脱警報が作動したときは、電動パワーステアリングシステムによる体感警報は行われません。

ブザー音による告知

下記のとき、マルチインフォメーションディスプレイの表示と同時にブザー音によっても運転者に告知します。

状　態	ブザー音	ページ
車線逸脱警報時	“ピピピピピ…”	上記
車線維持支援機能が一時的に解除されたとき	“ピピッ”	418
警告表示したとき	“ポン”	423

白線認識用カメラについて

白線認識用カメラは、車内（フロントウインドゥガラス内側）に取りつけられています。レーンキーピングアシストの正しい作動のため、次のことをお守りください。

●フロントウインドゥガラスは、いつもきれいにしておいてください。雨滴、結露、氷雪などの付着によっても、性能が低下する場合があります。
●カメラに強い衝撃や力を加えないでください。また、分解などもしないでください。故障、誤作動の原因になります。
●カメラの向きは、厳密に調整されています。取りつけを変更したり、取りはずしたりしないでください。故障、誤作動の原因になります。
●インナーミラー（ルームミラー）の位置をカメラのレンズ前に調整すると、白（黄）線認識ができなくなりレーンキーピングアシストを使用することができません。
●寒冷時などにヒーターを モードで使用していると、フロントウインドゥガラスの上部が曇り、映像に影響を与えます。その場合は、フロントデフロスタースイッチでガラスの曇りを取ってください。
●ダッシュボードの上に物を置かないでください。フロントウインドゥガラスへの映りこみを白（黄）線と誤認識する場合があります。
●カメラのレンズを汚したり、傷をつけたりしないでください。
●カメラ付近のフロントウインドゥガラスにステッカーなどを貼らないでください。

警告表示（作動制限時表示・システム異常時表示）

マルチインフォメーションディスプレイに次の表示がされた場合には、レーンキーピングアシストを使用できません。

■「条件確認中ＬＫＡできません」

条件確認中
LKAできません

レーンキーピングアシスト、または電動パワーステアリングシステムが次の状態のときは、“ポン”とブザー音が鳴るとともに「条件確認中ＬＫＡできません」が表示されます。

●白線認識用カメラが極端に高温または低温になっていて、システム保護のため一時的にレーンキーピングアシストの使用を制限するとき。
●電動パワーステアリングシステムが作動制限をしていて、一時的にレーンキーピングアシストの使用を制限するとき。

この場合は、ＬＫＡスイッチを押してシステムをＯＦＦし、しばらくしてから再度ＯＮにしてください。この操作で制限条件の解除が確認されると、通常の作動状態となります。

■「ＬＫＡシステムチェック」

LKA
システムチェック

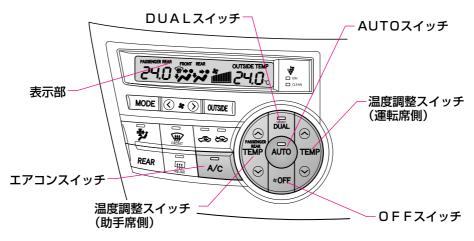
レーンキーピングアシストシステムの異常を検出したときは、“ポン”とブザー音が鳴るとともに、「ＬＫＡシステムチェック」が表示され、ＬＫＡ表示灯が点滅します。
この場合は、ＬＫＡスイッチを押してシステムをＯＦＦし、安全な場所に停車して、一度エンジンを停止してから再度セットしてください。この操作でシステムの正常が確認されると、通常の作動状態となります。「ＬＫＡシステムチェック」が再度表示されるときは、システムをＯＦＦにしてトヨタ販売店で点検を受けてください。なお、通常の走行に支障はありません。

室内装備の取り扱い

4

エアコンの取り扱い

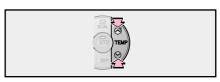
フロントエアコンの使い方

オート（ＡＵＴＯ）での使い方

ＡＵＴＯスイッチを押すと、ファンが作動し、吹き出し口・風量が自動的に調整され、外気導入と内気循環が自動的に切り替わり、設定温度となります。

自動調整にする

ＡＵＴＯスイッチを押します。

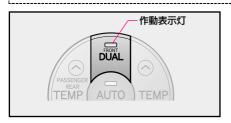
●作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。

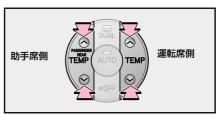
温度を調整する

温度調整スイッチで調整します。
上げるときは ∧ 側、下げるときは ∨ 側を押します。
（0.5℃ずつ調整できます。）

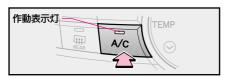
●設定温度を18℃～32℃の間で調整することができます。
- 最大冷房にするとＬＯ
- 最大暖房にするとＨＩ

の表示になります。

●設定温度は表示部に表示されます。

運転席・助手席でそれぞれ温度調整をする

ＤＵＡＬスイッチを押すごとに、連動モードと独立モードに切り替わります。
作動表示灯が
●消灯しているときは連動モード
●点灯しているときは独立モード
になります。

表示	モード
消灯	**連動モード** 運転席側スイッチ操作により運転席と助手席の設定温度を同じにします。
点灯	**独立モード** 運転席と助手席の設定温度を独立してかえることができます。

独立モードのときに運転席は運転席側スイッチ、助手席は助手席側スイッチを押して、希望する室内温度に設定することができます。
上げるときはスイッチの∧側、下げるときはスイッチの∨側を押します。（0.5℃ずつ調整できます。）
●運転席と助手席でそれぞれ独立した温度調整をすることができます。

エアコンをＯＮにする

ファンが作動中のとき、エアコンスイッチを押すごとに、エアコン（冷房、除湿機能）がＯＮとＯＦＦに切り替わります。

●作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。

●外気温が0℃近くまで下がると、エアコンは作動しません。

ファンを止める

ＯＦＦスイッチを押します。

●ファンを停止させることができます。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に作動させないでください。

●バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に作動させないでください。

●エアコンスイッチの作動表示灯が点滅した場合は、システムの異常が考えられますので、安全な場所に車を止めて、いったんエアコンスイッチをＯＦＦにしてから、もう一度ＯＮにしてください。点滅がさらに続く場合は、スイッチをＯＦＦにしてトヨタ販売店で点検を受けてください。

知 識

車内の温度が高いときは

駐車のあと車内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

便利機能について

ＡＵＴＯスイッチをＯＮにしているとき、次のような機能があります。

●吹き出し口が または のとき、冬場などの寒いときには温風の準備ができるまで、しばらくの間ファンを停止します。

●吹き出し口が または のとき、夏場などの暑いときには冷風の準備ができるまで、数秒間ファンを停止します。

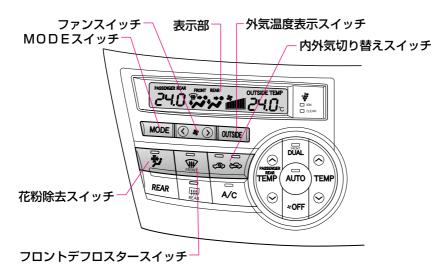
ＡＵＴＯスイッチについて

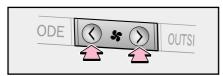
ＡＵＴＯスイッチがＯＮのときにＭＯＤＥスイッチ（Ｐ.430参照）、およびファンスイッチ（Ｐ.430参照）を操作すると、ＡＵＴＯスイッチはＯＦＦになります。

温度調整について

●独立モードから連動モードにもどすとき、運転席と助手席で設定温度が異なる場合は運転席側の設定温度になります。

●連動モードのとき、助手席側温度調整スイッチを操作すると、自動的に独立モードに切り替わります。

お好みの状態にするには

各スイッチを押すことで、それぞれの設定で使用することができます。

風量をかえる

ファンスイッチで風量を7段階に切り替えます。
風量を強くするときは>側、弱くするときは<側を押します。

- 選択している風量が表示部に表示されます。
- ファンが停止しているときに、スイッチを押すと、ファンが作動します。

吹き出し口をかえる

ＭＯＤＥスイッチで吹き出し口を切り替えます。（次ページ参照）

- スイッチを押すごとに吹き出し口が切り替わります。
- 選択している吹き出し口が表示部に表示されます。

■吹き出し口選択の目安

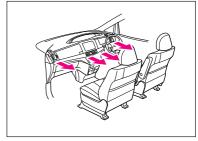
上半身に送風するときは

表示部の表示

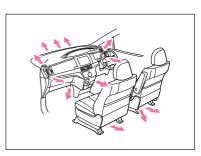
上半身と足元に送風するときは

表示部の表示

足元に送風するときは

表示部の表示

＊ＡＵＴＯ作動時のみ送風されます。

足元への送風とガラスの曇りを取るときは

表示部の表示

外気導入・内気循環の切り替えをする

内外気切り替えスイッチを押すごとに、外気導入と内気循環に切り替わります。

●選択した側の作動表示灯が点灯します。

表示	モード
	外気導入 外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。
	内気循環 外気をしゃ断している状態です。トンネルや渋滞など外気が汚れているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときにお使いください。

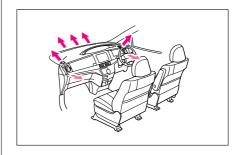
ガラスの曇りを取る

フロントデフロスタースイッチを押し、内外気切り替えスイッチを外気導入にします。

●ファンが停止中のとき、スイッチを押すと、ファンが自動的に作動します。

●スイッチを押すと、エアコンが自動的にＯＮになります。

●作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。

＜吹き出し口＞

外気温度を表示する

外気温度表示スイッチを押すと表示部に外気温度が表示されます。

●設定温度表示にもどすときは、もう一度スイッチを押します。

湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とウインドゥの温度差でウインドゥ外側表面が曇り視界をさまたげる場合があります。

バッテリーあがりを防ぐため、エンジン停止中に作動させないでください。

知識

内外気切り替えについて

●トンネル内や渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときに内外気切り替えスイッチを内気循環にすると効果的です。
●長時間、内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。
●最大暖房および吹き出し口が または で、内外気切り替えが外気導入のとき、室内上層が外気導入、室内下層が内気循環となり、内気循環時と同じくらいの暖房性能を維持しながら、ガラスの曇りを防止します。
●設定温度や室内温度・外気温度などにより自動的に内気循環、または外気導入へ切り替わることがあります。

ＰＴＣヒーターについて

寒冷地仕様車

エンジン始動直後からエンジンが暖まるまで、通常のヒーターに加えて暖房を補います。
次の条件をすべてみたすと、自動的に作動します。
●ファンが作動しているとき。
●最大暖房時。
●エンジンが冷えているとき。
●外気温度が低いとき。
エンジンが暖まると自動的に補助ヒーターは停止します。

より早くガラスの曇りを取るには

ガラスの曇りを取る操作（P.432参照）と併せて、次の操作を行います。
●風量を増す。（ファンスイッチを操作する。）
●設定温度を上げる。（温度調整スイッチを操作する。）

知識

外気温度表示について

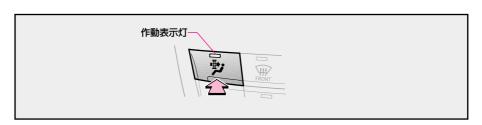
●“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき表示させることができます。
●ほかの計測装置により、計測した外気温度とは異なることがあります。
●次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
- 外気温度が約－30℃以下、または約50℃以上のとき。
- 停車しているときや低速走行（約20 km／h以下）しているとき。
- 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入口付近など）。

●実際の外気温度が変化していなくても、車両の状態（車速・風向きなど）により、外気温度表示が変動することがあります。

モーターの作動音について

●バッテリーターミナルを脱着したあとに“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにしたとき、フロントデフロスタースイッチの表示灯が点滅し、モーターの作動音がすることがありますが、これは正常な作動であり、異常ではありません。
●“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードからOFFにしたとき、数秒後にモーターの作動音がすることがありますが、これは正常な作動であり、故障ではありません。

花粉除去スイッチの使い方

中央、左側、右側吹き出し口からフィルターを通ったきれいな風を顔周辺に送風し、乗り降りする時やドアガラスを開けて走行したときなどに車室内に入った花粉を早期に除去します。

スイッチを押すと花粉除去モードに切り替わり、もう一度押すと通常制御にもどります。

●花粉除去モード時はスイッチの作動表示灯が点灯します。

●車室内の花粉が除去されると、自動的に通常制御にもどります。
（通常は約3分後、外気温が低いときは約1分後に通常制御にもどります。）

- ファンが作動していない状態で使用したときは、ＡＵＴＯ制御になります。

知 識

作動条件について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのときに使用できます。

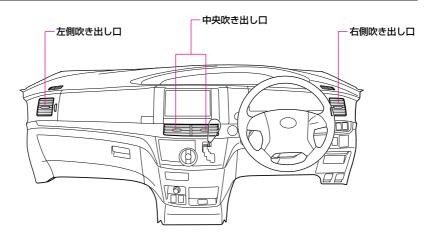
花粉除去スイッチについて

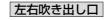
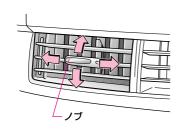
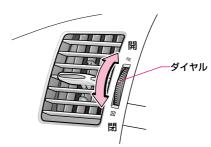
●花粉除去スイッチを押すと次のように制御されます。

- エアコンがＯＮになる場合があります。
- ファンが作動します。
- 内気循環に切り替わります。
（外気温が低いときは、ガラスの曇り防止のため切り替わらない場合があります。）
- 吹き出し口は に切り替わります。
（外気温が低いときは、ガラスの曇り防止のため切り替わらない場合があります。）

●雨天時に花粉除去スイッチを押すと、ガラスが曇ることがあります。そのときは、フロントデフロスタースイッチ（Ｐ.432参照）を押してください。

●通常制御でも、フィルターを通ったきれいな空気が送風されます。

フロント吹き出し口の調整

風向きのかえ方・吹き出し口の開閉のしかた

中央吹き出し口

左右吹き出し口

- 吹き出し口のノブを動かすと、風向きの調整ができます。
- 左右吹き出し口ではダイヤルをまわすと、吹き出し口を開閉できます。

知 識

吹き出し口について

冷房時、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

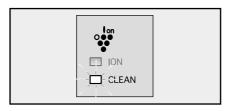
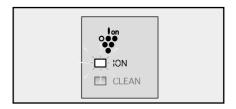
プラズマクラスター®の使い方 ★

エアコンの吹き出し口（運転席側吹き出し口）からの送風にプラズマクラスターイオンを含ませ、車内の空気質を整えます。

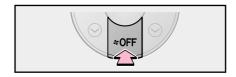
作動させるには

ファンが作動すると自動的にプラズマクラスターが作動します。

●クリーンモード、イオンコントロールモードが約15分ごとに自動的に切り替わります。

●エアコン表示部にモードが表示されます。

クリーンモード
同量のプラスイオンとマイナスイオンを放出して、車内に浮遊するカビ菌の活動を抑制します。

イオンコントロールモード
マイナスイオンの比率を高く放出して空気中のイオンバランスを整えます。

作動を停止させるには

ＯＦＦスイッチを押します。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

プラズマクラスターイオン発生器は高電圧を利用しています。危険ですので、修理等は必ずトヨタ販売店にご相談ください。

プラズマクラスターの取り扱いについては、次の点にご注意ください。

●プラズマクラスターイオンの吹き出し口（運転席側吹き出し口）には、スプレー（洗浄剤、整髪料など）の噴霧、また棒などの異物を挿入しないでください。故障の原因となります。
●運転席側吹き出し口付近に汚れが付着することがあります。この場合は、ファンをＯＦＦにしてから清掃してください。

知識

作動条件について

ファンが作動中、次の条件で効果を発揮します。
●吹き出し口が、　または　のとき
（　、　以外のときにも送風されますが、高い効果は得られません。）

プラズマクラスターについて

プラズマクラスター、プラズマクラスターイオンおよび Plasmacluster はシャープ株式会社の商標です。

作動音について

プラズマクラスターイオン発生器作動時には、微少な作動音が発生する場合がありますが、これはプラズマクラスターイオン生成時に電子が電極に衝突する際に発生するもので、故障ではありません。

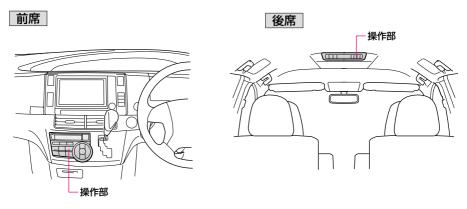
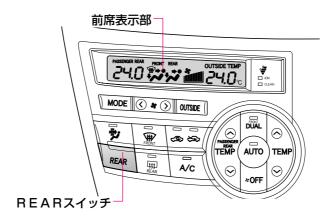
プラズマクラスターイオン／マイナスイオンについて

●プラズマクラスターイオンは、「除菌イオン」とよばれ、車内に浮遊するカビ菌の活動を抑制します。
●一般的にマイナスイオンは、渓流、山林部、滝などの周辺の空気中に多く存在しており、人に安らぎを与えるものとされています。
●非常に高い電圧で作動しますので、吹き出し口付近で静電気を感じることがあります。

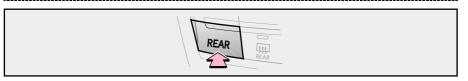
リヤエアコンの使い方

リヤエアコン装着車

リヤエアコンは前席または後席から別々に操作することができます。

操作部の位置

前席操作部

リヤエアコンの吹き出し口についてはＰ.448の「リヤ吹き出し口の調整」を参照してください。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

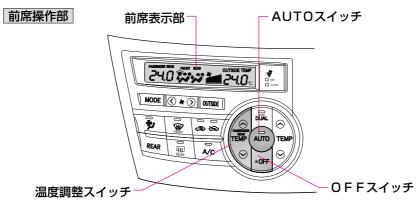
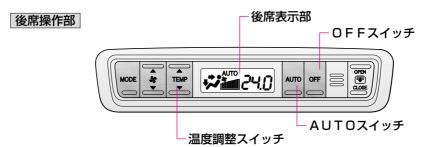
前席操作部からの操作モードを切り替えるには

前席操作部のＲＥＡＲスイッチを押すごとに、操作モードをフロントエアコンモードまたはリヤエアコンモードに切り替えることができます。

前席表示部	モード
PASSENGER FRONT 25.0	**フロントエアコンモード** ＦＲＯＮＴの表示が出ます。 ●前席操作部で、フロントエアコンの操作ができます。
REAR REAR 25.0	**リヤエアコンモード** ＲＥＡＲの表示が出ます。 ●前席操作部で、リヤエアコンの操作ができます。 ●助手席側設定温度の表示部がリヤエアコンの設定温度の表示に切り替わります。

知 識

前席表示部について

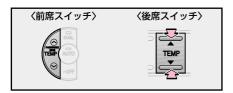
ＲＥＡＲスイッチを押してリヤエアコンモードにしたとき、約6秒間操作をしないと、フロントエアコンモードにもどります。

通常の使い方

自動調整にする

ＡＵＴＯスイッチを押します。

●作動中は、後席表示部にＡＵＴＯの表示が出ます。

●前席操作部がリヤエアコンモードのときは、ＡＵＴＯスイッチの作動表示灯が点灯します。

温度を調整する

温度調整スイッチで調整します。
上げるときは上側、下げるときは下側を押します。
（0.5℃ずつ調整できます。）

●設定温度を18℃～32℃の間で調整することができます。
- 最大冷房にするとＬＯ、
- 最大暖房にするとＨＩ

の表示になります。

●設定温度は表示部に表示されます。

ファンを止める

ＯＦＦスイッチを押します。

●作動を停止させることができます。

注意　バッテリーあがりを防ぐため、エンジン停止中に作動させないでください。

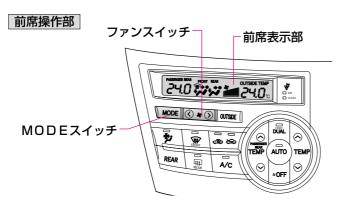
知識

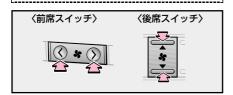
エアコンの作動条件について

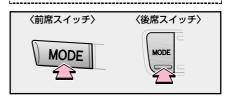
フロントエアコンが停止しているときは、冷房、除湿機能は作動せず、送風のみとなります。

お好みの状態にするには

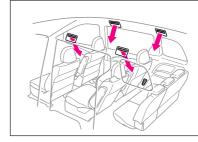
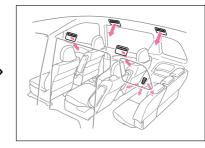
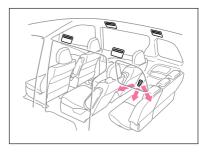
各スイッチを押すことで、それぞれの設定で使用することができます。

前席操作部

後席操作部

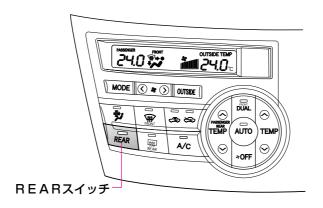
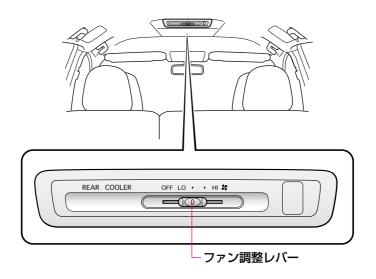
風量をかえる

ファンスイッチで風量を設定します。
風量を7段階に切り替えることができます。
風量を強くするときはアップ側、弱くするときはダウン側を押します。
●風量は表示部に表示されます。

吹き出し口をかえる

ＭＯＤＥスイッチで吹き出し口を選択します。
スイッチを押すごとに、吹き出し口が切り替わります。
（次ページ参照）

■吹き出し口選択の目安

上半身に送風するときは

上半身と足元に送風するときは

足元に送風するときは

リヤクーラーの使い方

リヤクーラー装着車

操作部

■前席操作部

■後席操作部

リヤクーラーの吹き出し口についてはＰ.448の「リヤ吹き出し口の調整」を参照してください。

通常の使い方

リヤクーラーを ＯＮにする

フロントエアコン作動中に、前席操作部のＲＥＡＲスイッチを押します。

- 作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。
- リヤクーラーの作動を停止したいときは、もう一度ＲＥＡＲスイッチを押します。

風量をかえる

後席操作部のファン調整レバーで調整します。

- 風量は4段階に切り替えることができます。

注意 バッテリーあがりを防ぐため、エンジン停止中に作動させないでください。

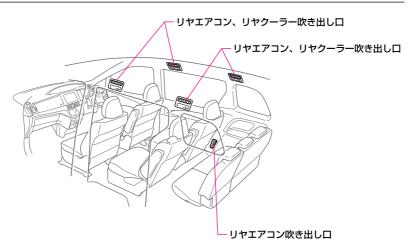
知 識

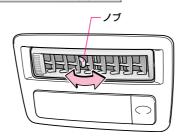
エアコンの作動条件について

フロントエアコンが停止しているときは、冷房、除湿機能は作動せず、送風のみとなります。

前席操作部のＲＥＡＲスイッチについて

前席操作部のＲＥＡＲスイッチを押すことにより、前席からリヤクーラーを作動・停止することができます。

リヤ吹き出し口の調整

風向きのかえ方

リヤエアコン・リヤクーラー吹き出し口

吹き出し口のノブを動かすと風向きの調整ができます。

知 識

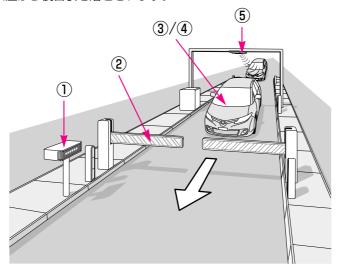
吹き出し口について

冷房時、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

ＥＴＣの取り扱い★

ＥＴＣシステムについて

メーカーオプションのＥＴＣ装着車

ＥＴＣ（Electronic Toll Collection）システムは、有料道路の通過をスムーズに行うために、自動で料金を精算するシステムです。
路側無線装置と車両のＥＴＣユニットとの間で無線通信を行い、料金はお客様が登録した銀行口座から後日引き落とされます。

①路側表示器
料金所のＥＴＣレーンに設置されています。進入車両に対し、適切に通行したかどうかなどのメッセージが表示されます。

②発進制御装置（開閉バー）
料金精算を確実にするために、料金所のＥＴＣレーンに必要に応じて設置されています。通過車両の発進を制御するもので、踏み切りの遮断機のようなものです。通信が正常に行われると開きます。

③ＥＴＣユニット
車両に装着されています。ＥＴＣカードに格納されている料金精算に必要なデータを路側無線装置と通信するための機器です。

④ＥＴＣカード
ＥＴＣユニットに装着します。ＩＣチップを搭載した、ＥＴＣ機器用カードのことです。ＥＴＣカードでは、このＩＣチップに料金精算に必要なデータが保持されています。

⑤路側無線装置
料金所のＥＴＣレーンに設置されています。料金精算のため、車両のＥＴＣ機器との通信を行うためのアンテナです。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

ＥＴＣを利用する前に

ＥＴＣシステムを利用する際には、以下の点に注意してください。

安全のため、運転者は走行中にＥＴＣカードの抜き差し、およびＥＴＣユニットの操作を極力しないでください。
走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車を停車させてから操作をしてください。

その他、ＥＴＣユニットを用いたサービス（スマートＩＣなど）には、様々な制約があります。サービス提供者が案内する利用方法をご確認ください。

ＥＴＣカードを挿入する前に

ＥＴＣカードの有効期限切れにご注意ください。ＥＴＣカードの有効期限が切れていると、開閉バーが開きません。お手持ちのＥＴＣカードに記載された有効期限を、あらかじめ確認してください。

ＥＴＣカードを挿入したあとに

ＥＴＣカードを確実に挿入し、正常に作動していることを確認してください。

- ＥＴＣを利用する際は、あらかじめＥＴＣカードが確実にＥＴＣユニットに挿入されていることと、ＥＴＣユニットが正常に作動していることを確認してください。
- ＥＴＣユニットがＥＴＣカードを認証するまでには数秒かかりますので、料金所手前でのＥＴＣカードの挿入はエラーの原因となる場合があります。

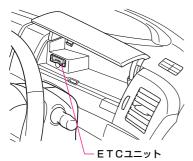
料金所を通過するときは

ＥＴＣレーンに進入するときは、十分な車間距離をとり、約20 km/h以下の安全な速度で進入してください。

- ＥＴＣレーンに進入するときは、十分な車間距離をとり、約20 km/h以下の安全な速度で進入してください。
- ＥＴＣレーンに設置されている開閉バーは、ＥＴＣユニットと路側無線装置の間の通信、あるいはＥＴＣユニットとＥＴＣカードとの通信が正常に行われなかった場合は、開かないことがありますので、ご注意ください。
- ＥＴＣレーンを通行するときは、前車との車間距離を保持した上で、開閉バーの手前で安全に停止できるように十分に減速し、開閉バーが開いたことを確認してから通行してください。

ＥＴＣの使い方

本書では、メーカーオプションのＥＴＣユニットの操作のみを説明しています。このＥＴＣユニットをメーカーオプションのナビゲーションシステムとセットで装着された方は、ナビゲーションシステムの画面で、現在のＥＴＣシステムの状態、ＥＴＣ登録情報や利用履歴の表示、ＥＴＣの設定変更などができます。
詳しくは、別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

ＥＴＣユニットについて

ＥＴＣユニットは、運転席アッパーボックスの中にあります。

はじめてＥＴＣシステムをご利用される前に、ＥＴＣユニットのセットアップ手続きが必要です。トヨタ販売店にご相談ください。（セットアップ手続きには別途費用が発生します。）

ＥＴＣユニットの内部に異物などを入れないでください。

- ●ＥＴＣユニットの内部に異物などを入れないでください。ＥＴＣユニットが故障するおそれがあります。
- ●ＥＴＣユニットに衝撃を与えないでください。ＥＴＣユニットが故障、破損するおそれがあります。
- ●濡れた手でＥＴＣユニットに触れたり、水（液体など）を付着させないでください。ＥＴＣユニット内部に水が入り、故障・破損するおそれがあります。
- ●汚れたときは、柔らかい乾いた布で汚れをふき取ってください。ワックス、シンナー、アルコールなどは絶対に使用しないでください。ＥＴＣユニットが変形・故障する場合があります。
- ●車両１台に対して複数のＥＴＣユニットを取りつけると、ゲートの開閉バーが開かない場合があります。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備の 解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

 知 識

作動条件について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

製品に貼られているシールについて

本製品は電波法の基準に適合しています。製品に貼りつけられているシールはその証明ですので、はがさないでください。また、本製品を分解・改造すると法律により、罰せられることがあります。

車のナンバープレートを変更する場合は

車のナンバープレートが変更になった場合は、再度ＥＴＣユニットのセットアップ手続きが必要となりますので、トヨタ販売店にご相談ください。

ＥＴＣアンテナについて

インストルメントパネル内中央付近にあります。

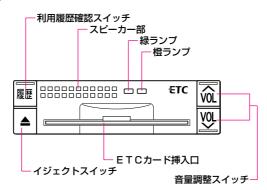
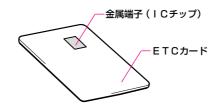
路側無線装置との通信のさまたげにならないよう、ＥＴＣアンテナ上方（インストルメントパネル中央付近）には、物を置かないでください。

 知 識

フロントガラスの汚れなどについて

フロントガラスの汚れや積雪がひどい場合は、それらを取り除いてください。

各部の名称

■ＥＴＣユニットについて

■ＥＴＣカードについて

ＥＴＣカードの取り扱いについては、ＥＴＣカード発行会社の提示する注意事項にしたがってください。

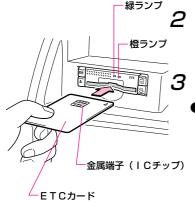
●ＥＴＣカードの取り扱いについては、ＥＴＣカード発行会社の提示する注意事項にしたがってください。

●ＥＴＣカードには有効期限があります。有効期限内のＥＴＣカードをご利用ください。

●セロハンテープ・シールなどが貼ってあるＥＴＣカードや、金属端子（ＩＣチップ）が汚れているＥＴＣカードは使用しないでください。ＥＴＣユニットが正常に作動しなくなったり、ＥＴＣカードが取り出せなくなるなど、故障の原因となるおそれがあります。

使用するときは

■乗車時の操作

1 エンジンを始動します。
ＥＴＣユニットの電源が入り、緑ランプと橙ランプが同時に点灯したあと、しばらくすると消灯します。

2 左図のように正しい挿入方向でＥＴＣカードをＥＴＣユニットにしっかりと挿し込みます。
「ピッ」と音がして、緑ランプが点滅します。

3 ＥＴＣカードを認証します。

●正しく認証された場合

音声案内※	「ポーン ＥＴＣカードが挿入されました」
ＥＴＣユニット	緑ランプが点灯したまま

ＥＴＣシステムは、この状態でご利用ください。

※メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車では、エンジン始動後しばらくの間は、ＥＴＣカードを挿入しても音声案内されない場合があります。

●正しく認証されなかった場合
橙ランプが点滅し、統一エラーコード（P.464参照）を音声でお知らせします。

ＥＴＣユニットやＥＴＣカードにエラーが発生した場合は、橙ランプが点滅し、統一エラーコードを音声でお知らせします。
「統一エラーコード一覧」（P.464参照）の記載にしたがって対処してください。

知識

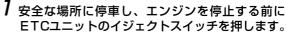
ＥＴＣユニットについて

●橙ランプが点灯しているときは、ＥＴＣユニットのセットアップ手続きができていないので使用できません。
●有効期限切れや解約済みのＥＴＣカードは使用できません。これらのカードをＥＴＣユニットに挿入してもエラー表示はされませんが、開閉バーは開きません。

■降車時の操作

イジェクトスイッチ

ＥＴＣカード

1 安全な場所に停車し、エンジンを停止する前にETCユニットのイジェクトスイッチを押します。

ＥＴＣカードを抜く前にエンジンを停止すると、カードの抜き忘れをお知らせする音声案内がＥＴＣユニットより出力されます。
（P.458参照）

2 ＥＴＣユニットからＥＴＣカードを抜きます。

3 エンジンを停止します。

注意　緑ランプが点滅中はＥＴＣカードを抜かないでください。

●緑ランプが点滅中はＥＴＣカードを抜かないでください。ＥＴＣカード内のデータが破損するおそれがあります。

●ＥＴＣユニットやＥＴＣカードにエラーが発生した場合は、橙ランプが点滅します。状況に応じて、次のように対応してください。

- 統一エラーコード（01～07）が音声出力された場合は、「統一エラーコード一覧」（P.464参照）に記載されている処置にしたがってください。
- エンジン始動時にエラーが発生した場合は、いったんエンジンを停止させ、再度始動してみてください。それでもエラーが続くときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- ＥＴＣカード挿入時にエラーが発生した場合は、いったんＥＴＣカードを抜き、挿入方向を確認して再度挿し込んでみてください。それでもエラーが続くときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●ＥＴＣカードを放置して車から離れないでください。
車内の温度上昇により、ＥＴＣカードが変形したり、ＥＴＣカード内のデータが破損するおそれがあります。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

■ＥＴＣの作動状態を知るには

ＥＴＣユニットの作動状態	ランプの点灯状態
●“エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦのとき（エンジンが停止） ●“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションＯＮモードで、ＥＴＣカードが未挿入のとき	緑ランプ：消灯 橙ランプ：消灯
ＥＴＣが正常に作動しているとき ●ＥＴＣカードが正しく認証されたとき ●ＥＴＣゲートで正常に通信できたとき ●ＥＴＣゲートで正常に精算処理ができたとき	緑ランプ：点灯
ＥＴＣの作動に異常があったとき ●ＥＴＣカードとは種類の異なるカードを挿入したとき ●挿入したＥＴＣカードが正しく認識されなかったとき ●ＥＴＣシステムに異常があるとき ●ＥＴＣゲートで正常に通信できなかったとき ●ＥＴＣゲートで精算処理ができなかったとき ●ＥＴＣのアンテナに異常があるとき	橙ランプ：点滅
ＥＴＣがセットアップ手続きされていないとき	橙ランプ：点灯

■有効期限切れ通知

ＥＴＣと連動するナビゲーションシステムを装着されている場合、ＥＴＣカードを挿入したとき、またはＥＴＣカード挿入状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションON モードにすると、次のように有効期限切れ通知が行われます。ただし、装着されたナビゲーションシステムの機種によっては通知が行われない場合があります。

[有効期限まで１ヶ月以内の場合]

音声案内

「ポーン　ＥＴＣカードの有効期限は今月末です　カードをお確かめください」

画面表示

「ＥＴＣカードの有効期限は今月末です　カードをお確かめください」

[有効期限切れの場合]

音声案内

「ポーン　ＥＴＣカードの有効期限が切れています」

画面表示

「ＥＴＣカードの有効期限が切れています」

＊ エンジン始動後、すぐにＥＴＣカードを挿入すると音声案内および画面表示がされないことがあります。

有効期限切れＥＴＣカードでは開閉バーは開きません。有効期限内のＥＴＣカードをご利用ください。

知 識

ETCカードの取り扱いについて

●ＥＴＣカードを放置して車から離れないでください。ＥＴＣカードが盗難にあうおそれがあります。

●ＥＴＣカードを挿入しているときは、盗難を防止するため運転席アッパーボックスを閉めておいてください。

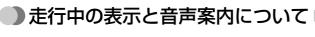
●ＥＴＣカードを紛失してしまった場合は、すみやかにＥＴＣカード発行会社に連絡してください。

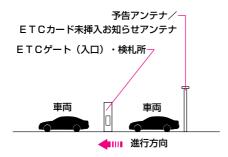
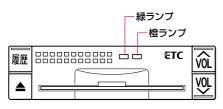
カード抜き忘れ警告について

●ＥＴＣカードを抜く前にエンジンを停止すると、ＥＴＣユニットから**「ピー　カードが残っています」**と音声が出力されます。

●カード抜き忘れ警告の音声を出力しないようにすることもできます。

- 音声を出力をさせない場合は、車を停車させ、ＥＴＣユニットにＥＴＣカードが挿入され緑ランプが点灯している状態で、「履歴」と「VOL」スイッチを同時に約2秒間押し続けます。操作をするごとに「音声出力する／音声出力しない」が切り替わり、選択した設定が保持される（設定が切り替わる）とＥＴＣユニットから**「ピッピッ」**と音がします。なお、メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、ＥＴＣ設定画面でも行えます。詳しくは、別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。
- ＥＴＣユニットの音声案内を中止（音量0）に設定した場合は、**「ピー」**とブザー音のみ出力されます。

走行中の表示と音声案内について

走行中は、次のようにＥＴＣユニットのランプ表示と音声案内が行われます。ただし、安全のため運転者は走行中にランプ表示を見ないでください。

■ＥＴＣゲート（入口）、検札所、予告アンテナ／ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナを通過します。

通信が正常に行われたかどうかにより、通知される内容がそれぞれ次のように異なります。

●通信が正常に行われた場合

ランプ表示	緑ランプが点灯したまま
通知音※1/※2	**「ピンポン」**

※1ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナを通過したときは、通知されません。

※2メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車では通知されません。

●通信が正常に行われなかった場合

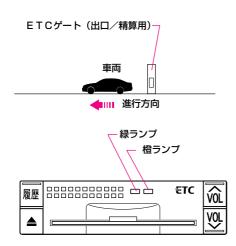
橙ランプが点滅し、統一エラーコードを音声でお知らせします。
「統一エラーコード一覧」（P.464参照）の記載にしたがって対処してください。

ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナ、ＥＴＣゲート、検札所、予告アンテナ付近では、ＥＴＣカードを抜かないでください。ＥＴＣカード内のデータが破損するおそれがあります。

ＥＴＣゲートを通過するときは

ＥＴＣカードが未挿入の状態で、予告アンテナやＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナを通過した場合は、橙ランプが点滅し、**「ピー　ＥＴＣをご利用できません※」**と案内されます。これはＥＴＣが利用できないことをお知らせするもので、ＥＴＣユニットが故障したわけではありません。

※メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車では、**「ポーン　ＥＴＣゲートを通過できません」**または**「ポーン　ＥＴＣカードが挿入されていません」**という音声になります。

■ＥＴＣゲート（出口／精算用）を通過したとき

通信が正常に行われたかどうかにより、通知される内容がそれぞれ次のように異なります。

●通信が正常に行われた場合

ランプ表示	緑ランプが点灯したまま
通知音	「ピンポン」
音声案内	通行料金を通知

●通信が正常に行われなかった場合

橙ランプが点滅し、統一エラーコードを音声でお知らせします。
「統一エラーコード一覧」（P.464参照）の記載にしたがって対処してください。

ＥＴＣゲート進入時は、十分減速してください。

●ＥＴＣゲート進入時は、十分減速してください。
●ＥＴＣゲート通過時は、ＥＴＣゲート付近に表示されている案内にしたがって走行してください。
●ＥＴＣゲートの開閉バーが開かない場合は、料金所係員の指示にしたがってください。
●その他、道路事業者の発行する利用方法にしたがってください。
●必ず、ＥＴＣゲート（入口）で使用したＥＴＣカードで、ＥＴＣゲート（出口／精算用）または検札所を通過してください。
●ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナ、ＥＴＣゲート、検札所、予告アンテナ付近では、ＥＴＣカードを抜かないでください。
ＥＴＣカード内のデータが破損するおそれがあります。

通行料金の音声案内について

●通知される通行料金は、割り引きなどにより実際と異なる場合があります。
●他のナビ案内などと重なったときは、通行料金が案内されないことがあります。※
※ メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車

知識

ゲート通過時の通知について

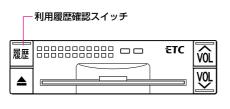
道路側システムにより通信が正常に行われた場合、1つのゲートで2回通知されることがあります。

道路設備について

●予告アンテナは、料金所の手前に設置され、ＥＴＣユニットと通信し、ＥＴＣゲートを利用できるかどうかをＥＴＣユニットを通じて運転者にあらかじめ通知するためのアンテナです。
●ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナは、料金所の手前に設置され、ＥＴＣユニットと通信し、正しくＥＴＣカードが挿入されていない場合にＥＴＣユニットを通じて運転者にあらかじめ通知するためのアンテナです。
●予告アンテナ・ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナは、道路側のシステムにより、設置されている場合と設置されていない場合があります。

利用履歴の確認について

ＥＴＣユニットの利用履歴確認スイッチで、有料道路の利用日および通行料金を音声で確認できます。

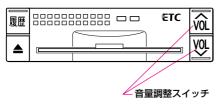
ＥＴＣカードが挿入され、緑ランプが点灯した状態で、停車中に利用履歴確認スイッチを押すと、最新の利用履歴が音声で案内されます。

●利用履歴確認スイッチを押すごとに、古い利用履歴に切り替わります。なお、最も古い利用履歴の次は、最新の利用履歴に切り替わります。
●案内終了後、約１秒以上たってからスイッチを押した場合は、最新の利用履歴から案内されます。

ＥＴＣゲート、検札所、予告アンテナ／ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナ付近では、利用履歴の確認を行わないでください。路側無線装置と通信ができなくなるおそれがあります。

利用履歴について

●利用履歴はＥＴＣカードに記録されるため、記録件数は使用するＥＴＣカードにより異なります。（最大100件）
●利用履歴の最大記録件数を超えた場合は、最も古い利用履歴が消去されます。
●利用履歴がない場合は、**「利用履歴はありません」**と案内されます。
●利用日の情報が正しくない場合は、**「利用日付は不明です」**と案内されます。
●通行料金の情報が正しくない場合は、**「料金は不明です」**と案内されます。

音量調整について

ＥＴＣユニットの音量調整スイッチで、ＥＴＣユニットから出力される音声案内の音量を調整することができます。

ＥＴＣユニットの音量調整スイッチで、ＥＴＣユニットから出力される音声案内の音量を8段階に調整することができます。

音量を

●大きくするときはスイッチの VOL 側

●小さくするときはスイッチの VOL 側を押します。

音量を調整すると、調整結果が音声で案内されます。

音量	音声案内
1～8	「音量○○です」
0	「音声案内を中止します」

知 識

音量調整について

●音量調整は、以下のような案内に有効です。
- 未セットアップ状態の通知
- エラー発生時のブザー音
- カード抜き忘れ警告（P.458参照）
- 利用履歴の確認
- 音量調整時の案内

●音量調整を中止（音量0）に設定してあっても、エラー発生時には音量1で出力されます。

●ＥＴＣユニットが未セットアップ状態（セットアップ手続きをしていない状態）の通知は、ＥＴＣユニットを消音（音量0）にすると出力されません。

エラーコードについて

統一エラーコード一覧

エラーが発生すると、橙ランプが点滅するとともに統一エラーコードが音声出力されます。この場合は、以下の表にもとづき、処置をしてください。

（例）エラー03が発生したときは、次のように音声で案内されます。

音声案内：「ピッピッ　カードを読めません　エラー03」※

※メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車では、**「ポーン　ＥＴＣカードが読めません　03」**という音声で車両のスピーカーから通知されます。併せてナビゲーション画面に**「ＥＴＣカードが読めません　カードをお確かめください　03」**と表示されます。

コード	異常状態	想定される要因	処置
01	ＥＴＣカード挿入異常	●ＥＴＣカードが通信時に挿入されていない ●ＥＴＣカードの挿入状態が悪い	ＥＴＣカードの挿入状態をご確認のうえ、再度挿入してください。
02	データ処理異常	●ＥＴＣカードへの読出し、書込みエラー ●ＥＴＣカードとユニットの接点不良（ＥＴＣカードアクセス中の瞬断） ●読出し中、書込み中カードのイジェクト	**ＥＴＣカード挿入時：** 挿入されたＥＴＣカードのデータが読み出せませんでした。再度挿入してください。 エラーが解消しない場合は、トヨタ販売店へお問い合わせください。 **ＥＴＣゲート通過前：** 料金所にて車両の停止が案内されることがあります。 車両停止後、料金所係員の指示にしたがってください。 **ＥＴＣゲート通過後：** 次の料金所にて車両の停止が案内されることがあります。 料金所係員のいる一般レーン（ＥＴＣ／一般共用レーンを含む）へ進入してください。
03	ＥＴＣカード異常	●ETCカードが故障している ●ＩＣカード以外のカードが挿入され、通信しない ●ＥＴＣカードの誤挿入（裏面、挿入方向違い）	挿入されたカードがＥＴＣカードであると認識できませんでした。 正しいＥＴＣカードであること、および挿入方向などをご確認のうえ、再度挿入してください。 エラーが解消しない場合は、トヨタ販売店へお問い合わせください。

コード	異常状態	想定される要因	処置
04	ＥＴＣユニット故障	自己診断の結果、ＥＴＣユニットが故障していると判断された	再度エンジンを始動してみてください。 エラーが解消しない場合は､トヨタ販売店へお問い合わせください。
05	ＥＴＣカード情報の異常	●ＥＴＣカードとの認証エラー ●ＥＴＣカード以外のＩＣカードが挿入 ●認証中ＥＴＣカードのイジェクト ●未セットアップ状態でのＥＴＣカードの挿入	挿入されたカードがＥＴＣカードであると認識できませんでした。正しいＥＴＣカードであること、および挿入方向などをご確認のうえ、再度挿入してください。 エラーが解消しない場合は､トヨタ販売店へお問い合わせください。
06	ユニット情報の異常	路側無線装置との認証エラー	ユニットと料金所間におけるデータ処理にエラーが発生しました。 料金所係員の指示にしたがってください。
07	通信異常	路側無線装置との通信が途中で終了	

知識

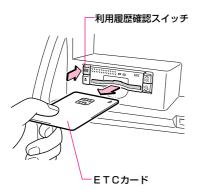
統一エラーコードについて

●ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナなどと通信したときに、統一エラーコード（07）と通知されることがありますが、ＥＴＣユニットの故障ではありません。
●ＥＴＣユニットの無線通信を利用して、駐車場管理システムが運用されています。有料道路の料金支払いと異なる通信を行った場合、統一エラーコード（01）または（07）と通知されることがありますが、ＥＴＣユニットの故障ではありません。

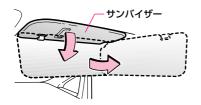
ＥＴＣゲート通過後のエラー発生時は

ＥＴＣゲート通過後にエラーが発生した場合、ＥＴＣカードを抜くとエラー音が停止します。再度、ＥＴＣカードを挿入すると**「ポーン　ＥＴＣカードが挿入されました」**の音声と同時に緑ランプが点灯しますが、次の料金所にて車両の停止が案内されることがあります。

記録されているエラーコードを確認するには

ＥＴＣユニットは、最後に発生した統一エラーコードを記録しています。
コードの確認をする場合は、次のように行います。

1 イジェクトスイッチを押し、ＥＴＣカードを抜きます。

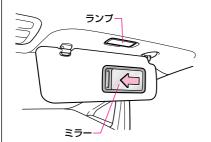
2 利用履歴確認スイッチを約2秒以上押します。
最後に案内された統一エラーコードが音声で案内されます。

室内装備品の使い方

サンバイザー

日差しがまぶしいときに使用します。
側面にまわして使用することもできます。

知 識

便利機能について

バニティ（化粧用）ミラー
サンバイザーの裏側にミラーがついています。

● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのときにフタを開けるとランプが点灯します。

チケットホルダー
運転席サンバイザーの表側にあります。チケットなどを収納することができます。

シガレットライター

シガレットライターを押し込んで手を離します。
もとの位置にもどったら使用できます。

 注意

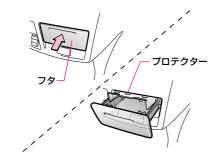
●シガレットライターの金属部分に触れないでください。やけどをするおそれがあります。
●シガレットライターの故障や周辺部の焼損を防ぐため、次のことをお守りください。
- シガレットライターを押さえたままにしないでください。
- 他車のシガレットライターを差し込まないでください。
- ソケットからトヨタ純正品以外の電気製品の電源を取り出さないでください。トヨタ純正品以外の電源を取り出した場合、シガレットライターを使用すると、赤熱したシガレットライターが飛び出したり、押し込まれたまま出てこないおそれがあります。

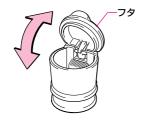
知 識

作動条件について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

灰皿

■フロント

●使用するときは、フタを押して開けます。
●取りはずすときは、プロテクターを押さえたまま取りはずします。

■リヤ

使用するときは、フタを起こして開けます。

警告

出火を防ぐため、次のことをお守りください。
●マッチ、タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、確実に閉めてください。
●灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

知 識

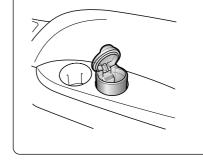
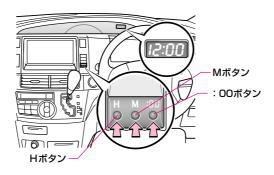
灰皿の収納場所について

次の場所に収納することができます。

セカンドシート

■スライドドアのボトルホルダー
（P.487参照）

サードシート

■クォータートリムのボトルホルダー
（P.487参照）

時計

“時”“分”を調整するときは

Hボタンを押すと“時”、Mボタンを押すと“分”が早送りされます。

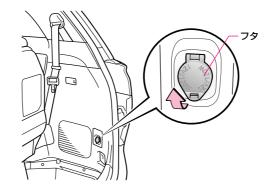
正時に合わせるときは

時報と同時に：00ボタンを押すと正時に合わせることができます。
●0～29分は切り下げられます。
●30～59分は切り上げられます。
（例）1:00～1:29の場合は1:00に、1:30～1:59の場合は2:00になります。

知識

時計の表示について

●“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき時刻が表示されます。
●秒表示はありませんが、次の場合は0秒から作動を開始します。
- Mボタンを押して分を調整後、Mボタンから手を離したとき
- ：00ボタンを押したとき

アクセサリーソケット

車内で電気製品を使用することができるソケットです。
使用するときはフタを開けます。

アクセサリーソケットを使用しないときは、フタを閉めておいてください。

●アクセサリーソケットを使用しないときは、フタを閉めておいてください。異物がソケットに入ったり、飲料水等がかかったりすると、故障したり、ショートするおそれがあります。
● エンジンが止まった状態で長時間使用するとバッテリーがあがることがあります。また、エンジンがかかっていてもアイドリング状態で長時間使用するとバッテリーがあがることがあります。

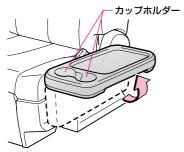
知 識

アクセサリーソケットについて

● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのとき使用できます。
●使用する電気製品は、必ずDC12 Vで最大電流10 A（最大消費電力120 W）以下の電気製品を使用してください。
●規定容量をこえる電気製品を使用すると、車両ヒューズが切れることがあります。

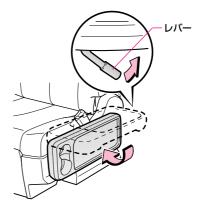
目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

センターテーブル

7人乗りのみ★

使用するときは、テーブルを引き上げます。

●テーブルを引き上げたら、確実に固定されたことを確認してください。

●カップホルダーとしても、使用することができます。

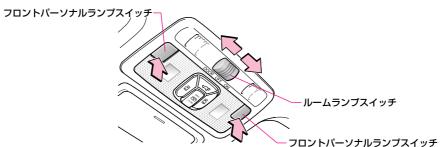
●センターテーブルは、セカンドシートの左右位置調整が外側にあるときのみ使用することができます。

もとにもどすときは、レバーを引いてテーブルが固定するまでおろします。

警告

カップホルダーには、カップや飲料缶以外のものを入れないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に、収納していたものが飛び出しけがをするおそれがあり危険です。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタをしてください。

テーブルの上に乗ったり、重い物を置くなど無理な力をかけないでください。破損や変形の原因となります。

室内灯

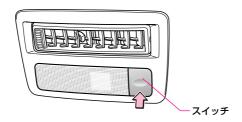
ルームランプ一体フロントパーソナルランプ

■ルームランプスイッチ

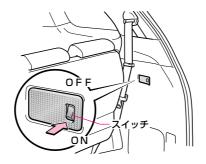
●ルームランプスイッチがＯＮの位置のとき点灯します。
●ルームランプスイッチがＯＦＦの位置のとき消灯します。
●ルームランプスイッチがＤＯＯＲの位置のときは、フロントドアおよびスライドドアを開けると点灯します。
詳しい作動はP.476の「イルミネーテッドエントリーシステム」を参照してください。

■フロントパーソナルランプスイッチ

フロントパーソナルランプスイッチを押すと、押した側のフロントパーソナルランプが点灯し、もう一度押すと消灯します。

リヤパーソナルランプ

セカンドシート、サードシート上部

●スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。
●ルームランプ一体フロントパーソナルランプのルームランプスイッチがＤＯＯＲの位置のときは、スライドドアを開けると点灯します。
詳しい作動はＰ.476の「イルミネーテッドエントリーシステム」を参照してください。

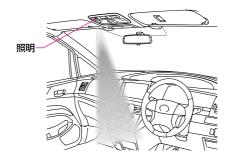
ラゲージルームランプ

スイッチをＯＮにしておくと、バックドアを開けたとき点灯し、閉めると消灯します。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

ドアカーテシランプ★

フロントドア

フロントドアを開けたとき点灯し、閉めると消灯します。

フロントフロアまわり照明

車幅灯を点灯させると点灯します。

バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に長時間点灯させないでください。

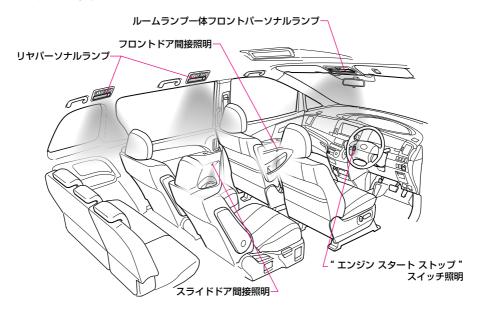
知識

作動条件について

“エンジン スタート ストップ” スイッチの状態に関係なく使用できます。

イルミネーテッドエントリーシステム

イルミネーテッドエントリーシステムについて

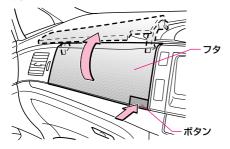
ドアロックの施錠・解錠、ドアの開閉、“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態、シフトレバーの位置によって、各部の照明が点灯・消灯するシステムです。

①“エンジン スタート ストップ”スイッチ照明
②ルームランプ一体フロントパーソナルランプ※
③リヤパーソナルランプ※
④フロントドア間接照明★
⑤スライドドア間接照明★

※ルームランプ一体フロントパーソナルランプのスイッチがＤＯＯＲのとき

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

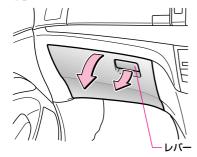
作動のしかた

下記の作動は、条件が1つしか成立しない場合の例です。実際には、いくつかの条件が同時に成立することにより、下記の作動と異なる場合があります。

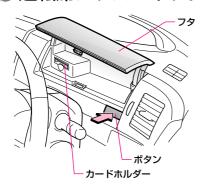
条件＼部位		①・②・③	④・⑤
電子キーを携帯して検知エリアに入ったとき		消灯→約15秒間点灯	消灯のまま
ドアロック	いずれかを解錠したとき	消灯→約15秒間点灯	消灯→約15秒間点灯
	いずれかを施錠したとき	点灯→消灯	点灯→消灯
		消灯→消灯のまま	消灯→消灯のまま
ドア	いずれかを開けたとき(バックドアを除く)	消灯→点灯	消灯→点灯
	すべてを閉めたとき(バックドアを除く)	点灯→約15秒後に消灯	点灯→約15秒後に消灯
“エンジンスタートストップ”スイッチの状態	ＯＦＦ→アクセサリーモード	点灯→消灯	点灯→約15秒後に消灯
		消灯→消灯のまま	消灯→消灯のまま
	アクセサリーモード→イグニッションＯＮモード	消灯のまま	消灯→点灯
	エンジン回転中	消灯のまま	点灯のまま
	イグニッションＯＮモード→ＯＦＦ	消灯→約15秒間点灯	点灯→約15秒後に消灯
シフトレバーの位置	ⓅからⓅ以外にしたとき	点灯→点灯のまま	点灯→減光状態で点灯
		消灯→消灯のまま	

助手席アッパーボックス

ボタンを押してフタを開けます。

●閉めるときはそのままフタを下におろし確実に閉めます。

グローブボックス

レバーを引いて開けます。

●閉めるときは“カチッ”と音がするまで確実に閉めます。

運転席アッパーボックス

ボタンを押してフタを開けます。

●閉めるときはそのままフタを下におろし確実に閉めます。

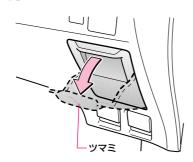
ＥＴＣ装着車を除く

ボックスの中にカードホルダーがあります。

メーカーオプションのＥＴＣ装着車

ボックスの中にＥＴＣユニットがあります。（Ｐ.454参照）

運転席マルチボックス★

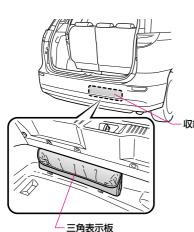
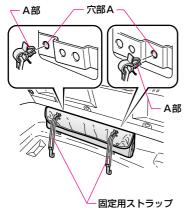
運転席アンダーボックス

ツマミを引いて開けます。
●閉めるときは確実に閉めます。

警告 **収納ボックスのフタを開けたまま走行しないでください。**

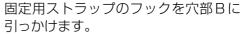
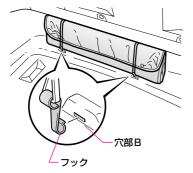
●収納ボックスのフタを開けたまま走行しないでください。
急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●運転席アッパーボックスは、走行中にフタの開閉をしないでください。とくにハンドルの中に手を入れてフタを開けるようなことはしないでください。ハンドル操作に支障をきたし、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

三角表示板収納スペース

販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車を除く

1 **三角表示板を収納スペースに置きます。**
三角表示板をラゲージスペースうしろ側のくぼみにある収納スペースに置きます。

2 **固定用ストラップを穴に差し込みます。**
固定用ストラップのA部を穴部Aに差し込みます。
●固定用ストラップは工具袋の中に入っています。
●A部を差し込む穴を間違えないように注意してください。

3 固定用ストラップのフックを引っかけます。

固定用ストラップのフックを穴部Ｂに引っかけます。

●ストラップのフックが確実にボディ側の穴部Bにかかっていることを確認します。

警告

三角表示板収納スペースに三角表示板を収納したときは、三角表示板が確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、急ブレーキをかけたときなどに三角表示板が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知 識

収納について

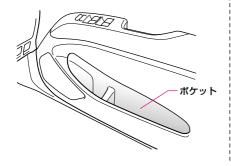
三角表示板のケースの大きさ、形によっては収納できない場合があります。

固定用ストラップについて

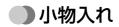
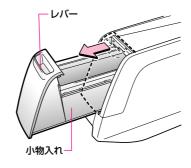
固定用ストラップは工具袋の中にあります。また、使用しないときは、工具袋（P.622参照）にもどしておいてください。

収納ポケット

各席ドアポケット

■フロントドア

■サードシート

運転席側のみ

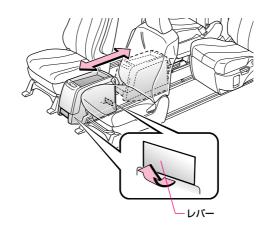
収納ポケット内に転がりやすいものや凹面より高さのあるものを置かないでください。
急ブレーキ、急旋回したときなどに置いたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ロングスライドコンソール

小物入れ

ロングスライドコンソールの前側に小物入れがあります。
●小物入れはレバーを引いて開けます。

テーブル

トップボードをテーブルとして使用することもできます。

ロングスライドコンソールを前後にスライドさせるときは

レバーを引きながらスライドさせます。

●ロングスライドコンソールをフロントシートとセカンドシートの間で固定することができます。

●スライドさせたあと、ロングスライドコンソールを軽くゆさぶり確実に固定されたことを確認します。

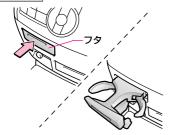
目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

警告　小物入れのフタを開けたまま走行しないでください。

●小物入れのフタを開けたまま走行しないでください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●カップホルダーには、カップや飲料缶以外のものを入れないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に、収納していたものが飛び出しけがをするおそれがあり危険です。また、使用していないときはフタを閉めておいてください。
●走行中はテーブルを使用しないでください。テーブルの上に物を置いたまま走行すると、急ブレーキをかけたときなどに物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ロングスライドコンソールのスライド操作時に、コンソール内カップホルダー（P.486参照）のカップや飲料缶のジュースなどをこぼさないよう注意してください。

カップホルダー

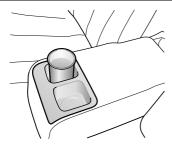
フロント

フタを押すと開きます。

- ●ホルダーの幅を、カップなどの大きさに合わせて調整することができます。
- ●使用しないときは格納しておいてください。

ロングスライドコンソール内（7人乗り）

図の方向にカップホルダーを引き出します。

- ●ホルダーの幅を、カップなどの大きさに合わせて調整することができます。
- ●使用しないときは格納しておいてください。

セカンドシートアームレスト(8人乗り)

アームレストにあります。

- ●使用しないときは、アームレストを格納しておいてください。
- ●7人乗り車のセカンドシート用カップホルダーは、センターテーブルにあります。（P.472参照）

警告

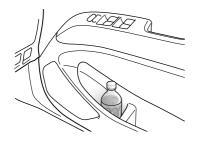
カップホルダーには、カップや飲料缶以外のものを入れないでください。

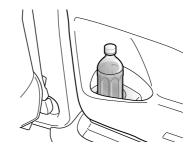
- ●カップホルダーには、カップや飲料缶以外のものを入れないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタをしてください。
- ●急ブレーキをかけたときや衝突時に、カップホルダーに体が当たるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。カップホルダーを使用しないときは収納しておいてください。

注意

カップホルダーを破損から守るため、カップホルダーに手をついたりしないでください。

ボトルホルダー

■フロントシート

フロントドア（両側）にあります。

■セカンドシート

スライドドア（両側）にあります。

■サードシート

クォータートリム（両側）にあります。

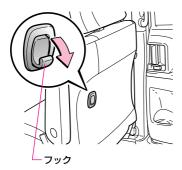
走行するときやドアを開閉するときは、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

知識

ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから、収納してください。
●走行するとき、ドアを開閉するときは、ジュースなどがはいっている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。
●ペットボトルの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備の 解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

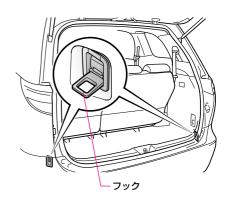
買物フック

買物袋などを吊り下げておくことができます。

●使用しないときはフックを格納してください。

注意

●フックを使用しないときは、格納しておいてください。指を挟むなどして思わぬけがをするおそれがあります。

●とくに重たいものや大きなものをフックに吊り下げないでください。
フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。
最大荷重…………………4 kg

デッキフック

使用するときは、フックを取り出します。

注意

フックを使用しないときは、格納しておいてください。指を挟むなどして思わぬけがをするおそれがあります。

知 識

デッキフックについて

荷物の固定用として使用することができます。

●フックは2カ所あります。

コートフック

サードシート天井にコートフックがあります。

	コートフックには、ハンガー・重いもの・とがったものをかけないでください。服をかけるときは、ハンガーを使用せずに直接コートフックにかけてください。 ＳＲＳカーテンシールドエアバッグが展開したときに飛ばされて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

アクセサリーコンセント★

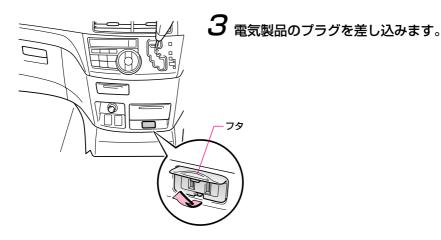
アクセサリーコンセントの使い方

1 **メインスイッチを押します。**

- ●作動表示灯が点灯し、アクセサリーコンセントが使用可能な状態になります。
- ●スイッチを押すごとに“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションＯＮモードとＯＦＦに切り替わります。
- ●アクセサリーコンセントを使用しないときは、メインスイッチをＯＦＦにして、作動表示灯が消灯していることを確認してください。

2 **アクセサリーコンセントのフタを開けます。**

3 **電気製品のプラグを差し込みます。**

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

注意 **アクセサリーコンセントを使用しないときはフタを閉めておいてください。**

●アクセサリーコンセントを使用しないときは、コンセントから電気製品のプラグをはずし、フタを閉めておいてください。異物がコンセントに入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートするおそれがあります。
●エンジンを停止した状態で長時間使用するとバッテリーがあがることがあります。また、エンジンがかかっていても、アイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。
●ＡＣアダプターを直接アクセサリーコンセントに接続しないでください。フタを損傷したり、ＡＣアダプターが脱落するおそれがあります。

知 識

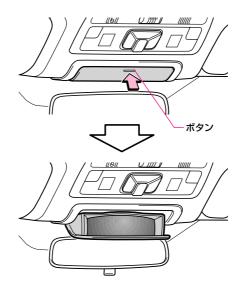
作動条件について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

アクセサリーコンセントについて

●車内で電気製品を使用することができます。
●ＡＣ100 Ｖで最大消費電力100 Ｗ以下の電気製品を使用してください。
 ●最大消費電力が100 Ｗをこえる電気製品を使用すると、保護回路が働き、使用できなくなります。この場合、コンセントをはずして消費電力が100 Ｗ以下になれば使用することができます。
●消費電力が100 Ｗ以下であっても次のような機器は正常に作動しない場合があります。
 ●起動時の消費電力が大きい機器（ブラウン管式テレビ、コンプレッサー式冷蔵庫、電気ポンプ、電動工具など）。
 ●電源周波数の切り替え（50／60 Hz）のある機器（時計、オーディオなど）。
 ●精密なデータを計測する機器（医療機器、計量器など）。
 ●その他（マイコン制御式電気毛布、タッチセンサー付ランプなど）
●使用する電気製品によっては、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。
●アクセサリーコンセントの電圧は、市販のテスターでは正確な電圧を測定できません。電圧の確認が必要な場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

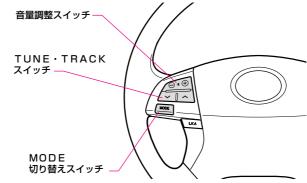
後席確認ミラー

レーンキーピングアシスト装着車 を除く

ボタンを押してミラーを開きます。

●使用しないときはミラーを収納します。

後席確認ミラーは、走行中に使用しないでください。走行中に使用するとわき見運転となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ステアリングスイッチ

ハンドル左側にあるスイッチで、オーディオなどを操作することができます。
モードの切り替えや、CD、ラジオなどの操作については、装着されたオーディオにより異なる場合や、操作できない場合があります。
●メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。
●販売店オプションのナビゲーションシステムや、オーディオの操作方法は、各取扱書をご覧ください。

電源を入れる

ＭＯＤＥ切り替えスイッチを押します。
スイッチを押し続けるとオーディオの電源がＯＦＦになります。
●装着されたオーディオにより“ピッ”と音が鳴ることがあります。

音量を調整する

音量を大きくするときは音量調整スイッチの＋側、小さくするときは－側を押します。
●スイッチを押してすぐに手を離すと、音量を1ステップずつ調整できます。
●スイッチを1秒以上押し続けると、音量を連続して調整できます。

安全運転に支障がないように適度な音量でお聞きください。

モードを切り替える

MODE切り替えスイッチを押します。
●電源がＯＮのときMODE切り替えスイッチを押すごとに（ＣＤ、ラジオなど）が切り替わります。

選局・選曲する

ＴＵＮＥ・ＴＲＡＣＫスイッチを押します。
●スイッチを押して、お聞きになりたい放送局やＣＤなどで再生したい曲を選択します。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

安全・快適装備の解説と注意

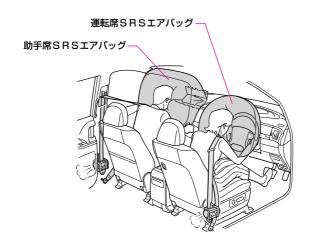
ＳＲＳ ※エアバッグ

ＳＲＳエアバッグとは？

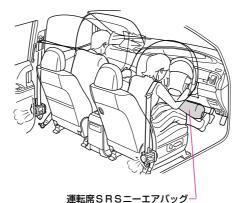
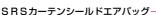
ＳＲＳエアバッグは、あくまでも乗員保護の補助装置でシートベルトの補助をするもので、ＳＲＳエアバッグの効果を発揮させるためには、正しい姿勢と正しいシートベルトの着用が絶対条件です。
また、正しく取り扱えば効果のあるＳＲＳエアバッグも、誤った取り扱いをすると効果を発揮しないばかりか、かえって乗員に傷害または死亡の危険を与えるおそれがあります。

デュアルＳＲＳエアバッグ

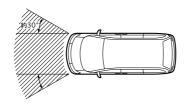
デュアル（運転席・助手席）ＳＲＳエアバッグは、運転者、または助手席乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、乗員の頭や胸などに作用する衝撃を分散・緩和させる働きをするものです。

※ Supplemental Restraint Systemの略で「乗員保護補助装置」の意味。

ＳＲＳサイドエアバッグ＆ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ＆ＳＲＳニーエアバッグ★

ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグは、フロントシートおよびセカンドシート、サードシート左右席の乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両客室部に側方から受けたときに、衝撃を受けた側のＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、ＳＲＳサイドエアバッグはフロントシート乗員の胸などの上体に、ＳＲＳカーテンシールドエアバッグはフロントシートおよびセカンドシート左右席乗員のおもに頭部に作用する衝撃力を分散・緩和させる働きするものです。
ＳＲＳニーエアバッグは、運転者の挙動の適性化により、乗員の衝撃緩和を補助するものです。
ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグは乗員がいなくてもふくらみます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

ＳＲＳエアバッグの作動のしくみ

デュアルＳＲＳエアバッグ／ＳＲＳニーエアバッグの作動★

車両前方左右約30°以内の方向から乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。
衝撃は車両前方・車両中央床部に取りつけられたセンサーで感知し、ＳＲＳエアバッグをふくらませるようコンピューターに信号を送り、ＳＲＳエアバッグが作動します。

車両前方にグリルガードなどを装着すると、センサーが正常に衝撃を感知できなくなり、ＳＲＳエアバッグの正常な作動を損なうおそれがあります。

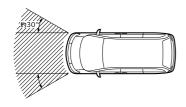
ＳＲＳサイドエアバッグ＆ＳＲＳカーテンシールドエアバッグの作動★

車両側面方向から乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。
衝撃は左右センターピラー・左右スライドドア・左右クォーターピラー・フロントフロア・リヤフロアに取りつけられたセンサーで感知し、ＳＲＳエアバッグをふくらませるようコンピューターに信号を送り、ＳＲＳエアバッグが作動します。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

ＳＲＳエアバッグが作動するとき

シートベルトを正しく着用している乗員が、重大な傷害を受けるおそれがあるような強い衝撃があった場合に作動し、重大な傷害を受けるおそれの少ない衝撃では作動しにくくなっています。

作動する場合

車両前方左右約30°以内の方向から乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。

ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグは、車両側面方向から乗員に重大な傷害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。

作動しにくい場合

■デュアルＳＲＳエアバッグ／ＳＲＳニーエアバッグ★

次のようなボディが受ける衝撃が弱い場合には、作動しない場合があります。

●衝突時に変形・移動しないコンクリートのような固い壁に正面衝突したときであっても、衝突速度が約25 km/h以下のときは作動しない場合があります。

●衝突時に変形・移動しない電柱や立木などの狭い範囲に正面衝突したときであっても、衝突速度が約30 km/h以下の場合は作動しない場合があります。

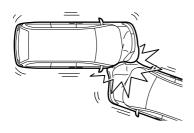
★印はグレード等により装着の有無が異なります。

次のような場合にも衝突による衝撃が緩められるため、作動しない場合があります。

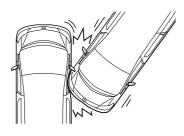
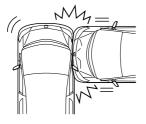
●トラックの荷台下などへもぐりこみ衝突した場合。

●斜め前方から衝撃を受けた場合。

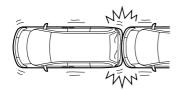
衝突したものが変形したり移動した場合は、衝突による衝撃が緩められるため、作動する車速は高くなります。

●例えば、停車中の同程度の重さの車へ正面から衝突した場合には、約50 km/h程度の速度であっても、作動しない場合があります。

●衝突の方向（角度）や片側衝突（オフセット衝突）などによっては、さらに高い速度であっても、作動しない場合があります。

■ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ

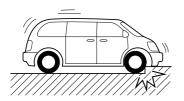
次のようなボディが受ける衝撃が弱い場合には、作動しないことがあります。

●斜め側面から衝撃を受けた場合。

●客室部以外の側面に衝撃を受けた場合。

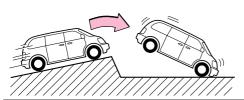
本来の効果を発揮しない場合

次のような場合は作動する場合もありますが、本来の効果を発揮しません。

●側面や後方から衝撃を受けた場合。
（運転席・助手席ＳＲＳエアバッグ）

●車両が横転・転覆した場合。

車両下部に衝突を受けた場合

次のような車両下部に強い衝撃を受けたときには、作動する場合があります。

●縁石などにぶつかった場合。

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえた場合。

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下した場合。

ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

●**ＳＲＳエアバッグはシートベルトを補助する装置で、シートベルトに代わるものではありません。**

乗車するときには、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと衝突したときなどにＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させることができないばかりでなく、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキなどで前方に放り出されると同時にＳＲＳエアバッグがふくらみ、強い衝撃を受け危険です。シートベルトの正しい着用については、P.271を参照してください。
- シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中をつけた正しい姿勢でシートに座ってください。ＳＲＳエアバッグに近づきすぎた姿勢で乗車していると、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

＜運転者のかたは＞

運転操作ができる範囲で、できるだけハンドルに近づきすぎないようにして座ってください。

＜助手席乗員のかたは＞

助手席ＳＲＳエアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。シートの調整、正しい運転姿勢についてはP.217を参照してください。

- ドアにもたれかかったり、フロントピラー・センターピラー・リヤピラー、ルーフサイド部や天井に近づかないようにしてください。ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに頭部などに強い衝撃を受け、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。とくにお子さまを乗せるときには注意してください。

ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

- ひざの上にものをかかえるなど、乗員とＳＲＳエアバッグの間にものを置いた状態で走行しないでください。ＳＲＳエアバッグがふくらんだときにものが飛ばされ顔に当たったり、ＳＲＳエアバッグの正常な作動がさまたげられ、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●お子さまを乗せるときには、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまはリヤシートに座らせて、必ずシートベルトを着用させてください。
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまには、子供専用シートをリヤシートに装着してご使用ください。
- 助手席には子供専用シートをうしろ向きに絶対に取りつけないでください。助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。（P.48参照）なお、やむを得ず前向きにして助手席に子供専用シートを取りつける場合には、シートの前後調整位置をいちばんうしろにして取りつけてください。

- お子さまを助手席ＳＲＳエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりした状態では走行しないでください。

警告 **ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。**

●車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。これらの作業が必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

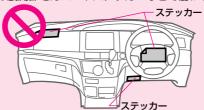
- ＳＲＳエアバッグおよびインストルメントパネルの取りはずし・取りつけ・分解・修理などをしないでください。

- ＳＲＳサイドエアバッグ装着車は、フロントシートの表皮の張り替えやフロントシートの取りはずし・取りつけ・分解・修理などが必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。また、フロントシートの改造はしないでください。
- ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車は、フロントピラー・センターピラー・リヤピラー、およびルーフサイド部や天井の取りはずし・取りつけなどＳＲＳカーテンシールドエアバッグ格納部周辺を分解・修理しないでください。

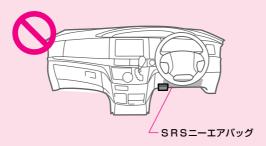
- サスペンションを改造しないでください。車高がかわったり、サスペンションの硬さがかわると、ＳＲＳエアバッグの誤作動につながります。
- 車両前部、または車両客室部の修理をしないでください。不適切な修理を行うと、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなります。

ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

●カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ＳＲＳエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどで覆わないでください。

- インストルメントパネル上に芳香剤などのものを置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、ふくらんだときに飛ばされて危険です。

- インストルメントパネル下部のＳＲＳニーエアバッグ展開部周辺にアクセサリーなどを取りつけないでください。ＳＲＳニーエアバッグがふくらんだとき飛ばされて危険です。

警告　**ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。**

- ＳＲＳサイドエアバッグ装着車は、フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取りつけないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外のものがＳＲＳサイドエアバッグ展開部を覆うと、ＳＲＳサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取りつけてください。

- ＳＲＳサイドエアバッグ装着車は、フロントドアやその周辺にカップホルダーなどのカー用品を取りつけないでください。ＳＲＳサイドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

- ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車は、フロントウインドゥガラス、サイドドアガラス、フロントピラー・センターピラー・リヤピラーおよびルーフサイド部、アシストグリップや天井などＳＲＳカーテンシールドエアバッグ格納部周辺にアクセサリー・ハンズフリーマイク・ハンガーなどを取りつけないでください。ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに、飛ばされて危険です。

ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

- 無線機の電波などは、ＳＲＳエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがありますので、無線機などを取りつけるときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- 車両前部にグリルガードやウインチなどを装着するときは、トヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をすると、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグの誤作動につながります。

●ステアリングパッド・インストルメントパネル上部などＳＲＳエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

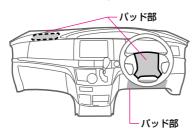
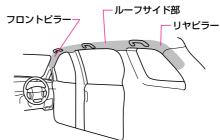
●ＳＲＳエアバッグがふくらんだ直後は、ＳＲＳエアバッグ構成部品に触れないでください。構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ＳＲＳエアバッグが正常に作動した場合でも次のような場合があります。

●ＳＲＳエアバッグは非常に速いスピードでふくらむため、ＳＲＳエアバッグとの接触により打撲やすり傷などを受けることがあります。

●ＳＲＳエアバッグが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある人は、呼吸が苦しくなることがあります。
この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出れない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
また、ＳＲＳエアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。

注意　ＳＲＳエアバッグが正常に作動した場合でも次のような場合があります。

●衝突したときなどに、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらむことによって、車両のフロントウインドゥガラスが破損することがあります。
●一度作動したＳＲＳエアバッグは、2回目以降の衝突では再作動しません。必ずトヨタ販売店で交換してください。同様に連続して衝突した場合、1回目の衝突でＳＲＳエアバッグが作動すれば、2回目の衝突ではＳＲＳエアバッグは作動しません。
●車やＳＲＳエアバッグを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。ＳＲＳエアバッグが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。
●ＳＲＳエアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラー・センターピラー・リヤピラー、ルーフサイド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。衝突したときなどにＳＲＳエアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

●エンジン停止時およびＳＲＳエアバッグ作動時は、フューエルポンプ制御が作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限におさえます。燃料供給の停止を解除するときは、燃料もれがないことを十分確認してから、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを一度ＯＦＦにします。

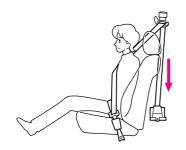
シートベルト関係

シートベルトの働き

プリテンショナー＆フォースリミッター付シートベルト

フロントシートベルト

●プリテンショナー機構は、前席の乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときに、シートベルトを瞬時に巻き取り、適切な乗員拘束効果の確保に役立ちます。
●フォースリミッター機構は、シートベルトの荷重を規定値に維持することで胸部への衝撃を緩和します。

プリテンショナー機構

【衝突初期にシートベルトを瞬時に巻き取る】

フォースリミッター機構

【衝突時規定荷重を維持しながらシートベルトを引き出す】

ＥＬＲ機構付シートベルト

シートベルトは身体の動きに合わせて伸縮しますが、強い衝撃で身体が前に倒れそうなときは、ベルトが自動的にロックされ身体を固定します。

プリクラッシュシートベルト

プリクラッシュシートベルトについてはＰ.532、534を参照してください。

⚠警告　プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。

●プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとプリテンショナーが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートベルトを正しく着用する。（P.271参照）
- シートを正しい運転姿勢のとれる位置に調整する。（P.217参照）

●プリテンショナー付シートベルトの取りつけ・取りはずし・分解などをしないでください。また、プリテンショナー付シートベルトを修理するときは、必ずトヨタ販売店で行ってください。プリテンショナー付シートベルトを不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤って巻き取り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリテンショナー付シートベルトが作動するとＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

注意　車やプリテンショナー付シートベルトを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●プリテンショナー付シートベルトが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが火災ではありません。また、人体への影響もありません。

●車やプリテンショナー付シートベルトを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。プリテンショナー付シートベルトが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。

知 識

プリテンショナー付シートベルトの作動条件について

プリテンショナー付シートベルトは、車両前方から強い衝撃を受けたときに作動します。次のような衝撃が弱いときには、作動しない場合があります。

●コンクリートの壁に約25 km/h以下の速度で正面衝突したとき。

なお､次のような場合は作動する場合もありますが、本来の効果を発揮しません。

●側面や後方から衝撃を受けたとき。

●車両が横転、転覆したとき。

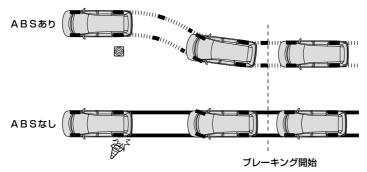
作動後について

プリテンショナー付シートベルトは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

ＥＢＤ※1付ＡＢＳ※2、ブレーキアシスト

ＡＢＳ、ブレーキアシストとは？

ＡＢＳの働き

ＡＢＳは、急ブレーキをかけたときや、すべりやすい路面でブレーキをかけたときに起こるタイヤのロック（回転が止まること）を防ぐことによりスリップを抑制します。

ブレーキアシストの働き

ブレーキアシストは、緊急制動時の運転に不慣れな運転者がパニック状態に陥ったときなどに、ブレーキペダルが強く踏めず、ブレーキ性能を十分に発揮できない場合や、定員乗車で坂道を降りるときなどに運転者のペダル踏力を増加させ、制動力を確保する装置です。しかし、ＡＢＳ＆ブレーキアシストはスリップの抑制やハンドルの効き方には限界がありますので、過信することなく安全運転を心がけましょう。

また、ＡＢＳやブレーキアシスト（S-ＶＳＣ装着車）は、車輪に取りつけられたセンサーによりタイヤのロックを検出します。タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、P.82の「タイヤについての注意」をよくお読みください。

※1 Electronic Brake force Distributionの略で「電子制動力配分制御」の意味。
※2 Antilock Brake System（アンチロック・ブレーキ・システム）の略。

ＡＢＳやブレーキアシストが作動しているとき

運転について

●急ブレーキ時は、ＡＢＳやブレーキアシストが効果を発揮するように、ブレーキペダルをできるだけ早く、強く踏み続けることが必要です。

●急ブレーキ時にポンピングブレーキ※をしないでください。ポンピングブレーキをすると制動距離が長くなります。
※ ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけ方。

思いきり踏む。

踏み続ける。

ゆるめたり、ポンピングはしない。

作動について

ＡＢＳが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

●ＡＢＳの作動音とともにブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルに振動を感じたり、車両停止後もモーター音が聞こえることがあります。

●ＡＢＳの作動が終了すると、ブレーキペダルが少し奥に入ったりすることがあります。

ブレーキアシストが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

S-ＶＳＣ装着車

ブレーキペダルを急速度で踏んだときブレーキが強くかかるようになり、作動音とともにブレーキペダルが小刻みに動くことがあります。また、ＡＢＳが作動することがあります。

S-ＶＳＣ装着車を除く

ブレーキペダルを急速度で踏んだとき、ブレーキが強くかかるようになり、ＡＢＳが作動することがあります。

ＥＢＤの働き

ＡＢＳの制御技術を応用して、車両の走行状態に応じた適切な制動力を前後輪に配分します。これにより、積載時や減速度による荷重変化に応じ、4輪の制動力配分を適切に行い、高いブレーキ性能を確保します。さらに、旋回中の制動時にも左右輪の制動力をコントロールして走行安定性を確保します。

⚠警告　ＥＢＤ付ＡＢＳやブレーキアシストを過信しないでください。

●ＥＢＤ付ＡＢＳやブレーキアシストを過信しないでください。
ＥＢＤ付ＡＢＳが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ＥＢＤ付ＡＢＳやブレーキアシストを過信せず速度を抑え、車間距離を十分にとって安全運転に心がけてください。
- ＥＢＤ付ＡＢＳはタイヤのグリップ限界をこえたり、ハイドロプレーニング現象※が起こった場合は、効果を発揮できません。
  ※ 雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

●ＥＢＤ付ＡＢＳは制動距離を短くするための装置ではありません。
次の場合などは、ＥＢＤ付ＡＢＳのついていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにして車間距離を十分にとってください。
- 砂利道、新雪路を走行しているとき。
- タイヤチェーンを装着しているとき。
- 道路の継ぎ目などの段差を乗りこえるとき。
- 凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき。

●ブレーキアシストは、ブレーキ本来の能力をこえた性能を引き出す装置ではありません。車両・車間距離などに十分注意して安全運転に心がけてください。

作動条件について

●ＥＢＤ付ＡＢＳ、ブレーキアシスト（S-ＶＳＣ装着車）は、車速が約10 km/hをこえると作動できるようになります。また、車速が約5 km/hまで下がると作動を止めます。
●雨の日に、マンホールのフタ・橋の継ぎ目・工事中の鉄板などの上でブレーキを踏むとすべりやすいため、ＥＢＤ付ＡＢＳが作動しやすくなります。

作動音について

●エンジン始動時や始動後の発進直後に、エンジンルームからモーター音や“カチッ”という音が聞こえることがあります。これは、ＥＢＤ付ＡＢＳの作動をチェックしているときの音で異常ではありません。
●ブレーキペダルを踏んだとき小さな打音が聞こえることがあります。これは、ブレーキアシストの機構が作動しているときの音で異常ではありません。（S-ＶＳＣ装着車を除く）

アクティブトルクコントロール4WD

アクティブトルクコントロール4WDとは？

4WD車

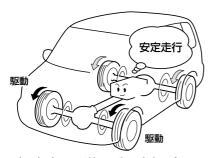
コンピューターにより、通常走行からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などですべりやすい路面など様々な走行状態に応じて、ＦＦ走行状態から直結4WD走行状態まで自動的に制御し、安定した操縦性と走行安定性を発揮するとともに、良好な燃費性能を実現した4WDです。

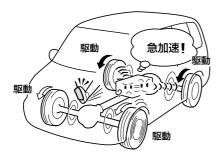
●4WDオートモードスイッチをＯＮにすると制御を行います。スイッチについては、P.377の「4WDオートモードスイッチの使い方」を参照してください。

アクティブトルクコントロール4WDの取り扱い上の注意がP.70の「4WD車についての注意」に記載されています。よくお読みになり、正しい取り扱いを理解して安全運転に心がけるようにしましょう。

4WD走行

4WDオートモードスイッチがＯＮのときに作動します。

■安定走行（ほぼＦＦ走行）

安定走行（平坦な郊外の道路を一定の速度で走行しているときなど）は、ほぼＦＦ状態で走行します。

■加速時や雪道などの走行（4WD走行）

コーナリング時や登坂時、発進時、加速時、雪や雨などですべりやすい路面など様々な走行状態に応じて、最適な駆動力（トルク）を後輪へ配分し、ＦＦ走行から4WD走行までを自動的に制御します。

ＦＦ走行

4WDオートモードスイッチがＯＦＦの状態です。
より燃費のいい走行が可能です。

タイヤについて

アクティブトルクコントロール4WDは、タイヤの状態が車の性能に大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、Ｐ.82「タイヤについての注意」をよくお読みください。

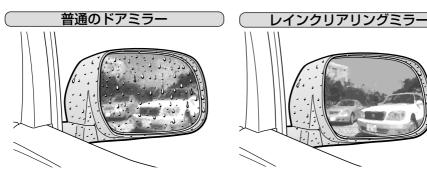
警告　宙に浮いたタイヤを、むやみに空転させないでください。

- 脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動部品に無理な力が加わり焼きつきなどの損傷を受けたり、焼きつきにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイル漏れや焼きつきなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるので、タイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
  - 4輪の空気圧の差が著しいとき。
  - 空気圧が指定値からはずれているとき。
- タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（P.567参照）
- ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（P.615参照）

ミラー・ガラス関係

レインクリアリングミラー

レインクリアリングミラーとは？

ドアミラーの鏡面には親水膜のコーティングがしてあり、雨天時など鏡面に付着した水滴を膜状に広げる（親水効果）ことにより、後方を見やすくします。

※イラストはイメージで表わしたもので、実際のものとは異なります。

- ●ミラーヒーター装着車は、ミラーヒーターを作動させると、水膜が晴れ、よりクリアな視界が得られます。ミラーヒーターの操作については、P.299をお読みください。
- ●通常の手入れは水洗いをするだけで十分です。
- ●霧雨や小雨などの少量の水滴に対しては親水効果が低下します。
- ●次の場合、一時的に親水効果が失われますが、徐々に回復します。
  - ミラーの汚れを拭き取ったとき
  - ミラーが曇ったとき
  - 自動洗車機でワックス洗車をしたとき
  - 長期間、地下駐車場など日の当たらない場所に駐車していたとき
- ●回復時間は、汚れの量や種類にもよりますが、晴天時に太陽光を1・2日間当てると回復します。親水効果を早く回復させたいときは、鏡面を中性洗剤（シリコーン・研磨剤を含まないもの）で洗浄したあと、多量の水で洗い流してください。（カーシャンプーやガラスクリーナーの中には、シリコーン・研磨剤が入っているものもありますので、成分表をよくお読みください。）

親水効果を持続させるため、またドアミラーの傷つきを防止するため、次の注意事項を必ず守ってください。

●撥水剤（シリコーン入りのスプレー・溶剤など）・油膜取り剤（コンパウンド入りのスプレー・溶剤など）は使用しないでください。また、ドアガラスやボディに撥水剤・油膜取り剤・ワックスを使用するときは、ドアミラーの鏡面をタオルなどで覆い、ドアミラーに付着しないようにしてください。万一付着したときは、カーシャンプーやガラスクリーナーなどで洗浄したあと、多量の水で洗い流してください。（カーシャンプーやガラスクリーナーの中には、シリコーン・コンパウンドが入っているものもありますので、成分表をよくお読みください。）

●親水膜の効果を持続させるため、ドアミラーが凍結したときはプラスチックの板などで削り落とさずに、温水をかけるか、ミラーヒーターを作動させる（ミラーヒーター装着車のみ）などして解氷してください。

●ドアミラーの汚れを拭き取るときは、きれいなタオルで拭き取ってください。

撥水機能付ガラス

撥水機能付ガラスとは？

フロントドアガラスには、撥水膜のコーティングがしてあり、ガラスについた雨水などをはじき、雨天時の視界を良くします。また、コーティングにより、泥・油膜・水アカがつきにくくなり、霜や着氷も落としやすくなります。

※イラストはイメージで表わしたもので、実際のものとは異なります。

水滴をはじく持続期間には限りがあります。長持ちさせるために次の注意事項を必ず守ってください。

- ●撥水機能付ガラスが汚れているときは、なるべく早めにやわらかい湿った布などで清掃してください。
- ●ガラスの泥などの汚れがひどいときは、汚れを取り除いてから、フロントドアガラスの開閉を行ってください。
- ●撥水機能付ガラスを清掃するときは、コンパウンド（みがき粉）の入ったガラスクリーナーやワックスは使用しないでください。また、ガラスクリーナー使用時に白曇りする場合は、湿った布で拭き取ってください。
- ●自動洗車機を使用するときは、撥水機能付ガラス表面の泥などの汚れを落としてから洗車してください。
- ●金属製のもので霜取りなどをしないでください。
- ●撥水機能付ガラスは消耗品です。水滴のはじきが悪くなったときは、補修が必要です。また、コーティングを除去することもできます。詳しくは、トヨタ販売店におたずねください。

盗難防止システム

エンジンイモビライザーシステムとは？

車両の盗難防止のために、電子キーに信号発信機を内蔵しており、あらかじめ登録された電子キー以外ではエンジンを始動できないようにしたシステムです。

●電子キーに登録された信号は車ごとに異なります。

●“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにすると、システムが作動し、セキュリティ表示灯（Ｐ.330参照）が点滅します。

●登録された電子キーを携帯し、“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すと、システムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。

●車両から離れる場合は、車内に電子キーを残さないでください。

盗難防止システムの故障を防ぐために次のことをお守り下さい。

●電子キーは信号発信機を内蔵している電子部品です。故障を防ぐために次のことをお守りください。

- 電子キーを無理に曲げたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
- ダッシュボードの上など高温になる場所に置かないでください。
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをつけないでください。
- 電子キーを超音波洗浄機などでは洗浄しないでください。

●エンジンイモビライザーシステムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

6 Super ＥＣＴとは？

3.5Ｌ車

6 Super ＥＣＴは、フレックスロックアップシステムやＡＩ－SHIFTなどにより、燃費性能と快適な走行を両立した電子制御オートマチックトランスミッションです。

フレックスロックアップシステムの働き

トランスミッションの伝達効率を上げ、燃費性能を高めるシステムです。

●シフトレバーが🅓のすべてのギヤ段、および🅢の6、5、4速にあれば、自動的に作動します。

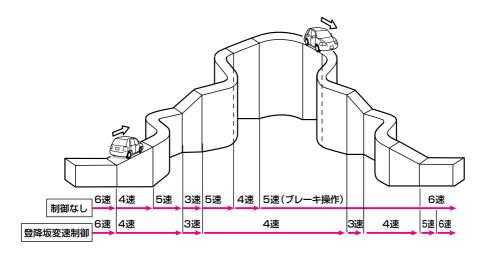
ＡＩ※－SHIFTの働き

ＡＩ－SHIFTには、以下のシステムから運転者の意思と道路状況を推定し、最適な走行パターンへ自動的に切り替えることにより、快適で安全な走りを実現したシステムです。

●シフトレバーが🅓にあれば、自動的に作動します。

※ Artificial Intelligenceの略で「人工知能」の意味。

■登降坂変速制御システム

アップダウンのあるワインディング路などを走行しているときに、登坂していると判断された場合、5速へのシフトアップを制限し、4速によるスムーズな走行を実現します。
また、降坂時では5速で走行しているときに、降坂していると判断された場合、ブレーキを踏むと自動的に4速にシフトダウンし、エンジンブレーキがかかります。

走行中、エンジン警告灯（P.343参照）が点灯したときは、オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

Super ＣＶＴ－ｉ

Super ＣＶＴ－ｉとは？

2.4Ｌ車

Super　ＣＶＴ－ｉは、無段変速システムやロックアップシステム、登降坂変速制御システムとの統合制御などにより、なめらかで快適な走行と燃費性能を両立させた電子制御無段変速機です。

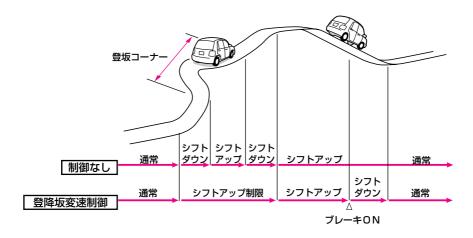
無段変速システムの働き

無段変速システムは、一対のプーリーと金属ベルトによって無段に変速を行います。そのため、変速ショックの少ないスムーズな走行が可能です。
また、エンジンの出力を効率よく引き出すことができるため、優れた低燃費性を実現しています。

ロックアップシステムの働き

トランスミッションの伝達効率を上げ、燃費性能を高めるシステムです。
●シフトレバーが**D**または**M**にあれば、自動的に作動します。

登降坂変速制御システムの働き

アップダウンのあるワインディング路などをシフトレバーを**D**にして走行しているときに登坂していると判断された場合、シフトアップを制限し、スムーズな走行を実現します。
また、降坂時では降坂していると判断された場合、ブレーキを踏むと自動的にシフトダウンしエンジンブレーキがかかります。

走行中、エンジン警告灯（P.343参照）が点灯したときは、オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ＴＲＣ・Ｓ-ＶＳＣ★

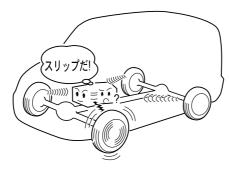
ＴＲＣ※とは？

ＴＲＣの働き

すべりやすい路面での発進時や加速時に、過剰な駆動力により生ずる駆動輪のホイールスピンを抑え、車両の方向安定性と駆動力を確保しようとする装置です。

●車輪がスリップしはじめると車輪速センサーからの情報でコンピューターがスリップを感知し、エンジンに対して出力を一瞬下げるようにし、また、必要に応じてブレーキをかけます。これにより、過剰な駆動力を抑え、スリップを防止します。

- ＴＲＣが作動すると、スリップ表示灯（Ｐ.333）が点滅します。このとき、車両の振動を感じることがありますが、これはブレーキ制御によるもので、異常ではありません。

ＴＲＣのしくみ

タイヤのスリップは4輪に取りつけられたセンサーからの信号を比較し、いずれかの信号のみほかの車輪より多い場合、スリップしているとコンピューターが判断します。それによって、スリップしているタイヤの駆動力を抑えようとブレーキをかけたり、エンジンの出力を一時的に抑えたりして、スリップを抑制させます。

※ Traction Control（トラクション・コントロール）の略。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

ＴＲＣとタイヤの関係について

ＴＲＣは、車輪についているセンサーからの信号を基準に作動させるため、4輪の中で1輪でもタイヤの種類が異なると、信号の出方がかわり、コンピューターがスリップと判断します。

●タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、Ｐ.82の「タイヤについての注意」をよくお読みください。

ＴＲＣを過信しないでください。ＴＲＣが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。常に安全運転に心がけ、スリップ表示灯（Ｐ.333参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

知 識

作動条件について

●通常は“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッションＯＮモードにすると、ＴＲＣが作動可能状態になります。

●ＶＳＣ警告灯（Ｐ.341参照）が点灯しているときは、ＴＲＣは作動しません。

作動チェックについて

エンジン始動時や始動後の発進直後にエンジンルームから“カチカチ、トン”という音が聞こえることがあります。これはシステムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

S-VSC※とは？

S-VSCは、電動パワーステアリングと協調制御し、急激なハンドル操作やすべりやすい路面での旋回時の横すべりなどを抑制するため、自動的にブレーキやエンジンの出力などを制御して、車両の安定性を確保しようとするシステムです。

●S-VSCが作動すると、スリップ表示灯（P.333参照）が点滅します。

●タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、P.82の「タイヤについての注意」をよくお読みください。

S-VSCを過信しないでください。S-VSCが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。常に安全運転に心がけ、S-VSC作動警告ブザー（断続音）が鳴ったり、スリップ表示灯（P.333）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

知 識

作動条件について

●S-VSCは車速が約15 km/hをこえると作動できるようになります。

●VSC警告灯（P.341）が点灯しているときは、S-VSCは作動しません。

VSC作動警告ブザーについて

車両が横すべりしそうになったときに断続音が鳴ります。

●運転状況によっては、スリップ表示灯（P.333参照）の点滅のみで警告する場合があります。

作動チェックについて

エンジン始動時や始動後の発進直後にエンジンルームから“カチカチ、トン”という音が聞こえることがあります。これはシステムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

※S-VSCは、Steering-assisted Vehicle Stability Control（ステアリングアシステッド・ビークル・スタビリティ・コントロール）の略。

ヒルスタートアシストコントロール

ヒルスタートアシストコントロールとは？

S-VSC装着車

ヒルスタートアシストコントロールの働き

ヒルスタートアシストコントロールは、急な上り坂やすべりやすい上り坂を発進するとき、ブレーキからアクセルへ踏みかえる際に発生する車両の後退を自動的なブレーキで防止し、発進を容易にする装置です。

制御の切り替え

ヒルスタートアシストコントロールは、ブレーキペダルを踏んで停車中に更にブレーキペダルを踏み込むと、作動条件（P.316参照）が満たされていたときに“ピッ”とブザーが一回鳴り作動状態になります。

●ヒルスタートアシストコントロール作動中は、スリップ表示灯（P.333参照）が点滅します。また、同時に制動灯も点灯します。

●作動時間は、ブレーキペダルから足を離して約2秒間です。

警告　ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。極端に急な上り坂、凍結した上り坂、泥状の上り坂では発進が困難な場合があります。慎重に発進してください。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための装置ではありません。坂道での長時間の駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

電子制御スロットル（ＥＴＣＳ－ｉ※）

電子制御スロットルとは？

電子制御スロットルは、各運転条件においてアクセル開度に対するエンジン出力を最適にコントロールし、車両の優れた操作性を確保する装置です。
エンジン電子制御システムなどとの統合制御により、様々な運転領域にわたって、良好なアクセルコントロール性と優れた車両安定性を実現しています。

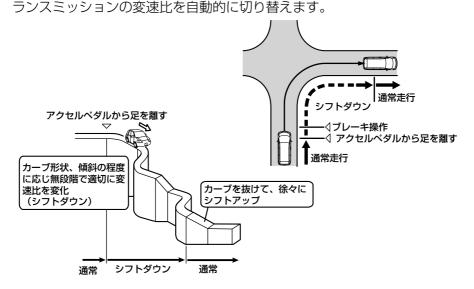
エンジン警告灯（P.343参照）が点灯しアクセルペダルを踏んでもエンジン回転数の上昇が鈍いときは、電子制御系の異常が考えられます。
このときは、低速で走行ができます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
なお、この低速走行中に万一、電子制御系の異常が解消した場合でも、エンジンを停止するまでは、正常状態に復帰することはありません。

※ ＥＴＣＳ－ｉは、Electronic Throttle Control System―intelligent（エレクトロニック・スロットル・コントロール・システムーインテリジェント）の略。

NAVI・AI※-SHIFT★

NAVI・AI※－SHIFTとは？

シフトレバーが🅓、車速が約15～100 km/hのとき、作動します。
作動中は、ナビゲーションの道路形状情報（コーナー・交差点）、道路勾配情報、運転者のアクセル・ブレーキ操作の情報をもとに、オートマチックトランスミッションの変速比を自動的に切り替えます。

警告

状況により作動しないことがありますので、NAVI・AI－SHIFTを過信せず、常に道路状況に注意し、安全な速度で走行してください。

知識

作動条件について

以下のときは、NAVI・AI－SHIFTは作動しません。
- NAVI・AI－SHIFTを「しない」にしたとき。
- シフトレバーが🅓以外のとき。
- スポーツシーケンシャルシフトモードに切り替えたとき。
- 車速が約15 km/h以下、または約100 km/h以上のとき。
- GPSボイスナビゲーションの地図の道路上に自車位置マークがのっていないとき。
- GPSボイスナビゲーションが目的地案内をしていないときの交差点走行時。ただし、交差点走行時でも走行状況によりNAVI・AI－SHIFTが作動する場合があります

※ Artificial Intelligenceの略で、「人工知能」の意味。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

ディスチャージヘッドランプ★

ディスチャージヘッドランプとは？

ディスチャージヘッドランプは、バルブ管内のガスと金属ヨウ化物を使って発光させ、通常のランプより白い光と伸び、広がりのある配光を持つランプです。

ディスチャージヘッドランプを交換するとき（電球交換を含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
電球ソケットに触れた状態で点灯操作をすると、瞬間的に20,000 Vの高電圧が発生し、感電して生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

知識

オートレベリング（上下照射方向自動調整）システムについて

●加減速時や（ＡＦＳ装着車のみ）荷物の積載状況などによる車両姿勢の変化に対応して、ヘッドランプの光軸を自動的に調整する装置です。
●ＡＦＳ装着車では、エンジンを始動してはじめてヘッドランプを点灯したとき、ヘッドランプの光軸が動くことがありますが、これはシステムの正常な作動をチェックしているときの現象で異常ではありません。

プリクラッシュセーフティシステム★

プリクラッシュセーフティシステムとは？

プリクラッシュセーフティシステムは、衝突が避けられない状況をプリクラッシュセンサーで予測し、シートベルトの早期巻き取り（プリクラッシュシートベルト）や衝突前のブレーキ制御（プリクラッシュブレーキ）やブレーキの踏み込みに応じた制動補助（プリクラッシュブレーキアシスト）により乗員のけがや車両損傷の低減に寄与します。

プリクラッシュセーフティシステム警告灯について

プリクラッシュセーフティシステムに異常があると点灯・点滅します。

■警告灯が点滅する

●プリクラッシュシートベルトが短時間に繰り返し作動したときに警告灯が点滅します。この場合、過熱保護のためにシステムの作動が停止しますが、しばらくすると復帰します。

●カバー（次ページ参照）が雪などで汚れているとき、警告灯が点滅します。この場合は、カバーの汚れをやわらかい布などで清掃し、しばらく走行すると復帰します。

■警告灯が点灯する

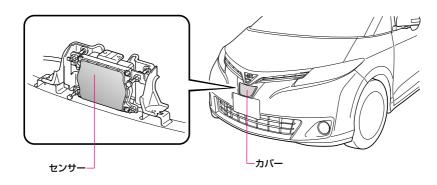
プリクラッシュセーフティシステムに異常があると警告灯が点灯します。警告灯が点灯しているとき、プリクラッシュシートベルトは作動しないことがあります。

警告　プリクラッシュセーフティシステムを過信しないでください。

●プリクラッシュセーフティシステムを過信しないでください。
運転するときは常に周囲の状況に注意し、進行方向の障害物などを確認して安全運転に心がけてください。

●シートベルトを着用していないとプリクラッシュシートベルトは作動しません。

プリクラッシュセンサーについて

ミリ波レーダーで進路上にある車両や障害物を検知して、物体の位置、車速や進路から衝突の可能性を事前に判断します。

レーンキーピングアシスト装着車

ミリ波レーダーに加え、白線認識カメラの映像からも衝突の可能性を判断します。

知識

プリクラッシュセンサーについて

- ミリ波レーダーは、フロントバンパー前端のカバーの内側に装着されています。
- ミリ波レーダーは、パイロン等のプラスチック類は検知できません。また、人、動物、自転車、オートバイ、立ち木などは衝突物として検知できないことがあります。
- センサーの取り扱いについては、「レーダーセンサー前部の取り扱い」（P.399参照）を参照してください。

レーンキーピングアシスト装着車

白線認識カメラについては、「白線認識用カメラについて」（P.422参照）を参照してください。

プリクラッシュシートベルト（フロント席）について

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にフロントシートベルトを巻き込み、プリテンショナーの効果を高めます。（P.510参照）
急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。

知 識

作動条件について

プリクラッシュシートベルトは以下の条件のとき作動します。
- “ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッションＯＮモードのとき。
- 自車速度が約5 km/h 以上のとき。
- 自車からみた対向車や障害物などの接近速度が約30～40 km/h以上のとき。
- シートベルトを着用しているとき。

プリクラッシュシートベルトの作動によりシートベルトが引き込まれた状態でロックした場合、すみやかに安全な場所に停車してシートベルトをはずし、再度装着してください。また、シートベルトをゆるませることができる場合は、少し巻き取らせることでロックを解除することができます。

プリクラッシュブレーキについて

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突の可能性が高いと判断したとき、マスターウォーニングの点灯およびブザーが鳴ると同時にメーター内にあるマルチインフォメーションディスプレイに、「ブレーキ！」を表示して、運転者に衝突の危険を知らせます。さらに衝突が避けられないと判断したときはブレーキをかけて、衝突速度を低減します。

■プリクラッシュブレーキ　ＯＦＦスイッチ

作動可能状態	停止状態

スイッチを押すとプリクラッシュブレーキの機能が停止し、機能停止中にもう一度押すと作動可能状態にもどります。

●プリクラッシュブレーキの機能を停止させるとプリクラッシュセーフティシステム警告灯（Ｐ.348参照）が点滅しプリクラッシュブレーキの作動が停止していることをお知らせします。

●プリクラッシュブレーキ作動中にスイッチを押して作動を停止させた場合は、作動終了後にプリクラッシュブレーキの機能が停止します。

知 識

作動条件について

プリクラッシュブレーキは以下の条件のとき作動します。

●“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッションＯＮモードのとき。

●プリクラッシュブレーキＯＦＦスイッチが押し込まれていないとき。

●自車速度が約15 km/h 以上のとき。

●自車からみた先行車や障害物などの接近速度が約15 km/h以上のとき。

プリクラッシュブレーキアシストについて

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突の可能性が高いと判断した状態で、運転者がブレーキペダルを踏んだとき、踏み込みに応じて制動力の補助を行います。

知 識

作動条件について

プリクラッシュブレーキアシストは以下の条件のとき作動します。

- “ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッションＯＮモードのとき。
- 自車速度が約30 km/h 以上のとき。
- 自車からみた先行車や障害物などの接近速度が約30～40 km/h以上のとき。
- 運転者がブレーキペダルを踏んだとき。

マルチインフォメーションディスプレイの表示について

■「ブレーキ！」

プリクラッシュブレーキが作動しているときに表示されます。
●同時にマスターウォーニングが点灯し、ブザーが鳴ります。

PCS
現在使用
できません

■「ＰＣＳ現在使用できません」

以下の場合に表示されます。
●カバーの前後面またはレーダーセンサー前面が汚れているとき
- この場合はカバーの前後面およびレーダーセンサーをやわらかい布などで清掃してください。

●プリクラッシュシートベルトが短時間に繰り返し作動したとき
- この場合、過熱保護のためにシステムの作動が停止しますが、しばらくすると復帰します。

同時にプリクラッシュセーフティシステム警告灯（P.348参照）が点滅します。

PCS
システムチェック

■「ＰＣＳシステムチェック」

プリクラッシュセーフティシステムに異常があると表示されます。“ポーン”という音が鳴るとともにマスターウォーニングが点灯します。警告表示が出ているとき、下記のシステムは作動しないことがあります。
●プリクラッシュシートベルト
●プリクラッシュブレーキアシスト
●プリクラッシュブレーキ
同時にプリクラッシュセーフティシステム警告灯（P.348参照）が点灯します。

衝突以外で作動するケースについて

次のような場面では、プリクラッシュセンサーが検知対象物を衝突物と判断し、プリクラッシュセーフティシステムが作動する場合があります。

●カーブ入り口に路側物がある場合
●カーブですれ違う対向車両がある場合
●狭い鉄橋を通る場合
●路面上に金属物がある場合
●右折時に対向車両がある場合
●前走車に急接近した場合
●ＥＴＣゲートを通過する場合

プリクラッシュセーフティシステムを過信しないでください。

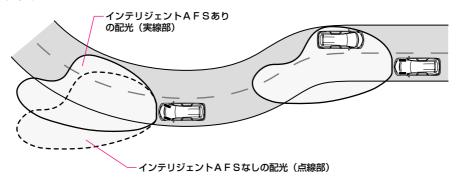
●プリクラッシュセーフティシステムを過信しないでください。
運転するときは常に周囲の状況に注意し、進行方向の障害物などを確認して安全運転に心がけてください。
●衝突を避けられない状況でプリクラッシュセーフティシステムが作動状態のときでも、シートベルトを着用していないとプリクラッシュシートベルトは作動しません。
また、ブレーキペダルを踏まないとプリクラッシュブレーキアシストは作動しません。

衝突物以外で作動するケースの場合、衝突の可能性がなくても下記のような作動をすることがあります。

●プリクラッシュシートベルトが作動して、シートベルトが引っ張られる。
・シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は、車を安全な場所に止めてシートベルトをはずし、再度装着してください。
●プリクラッシュブレーキアシストが作動して通常よりブレーキが良く効く。
●プリクラッシュブレーキが作動してブレーキがかかる。

インテリジェントＡＦＳ※★

インテリジェントＡＦＳとは？

インテリジェントＡＦＳ（アダプティブ　フロントライティング　システム）は、さまざまな走行状態に応じて、最適な配光を確保する装置です。
ヘッドランプ（下向き）点灯時、車速およびハンドルの操作量に応じてランプを旋回方向に動かして交差点やカーブでの視認性を向上させることができます。

＊イラストはイメージで表したもので、実際とは異なります。

雪壁などのある道ではインテリジェントＡＦＳを使用しないでください。
雪の斜面などにヘッドランプが反射して運転のさまたげになる可能性があります。

知識

作動条件について

●車速が10 km/h以上で作動開始となり、車速が5 km/h未満になると作動は停止します。
●左旋回時は、左側ヘッドランプが最大10°、右側ヘッドランプが最大5°まで照射軸が左へ移動します。
●右旋回時は、右側ヘッドランプが最大15°、左側ヘッドランプが最大7.5°まで照射軸が右へ移動します。
●ＡＦＳ　ＯＦＦ表示灯が点滅（Ｐ.331参照）しているとき、インテリジェントＡＦＳは作動しません。

作動チェックについて

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにすると、ヘッドランプ（下向き）が動きます。これはシステムの作動をチェックしているので異常ではありません。

ＡＦＳ　ＯＦＦスイッチについて

ＡＦＳ　ＯＦＦスイッチで作動を禁止することもできます。（Ｐ.379参照）

※ Adaptive Front-lighting System の略。

車との上手な付き合い方 6

雨の日の運転について

雨の日の運転

すべりやすい路面は慎重に走行してください

雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなるので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
●雨の日はハイドロプレーニング現象※でハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。
※ 雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

警告	すべりやすい路面では、慎重に運転してください。

●すべりやすい路面での急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●シフトアップ・シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

冠水した道路は走行しないでください

大雨などで冠水した道路では、車両に重大な損傷を与えるおそれがあるので走行しないでください。

冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。万一、冠水した道路を走行し、水中に浸ってしまったときは必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。

●ブレーキの効き具合。
●エンジン・トランスミッション・トランスファー（4WD車）、ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化。（白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要です。）
●プロペラシャフト（4WD車）・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良。

寒冷時の取り扱い

冬の前の準備・点検

エンジンオイルを交換する

外気温に応じたエンジンオイルに交換してください。（P.614の「指定エンジンオイル」参照）

ウォッシャー液の濃度を調整する

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、購入されたウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。

冷却水の濃度を調整する

冷却水の凍結を防ぐために冷却水濃度を調整してください。

使用地域	希釈割合	凍結保証温度
温暖地	30%	－12℃
寒冷地	50%	－35℃

アルコール系不凍液や真水だけの使用はしないでください。

バッテリーの液量・比重を点検する

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがあります。バッテリーの液量・比重を点検し、必要に応じて液の補充や充電をしてください。

冬用タイヤ、タイヤチェーンを準備する

●タイヤを取り替えるときは、必ずP.82の「タイヤについての注意」を参照してください。
●タイヤサイズに合ったタイヤチェーンを準備してください。
●必ずエスティマ指定のトヨタ純正品を使用してください。トヨタ純正品以外のタイヤチェーンを使用すると車体側に当たり走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
●18インチタイヤ装着車はタイヤチェーンを取りつけることができません。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

寒冷地用ワイパーブレードを準備する

降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスが拭き取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。
●寒冷地用ワイパーブレードを必要としない時季は、通常のワイパーブレードを使用してください。

運転する前に

屋根に積もった雪は

走行時にガラス面に落ちた雪が視界のさまたげになります。
走行する前に取り除いてください。

ガラスについた雪や霜は

ガラス内外の雪や霜を落として視界を確保してください。
デフロスターを使うと、ガラスを傷つけずに落とすことができます。

フロントウィンドドウガラスについた氷を除去するために、たたいて割らないでください。フロントガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

ランプ類についた雪や霜は

ランプ類についた雪や霜を落としてから走行してください。
夜間の走行時などに視界のさまたげとなったり、後続車などへの合図がわかりにくくなるおそれがあります。また、走行中にも、ときどき安全な場所に停車して点検してください。

足まわりなどについた氷塊は

車体などに傷をつけないように取り除いてください。

外気取り入れ口に積もった雪は

フロントウインドゥ前部の外気取り入れ口に積もった雪を取り除いてから、エアコンのファンを作動させてください。
雪が積もったままで作動させると、ファンが故障したり、ガラスが曇ったりするおそれがあります。

ワイパーなどが凍結したときは

ワイパー・ドアミラー・ドアガラスなどが凍って動かない場合は、無理に動かさないでください。
スイッチを押し続けたりすると、装置をいためたり、バッテリーあがりを起こすおそれがあります。

ドアが凍結したときは

お湯をかけて氷を溶かしてください。なお、すぐに水分を十分拭き取ってください。無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、損傷するおそれがあります。

靴についた雪をよく落とす

ペダル類を操作するときにすべったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったり、凍結することがあります。

走行するときは

すべりやすい路面では“急”のつく操作はしない

急発進・急ハンドル・急ブレーキなどは車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあります。ゆっくり発進し、控えめな速度で、車間距離を十分とって走行してください。
橋の上や日陰など凍結しやすい場所ではあらかじめ減速し、慎重に走行してください。

シフトアップ・シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

フェンダー裏側についた氷は

ハンドル操作に影響しますので、ときどき確認し、氷塊が大きくなる前に取り除いてください。

ブレーキ装置についた氷は

ブレーキの効きが悪くなる場合があります。ときどき軽くブレーキペダルを踏んでブレーキの効き具合を確認してください。

すべり止めは早めに

積雪時、凍結路では早めにタイヤチェーン、または冬用タイヤを装着してください。タイヤを取り替えるときは、必ずP.82の「タイヤについての注意」を参照してください。

警告 **冬用タイヤ装着時は以下の点をお守りください。**

- 指定サイズのタイヤを使用してください。
- 指定空気圧に調整してください。
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しないでください。

タイヤチェーン

18インチタイヤ装着車

18インチタイヤ装着車はタイヤチェーンを装着することはできません。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

18インチタイヤ装着車を除く

- タイヤチェーンは前2輪に取りつけてください。
- タイヤチェーンの取り扱い方法はタイヤチェーンに付属の取り扱い説明書にしたがってください。
- タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
- 必ずエスティマ指定のトヨタ純正合金鋼チェーンスペシャルを使用してください。トヨタ純正品以外のタイヤチェーンを使用すると車体側に当たり走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■タイヤチェーンを取りつける前に

交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に移動し、パーキングブレーキをしっかりかけます。以下の手順により準備作業を行います。

〈手順〉

1 エンジンを停止します。

シフトレバーを<ins>P</ins>にし、エンジンを止めます。

2 車の存在を知らせます。

必要に応じて非常点滅灯（P.376参照）を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。

3 工具を用意します。

ジャッキ・ジャッキハンドル・ホイールキャップ装着車はホイールナットレンチを用意します。（P.622の「ジャッキ・工具の格納場所」参照）

4 タイヤチェーンを用意します。

5 輪止めを用意します。

タイヤチェーンを取りつける場合には、輪止めが必要です。

●輪止めについては、トヨタ販売店にご相談ください。

●輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

6 ホイールキャップ装着車は、ホイールキャップをはずします。

P.647の「タイヤ交換のしかた」参照

タイヤチェーン装着時は必ず慎重に運転してください。

●タイヤチェーン装着時は約30 km/h以下、またはチェーンメーカー推奨の制限速度以下で走行してください。また、走行性に影響を与えるため、必ず慎重に走行してください。

●タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗りこえたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあります。
また、ＡＢＳ作動時でも制動距離が長くなる場合がありますので、慎重に運転してください。

タイヤチェーンを取りつけるときは、ホイールやホイールキャップに傷をつけないよう注意してください。

●ホイールキャップ装着車は、ホイールキャップをはずしてからタイヤチェーンを取りつけてください。ホイールキャップをつけたままタイヤチェーンを取りつけると、ホイールキャップに傷がつくことがあります。

●アルミホイール装着車は、アルミホイールにタイヤチェーンを取りつけると、ホイールに傷がつくことがあります。

●トヨタ純正品以外のタイヤチェーンを使用すると、車体側に当たり走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●18インチタイヤ装着車にタイヤチェーンを使用すると、車体側に当たり走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

駐車するときは

エンジンをかけたままにしない

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。

エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パーキングブレーキはかけない

寒冷時はパーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結してパーキングブレーキが解除できなくなるおそれがあります。

■平らな場所に駐車するときは

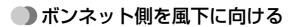
パーキングブレーキをかけないで、シフトレバーをⓅにし、輪止めをします。

■やむを得ず坂道に駐車するときは

下り坂では前輪の前側、上り坂では後輪のうしろ側に輪止めをして、パーキングブレーキをかけず、シフトレバーをⓅにします。

●輪止めについてはトヨタ販売店にご相談ください。

●輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ボンネット側を風下に向ける

風の当たる部分は、想像以上に低温となりますので、バッテリー性能低下を防ぐためにもボンネット側をできるだけ風下に向けて駐車してください。

ワイパーアームは立てておく

降雪時は、寒さでワイパーがガラスに凍りついたりします。ワイパーアームは立てて駐車してください。

経済的な運転

環境にやさしく経済的な運転をするために

長時間停車するときは、エンジンを停止します。
5分間のアイドリングをやめて、ガソリン約65 ccの節約。
▶CO_2 約420 g削減（10回／月）

不要な荷物はおろして走行。
10 kgの荷物をおろして50 km走ると、ガソリン約15 ccの節約。
▶CO_2 約130 g削減（650 km／月）

空ぶかしは禁物。
空ぶかしを1回やめて、ガソリン約6 ccの節約。
▶CO_2 約1150 g削減（300回／月）

エアコンは少し控えめに。
エアコンを6分間停止して、ガソリン約70 ccの節約。
▶CO_2 約1340 g削減（3時間／月）

タイヤの空気圧は、こまめにチェック。
適正値で50 km走ると50 kPa ｛0.5 kg/㎠｝減のときに比べて、ガソリン約150 ccの節約。
▶CO_2 約1250 g削減（650 km／月）

発進・加速はスムーズに。
急発進を1回やめてガソリン約17 cc、急加速を1回やめて約11 ccの節約。
▶CO_2 約360 g削減（各20回／月）

経済速度でロスなし走行。
一般道路で40〜50 km/h、高速道路では80 km/hがベスト。
100 km/hを80 km/hにして、燃費が約10〜30%向上。
●法定速度を守り、安全運転を心がけてください。

たとえば加速
加速終了時にはアクセルを少し大きめにもどしてみましょう。
シフトアップやロックアップが確実にでき、効率が良くなります。

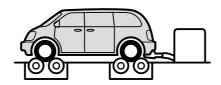
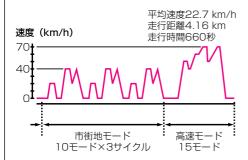
たとえば下り坂、減速
早めにアクセルをもどしエンジンブレーキを使いましょう。
ガソリンエンジンでは、燃料噴射の停止により、燃費が良くなります。

平地走行でも
アクセルペダルから思いきって足を離してみてください。
思ったほどスピードは落ちないものです。燃料噴射の停止を上手に活用しましょう。一定走行ならアクセルペダルの踏み込み、踏みもどしは少ないほど、低燃費となります。

知 識

「10・15モード」とは

車両カタログに記載されている「10・15モード」燃費は、一定の条件にしたがって測定された燃費です。
このモードは都市内走行状態を再現したもので、図1のようにシャシーダイナモメーター上で実際の道路上の走行状態を再現し、エンジン暖機後、図2のようなパターンを走行するものです。

●図1.シャシーダイナモメーター

●図2.「10・15モード」

「10・15モード」は、都市内走行状態を再現したものですが、あくまでも代表的な走行パターンです。そのため、実際の走行とは異なる場合が多く、
例えば
●走行速度の平均が「10・15モード」より低い
●停車比率（運転中に車が止まっている割合）が高い
●急な加速を行った
など条件の違いにより、燃費が悪くなります。

※数値は、2.0Ｌクラスの乗用車（オートマチック車）の燃費11.7 km/Ｌ（10・15モード）を基準に計算してあります。（各車両型式の燃費は、車両カタログをお読みください。）
※CO_2排出量は、ガソリン1ＬあたりのCO_2排出係数0.64で計算してあります。

参考資料　●（社）日本自動車工業会：「あしたへ　ECO-MOTIO N」
●（社）日本自動車連盟：「ECO MANUAL 車に関する環境エコ基礎知識集」

環境保護のために

使用済み部品・廃オイル類は適正な処理をする

●バッテリーは、鉛や硫酸が使われていますので、特定産業廃棄物として適切な処理が法律で義務付けられています。
バッテリー交換時は、購入した販売店で処分を依頼してください。
●タイヤは個人が燃やすなどすると、亜硫酸ガスなど有毒なガスを発生させます。
購入した販売店に処分を依頼してください。
●エンジンオイルは、放置しておくといずれ流れ出し、地下に浸透したり、水に浮き、環境を悪くします。
購入した販売店に処分を依頼してください。
●不凍液は､冷却水の凍結温度を下げるエチレングリコールが入っています。川などに流すと、水質汚濁の原因となりますので、不凍液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。
●エアコン冷媒用フロンガス（特定フロンガスＣＦＣ12）は、大気に放出されると、オゾン層の破壊を進めます。
トヨタでは、オゾン層を破壊しない代替フロンガス（ＨＦＣ134a）に全車切り替えを完了しています（93年完了）。
それでも、代替フロンガス（ＨＦＣ134a）は地球を温暖化する働きがあります。
エアコンの効きが悪い場合、ガスを充填するのみでなく、ガスもれの点検を併せて行い、もれ箇所を修理したうえで、ガス充てんをしてください。

7

メンテナンス

車の手入れ

日頃の手入れ

車をいつまでも美しく保つためには日頃の手入れが必要です。

洗車・ワックス用品について

それぞれの用品に記載されている説明をよく読み、用途や注意事項などを必ずお守りください。

月に1度はワックスがけを行ってください

月に1度、または水のはじきが悪くなったら行ってください。

保管・駐車について

風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。

塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために、次のことをお守りください。

●塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために、次のような場合はただちに洗車してください。
- ・海岸地帯を走行したあと
- ・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
- ・コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死骸などが付着したとき
- ・ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、科学物質などの落下が多い場所を走行したあと
- ・ほこり、泥などで激しく汚れたとき
- ・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

塗装について

●飛び石傷やかき傷は、腐食の原因となりますので、見つけたら早めにトヨタ純正タッチアップペイントなどで補修してください。
●ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤が付着したときは、塗装を損傷しますので、ただちに拭き取る、洗車するなどしてください。

外装の手入れ

洗車するときは

十分水をかけながら汚れを洗い落とし、洗い落としたあとは、水を拭き取ります。

●車体、足まわり、下まわりと、上から下の順に行います。
●車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗います。
●汚れのひどいときは、カーシャンプーを使用し、水で十分洗い流してください。
●はん点が残らないように、水を拭き取ります。

自動洗車機を使うときは

●ミラーは格納し、前側から洗車してください。
●ときによりブラシの傷がつき、塗装の光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。
●洗車機によっては、リヤスポイラーがひっかかり洗車できない場合や、傷ついたり破損するおそれがあります。

高圧洗車機を使うときは

●ノズルの先端をドアガラスなどに近づけすぎないでください。近づけすぎると、水圧が高いため、室内に水が入るおそれがあります。
●駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近づけすぎないでください。近づけすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

アルミホイールの手入れ

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
●洗剤を使用した後は早めに十分洗い流してください。
●光沢を失うおそれがありますので、スチーム洗浄などで熱湯がホイールに直接かからないようにしてください。

ワックスがけをするときは

洗車後、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください。）に行います。

撥水機能付ガラス・レインクリアリングミラーについて

手入れについてはP.517の「レインクリアリングミラー」、P.519の「撥水機能付ガラス」の注意事項を必ず守ってください。

警告　エンジンルーム内に水をかけないでください。

- エンジンルーム内の電気部品に水などをかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品がショートして、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 寒冷時に洗車する場合は、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。
  ブレーキ装置内に水が入ると、凍結してブレーキの効きが悪くなったり、ブレーキの固着につながるおそれがあり、走行できなくなる場合があります。
- 洗車後は、ブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認してください。
  ブレーキパッドがぬれると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などで触れる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

注意　洗車をするときは、けがをしないように注意してください。

- 下まわり、足まわりを洗うときは、手にけがをしないように注意してください。
- 洗車するときは、硬いブラシやたわしなどを使用しないでください。塗装などに傷がつきます。
- ランプのレンズ表面をワックス、ベンジンやガソリンなどの有機溶剤で拭いたり、硬いブラシなどでこすったりしないでください。破損したり、劣化を早めることがあります。
- 目地のある素地部※に塗装用ワックスを使用しないでください。塗装用ワックスが付着すると、目地に入って取れなくなり、白くなることがあります。
  ※素地部=塗装されていないドアミラーなどの樹脂部分。

内装の手入れ

室内の清掃

カークリーナーや電気掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭き取ります。

警告　車内に水をかけないでください。

●車の清掃をするときは、車内に水をかけないでください。オーディオやフロアカーペット下にある電気部品などに水がかかると、車の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
●シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が低下し、衝突などのとき十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。
●内装（特にインストルメントパネル）の手入れをするときは、艶だしワックスや艶だしクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウィンドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

注意　クリーナーに含まれる成分に注意してください。

●内装の手入れをするときは、ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸、またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やしみの原因となります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますので、よく確認のうえ使用してください。
●芳香剤（液体・固体・ゲル状・プレートタイプなど）を、内装品（エアコンやオーディオなど）に直接触れさせたり、こぼしたりしないよう注意してください。含まれる成分によっては変色やしみ・塗装はがれの原因となるおそれがあります。
●バックドアガラスやクォーターガラスの内側を清掃するときは、熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。
●バックドアガラスやクォーターガラスの内側を掃除するときは、熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。
●ガラスの内側を清掃するときは、コンパウンドが入ったガラスクリーナーを使用しないでください。清掃は、水、またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。
●内装の手入れをするときは、艶だしワックスや艶だしクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

本革シートの取り扱い・お手入れ方法★

■砂・ほこりなどは、掃除機などで吸い取ってください。

シート表面についた砂・ほこりなどは、皮革表面の保護膜を傷つけ、早期摩耗の原因となります。砂・ほこりなどは、掃除機などで吸い取ってください。

■サンシェード（日除け）を使用するなどして、皮革を直射日光から守ってください。

皮革を炎天下に長期間さらすと、色あせや硬化の原因となります。長期間炎天下に車を放置するときはボディに覆いをかけたり、サンシェード（日除け）を使用するなどして、皮革を直射日光から守ってください。

■シート表面についた汚れは、次の方法で取り除いてください。

1 汚れを軽く拭き取ります。

ウール用の中性、または弱アルカリ性の洗剤を約5%の水溶液まで薄め、ガーゼなどのやわらかい布に含ませて、汚れを軽く拭き取ります。

2 洗剤を拭き取ります。

真水をひたした布を固くしぼり、シート表面に残った洗剤を拭き取ります。

3 日陰で乾燥させます。

乾いたやわらかい布でシート表面の水分を拭き取り、風通しの良い日陰で乾燥させます。

シート表面に過剰な水分が残ると、皮革の風合い低下（硬化、収縮）の原因となります。

本革シートについて

- 厳選された天然素材を使用しています。外観品質を長く保つために、年に2回程度は定期的にお手入れすることをおすすめします。
- 天然素材のため、シボ（皮革表面肌の凹凸）の不均一や、牛皮革本来の傷がわかる場合があります。

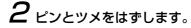
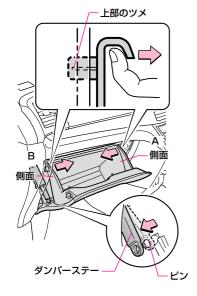
★印はグレード等により装着の有無が異なります。

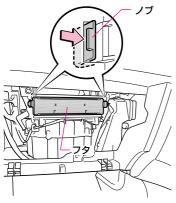
エアコンガス（冷媒）の点検

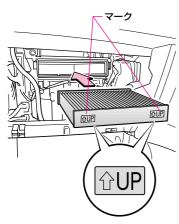
冷媒が不足していると、冷房性能が低下します。
夏になる前に点検・補充をしてください。

クリーンエアフィルターの交換

1 “エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにします。

2 ピンとツメをはずします。

●グローブボックスを開け、ダンパーステーのピンをはずします。
●グローブボックス内側に指をかけて、Ａ側の側面を引っ張りたわませて、上部のツメをはずし、Ｂ側の側面をたわませて、上部のツメをはずします。

3 グローブボックスをはずします。

●グローブボックスを軽く手前に引きながら徐々に下げ、下部のツメをはずして取りはずします。

4 **フィルターケースのフタをはずします。**

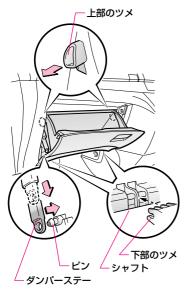
フタの左側にあるノブをつまみながら手前に引いて、取りはずします。

5 **フィルター交換時のみフィルターを交換します。**

フィルターを取りはずし、新しいフィルターに交換します。

●フィルターにある「⇧UP」のマークの矢印が上になるように確実に取りつけます。

6 **フィルターケースのフタを取りつけます。**

フィルターケースの切り欠きにフタのツメをあわせて取りつけます。

●フタの「⇧UP」マークの矢印が上になるようにして確実に取りつけます。

7 **グローブボックスを取りつけます。**

グローブボックス下部のツメの切り欠きをシャフトの面に合わせてはめ込み、ダンパーステーにピンを取りつけてから、グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片方ずつはめて、グローブボックスを閉めます。

注意 **フィルターの交換は、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをＯＦＦにしてから行ってください。**

●フィルターの交換は、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをＯＦＦにしてから行ってください。

●エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを清掃、または交換してください。なお、フィルターの清掃については、トヨタ販売店にご相談ください。

●フィルターの裏と表を間違えないように、フィルターを取りつけてください。

●必ずフィルターを装着した状態で、エアコンを使用してください。フィルターを装着せずにエアコンを使用すると故障の原因となることがあります。

知 識

エアフィルターの清掃・交換について

●エアコンにはエアフィルターが取りつけられています。快適にお使いいただくため定期的な清掃・交換をおすすめします。

●エアフィルターの交換は工具なしで行うことができます。

●エアフィルターの清掃、交換用エアフィルターについてはトヨタ販売店にご相談ください。

清掃の目安：**15,000 km【7,500 km】ごと。**

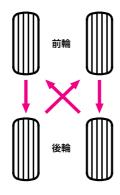
交換の目安：**30,000 km【15,000 km】ごと。**

【　】は、多じん地区（大都市・寒冷地など、交通量・粉じんの多い地区）の場合。

タイヤの点検

タイヤローテーション（タイヤ位置交換）

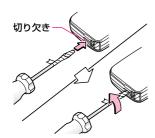
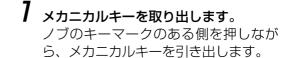
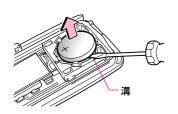
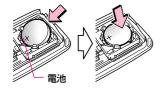
タイヤの摩耗を4輪ともに均等にし、寿命をのばすために、5,000 kmごとにタイヤローテーションを行います。

●販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車で、搭載されているジャッキを使用してタイヤ位置交換を行うときは、スペアタイヤを使用して1輪ずつ交換してください。

日常点検として必ずタイヤを点検してください。

●日常点検として必ずタイヤの点検を行ってください。（P.82「タイヤについての注意」参照）

●タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。（P.95「その他の注意」参照）

キーの電池交換

1 メカニカルキーを取り出します。
ノブのキーマークのある側を押しながら、メカニカルキーを引き出します。

2 キーカバーをはずします。
市販のマイナスドライバーの先端を電子キーの切り欠きに差し込み、ひねりながらカバーをはずします。
●傷つき防止のため、ドライバーの先端にビニールテープなどを巻いてください。

3 電池をはずします。
市販の精密ドライバーなどを溝に挿入し、電池を取り出します。

4 新しい電池を取りつけます。
電池を斜めに挿入し、上から押さえつけ、確実に取りつけます。
●電池の⊕側を上にして取りつけます。

5 キーカバーを取りつけます。

6 メカニカルキーを取りつけます。

7 **作動確認をします。**
いずれかのスイッチを押したとき、本体のＬＥＤが点灯することを確認します。

取りはずした電池や部品を（とくにお子さまが）飲み込まないようにご注意ください。飲み込むと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

電池および取りはずした部品の取り扱いにはご注意ください。

●電池交換時にはネジなどの部品を紛失しないようにご注意ください。
●電池の⊕極と⊖極は必ず正しい向きにして取りつけてください。
●電池挿入部の電極を曲げたり、モジュール内部にゴミや油などが付着しないように注意してください。
●基盤などの内部部品を取り出さないでください。

電池について

使用電池……リチウム電池ＣＲ1632
電池はトヨタ販売店・時計店・カメラ店などでお求めください。

電池交換について

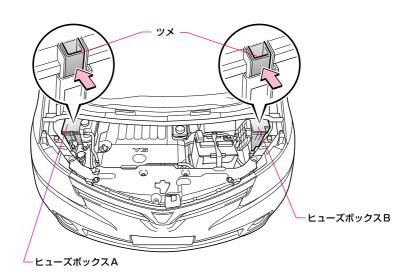
電池交換は、お客さまご自身で交換することができますが、交換の際に破損などのおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れやランプ自体の球切れが考えられます。
次の手順でヒューズの点検・交換を行ってください。
●ヒューズについてはトヨタ販売店にご相談ください。

1 **“エンジン スタート ストップ” スイッチをＯＦＦにします。**

2 **ヒューズボックスを開けます。**
ヒューズラベルが、カバーまたはフタに表示してあります。

■エンジンルーム内ヒューズボックス
ツメを押しながらカバーを開けます。

●カバーを取りつけたときは、カバーが確実に固定されていることを確認してください。

■室内運転席側ヒューズボックス

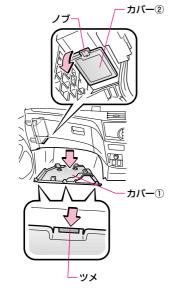
運転席側席インストルメントパネル下にあります。

●ノブを引いてカバーを取りはずします。

■室内助手席側ヒューズボックス

助手席側席インストルメントパネル下にあります。

●ツメ3ケ所を押してカバー①をはずし、ノブを引いてカバー②をはずします。

●ヒューズラベルはカバー②に表示してあります。

3 ヒューズの点検をします。

故障の状況から、点検すべきヒューズをヒューズラベルで確認し、ヒューズを引き抜き、ヒューズが切れていないかを点検します。

●ヒューズはずしは、エンジンルーム内ヒューズボックスＢの中に入っています。（P.570参照）

●ヒューズは車の仕様によりないものもあります。

●ヒューズについてはトヨタ販売店にご相談ください。

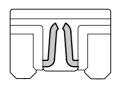
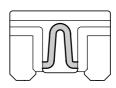
4 ヒューズを交換します。

ヒューズが切れていたら、ヒューズボックスの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

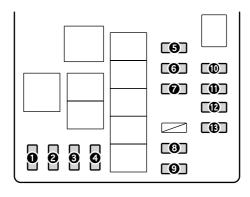
●ランプ類が点灯しないときは、電球切れも考えられます。

●以下の場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

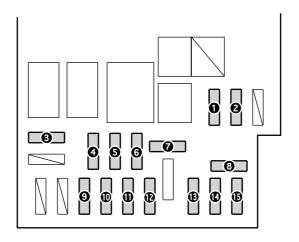
- 取り替えても再びヒューズが切れるとき。
- 取り替えても電気系統の装置が働かないとき。

切れた状態

切れていない状態

規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱・焼損し、火災につながるおそれがあり危険です。

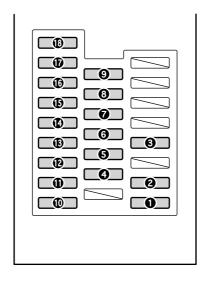
ヒューズの受け持つ装置

■エンジンルーム内ヒューズボックスA

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
❶	H－LP　LH	15 A	ヘッドランプ（左）ハイビーム
❷	H－LP　RH	15 A	ヘッドランプ（右）ハイビーム
❸	H－LP　LL	15 A	ヘッドランプ（左）ロービーム
❹	H－LP　RL	15 A	ヘッドランプ（右）ロービーム
❺	ECU－B3	7.5 A	スマートエントリー＆スタート
❻	ECU－B2	7.5 A	パワーウインドゥ（運転席スイッチ）
❼	S／HORN	10 A	スマートキー警報
❽	DEICER	20 A	熱線式ウインドシールドデアイサ
❾	FOG	20 A	フォグランプ
❿	HORN	10 A	ホーン
⓫	STRG　LCK	20 A	ステアリングロック
⓬	AMP2	30 A	オーディオ
⓭	AMP1	30 A	オーディオ

＊車の仕様により設定のないヒューズもあります。

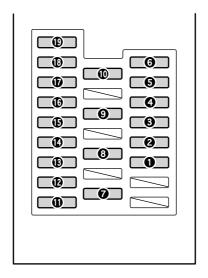
■エンジンルーム内ヒューズボックスＢ

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
❶	ＡＢＳ　ＮＯ.２	30 Ａ	ＡＢＳコンピューター
❷	ＤＥＦ	25 Ａ	リヤウインドゥデフォッガー
❸	ＥＦＩ	20 Ａ	ＥＦＩコンピューター
❹	ＥＣＵ－Ｂ	10 Ａ	メーター
❺	ＤＯＭＥ	7.5 Ａ	室内灯
❻	ＲＡＤ　ＮＯ.１	15 Ａ	オーディオ
❼	ＭＩＲ　ＨＴＲ	10 Ａ	ミラーヒーター
❽	ＳＴ	5 Ａ	スターター
❾	ＥＴＣ－Ｓ	10 Ａ	電子制御スロットル
❿	ＡＭ２　ＮＯ.２	7.5 Ａ	“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ
⓫	ＴＵＲＮ　ＨＡＺ	15 Ａ	方向指示灯 兼 非常点滅灯
⓬	ＩＧ２	15 Ａ	ＥＦＩ
⓭	ＡＭ２　ＮＯ.１	30 Ａ	“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ
⓮	ＦＲ　ＤＯＯＲ	30 Ａ	ドアロック
⓯	Ａ／Ｆ	30 Ａ	ＥＦＩ

＊車の仕様により設定のないヒューズもあります。

■室内運転席側ヒューズボックス

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
❶	FR WIP	30 A	フロントワイパー
❷	SEAT HTR RH	10 A	快適温熱シート（運転席側）
❸	RH ECU−IG	10 A	EPS
❹	P／POINT	15 A	アクセサリーソケット
❺	CIG	15 A	シガレットライター
❻	RAD NO.2	7.5 A	オーディオ
❼	ECU−ACC	7.5 A	シフトロック
❽	IGN	10 A	イグニッション
❾	MET	7.5 A	メーター
❿	PSB	30 A	プリクラッシュセーフティシステム
⓫	RR FOG	7.5 A	リヤフォグランプ
⓬	P／W FR	20 A	パワーウインドゥ（運転席側）
⓭	P／SEAT RH	30 A	パワーシート（運転席側）
⓮	AM1	7.5 A	“エンジン スタート ストップ”スイッチ
⓯	STOP	15 A	制動灯
⓰	OBD	7.5 A	ダイアグノーシスコネクター
⓱	PSD RH	30 A	パワースライドドア（運転席側）
⓲	P／W RR	20 A	パワーウインドゥ（後席右側）

＊車の仕様により設定のないヒューズもあります。

■室内助手席側ヒューズボックス

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
❶	LH ECU−IG	10 A	電動格納サードシート
❷	SEAT HTR LH	10 A	快適温熱シート（助手席側）
❸	GAUGE NO.2	10 A	後退灯
❹	STP RR	7.5 A	制動灯（右側）
❺	STP HI MT	7.5 A	ハイマウントストップランプ
❻	STP RL	7.5 A	制動灯（左側）
❼	RR WIP	15 A	リヤワイパー
❽	GAUGE NO.1	10 A	ヘッドランプオートレベリング
❾	PANEL	10 A	スイッチ照明
❿	TAIL	10 A	尾灯
⓫	WELCAB	30 A	サイドリフトアップシート
⓬	4WD	7.5 A	4WDシステム
⓭	AC INV	15 A	アクセサリーコンセント
⓮	DR LOCK	30 A	電気式ドアロック
⓯	P／W FL	20 A	パワーウインドゥ（助手席側）
⓰	S／R	20 A	電動リヤサンシェード
⓱	PSD LH	30 A	パワースライドドア（助手席側）
⓲	P／W RL	20 A	パワーウインドゥ（後席左側）
⓳	PBD	30 A	パワーバックドア

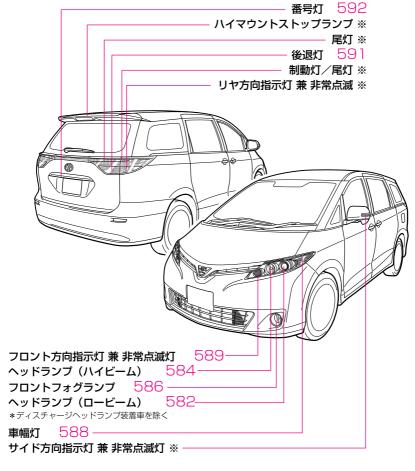
＊車の仕様により設定のないヒューズもあります。

外装の電球（バルブ）交換

この車の外装には、下図で示した電球（バルブ）があります。
●ページ数が記載してある電球の交換については、該当ページをお読みください。
●※印が記載してある電球の交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

番号灯　592
ハイマウントストップランプ ※
尾灯 ※
後退灯　591
制動灯／尾灯 ※
リヤ方向指示灯 兼 非常点滅 ※

フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯　589
ヘッドランプ（ハイビーム）　584
フロントフォグランプ　586
ヘッドランプ（ロービーム）　582
＊ディスチャージヘッドランプ装着車を除く
車幅灯　588
サイド方向指示灯 兼 非常点滅灯 ※

アエラス

電球の交換をするときは必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと重大な傷害ややけどにつながるおそれがあります。

●ディスチャージヘッドランプを交換するとき（電球交換を含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。電球ソケットに触れた状態で点灯操作をすると、瞬間的に20,000 Vの高電圧が発生し、感電するおそれがあります。
●電球を交換するときは、必ずエンジンを停止し各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあり危険です。

電球は十分注意して取り扱ってください。

●ハロゲン電球はガラス内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると破損してガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱ってください。また、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。
●必ず同じW数の電球を使用してください。（P.611参照）
●電球および電球固定具の取りつけは確実に行ってください。取りつけが不完全な場合、水入りなどによる故障およびレンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。
●電球の交換をするときは、工具・電球・電球固定具・ソケットなどを紛失しないように注意して作業してください。

知 識

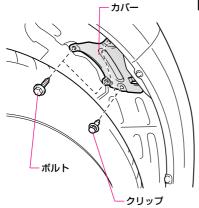
ランプの曇りについて

ヘッドランプなどのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配な方は、トヨタ販売店にご相談ください。

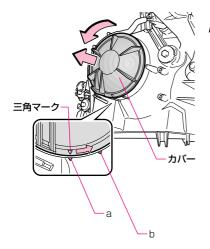
ヘッドランプ（ロービーム）

ディスチャージヘッドランプ装着車を除く

■取りはずしかた

1 **カバーを取りはずします。**

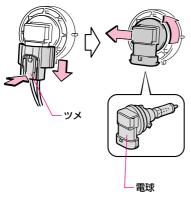
クリップ（2本）とボルト（2個）をはずし、カバーをはずします。

●クリップは中心部を引き出してロックをはずし、引き抜きます。

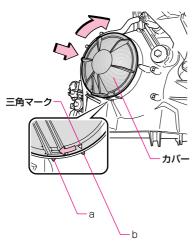
●助手席側のランプを交換するときはハンドルを右いっぱいに、運転席側のランプを交換するときはハンドルを左いっぱいにまわしておくとスペースが広がります。

2 **カバーを矢印の方向にまわしてはずします。**

カバーにある三角マークをaからbに移動し、カバー全体を手前に引きはずします。

※ 図は運転席側で説明しています。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

3 ツメを押してソケットをはずし、電球を矢印の方向にまわしてはずします。

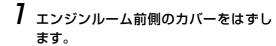
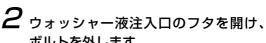
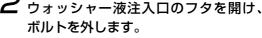
■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

カバーを取りつけるときは、カバー全体を押しながら、カバーにある三角マークをbからaに移動し取りつけます。

※ 図は運転席側で説明しています。

ヘッドランプ（ハイビーム）

■取りはずす前に

運転席側を交換する場合は、以下の手順を行ないます。

1 **エンジンルーム前側のカバーをはずします。**

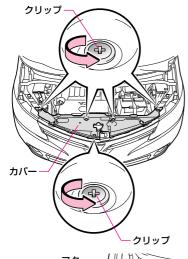
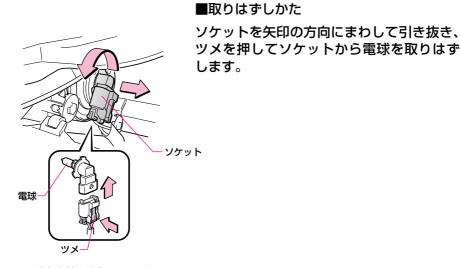
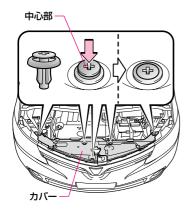
クリップ（５本）の中心部を市販の⊕ドライバーでゆるめ、エンジンルーム前側のカバーをはずします。

2 **ウォッシャー液注入口のフタを開け、ボルトを外します。**

3 **固定具を引き抜き、ウォッシャー液注入口をずらします。**

※ 図は運転席側で説明しています。

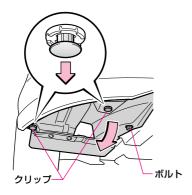
■取りはずしかた

ソケットを矢印の方向にまわして引き抜き、ツメを押してソケットから電球を取りはずします。

■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

運転席側を取りはずした場合は、エンジンルーム前側のカバーを固定するときは、クリップを取りはずした状態で差し込み、中心部を押し込みます。

フロントフォグランプ

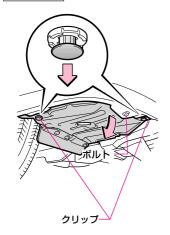
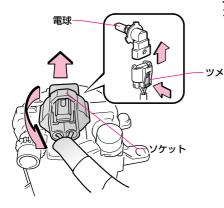
アエラスを除く

アエラス

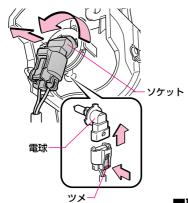
■取りはずしかた

1 クリップ（2本）とボルトをはずし、フェンダーライナーをずらします。

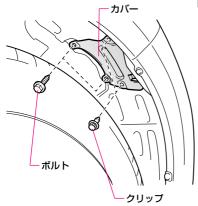
クリップとボルトをはずし、フェンダーライナーとバンパーの間から手が入れられるように、フェンダーライナーをうしろ側へずらします。

●クリップは中心部を引き出してロックをはずし、引き抜きます。

※ 図は運転席側で説明しています。

2 ソケットを矢印の方向にまわして引き抜き、ツメを押してソケットから電球を取りはずします。

アエラスを除く

アエラス

■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

※ 図は運転席側で説明しています。

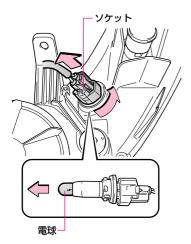
車幅灯

■取りはずしかた

1 **カバーを取りはずします。**

クリップ（2本）とボルト（2個）をはずし、カバーをはずします。

●クリップは中心部を引き出してロックをはずし、引き抜きます。

●助手席側のランプを交換するときはハンドルを右いっぱいに、運転席側のランプを交換するときはハンドルを左いっぱいにまわしておくとスペースが広がります。

2 **ソケットを矢印の方向にまわして引き抜き、ソケットから電球を取りはずします。**

■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

※ 図は運転席側で説明しています。

フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯

■取りはずす前に

運転席側を交換する場合は以下の手順を行ないます。

1 エンジンルーム前側のカバーをはずします。

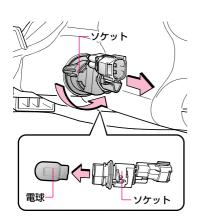
クリップ（5本）の中心部を市販の⊕ドライバーでゆるめ、エンジンルーム前側のカバーをはずします。

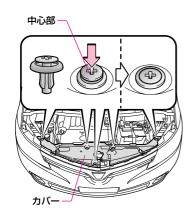
2 ウォッシャー液注入口のフタを開け、ボルトを外します。

フタ
ウォッシャー液注入口
ボルト
固定具

3 固定具を引き抜き、ウォッシャー液注入口をずらします。

■取りはずしかた

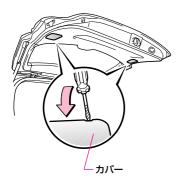
1 ツメを押してコネクターをはずします。

2 電球を取りはずします。

ソケットを矢印の方向にまわして取り出し、ソケットから電球を抜き取ります。

■取りつけかた

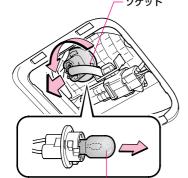
取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

運転席側を取りはずした場合は、エンジンルーム前側のカバーを固定するときは、クリップを取りはずした状態で差し込み、中心部を押し込みます。

※ 手順 2と3の図は運転席側で説明しています。

後退灯

■取りはずしかた

1 バックドアを開け、カバーを取りはずします。

カバーの切り欠き（1カ所）にマイナスドライバーを差し込んで取りはずします。

●傷つき防止のため、マイナスドライバーの先端にビニールテープなどを巻いてください。

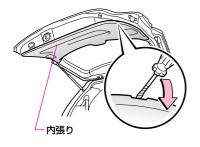
2 電球を取りはずします。

ソケットを矢印の方向にまわして取り出し、ソケットから電球を抜き取ります。

■取りつけかた

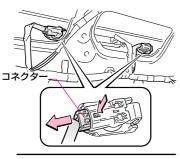
取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

※ 手順 2の図は運転席側で説明しています。

番号灯

■取りはずしかた

1 バックドアを開け、内張りを取りはずします。

内張りの切り欠き（1カ所）にマイナスドライバーを差し込んで取りはずします。

- 傷つき防止のため、マイナスドライバーの先端にビニールテープなどを巻いてください。

2 電球を取りはずします。

ツメを押してコネクターをはずしてから、ソケットを矢印の方向にまわして取り出し、ソケットから電球を抜き取ります。

■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

バックドアの内張りを取りはずすときは、内張りを固定しているクリップの破損や紛失に注意してください。

日常点検

日常点検について

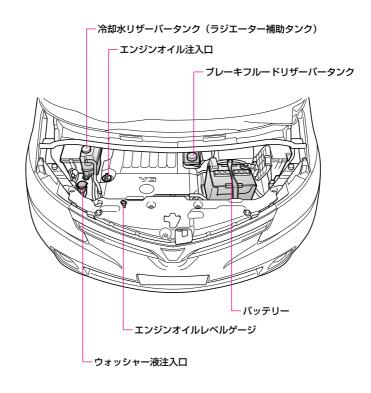
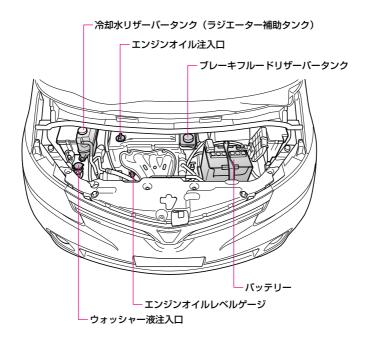
日常点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務づけられています。日常点検は、簡単に点検できる項目になっていますので、長距離走行前や洗車時・給油時などを目安に実施してください。

ここでは、点検内容を簡単に説明します。

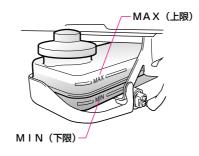
●基準値については、P.610の「メンテナンスデータ」を参照してください。

●点検方法および実施時の注意事項は、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。

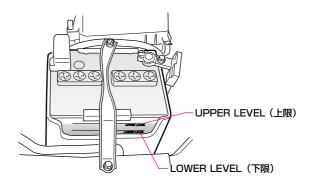
エンジンルームの点検

2GR－FEエンジン搭載車（3.5Lガソリン）

2ＡＺ－ＦＥエンジン搭載車（2.4Ｌガソリン）

点検や交換したあとは、工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていないことを確認してください。万一、置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

ブレーキの液量

ブレーキフルードの量がリザーバータンクのＭＡＸ（上限）とＭＩＮ（下限）の間にあるかを点検します。

警告 ブレーキフルードが不足していると、ブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

バッテリーの液量

バッテリー液面が各液槽ともバッテリーのUPPER LEVEL（上限）とLOWER LEVEL（下限）の間にあるかを車両をゆするなどして点検します。

バッテリー液が不足すると、バッテリーあがりやバッテリー自体の損傷につながるおそれがあるため、定期的に点検してください。

知 識

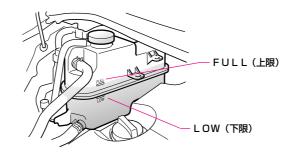
バッテリーについて

UPPER LEVEL・LOWER LEVELの表示は搭載されるバッテリーにより、意匠・表示されている場所が異なります。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

冷却水の量

冷却水の量がリザーバータンクのＦＵＬＬ（上限）とＬＯＷ（下限）の間にあるかを点検します。

注意

冷却水の量が不足しているとラジエーターの腐食やオーバーヒートによるエンジン破損のおそれがあるため、定期的に点検してください。また、水のみで使用していると、寒冷時に凍結し、ラジエーターなどに損傷を与えるため、必ずスーパーロングライフクーラント（不凍液）を適切な濃度でご使用ください。

エンジンオイルの量

エンジンオイルの量がオイルレベルゲージの上限と下限の間にあるかを点検します。

2GR−FEエンジン搭載車

2AZ−FEエンジン搭載車

エンジンオイルを点検・交換するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと重大な傷害ややけどにつながるおそれがあります。

●エンジンを停止してください。
 ● エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分に触れたり付近にいたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●エンジンオイルの温度が低いときに点検・交換してください。
●エンジンが停止していても冷却水温が高いときは、エンジンオイルも高温になっており、やけどをするおそれがあり危険です。

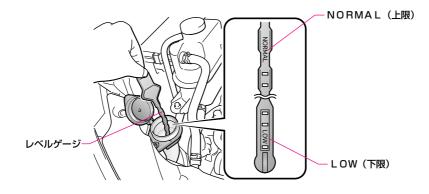
エンジンオイルは、定期的に点検・交換してください。

●定期的な点検を怠ると、オイル不足や劣化により回転部分が潤滑不良になり、焼きつきなどを起こしてエンジンに損傷を与えるため、定期的に点検・交換をしてください。
 ● エンジンオイルはエンジン内部の潤滑・冷却などをする働きがあります。通常の運転をしていても、ピストンおよび吸・排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるため、オイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。
●オイルを補給するときは、入れすぎないように注意してください。
●エンジンオイルを点検するときは、オイルがオルタネーターなどに付着しないように、布などを当てて点検してください。万一、オイルが付着したときは、完全に拭き取ってください。

ウインドゥウォッシャーの液量

ウォッシャー液注入口のキャップを開け、液面がＮＯＲＭＡＬ（上限）とＬＯＷ（下限）の間にあることを、レベルゲージで確認します。

●液面がＬＯＷに近づいたらウォッシャー液を補給してください。

知 識

リヤワイパーのウォッシャー液の補給について

リヤワイパー用ウォッシャータンクはフロントワイパー用と兼用です。

■ウォッシャー液を補給するには

1 キャップを開けます。

ウォッシャー液注入口のキャップを開けます。

2 ウォッシャー液を補給します。

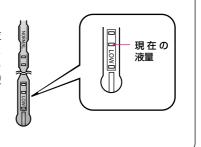
補給が終わったら、ウォッシャー液注入口のキャップを確実に閉めてください。

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れないでください。塗装のしみになるおそれがあります。

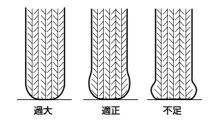
知識

ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。残量がゲージの先端から２つめの穴部より下まわったら（ＬＯＷの位置まで低下した）、ウォッシャー液を補給してください。

車のまわりの点検

タイヤの点検については、P.82の「タイヤについての注意」を併せてお読みください。

タイヤの空気圧

タイヤが冷えている（走行前）状態でタイヤの接地部のたわみ状態（つぶれ具合）を見て、空気圧が適正であるかを点検します。

●月に1回程度は空気圧ゲージによる点検をおすすめします。
●空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

指定空気圧より低いと、車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗します。高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。日常点検で、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

※ 高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

知識

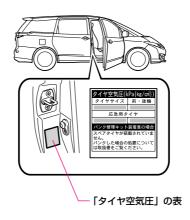
指定空気圧について

指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはメンテナンスデータ（P.615参照）でご確認ください。

●スペアタイヤも点検してください。（販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車）

●指定空気圧でのたわみ状態を確認しておくと、タイヤを目視点検するときに参考になります。

●指定空気圧の調整はタイヤが冷えているときに行ってください。

「タイヤ空気圧」の表

タイヤのき裂・損傷

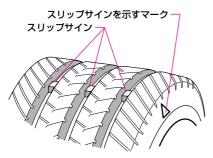
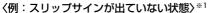
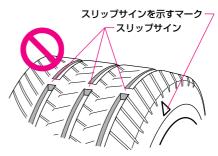
タイヤの側面や接地部全周に著しい傷やき裂がないかを点検します。また、釘・石・その他の異物が刺さったり、かみ込んでいないかを点検します。

タイヤの側面などに傷やき裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。

●異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルがとられたり、異常な振動を感じることがあります。
また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤに与えたり、タイヤが横すべりするなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。

●異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。

タイヤの溝の深さ、異常摩耗

〈例：スリップサインが出ていない状態〉※1

〈例：スリップサインが出ている状態〉※1

タイヤ接地面に表示されているスリップサイン（摩耗限度表示）が現れていないかを点検します。また、極端な片べりなどの偏摩耗がないかを点検します。

※1 例のイラストは説明のためであり、実際とは異なります。

摩耗限度をこえたタイヤは使用しないでください。タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象 ※2により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

※2 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

灯火装置・方向指示器の汚れ・損傷

各ランプのレンズに、汚れや破損・ヒビ割れなどがないかを点検します。

ランプの曇りについて

ヘッドランプなどのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

運転席に座っての点検

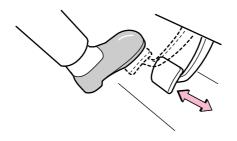
パーキングブレーキの踏みしろ

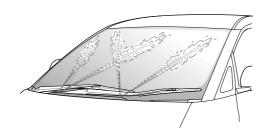
パーキングブレーキペダルが止まるまでゆっくりと踏み、“カチカチ”音が基準値の範囲（P.610参照）で止まるかを点検します。

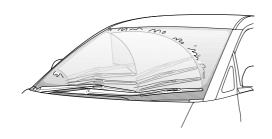
エンジンのかかり具合

エンジン始動の際、異音がないか、かかり具合いは良いかを点検します。
また、アイドリング状態および少し回転を上げた状態で、異音がないかを点検します。

ブレーキペダルの踏みしろ

エンジンを始動し、ブレーキペダルをいっぱいに踏み込み、床板とのすき間（P.610参照）を点検します。併せてペダルの感触に異常がないかを点検します。

ウインドゥウォッシャーの噴射状態

エンジンを始動し、ウインドゥウォッシャーを作動させ、噴射状態を点検します。

ワイパーの払拭状態

エンジンを始動し、ウインドゥウォッシャーでガラスをぬらした状態でワイパーを作動させ、「間欠作動」「低速作動」「高速作動」「一時作動」の各作動が良いか、拭き取り状態が良いか点検します。

灯火装置・方向指示器の作動

エンジンを始動し、各灯火装置・方向指示器を作動させ、ランプが点灯・点滅するか、明るさが不足していないかを点検します。

走行しての点検

ブレーキの効き具合

通常走行時にブレーキをかけたとき、効きが十分か、片効きしないかを点検します。

走行中、継続的にブレーキ付近から警告音（“キーキー”音）が発生したときは、ブレーキパッドの使用限度です。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効きが悪くなって思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

エンジンの低速および加速の状態

通常走行で停車したとき、エンジン回転にむらがあったり、止まったりしないかを点検します。また、アクセルペダルを踏み込んだとき、なめらかに加速するかを点検します。

前日までの異常箇所の点検

前日までの使用時に異常があった箇所について、運行に支障がないかを点検します。

メンテナンスデータ

点検基準値

<table>
<tr><th colspan="3">項　目</th><th colspan="2">メンテナンスデータ</th></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">ブレーキペダル</td><td>遊び［mm］
（負圧なしの状態）</td><td colspan="2">1～6</td></tr>
<tr><td rowspan="2">踏み込んだときの
床板とのすき間［mm］
〔踏力500 N｛50 kgf｝〕
（エンジンＯＮの状態）</td><td>S-VSC
装着車を除く</td><td>92以上</td></tr>
<tr><td>S-VSC
装着車</td><td>103以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">パーキングブレーキ</td><td>踏みしろ［ノッチ※］
〔操作力300 N｛30 kgf｝〕</td><td colspan="2">4～6</td></tr>
<tr><td>Vベルト</td><td>オルターネーター＆
Ａ／Ｃベルト</td><td>たわみ量</td><td colspan="2">非調整式</td></tr>
</table>

※ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

電球のワット数

項目		メンテナンスデータ
電球	W（ワット）数	ヘッドランプ **ハロゲンヘッドランプ装着車** ●ハイビーム ……………………60 W （バルブタイプ：ＨＢ3） ●ロービーム ……………………55 W （バルブタイプ：Ｈ11） **ディスチャージヘッドランプ装着車** ●ハイビーム ……………………60 W （バルブタイプ：ＨＢ3） ●ロービーム ……………………35 W （バルブタイプ：Ｄ4Ｓ） 車幅灯 ……………………5 W フロントフォグランプ **アエラスを除く** ……………………55 W （バルブタイプ：Ｈ11） **アエラス** ……………………51 W （バルブタイプ：ＨＢ4） フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯 （アンバーバルブ）※1 ……………………21 W サイド方向指示灯 兼 非常点滅灯 ……ＬＥＤ※2 番号灯 ……………………5 W 制動灯／尾灯 ……………………ＬＥＤ※2 尾灯 ……………………ＬＥＤ※2 リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯 （アンバーバルブ）※1 ……………………21 W 後退灯 ……………………16 W フロントパーソナルランプ ……………………5 W リヤパーソナルランプ ……………………5 W フロントドアカーテシランプ★ ……………………5 W ハイマウントストップランプ ……………………ＬＥＤ※2 フロントフロアまわり照明 ……………………ＬＥＤ※2 ラゲージルームランプ ……………………5 W

※1 アンバーバルブはオレンジ色の電球です。
※2 ＬＥＤは、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光素子です。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

冷却水・油脂類の容量と銘柄

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類のご使用をおすすめします。トヨタ純正油脂以外を使用される場合は、それぞれの油脂に相当する品質のものをご使用ください。

<table>
<tr><th>項　　目</th><th colspan="3">容量［L］
（参考値）</th><th>銘　柄</th></tr>
<tr><td rowspan="4">冷　却　水</td><td rowspan="2">2GR−FE</td><td>リヤエアコン付き車</td><td>10.6</td><td rowspan="4">トヨタ純正
スーパーロングライフクーラント
●凍結保証温度
濃度30%　−12℃
濃度50%　−35℃</td></tr>
<tr><td>リヤエアコン付き車を除く</td><td>8.7</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2AZ−FE</td><td>リヤエアコン付き車</td><td>8.2</td></tr>
<tr><td>リヤエアコン付き車を除く</td><td>6.3</td></tr>
<tr><td rowspan="2">オートマチックトランスアクスルフルード（FF車）</td><td rowspan="4">トランスミッション（フロントディファレンシャル部も含む）</td><td>2GR−FE</td><td>6.5</td><td>トヨタ純正オートフルードWS</td></tr>
<tr><td>2AZ−FE</td><td>8.4</td><td>トヨタ純正
CVTフルードTC</td></tr>
<tr><td rowspan="3">オートマチックトランスアクスル＆トランスファーフルード（4WD車）</td><td>2GR−FE</td><td>6.7</td><td>トヨタ純正オートフルードWS</td></tr>
<tr><td>2AZ−FE</td><td>8.4</td><td>トヨタ純正
CVTフルードTC</td></tr>
<tr><td colspan="2">トランスファー</td><td>0.45</td><td rowspan="2">トヨタ純正ハイポイドギヤオイルSX
（API GL−5、SAE85W−90）</td></tr>
<tr><td>リヤディファレンシャル（4WD車）</td><td colspan="3">0.5</td></tr>
<tr><td>ブレーキフルード</td><td colspan="3">―――――</td><td>トヨタ純正ブレーキフルード2500H</td></tr>
</table>

項　　目		容量［L］（参考値）		銘　柄
		オイルのみ交換時充てん量	オイルとオイルフィルター交換時充てん量	
エンジンオイル	2GR－FE	5.7	6.1	トヨタ純正モーターオイル SM 5W-30 （API SM，EC/ILSAC GF-4，SAE 5W-30） トヨタ純正モーターオイル SM 10W-30 （API SM，EC/ILSAC GF-4，SAE 10W-30） トヨタ純正モーターオイル SL 5W-20 ※1 （API SL，EC SAE 5W-20） トヨタ純正モーターオイル SL 10W-30 （API SL，EC SAE 10W-30）
エンジンオイル	2AZ－FE	4.1	4.3	トヨタ純正モーターオイル SM 0W-20 ※2 （API SM，EC/ILSAC GF-4，SAE 0W-20） トヨタ純正モーターオイル SM 5W-30 （API SM，EC/ILSAC GF-4，SAE 5W-30） トヨタ純正モーターオイル SM 10W-30 （API SM，EC/ILSAC GF-4，SAE 10W-30） トヨタ純正モーターオイル SL 5W-20 （API SL，EC SAE 5W-20） トヨタ純正モーターオイル SL 10W-30 （API SL，EC SAE 10W-30）

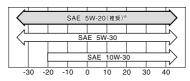
※1　5W―20は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。
※2　0W―20は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

■指定エンジンオイル
ＡＰＩ規格ＳＭ／ＥＣ、ＳＬ／ＥＣか、ILSAC規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC規格合格油の缶にはILSAC CERTIFICATION（イルサック サーティフィケーション）マークがついています。

２ＧＲ－ＦＥエンジン搭載車

ＡＰＩマーク

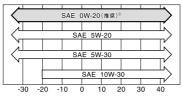
ILSAC CERTIFICATIONマーク

●下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※ 5W－20は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

２ＡＺ－ＦＥエンジン搭載車

ＡＰＩマーク

ILSAC CERTIFICATIONマーク

●下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※ 0W－20は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

ウォッシャータンク容量

項　　目		メンテナンスデータ
ウォッシャータンク	容　量［Ｌ］ （参考値）	2.5

燃料の量と種類

項目		メンテナンスデータ		
燃料（フューエルタンク）	容量 [L]（参考値）	2GR－FE	無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	65
		2AZ－FE	無鉛レギュラーガソリン	

タイヤ・ホイールの仕様

タイヤサイズ ＼ 項目		ホイールサイズ			
		リムサイズ		P.C.D.	オフセット量
		スチールホイール	アルミホイール		
標準タイヤ	205／65R16 95V	16×6½JJ		114.3mm ×5（穴）	39mm
	215／55R17 93V		17×7J		50mm
	215／60R17 96H		17×7J		
	225／50R18 95V		18×7J		51mm
応急用スペアタイヤ	T145/90D16 106M（販売店装着オプション）	16×4T			20mm

タイヤの種類		タイヤが冷えているときの空気圧 [kPa {kg/cm²}]
標準タイヤ	17インチタイヤ装着車	240 {2.4}
	17インチタイヤ装着車を除く	230 {2.3}
応急用スペアタイヤ（販売店装着オプション）		420 {4.2}

装着されているタイヤサイズ以外のタイヤを装着しないでください。装着されているタイヤサイズ以外のタイヤを装着すると、車の性能（車両の安定性など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。

車両仕様

名　称	型　式	エンジン	駆動方式	グレード
エスティマ	GSR50W	2GR-FE（3.5Lガソリン）	FF（前輪駆動）	アエラス
				G
	ACR50W	2AZ-FE（2.4Lガソリン）		X
				アエラス
				G
	GSR55W	2GR-FE（3.5Lガソリン）	4WD（4輪駆動）	アエラス
				G
	ACR55W	2AZ-FE（2.4Lガソリン）		X
				アエラス
				G

ユーザーカスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能

以下の機能を変更することができます。詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

項目	機能の内容	設定（太字が初期設定）
ワイヤレスドアロック機能（P.204参照）	ドアを施錠・解錠したときの非常点滅灯の点滅、ブザー音	**点滅する、ブザー音あり**／点滅しない、ブザー音なし
	解錠後のドアを開けなかったときの再施錠するまでの時間	**約30秒**／約60秒
イルミネーテッドエントリーシステム（P.476参照）	ドアを開けてから閉めたときの消灯までのタイマー時間	**約15秒**／約7.5秒／約30秒
	“エンジン スタート ストップ” スイッチをＯＦＦにしたときの点灯、消灯作動	**約15秒間点灯**／点灯しない
	“エンジン スタート ストップ” スイッチがＯＦＦのとき、いずれかのドアを解錠したときの点灯、消灯作動	**約15秒間点灯**／点灯しない
	フロントドア、スライドドア間接照明の点灯、消灯作動	**点灯する**／点灯しない
コンライト（P.363参照）	コンライトセンサーの感度調整	**レベル3**／レベル1～5
	コンライトシステムが車幅灯・尾灯・番号灯を点灯するまでの時間の調整	**標準**／長め
シフト連動オートロック機能（P.168参照）	エンジン回転中で、すべてのドアが閉まっているときに、シフトレバーをⓅからⓅ以外にすると、すべてのドアを施錠	**施錠しない**／施錠する
	車速が約20 ㎞/h以上になるとすべてのドアを施錠する。	**施錠する**／施錠しない
シフト連動オートアンロック機能（P.168参照）	“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションＯＮモードで、シフトレバーをⓅ以外からⓅにすると、すべてのドアを解錠する。	**解錠する**／解錠しない

初期設定項目

初期設定項目

以下の項目は、バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるため初期設定が必要です。参照ページをお読みになり、初期設定を行ってください。

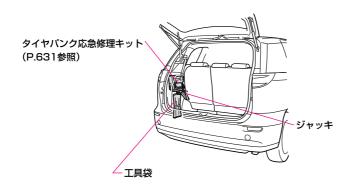
項目	初期設定が必要なとき	参照ページ
パワースライドドア★	バッテリーを再接続したとき、バッテリーがあがったとき、ヒューズが切れたときなど	P.183
パワーバックドア★	バッテリーを再接続したとき、バッテリーがあがったとき、ヒューズが切れたときなど	P.196
パワーウィンドゥ	以下の状態のときにバッテリーを再接続したとき、バッテリーがあがったとき、ヒューズが切れたときなど ●パワーウインドゥ開閉中	P.199
インテリジェントパーキングアシスト★	バッテリーを再接続したとき、バッテリーがあがったとき、ヒューズが切れたときなど	ナビゲーションシステム取扱書参照
バックガイドモニター★	バッテリーを再接続したとき、バッテリーがあがったとき、ヒューズが切れたときなど	ナビゲーションシステム取扱書参照
サイドモニター★	バッテリーを再接続したとき、バッテリーがあがったとき、ヒューズが切れたときなど	ナビゲーションシステム取扱書参照
サイドリフトアップシート★	以下の状態のときにバッテリーを再接続したとき、バッテリーがあがったとき、ヒューズが切れたときなど ●サイドリフトアップシート操作後10秒以内 ●ブザーが鳴ってから10秒以内 ●スライドドアを開閉してから10秒以内	サイドリフトアップシート取扱書参照

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

8 万一のとき

ジャッキ・工具・スペアタイヤ★・発炎筒

ジャッキ・工具・スペアタイヤの格納場所

ジャッキ・工具の格納場所

●ジャッキ、工具袋はラゲージルーム助手席側にあるカバーの中に格納されています。
 ●工具袋には、次のものが入っています。

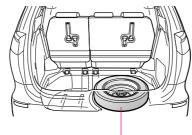
ホイールナットレンチ　ジャッキハンドル　けん引フック(P.664参照)　三角表示板固定用ストラップ(P.480参照)

●ジャッキ、工具袋以外にタイヤパンク応急修理キットも格納されています。タイヤパンク応急修理キットについてはP.631をお読みください。
●ジャッキ、工具の種類、発炎筒の使い方などは、万一のとき困らないようにあらかじめ確認しておきましょう。

スペアタイヤの格納場所

販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車

販売店装着オプションのスペアタイヤを装着された方は、スペアタイヤがラゲージルームに格納されています。スペアタイヤの取りはずし方については付属の取り扱い説明書をご覧ください。

●応急用タイヤは、標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するタイヤです。できるだけ早く標準タイヤに交換してください。

警告 **応急用タイヤの空気圧は必ず点検してください。**

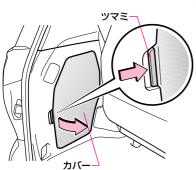
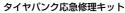
●応急用タイヤの空気圧は必ず点検してください。空気圧が不足している状態で走行すると、タイヤの径の違いがさらに大きくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。応急用タイヤの空気圧については、P.615をご覧ください。

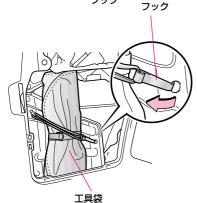
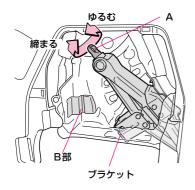
●車に搭載されている応急用タイヤは、お客様の車専用です。ほかのタイヤやディスクホイールと組み合わせたり、ほかの車に使用したり、ほかの車の応急用タイヤをお客様の車に使用しないでください。走行に悪影響が出て、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急用タイヤは、標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するタイヤです。標準タイヤに比べて直径が小さいので、次の事項に注意してください。

●応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h以上で走行しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。応急用タイヤは、タイヤがパンクしたとき、一時的に使用するタイヤです。応急用タイヤはできるだけ早く標準タイヤに交換してください。
●応急用タイヤを装着して突起物などを乗りこえるときは、標準タイヤを装着しているときと同じ感覚で運転しないでください。応急用タイヤ装着時は、標準タイヤ装着時に対し車高が変化します。同じ感覚で運転すると、車をぶつけるおそれがあります。
●応急用タイヤにタイヤチェーンを装着しないでください。タイヤチェーンが車体側に当たったり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。雪道、凍結路で前輪がパンクした場合は、応急用タイヤを前輪に使用せず後輪に使用し、はずした後輪を前輪につけてからタイヤチェーンを装着してください。
●応急用タイヤを装着しているときは、正確な車両速度が検出できない場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ＡＢＳ
- ブレーキアシスト
- ＴＲＣ・S-ＶＳＣ
- レーダークルーズコントロール
- クルーズコントロール
- バックガイドモニター
- インテリジェントパーキングアシスト
- ワイドビューフロント＆サイドモニター
- ＧＰＳボイスナビゲーション
- プリクラッシュセーフティシステム
- レーンキーピングアシスト
- ＮＡＶＩ・ＡＩ・ＳＨＩＦＴ
- インテリジェントAFS
- ヒルスタートアシストコントロール（S-ＶＳＣ装着車）

また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。
- アクティブトルクコントロール4WDシステム

工具・ジャッキの取り出し方

1 カバーをはずします。
ツマミを押しながら、カバーを手前に引いてはずします。

2 タイヤパンク応急修理キットを取り出します。
フックをはずして、タイヤパンク応急修理キットを取り出します。

3 工具袋を取り出します。
フックをはずして、工具袋を取り出します。

4 ジャッキを取り出します。

ジャッキのＡの部分をまわしてゆるめ、ジャッキを取り出します。

●格納するときは、ジャッキがブラケットに固定するようにＡの部分を締めます。

工具やジャッキを使用したあとは、確実に格納してください。

●工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。室内などに放置すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車に搭載されているジャッキは、お客様の車専用です。ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

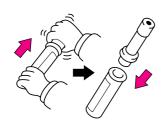
●車に搭載されているジャッキはタイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外、使用しないでください。

●ジャッキを取り出すときに、Ｂ部で指などをけがしないように注意してください。

発炎筒の使い方

格納場所

助手席足元に備えつけてあります。

発炎筒の使い方

1 発炎筒を組み立てます。
本体をひねりながら取り出し、逆にして差し込みます。

2 着火します。
キャップの頭部のすり薬でこすると、着火します。

発炎筒は正しく取り扱ってください。

●発炎筒をお子さまにはさわらせないでください。いたずらなどにより発火し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●発炎筒を使用中は、顔や身体に向けたり、近づけたりしないでください。やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●発炎筒を燃料などの可燃物の近くで使用しないでください。引火して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

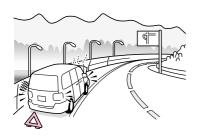
発炎筒をトンネル内などで使用しないでください。煙で視界を悪くするので、トンネル内などでは非常点滅灯を使用してください。

発炎筒について

●発炎時間は約5分間ですので、非常点滅灯を併用してください。
●発炎筒には有効期間があります。本体に表示してある有効期間の切れる前にトヨタ販売店でお求めください。

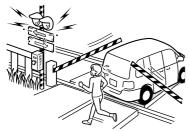
故障したときは

路上で故障したときは

非常点滅灯（P.376の「非常点滅灯スイッチの使い方」参照）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。
非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。（法的にも義務付けられています。）

緊急を要するときは発炎筒で合図します。
P.627「発炎筒の使い方」参照。

動けなくなったときは

踏切で動けなくなったときは

シフトレバーをⓃにして、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。
脱輪などで動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。
緊急を要するときは、発炎筒を使用してください。

道路で動けなくなったときは

シフトレバーをⓃにして、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。

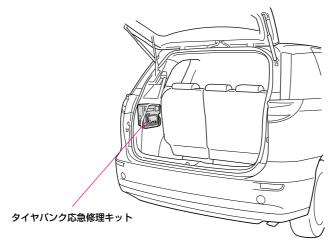
●困ったときは、トヨタ販売店へご連絡ください。
「メンテナンスノート」のサービス網／お客様相談テレホン網をお読みください。

パンクしたときは

タイヤパンク応急修理キットの使い方

エスティマは、工場出荷時の状態ではスペアタイヤが搭載されていません。
パンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットを使用してください。

●販売店装着オプションのスペアタイヤを装着された方は、P.646の「タイヤの交換」を参照してください。

タイヤパンク応急修理キットの格納場所

タイヤパンク応急修理キットは、ラゲージルーム左側に格納されています。

●取り出すときは、ラゲージルーム左側のカバー（P.625参照）を取りはずし、タイヤパンク応急修理キットを固定しているストラップのフックをはずします。

タイヤパンク応急修理キットについて

タイヤパンク応急修理キットは、パンクしたときに最寄りのトヨタ販売店まで車両を移動するためにパンクを応急修理するものです。

●タイヤのトレッド部（接地面）にクギやネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（P.635参照）

●タイヤパンク応急修理キットの修理剤1本につき、タイヤ1本を1回応急修理することができます。

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

タイヤパンク応急修理キットの補修液を飲用しないでください。

●タイヤパンク応急修理キットの補修液を飲用しないでください。飲用すると健康に害があります。もし誤って飲用した場合は、できるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●タイヤパンク応急修理キットの補修液が目に入ったり皮膚についた場合は、すぐに多量の水で洗浄してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

●タイヤパンク応急修理キットは、指定の格納場所（前ページ参照）など、お子さまの手に届かない場所に保管してください。

●パンクの応急修理をするときは、できるだけ平坦で交通のさまたげにならない安全な場所に駐車してから作業してください。

●タイヤパンク応急修理キットの補修液が車体や衣服などに付着したまま放置すると、シミになるなどして取れなくなるおそれがあります。付着した補修液は、すみやかに布などで拭き取ってください。

知識

パンク、バーストについて

以下のようなときは、パンクやバーストが考えられます。

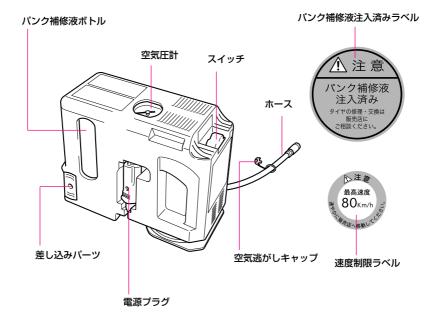
●ハンドルがとられるとき。

●異常な振動があるとき。

●車両が異常に傾いたとき。

パンク応急修理後について

ホイールは付着した補修液を拭き取れば再使用できます。タイヤのバルブと使用した補修液ボトルは新品と交換してください。こぼれた補修液は、布などで拭き取ってください。

タイヤパンク応急修理キットの内容

補修液について

有効期限

●パンク補修液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。

●有効期限を過ぎていると応急修理ができないため、有効期限内に交換する必要があります。交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

使用環境温度 …………－30℃～＋60℃
（外気温が使用環境温度以外のときは使用できません。）

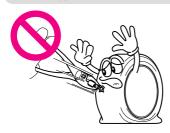
応急修理をする前に

タイヤパンク応急修理キットの補修液を使用する前に、タイヤの損傷状態を確認します。

応急修理が可能な場合

タイヤのトレッド部（接地面）にクギやネジなどが刺さった程度であれば、応急修理できます。

知識

タイヤに刺さったクギやネジについて

タイヤに刺さったクギやネジなどは取り除かずに応急修理してください。抜いてしまうと、タイヤパンク応急修理キットの補修液では応急修理が不可能になる場合があります。

応急修理が不可能な場合

以下のときは、タイヤパンク応急修理キットの補修液では応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

●ほとんど空気のない状態で走行してタイヤが損傷しているとき

●サイドウォール（タイヤ側面）の亀裂・損傷によるパンク

●タイヤがホイールから明らかにはずれているとき

●タイヤに4 mm以上の切り傷や刺し傷
●1本のタイヤに2箇所以上の切り傷や刺し傷

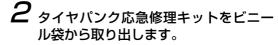
●ホイールが破損しているとき

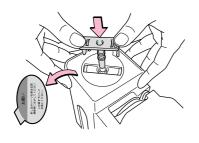
●2本以上のタイヤがパンクしたとき（補修液1本で応急修理できるのはタイヤ1本につき1回です。）

応急修理のしかた

1 **応急修理が可能か、タイヤの状態を確認します。**

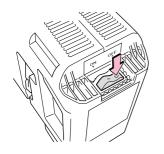
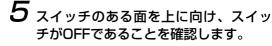
確認方法はP.635を参照してください。

2 **タイヤパンク応急修理キットをビニール袋から取り出します。**

使用後もビニール袋に入れて収納します。

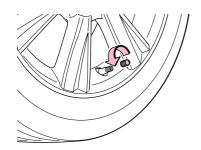
3 **タイヤパンク応急修理キットから差し込みパーツを引き抜きます。**

4 **タイヤパンク応急修理キット底面を上に向けてシールをはがし、差し込みパーツを押し込みます。**

パチッと音がするまでしっかりと奥まで押し込んでください。

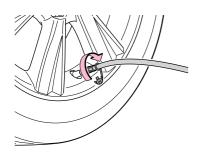
●一度差し込んだら、ただちに使用してください。使用しなかった場合は、放置せずに補修液ボトルを交換してください。

5 スイッチのある面を上に向け、スイッチがOFFであることを確認します。

応急修理キットは、必ず立てて（スイッチがある面を上にして）ご使用ください。

6 タイヤパンク応急修理キットの電源プラグをアクセサリーソケット部に挿し込みます。

●アクセサリーソケットは、ラゲージルーム内にあります。

7 バルブからキャップをはずします。

タイヤのバルブについているキャップをはずします。

8 ホースから空気逃がしキャップを取りはずします。

9 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続します。

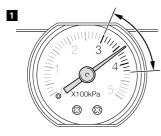
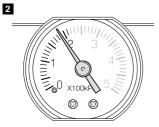
ホース先端を時計まわりにまわして、しっかりと最後までねじ込みます。

10 指定空気圧を確認します。

指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはP.615で正しい空気圧を確認のうえ調整してください。

11 車両の“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードにします。（P.137参照）

12 タイヤパンク応急修理キットのスイッチをONにし、パンク補修液と空気を充填します。

●作動中は大きな音がしますが、故障ではありません。

13 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填します。

❶スイッチON直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が300～450 kPaまで上昇します。

❷1分程度で実際の空気圧表示になります。指定空気圧になるまで充填します。

●正確な空気圧は、タイヤパンク応急修理キットのスイッチをOFFにして確認してください。空気の入れ過ぎに注意して、指定空気圧になるまでスイッチのONとOFFをくり返し、充填・確認をしてください。

●空気を入れ過ぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。(P.642参照)

●空気圧計の針が赤いゾーン（450 kPa以上）に達した場合、タイヤまたはタイヤパンク応急修理キットに異常がある可能性があります。ただちに修理を中止して、トヨタ販売店にご連絡ください。

●10分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理ができません。修理を中止してトヨタ販売店にご連絡ください。

14 タイヤパンク応急修理キットのスイッチをOFFにした後、電源プラグをアクセサリーソケット部から抜き取り、バルブから応急修理キットのホースを取りはずします。

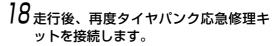
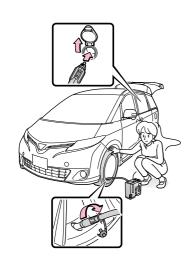
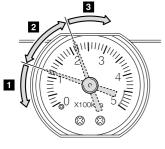
●ホースを取りはずすときは、パンク補修液の飛散に注意してください。

15 **バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取りつけます。**

16 **いったんタイヤパンク応急修理キットを収納します。**

17 **ただちに、約5 km、速度80 km/h以下で慎重に運転します。**

走行することで、補修したタイヤ内のパンク補修液が均等に広がります。

18 **走行後、再度タイヤパンク応急修理キットを接続します。**

作業開始時と同様に、安全な場所に停車した上で行ってください。（P.638参照）

19 **タイヤパンク応急修理キットのスイッチを数秒間ONにし、OFFにしてから正確な空気圧を確認します。**

1 空気圧が130 kPa未満の場合：応急修理ができません。修理を中止してトヨタ販売店にご連絡ください。

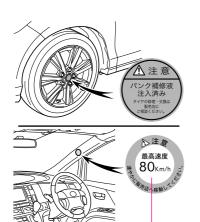
2 空気圧が130 kPa以上、空気圧が指定空気圧の場合：手順20から行います。

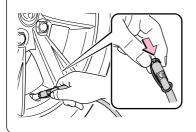
3 空気圧が指定空気圧の場合：手順21から行います。

20 タイヤパンク応急修理キットのスイッチをONにして、指定空気圧まで再度空気を充填し、約5 km走行後、あらためて手順18から行います。

21 タイヤパンク応急修理キットをビニール袋に収納します。

22 付属のラベル2枚を図のように貼りつけ、トヨタ販売店へ移動します。

速度制限ラベルを運転席から見やすいところに貼りつけ、急ブレーキ、急ハンドルをさけ、80 km/h以下で慎重に運転して最寄りのトヨタ販売店まで移動してください。タイヤの修理・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

知 識

空気を入れ過ぎたときは

1.タイヤのバルブからホースをはずし、ホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押し当て、空気を抜きます。
2.調整後、ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、再びホースをバルブに接続します。
3.応急修理キットのスイッチを数秒間ONにし、OFFにしてから指定空気圧になっているか確認します。空気を抜き過ぎたときは、再び充填します。

パンクしたまま走行しないでください。

- パンクしたまま走行しないでください。短い距離でもパンクしたまま走行し続けると、タイヤおよびホイールが損傷したり、タイヤ側面に円周状の溝ができるなどして、応急修理ができなくなります。この状態で応急修理をすると、タイヤが破裂するおそれがあります。
- タイヤパンク応急修理キットは、指定の場所に収納してください。指定以外の場所に収納すると、急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして損傷したり乗員が怪我をするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理をするときは以下の項目を必ずお守りください。
  - 車両を安全で平たんな場所に停止させてください。
  - 走行直後のホイールやブレーキまわりなどに触れないでください。
    走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっているため、手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。
  - タイヤを車両に取りつけた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
  - タイヤとの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
  - パンク補修液の注入中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れて大変危険です。
  - 空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
  - タイヤパンク応急修理キットが作動しているときは、タイヤが破裂する危険があるので、補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合は、ただちにタイヤパンク応急修理キットのスイッチを切り、修理を中止してください。
  - タイヤパンク応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。10分以上連続で作動させないでください。
  - タイヤパンク応急修理キットが作動すると、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。
  - 速度制限ラベルは指定の位置以外に貼らないでください。ステアリングホイールのパッド部分などのＳＲＳエアバッグ展開部に速度制限ラベルを貼ると、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、メーターやドアガラスなどの、運転に支障をきたすところに貼らないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

補修液を均等に広げるための運転について

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時は注意してください。
●車両がまっすぐに走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。
- 補修したタイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
- 補修したタイヤの空気圧を再度測定してください。130 kPa未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

応急修理をするときは以下の項目を必ずお守りください。

●タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
●砂地などの砂埃の多い場所に直接置いて使用しないでください。
砂埃などを吸い込むと、故障の原因になります。
●タイヤパンク応急修理キットが倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

タイヤパンク応急修理キットについて

- タイヤパンク応急修理キットは、この車に装着されているタイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外や他の用途には使用しないでください。
- タイヤパンク応急修理キットはDC12 V専用です。他の電源では使用できません。
- タイヤパンク応急修理キットには防水機能がありません。
  降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- タイヤパンク応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- タイヤパンク応急修理キットはビニール袋に入れて、砂埃や水を避けて収納してください。
- タイヤパンク応急修理キットは指定の場所に収納し、お子さまが誤って手を触れないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。
- “ エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードにして使用すると、バッテリーの状態によっては、バッテリーがあがることがあります

タイヤの交換

販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車

タイヤの交換については、P.82の「タイヤについての注意」を併せてお読みください。

タイヤ交換するまえに

1 平らな場所に移動します。

交通のじゃまにならず、安全に作業できる地面が平らで固い場所に移動します。

2 パーキングブレーキをしっかりかけます。

3 エンジンを停止します。

シフトレバーをⓅにし、エンジンを停止します。

4 車の存在を知らせます。

必要に応じて非常点滅灯を点滅させ（P.376参照）、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。

5 ジャッキ・ジャッキハンドル・ホイールナットレンチを用意します。

P.622参照

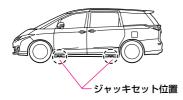
6 輪止めを用意します。

ジャッキアップする場合には輪止めが必要です。
輪止めについては、トヨタ販売店で購入できますのでトヨタ販売店にご相談ください。
なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

7 スペアタイヤを用意します。

P.623参照

●販売店装着オプションのスペアタイヤを装着された方は、付属の取り扱い説明書をご覧ください。

タイヤ交換のしかた

1 ジャッキを置きます。

取りかえるタイヤに近いジャッキセット位置の下に置きます。

地面が平らで固く、ジャッキが安定することを確認します。

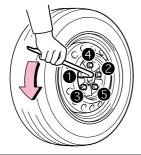
2 輪止めをします。

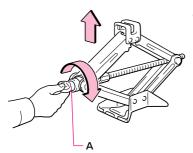
ジャッキアップする位置と対角にあるタイヤに輪止めをします。

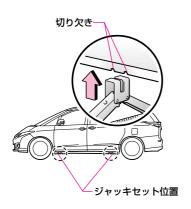
前輪を持ち上げるときは後輪のうしろ側に、後輪を持ち上げるときは前輪の前側に輪止めをします。(図は右側後輪を持ち上げる場合を示しています。)

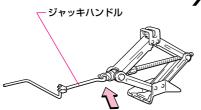
3 ホイールキャップをはずします。

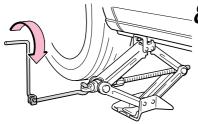
スチールホイール装着車は、ホイールナットレンチの先をホイールとキャップの間に差し込み、タイヤ側にこじるとはずれます。(2～3カ所、場所をかえて繰り返すと楽にはずせます。)

傷つき防止のため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いてください。

4 ナットをゆるめます。

ホイールナットレンチを使用して、図の順序でナットを左にまわし、手で少しまわるくらいまでゆるめます。

5 ジャッキを上げます。

ジャッキのＡの部分を手で右にまわして車体のジャッキセット位置まで上げます。

6 ジャッキセット位置（切り欠きの間）にジャッキをかけます。

取り替えるタイヤに近いジャッキセット位置にジャッキをかけます。
ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認します。

7 ジャッキハンドルを取りつけます。

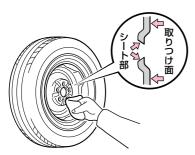
ジャッキハンドルをジャッキの穴部に確実に差し込みます。

8 ジャッキアップします。

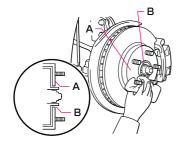
ジャッキハンドルを右にまわしてタイヤが地面から少し離れるまでジャッキアップします。

9 ナットを取りはずします。

手でナットを左にまわして、取りはずします。

10 タイヤを取りはずします。

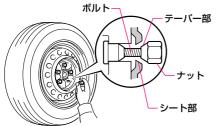
アルミホイールを直接地面に置くときは、傷がつかないように意匠面を上にして置いてください。

11 交換するタイヤを取りつけます。

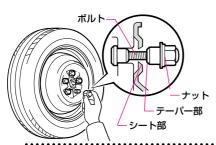
●タイヤを取りつけるときは、ディスクホイールのシート部やホイール裏側の取りつけ面の汚れを拭き取ってから取りつけてください。

●図のＡ・Ｂ面の汚れを拭き取ります。

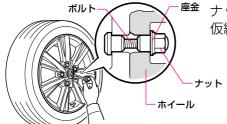
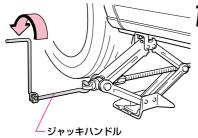
12 ナットを仮締めします。

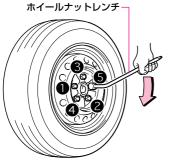
タイヤががたつかない程度まで、手でナットを右にまわして仮締めします。

ディスクホイール取りつけボルト、ナットのねじ部や、ナットのテーパー部（アルミホイールの場合、座金の裏側）の汚れ、異物を取り除いてください。

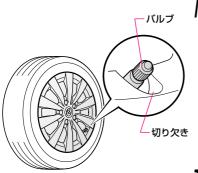
■スチールホイールからスチールホイール（販売店装着オプションの応急用タイヤを含む）にかえるとき

ナットのテーパー部が、ホイール穴のシート部に軽く当たるまで仮締めします。

■アルミホイールから応急用タイヤ（販売店装着オプション）にかえるとき

ナットのテーパー部が、ホイール穴のシート部に軽く当たるまで仮締めします。

■アルミホイールからアルミホイールにかえるとき

ナットの座金がホイールに当たるまで仮締めします。

13 車体をおろします。

ジャッキハンドルを左にまわして車体をおろします。

14 ナットを締めつけます。

ホイールナットレンチを使用して図の順序でナットを右にまわし、2～3度にわたり十分締めつけます。

●締めつけトルク：
約105 N・m ｛1050 kgf・cm｝

15 ホイールキャップを取りつけます。

ホイールキャップ装着車で、ホイールキャップを取りつけるときは、タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせて、確実にホイールキャップを取りつけます。

●応急用タイヤにホイールキャップを取りつけることはできません。

16 工具・ジャッキ・タイヤを片づけます。

はずしたタイヤは、汚れ防止シート（販売店装着オプション）にくるんでラゲージルーム内に置いてください。

17 タイヤの空気圧を点検してください。

P.615参照

パンクしたまま走行しないでください。

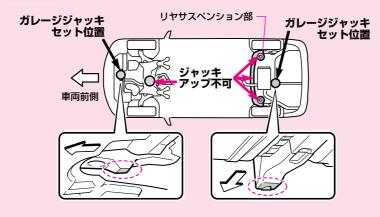
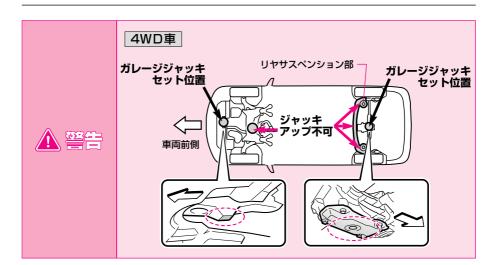
- パンクしたまま走行しないでください。パンクしたまま走行し続けると、走行不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、タイヤ・ディスクホイール・サスペンション・車体に損傷を与えるおそれがあります。
- ジャッキアップした車の下には絶対にもぐらないでください。万一、ジャッキがはずれると、身体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。エンジンの振動でジャッキがはずれたり、車が動き出すなど、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 必ず以下のことをお守りください。お守りいただかないと車体を損傷させたり、ジャッキがはずれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  - ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。また、パーキングブレーキをしっかりかけてください。なお、輪止めの代わりに石などで代用する場合、タイヤを確実に固定できることを確認してください。
  - 人を乗せたままジャッキアップしないでください。
  - ジャッキアップするときは、ジャッキの上や下にものを挟まないでください。
  - ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認してください。
  - 車体はタイヤ交換に必要な高さだけ持ち上げてください。
- ジャッキアップした車体をおろすときは、作業者自身やまわりの人が手や足などを挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険ですので、周囲を確認し、十分注意しながら作業してください。
- ホイール取りつけナットが確実に締まっていることを確認してください。確実に締まっていないと、ホイール取りつけボルトやブレーキ部品を破損したり、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。タイヤ交換後はトヨタ販売店で、できるだけ早くトルクレンチで基準値にナットを締めてください。
  締めつけトルク：約105 N・m ｛1050 kgf・cm｝
- タイヤを取りつけるナットやボルトにオイルやグリースを塗らないでください。ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるんで走行中にタイヤがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- タイヤの取りつけには、ご使用のディスクホイール専用のホイール取りつけナットを使用してください。
- ディスクホイール取りつけボルト、ナットのネジ部やディスクホイールのボルト穴につぶれやき裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店などで点検を受けてください。
  つぶれやき裂などの異常があると、ナットを締めつけても十分に締まらず、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 新品と交換するときは、4輪とも指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。

警告 タイヤ交換などをするときは、パワースライドドアメインスイッチをＯＦＦにしてください。

●タイヤ交換などをするときは、パワースライドドアメインスイッチをＯＦＦにしてください。ＯＦＦにしないと、誤ってスライドドアハンドルなどに触れたとき、パワースライドドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

●車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、特別な工具が必要になったり、取り扱いに特別な注意が必要になるため、誤って使用すると車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、リヤサスペンション部などでジャッキアップすると、車両を損傷することがあります。

車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用する必要がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。また、ガレージジャッキを使用するときは、必ずしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。下図のガレージジャッキセット位置に当ててください。ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキに付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用してください。

ＦＦ車

ホイールナットレンチはホイールナットに十分深くかけてください。

- ●ホイールナットレンチはホイールナットに十分深くかけてください。ホイールナットレンチのかけ方が浅いと、締めつけるときにレンチがはずれてけがをするおそれがあります。
- ●ホイールキャップは、直接手をかけて取らないでください。また、取り扱いには十分注意してください。けがをするおそれがあります。
- ●ホイールキャップ装着車のホイールキャップをはずすときは、ホイールナットレンチ以外は使わないでください。ディスクホイール・ホイールキャップが損傷するおそれがあります。
- ●ディスクホイールのシート部やホイール裏側の取りつけ面がほこりなどで汚れていると、走行中にホイール取りつけナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。
- ●アルミホイール装着車のナットはトヨタ純正アルミホイール専用品以外を使用しないでください。走行中にナットがゆるみタイヤがはずれるおそれがあります。
- ●ホイールナットレンチを足で踏んでまわしたり、パイプなどを使用して必要以上に締めつけないでください。タイヤを取りつけるボルトが折れるおそれがあります。
- ●傷・変形があるホイール取りつけナット・ディスクホイールなどは使用しないでください。
- ●タイヤ交換後、走行中にハンドルや車体に振動が出た場合は、トヨタ販売店でタイヤのバランスの点検を受けてください。
- ●タイヤバルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

バッテリーがあがったときは

バッテリーあがりとは？

次のような状態が、バッテリーあがりです。

●スターターがまわらなかったり、まわっても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。

●ヘッドランプがいつもより暗い。

●ホーンの音が小さい、または鳴らない。

処置のしかた

押しがけによる始動はできません。
救援車を依頼しブースターケーブルを接続して、エンジンを始動してください。なお、救援車のバッテリーは12Vを使用してください。

1 ブースターケーブルをつなぎます。

バッテリーの⊕端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぎます。

①自車のバッテリーの⊕端子

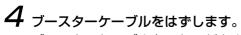
②救援車のバッテリーの⊕端子

③救援車のバッテリーの⊖端子

④次ページの図で指示している箇所（アースをとる。）

2 バッテリーを充電します。

救援車のエンジンをかけ、エンジン回転数を少し高めにし、約5分間その回転を保持し、応急的に自車（バッテリーあがり車）のバッテリーを充電します。

3 自車のエンジンをかけます。

4 ブースターケーブルをはずします。

ブースターケーブルをつないだときと逆の順にはずします。

アースポイント

2GR−FEエンジン搭載車

自車（バッテリーあがり車）

①⊕

⊖④

⊖③

②⊕

ボルト

他車（救援車）

2AZ−FEエンジン搭載車

自車（バッテリーあがり車）

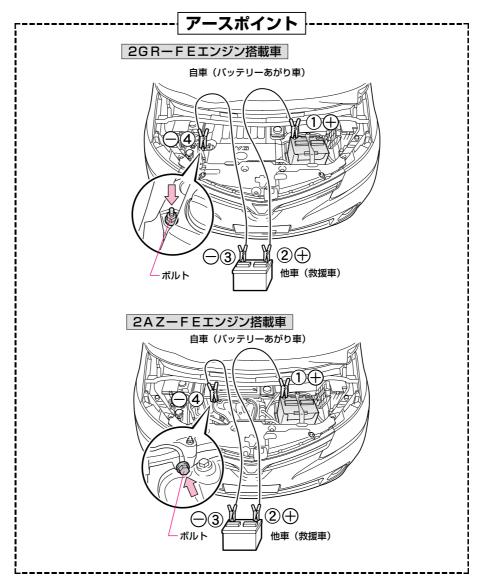
①⊕

⊖④

⊖③

②⊕

ボルト

他車（救援車）

バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンを停止したままランプをつけたり、オーディオ・エアコンなどを使わないようにしてください。
●エンジン回転中でも渋滞などで長時間止まっている場合は、不必要な電装品の電源を切ってください。

警告　火気をバッテリーに近づけないでください。

●必ず以下のことをお守りください。お守りいただかないとバッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ④の接続は自車バッテリーの⊖端子につながないでください。バッテリーに直接つなぐと、火花が発生します。
- ブースターケーブルを接続するとき、⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。接触させると火花が発生します。
- 火気をバッテリーに近づけないでください。

●充電中はバッテリーに近づかないでください。希硫酸の含まれるバッテリー液が吹き出す場合があり、目や皮膚に付着すると、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。万一、付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。
●ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、ファンやベルトなどに触れたり、近づいたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●バッテリーを交換したときは、クランプのナットを確実に締めつけてください。確実に締めつけないと、走行中にクランプがはずれて、ショートするなどして車両火災につながるおそれがあり危険です。

救援車のバッテリーは12 Vを使用してください。

●他車（救援車）のバッテリーは12 Vでなければなりません。12 V用バッテリーであることを確認してから行ってください。
●バッテリーがあがりやすい場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

車両バッテリー脱着時について

- 車両は常に“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの状態（アクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモード）を記憶しているため、車両バッテリーを再接続したときは、バッテリーをはずす前のスイッチ状態に復帰します。修理などで車両バッテリーをはずすときは、必ずスイッチをＯＦＦにしてから行ってください。
  車両バッテリーあがり時に、バッテリーがあがる前のスイッチの状態がわからないときは、とくに注意してください。
- 車両のバッテリー脱着後、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを一度押すだけではエンジンが始動しないことがあります。その場合は、もう一度スイッチを押してください。
- 車両のバッテリー脱着後、すぐにはエンジンが始動しないことがあります。その場合は、バッテリー接続から約10秒以上待ってからエンジンを始動してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートとは？

次のような状態が、オーバーヒートです。

●水温計の針がレッドゾーンに入ったり、エンジンの出力が低下する。

●ボンネットから蒸気が立ちのぼる。

処置のしかた

1 車を止めます。

車を安全な場所に止め、エアコンを使用している場合は、ＯＦＦにします。

2 ボンネットの確認をします。

ボンネットから蒸気が出ているか確認します。

■ボンネットから蒸気が出ていない場合

ボンネットを開けて、そのままエンジンをかけておきます。

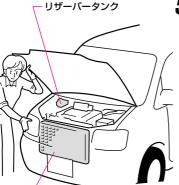
■ボンネットから蒸気が出ている場合

エンジンを停止し、蒸気が出なくなったら、風通しを良くするためにボンネットを開けエンジンをかけます。

3 **冷却用ファンを確認します。**

ラジエーター冷却用ファンが作動していることを確認してください。ファンが作動していないときはエンジンを停止して、トヨタ販売店に連絡してください。

4 **エンジンを停止します。**

水温計の針が下がってきたら、エンジンを止めます。

5 **冷却水量などを確認します。**

エンジンが十分冷えてからリザーバータンクの冷却水量の確認およびラジエーターコア部（放熱部）が著しく汚れていないか、ごみなどが付着していないかなどを確認します。

6 冷却水を補給します。

冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーバータンクに冷却水を補給します。

●冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

7 トヨタ販売店で点検を受けます。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

●移動途中で再び水温計の針が上昇してきたときは、空調の温度調整を最大暖房にし、ファンを最大風量にすることで、ヒーター配管内の冷却水により水温の上昇を抑えることができます。

オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量、地面に水もれがないか日頃から点検をしてください。
点検方法は「メンテナンスノート」をお読みください。

警告　やけどなどしないように十分気をつけてください。

●ボンネットから蒸気が出ているときは、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、蒸気が出ていない場合でも高温になっている部分があります。ボンネットを開けるときは十分注意してください。
●ラジエーターや補助タンクが熱いときはラジエーターキャップを開けないでください。蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。キャップを開けるときは、ラジエーターや補助タンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。
●エンジンがまわっているときは、ファンやベルトなどに触れたり、近づいたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

冷却水は、エンジンが熱いときに入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。

けん引について

けん引のしかた

フロントのけん引フックはけん引されることを目的としており、他車をけん引するものではありません。
けん引してもらうときは、できるだけトヨタ販売店、またはＪＡＦなどに依頼してください。とくに次の場合は駆動系の故障が考えられますので、けん引前にまずトヨタ販売店へご連絡ください。
●エンジンがまわっているのに車が動かない。
●異常な音がする。

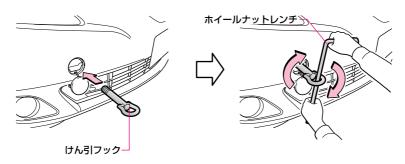
けん引してもらうときは

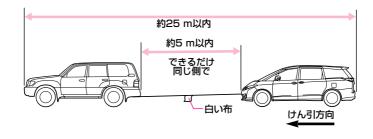
1 **けん引フック、ホイールナットレンチを取り出します。**
（Ｐ.622参照）

2 **けん引フック取りつけ部のフタを取りはずします。**
フタの上、または下から開いてはずします。

※グレード等により、けん引フック取りつけ部のフタが助手席側にない場合があります。

3 けん引フックを取りつけます。

ホイールナットレンチを使用して、けん引フックを確実に取りつけます。

4 ロープをかけます。

ボディに傷をつけないようにして、ロープをけん引フックにかけます。
必ずけん引フックにロープをかけて前進方向でけん引してください。
けん引ロープには、0.3メートル平方（0.3 m×0.3 m）以上の白い布をロープ中央に必ずつけてください。

5 エンジンをかけます。

エンジンをできるだけかけておいてください。エンジンがかからないときは、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードにします。

6 発進します。

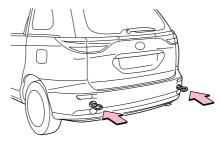
シフトレバーをⓃにして、パーキングブレーキを解除します。

7 前の車に注意します。

けん引ロープをたるませないようにし、前の車の制動灯に注意してください。

けん引が終わったら、けん引フックをはずし、バンパーのフタを確実に取りつけてください。

●はずしたけん引フックは、工具袋に格納します。

他車（故障車）をロープでけん引するときは

リヤ側のけん引フックの取りつけ穴は、リヤバンパー両端にあります。けん引フックの取りつけ方はP.664の「けん引してもらうときは」をお読みください。

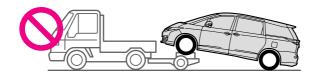
●けん引フックは、一般路上で故障した他車（故障車）をやむを得ずロープによりけん引するためのものです。

●自車より重い車のけん引はできません。自車より重い車をけん引しようとすると、駆動系に悪影響を与えたり、けん引フックや車体が破損するおそれがあります。

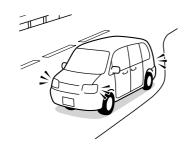
警告　けん引される車は慎重に運転してください。

●けん引される車は慎重に運転してください。エンジンがかかっていないとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるため、通常と同じ感覚で運転すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにしないでください。ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●けん引する車は急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。けん引フックやロープが破損するおそれがあります。また、万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

注意　長坂路を下るときは、レッカー車でけん引してください。

●長坂路を下るときは、レッカー車でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。
●4WD車の場合、4輪接地でけん引するか、4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪または後輪だけを持ち上げたけん引は絶対にしないでください。駆動装置が焼きつきを起こしたり、車がトレッカー（台車）から飛び出すおそれがあります。
また、駆動系部品が故障したと思われるときは必ず4輪を持ち上げて運搬してください。

●けん引速度は約30 km/h以下、けん引距離は約80 km以内で、前進方向でけん引してください。この速度、距離をこえてのけん引、または後進方向でのけん引をするとトランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがありますので、これをこえる場合は車両積載車などにより、4輪とも持ち上げて運搬してください。
●スタック脱出のために、他車にけん引してもらうときは、サスペンションアームなどにロープをかけないでください。サスペンションアームなどを損傷するおそれがあります。
●ワイヤーロープは使用しないでください。バンパーに傷がつくおそれがあります。
●スタック※したときは、無理にけん引せず、トヨタ販売店やＪＡＦなどに依頼してください。けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フックやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。
※ぬかるみ・砂地・深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなった状態。

事故が起きたときは

あわてずに次の処置を行ってください

1 **続発事故を防止します。**
ほかの交通のさまたげにならないような安全な場所に車を移動し、エンジンを停止します。

2 **負傷者がいる場合は、応急手当を行います。**
医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行います。
この場合、とくに頭部に傷などがあるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしますが、後続事故の心配があるときは安全な場所に移動させます。

3 **警察への届け出をします。**

4 **相手方の確認とメモ（氏名・住所・電話番号）を取ります。**

5 **ご購入された販売店と保険会社へ連絡します。**

さくいん

さくいん

五十音さくいん

症状から調べたいときや、万一のときの処置については、色付き文字の項目をご覧ください。

ね

は

ひ

ふ

め

ゆ

よ

ら

り

る

れ

ろ

わ

警告灯さくいん

エスティマ

テ-17

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター
全国共通・フリーコール
0800-700-7700
オープン時間　365日　9:00〜18:00
所在地　〒450 - 0002　名古屋市中村区名駅四丁目10の27
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

●車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください。

●印刷　NAB-2009年12月 7 日　●発行-2009年12月14日　初版

M 28764
01999—28764